

令和4年度入学生 総合人間科目

開講期		科目名
令和5年	前期	英会話Ⅱ
		韓国語会話Ⅱ
		中国語会話Ⅱ
		キャリアデザインⅡ
		保育キャリアデザイン
		キャリアスキルズⅡ
		こどもと絵本Ⅲ
		表現技術
		人間関係論
	通年	かごしまの未来プロジェクト
	前期	日本国憲法
		生活環境論
		倫理学
		新聞で読み解く現代
		社会政策概論
		食の安全と健康
	後期	人間学
		ライフデザイン
		文章表現演習
		オフィスワーク演習
		日本語コミュニケーション演習
		証券実務演習
		心理学
		基礎栄養学
		体育理論
		体育実技
		ラーニングスキルズ
		社会福祉概論

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	英会話Ⅱ		
担 当 教 員	ワトソン, M, エーラーズ, N, ヴィゲラスラ, A, 中野 由美子		
関 連 資 格	幼二種免、栄教二種免、保育士		
備 考	対象：生活学科 英語検定 2 級以上取得者の単位認定科目 生活学科の教職選択者は必修		
ナンバリング	Z-2476-1/英語〔口頭表現中心〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（豊かな人間性と共生の精神）

到達目標

1. 社会生活に必要な語彙力を身に付けている。
2. 在籍する専攻・コースについて、簡単な紹介をすることができる。
3. 社会生活の情報、説明を聞き取り、理解することができる。

評価方法

宿題 [10%]
プレゼンテーション、ロールプレイ [60%]
専門のプレゼンテーション [30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ロールプレイ及びプレゼンテーションについて授業で直接フィードバックを行う。

授業の展開計画

教科書のトピックに従い、授業では聞く・話す活動を中心とする。役に立つ表現、語彙を身につけ、実践的なコミュニケーション能力を養成するための会話練習を行う。詳細については担当教員により多少異なるので、指示に従うこと。
授業中にフィードバックを行う。

回	内容
1	Unit 7: Which on is cheaper?
2	Which on is cheaper?: Are clothes important?
3	Unit 8: They're very friendly
4	They're very friendly: What's important to you?

5	Unit 9: You can visit the zoo
6	You can visit the zoo: Come visit us!
7	Unit 10: Is there a coffee shop?
8	Is there a coffee shop?: Come to my city!
9	Unit 11: I had a good time
10	I had a good time: My best vacation ever!
11	Unit 12: I'm going to go by car
12	I'm going to go by car: How do you get around town?
13	Project based on student's major subject: Research and planning
14	Project based on student's major subject: Completion and practice.
15	Final Presentation

アクティブ・ラーニングの概要

プレゼンテーション、ロールプレイ、グループワーク

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

毎回きちんと授業に出席し、スピーキング・リスニング活動に積極的に参加するよう努めなければならない。

準備学習（予習・復習等）

先学期において学んだ全ての章に目を通しておく。
授業1コマあたり、事前、事後に計1時間の学習が必要である。グループワークを提示するので、事前に調べて自分の意見をまとめておくこと。
グループワークを提示するので、事前に調べて自分の意見をまとめておくこと。

テキスト

Smart Choice 1: Student Book with Online Practice
Oxford Press 2020
Ken Wilson

参考文献

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	韓国語会話Ⅱ		
担 当 教 員	李 賢雄		
関 連 資 格			
備 考	「中国語会話Ⅱ」「英会話Ⅱ」と同時開講		
ナンバリング	Z-2976-1/韓国語 [口頭表現中心] 一中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（豊かな人間性と共生の精神）

到達目標

- 1 日常会話に必要な一定の語彙力を身に付けている。
- 2 定型表現を用いて、様々な場面での簡単な日常会話ができる。
- 3 短い文を読み、何について述べられたものかをつかむことができる。

評価方法

定期試験[50%]、臨時試験（小テスト）[30%]、課題[20%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト及び課題は採点して返却するとともに授業内で解説を行う。

授業の展開計画

韓国語会話Ⅰに引き続き、基本文法及び用語をしっかりと身につけていく。また、各課ごとに学んだことを基に音読、作文、対話、聞き取りの練習を重ねて、より発展したコミュニケーション能力を高めていく。更に韓国映画鑑賞を通じて異文化への理解力をより深めていく。

回	内容
1	第 5 課 漢数字と買い物について（単語と本文読み）
2	第 5 課 漢数字と買い物について（文法と練習問題）
3	第 6 課 年月日と助数詞について（単語と本文読み）
4	第 6 課 年月日と助数詞について（文法と練習問題）
5	第 1 課 固有数字と時間表現について（単語と本文読み）/テキスト『KOREAN LANGUAGE II』
6	第 1 課 固有数字と時間表現について（文法と練習問題）

7	第2課 日課と助数詞について（単語と本文読み）
8	第2課 日課と助数詞について（文法と練習問題）
9	第3課 動詞の活用形(連用形)について（単語と本文読み）
10	第3課 動詞の活用形(連用形)について（文法と練習問題）
11	第4課 動詞の活用形(未然形)と不規則動詞について（単語と本文読み）
12	第4課 動詞の活用形(未然形)と不規則動詞について（文法と練習問題）
13	第4課 動詞の過去形について
14	総まとめ(1回目～13回目の講義内容)
15	韓国映画鑑賞（鑑賞後感想文を提出）

アクティブ・ラーニングの概要

授業の定着度を把握するため、小テストを実施する。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

この科目の履修登録にあたっては「韓国語会話Ⅰ」を履修していること。
「韓国語会話Ⅰ」を履修していない者で受講を希望する場合は、既にハングル能力検定試験(5級以上)または、韓国語能力試験(TOPIKⅠ級以上)の資格を取得していれば受講可能とする。

準備学習（予習・復習等）

次回の授業範囲を示すので予習し、分からない用語の意味等を調べて理解しておくこと。また前回、学習した内容の理解度を確認するため、臨時試験（小テスト）を実施する。1回の授業あたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

HYUNWOONG LEE & KAORI TSURUTA 共著『KOREAN LANGUAGE Ⅱ』2022年3月、博英社

参考文献

特になし。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	中国語会話Ⅱ		
担 当 教 員	西原 薫		
関 連 資 格			
備 考	「韓国語会話Ⅱ」と同時開講		
ナンバリング	Z-2B76-1/中国語 [口頭表現中心] ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（豊かな人間性と共生の精神）

到達目標

- 1.日常会話に必要な一定の語彙力を身に付けている。
- 2.常用語による単文の日本語訳・中国語訳ができる。
- 3.平易な中国語を聞き、話すことができる。

評価方法

定期試験[40%]、プレゼンテーション[30%]、会話演習[30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションには授業中にコメントを付けて解説を行う。

授業の展開計画

学生生活で実際に役立つ中国語の習得を目指す。
また、DVD 鑑賞やゲストの先生との交流を通して中国文化に触れる。

回	内容
1	中国語の概要
2	あなたの名前は何ですか
3	あなたは何を食べますか
4	これは何ですか
5	私には弟が一人います
6	あなたは今どこにいますか

7	あなたは沖縄に行ったことがありますか
8	プレゼンテーション
9	私はサンドイッチを一つ買いました
10	あなたはダンスができますか
11	私は宿題をしています
12	あなたは甘いのとしょっぱいの、どちらが好きですか
13	白いのは黒いのより値段が高いです
14	昨日の授業は少し難しかったです
15	総まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

プレゼンテーションに向けた準備を毎回行う。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

この科目の履修にあたっては、「中国語会話Ⅰ」を履修していること。
「中国語Ⅰ」を履修していない者が履修を希望する場合は、中国語検定準4級を既に取得しているか、同レベルの中国語能力があること。

準備学習（予習・復習等）

学期半ばでプレゼンテーションを行うので各自準備が必要である。
授業1コマあたり、予習・復習・課題に計1時間の学習が必要である。

テキスト

吉田泰謙・王奉峰著『やってみよう！中国語』2021年2月、白水社
『キクタン中国語【初級編】中検4級レベル』 関西大学中国語教材研究会

参考文献

適宜紹介する

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	キャリアデザインⅡ		
担 当 教 員	森永 初代, 濱崎 千鶴, 大山 典子, 中野 由美子		
関 連 資 格	秘書士、上級情報処理士、上級ビジネス実務士		
備 考	対象：G, D, S, E 社会人入学者を除く		
ナンバリング	Z-F076-1/キャリア教育－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（人生を切り開く力）区分 3（主体的に学ぶ力）

到達目標

- 1 職業人としての自分のあり方を考え、説明することができる。
- 2 周囲の事例から学ぶことができ、自らの学修意欲の高め方を理解している。
- 3 本学で学ぶ知識・技能・態度を自分のキャリアにどう活かすかについて考察し、論じることができる。

評価方法

臨時試験（レポート）[50%] 期末レポート[50%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題レポートについては、事後の授業内でコメントし、解説を行う。

授業の展開計画

職業人としての自分のあり方を考える。

回	内容
1	ガイダンスー卒業後の進路と 2 年次の学修計画の目標設定ー
2	就活と採用ー採用試験の実際ー
3	社会人基礎力を身につけるために
4	自分の役割と自己表現
5	キャリア関連（希望職種・業種）の研究

6	キャリアパスのあり方とは
7	職業人としての課題―卒業生による就職体験発表会―
8	将来の職業選択―卒業生による就職体験発表会の振り返り―
9	クラス間交流会―他の業種・職種を学ぶ―
10	進路選択とキャリア形成
11	社会から求められる力とは
12	学修意欲の高め方
13	キャリア関連の学びのプラン作成
14	自己評価・相互評価
15	まとめ―前期の評価と今後の課題

アクティブ・ラーニングの概要

授業内でグループディスカッション（意見交換会）・講師との質疑応答を行う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

ノートを取りながら受講し、レポート作成に備えること。

準備学習（予習・復習等）

授業1コマあたり、事前事後に計1時間の自主学習が必要である。グループディスカッション等、取り組むべき内容はその都度、指示する。

テキスト

プリント・資料配布。

参考文献

長尾佳代子他著、『大学生・短大生のための大学での学び方』2013年8月、旺文社

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	保育キャリアデザイン		
担 当 教 員	河野 一典		
関 連 資 格			
備 考	対象：C		
ナンバリング	Z-F076-2/キャリア教育－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（人生を切り開く力）、区分 3（主体的に学ぶ力）

到達目標

- 1.保育者としての自分のあり方を考え、説明することができる。
- 2.本学で学ぶ知識・技能・態度を保育者としてのキャリアにどう活かすかについて考察し、論じることができる。
- 3.周囲の事例から学ぶことができ、自らの学修意欲の高め方を理解している。

評価方法

臨時試験（レポート）[50%] 期末レポート[50%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

履歴書やレポートは添削して返却する。

授業の展開計画

職業人としての自分のあり方を考え、長期的に保育者としてのキャリアプランを立てる。

回	内容
1	ガイダンスー卒業後の進路と 2 年次の学修計画の目標設定ー
2	就活と採用ー採用試験の実際ー
3	履歴書のブラッシュアップー自己分析と他己分析ー
4	履歴書の基本知識と書き方（キャリア支援課）
5	履歴書の書き方ー実践編ー
6	全学的交流会ー他の業種・職種を学ぶー

7	グループディスカッション—進路選択を考え、自分のキャリアを構想する—
8	キャリア関連（希望職種・業種）の研究
9	労働法規について（外部講師）
10	職業人としての課題—卒業生による就職体験発表会—
11	将来の職業選択—卒業生による就職体験発表会の振り返り—
12	社会から求められる力とは—社会人基礎力の測定—（ハローワーク）
13	社会から求められる力とは—社会人基礎力を身に付ける—（ハローワーク）
14	キャリア関連の学びと活動のプラン作成
15	まとめ—前期の評価と今後の課題

アクティブ・ラーニングの概要

就職試験におけるグループディスカッションや面接対策等、実践的な練習を取り入れる。

ICT 活用の概要

さまざまな就職情報収集のため、パソコン室を活用する。

履修上の注意事項

期末レポートを期限内に提出しなければ単位を取得することはできない。

準備学習（予習・復習等）

授業1コマあたり、予習・復習に計1時間の学習が必要である。履歴書やレポート作成で発展して取り組むべき課題は適宜指示する。

テキスト

未定

参考文献

授業で適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	キャリアスキルズⅡ		
担 当 教 員	西田 一豊		
関 連 資 格			
備 考	編入学試験対策 一部、対面授業		
ナンバリング	Z-FA76-1/キャリア教育〔試験対策〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2(人生を切り開く力)

到達目標

- 1.自らのキャリアプランに応じた学修計画をまとめることができる。
- 2.小論文の基本的な書き方を身に付け、適切な表現・用法に気を配って文章を書くことができる。
- 3.テーマに沿った自らの主張や意見を論理的で説得力のある文章に表現することができる。

評価方法

臨時試験(各自の目標に応じた小論文練習の取り組みの内容 40%、最終的な小論文の達成度 60%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出された小論文にはコメントを付け、その都度個別面談による指導を行う。

授業の展開計画

授業外において小論文を書き、担当教員に提出する。
その内容を踏まえた 1 対 1 での小論文指導を基本とする。

回	内容
1	ガイダンス(編入学試験対策について)
2	編入学志望校の選定と対策方針の確認
3	小論文個別指導・面談（課題文の読み取り）
4	小論文個別指導・面談（課題文の要約）
5	小論文個別指導・面談（アウトラインの作成）
6	小論文個別指導・面談（構成への意識）
7	編入学試験対策に関する途中経過報告と情報共有

8	小論文個別指導・面談（具体例の検討）
9	小論文個別指導・面談（論理性の向上）
10	小論文個別指導・面談（設問への対応）
11	小論文個別指導・面談（結論の出し方）
12	小論文個別指導・面談（説明の過不足の検討）
13	小論文個別指導・面談（添削を受けての書き直し）
14	小論文個別指導・面談（専門書の講読）
15	編入学試験に向けた継続的な学習の取り組みについて

アクティブ・ラーニングの概要

編入学試験対策として小論文課題に取り組む。
自身のキャリアプランを見据え、志望校・志望学科の選定を行う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

必ず週に一度は小論文を担当教員に提示しなければならない。

準備学習（予習・復習等）

- ・小論文を書く。また、各課題のテーマについて新聞等を使って調査する。
- ・自身の関心に沿った内容の図書を、前期の間に複数冊通読する。
- ・志望校・志望学科の模索・選定を怠らないこと。
- ・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。

テキスト

各自の目標に合わせた過去問題、あるいはその他の小論文課題を、受講者自らが探るか、あるいは必要があれば担当教員がその都度提示する。

参考文献

問題意識を深めるために、自身の関心に沿った図書を各自で見つけ、時間をかけて通読することを心掛けること。
その他、小論文対策に関する主な参考文献は以下の通り。
・旺文社編『2022 年受験対策 全国大学小論文入試 2017～2021 出題内容 5 か年ダイジェスト』2021 年 9 月、各年次発行、旺文社
・代々木ゼミナール編『2022 新小論文ノート』2021 年 8 月、各年次発行、日本入試センター
・朝日新聞社編『時事から学ぶ小論文 2021 第 1 号 基礎編 小論文の書き方を学ぼう』2021 年 3 月、続刊、朝日新聞社
・朝日新聞出版編『朝日キーワード 2023』2022 年 1 月、各年次発行、朝日新聞出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	こどもと絵本Ⅲ		
担 当 教 員	森木 朋佳		
関 連 資 格	認定絵本土		
備 考	対象：C 認定絵本土養成講座科目、認定絵本土必修 30 時間で 1 単位		
ナンバリング	Z-FC73-1/キャリア教育〔認定絵本土〕－初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2 (人生を切り開く力) 区分 3 (主体的に学ぶ力)

到達目標

- 1.子どもや大人が絵本と出会う場における具体的な取り組み事例での工夫や支援を理解している。
- 2.絵本の持つ力について、子どもだけでなく大人への影響の視点から述べることができる。
- 3.認定絵本土として自身が果たすべき役割について考察し、論じることができる。

評価方法

期末レポート 60%、小レポート 40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小レポートは、授業中にフィードバックする。期末レポートについては、履修者の求めに応じて教育支援サイトを通じてフィードバックする。

授業の展開計画

認定絵本土養成講座の科目である。
ここでは絵本についての知識をさらに深めることを目標に、より具体的なテーマに基づいた講義や演習を行う。また、絵本との出会いを作り出す機会やその際に求められる技術について考えていく。
「授業の展開計画」に示す内容は、認定絵本土委員会が規定する「絵本土養成講座カリキュラム」に準拠しているため、番号が重複したり、①、②、④のように番号が連続していなかったりすることがある。

回	内容
1	さまざまなジャンルの絵本①（物語の絵本） 担当：森木
2	さまざまなジャンルの絵本②（昔話、童話を基にした絵本） 担当：池水
3	さまざまなジャンルの絵本③（科学絵本） 担当：森木
4	大人の心を豊かにする絵本（人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を） 担当：河野

5	心に寄り添う絵本（心のケアと絵本の可能性） 担当：鳥羽
6	ホスピタリティに学ぶ（人を楽しませる為の手法を学ぼう） 担当：外山
7	絵本と出会う①（はじめての絵本との出会い） 担当：森木
8	絵本と出会う②（保育・教育の場での出会い） 担当：味園
9	絵本と出会う④（書店での出会い） 担当：森木・安井
10	絵本を紹介する技術②（書評・紹介文の書き方） 担当：池水
11	絵本を紹介する技術③（支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割） その１：支援が必要な人々と絵本 担当：中島
12	絵本を紹介する技術③（支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割） その２：高齢者と絵本 担当：中島
13	絵本の世界を広げる技術①（絵本を探す技術） 担当：四元・森木
14	絵本の世界を広げる技術②（ワークショップ） 担当：池水
15	ディスカッション（認定絵本土としての今後の活動） 担当：森木

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間、ディスカッションやグループワークを行う。
また各テーマへの理解を深めるために、小レポートを課す。
レポートは評価後返却し、その際解説を行う。

ICT 活用の概要

教材の提供や授業の補足に教育支援サイトを活用する。

履修上の注意事項

この科目は認定絵本土養成講座の科目である。8割以上出席の上、単位を取得しなければ、認定絵本土の資格を取得することはできない。
本科目を履修するためには、「こどもと絵本Ⅱ」を履修していることが必要である。

準備学習（予習・復習等）

授業１コマあたり、事前・事後に１時間の学習が必要である。
具体的には指定された範囲について教科書を読んだり、授業中に紹介された絵本、文献を調べたりしておくこと。
また、小レポートの作成に取り組んでおくこと。

テキスト

絵本専門士委員会（独立行政法人国立青少年教育振興機構）「認定絵本土養成講座テキスト」
2020年、中央法規出版

参考文献

授業の中で適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	表現技術		
担 当 教 員	西田 一豊		
関 連 資 格	上級秘書士（国際秘書）、情報処理士		
備 考	対象：E 15 時間で 1 単位		
ナンバリング	Z-31F3-1/日本語〔文章表現中心〕－初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2(人生を切り開く力)

到達目標

- 1.読みやすく説得力のある文章を書くことができる。また、話すことができる。
- 2.レポート、小論文の書き方の基本を理解し、目的に合わせた文章を書くことができる。
- 3.自身の意見や判断を的確に伝えることができる。

評価方法

臨時試験(小レポート・口頭発表 40%、期末レポート 60%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で書いた文章については、毎回教員が添削したうえで、返却する。
ただし、期末レポートについては、あらかじめ科目担当者が指定した期限内に申し出た学生に対してのみ対応する。

授業の展開計画

授業 1 コマ分の前半を使って、小論文等の文章を書く際の基本事項を学ぶ。
後半では、各回のテーマに沿ってグループディスカッションを行ったうえで、その際に作った構成表等をもとにして、自身の意見を小論文として書く。
なお、できるだけタイムリーな話題を扱うので、各回のテーマは変更する可能性がある。

回	内容
1	ガイダンス
2	地球温暖化について
3	コロナウイルス感染拡大について
4	犬猫チップの装着義務化について
5	コンビニの時短営業について
6	レジ袋有料化について

7	幼児教育の無償化について
8	高齢者の免許証返納について
9	中高生の SNS 使用について
10	AI の活用法と注意点について
11	日本の死刑制度について
12	図書館の役割について
13	男性の育休について
14	ヤングケアラーについて
15	自身の目標のために必要なことについて

アクティブ・ラーニングの概要

毎回、決められたテーマについてグループディスカッションを行い、課題文の内容整理を行う。また、それを踏まえて自身の小論文の構成表を作り、400～800 字程度の文章にまとめる。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

文章表現については、全て手書きとする。また、添削された内容は必ず確認し、次に生かすこと。

準備学習（予習・復習等）

- ・課題文は前の週に配布するので、次週の小論文作成に備えて、テーマに関連する情報を収集したうえで自身の意見を整理しておく。
- ・毎回の授業で返却される文章の添削内容を確認しておく。
- ・なお、授業内で小論文が書きあがらなかった場合は、次回の授業までに仕上げてくる。
- ・1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学修が必要である。

テキスト

授業ごとにプリントを配布する。

参考文献

朝日新聞社編『時事から学ぶ小論文 2021 第 1 号 基礎編 小論文の書き方を学ぼう』2021 年 3 月、続刊、朝日新聞社
 朝日新聞出版編『朝日キーワード 2023』2022 年 1 月、各年次発行、朝日新聞出版
 名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科著、戸田山和久執筆協力『はじめよう、ロジカル・ライティング』2014 年 5 月、ひつじ書房
 野矢茂樹著『増補版 大人のための国語ゼミ』2018 年 10 月、筑摩書房

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	人間関係論		
担 当 教 員	今林 俊一		
関 連 資 格	秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書)、情報処理士、上級情報処理士、 ビジネス実務士、上級ビジネス実務士		
備 考	対象：GD		
ナンバリング	Z-36F3-1/心理学ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（豊かな人間性と共生の精神） 区分 3（主体的に学ぶ力）

到達目標

- 1.様々な場面における人間関係に関する実験の内容や理論について理解し、説明できる。
- 2.他者と協働する際に生じる現象がわかり、目的に応じた対処方法を適切な用語を用いて説明できる。
- 3.人間関係に関する実験の結果や理論に基づいて考察したり、知識を日常生活で活かしたりすることができる。

評価方法

定期試験(70%)+レポート・提出物(30%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートは、講義中にフィードバックする。
定期試験については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出た学生のみ対応する。

授業の展開計画

基礎的な理論や重要な研究を紹介するとともに、身近な話題やテーマを取り上げ、社会の中で人間がどのように影響しあいながら生きているのかを学ぶ。授業の中でグループワークを取り入れ、レポートを課し、全体の傾向をフィードバックする。

回	内容
1	人間関係について
2	人間関係と自己：自分を知ることとは
3	人間関係と自己：パーソナリティ理論
4	人間関係と自己：自己概念と環境への適応
5	人間関係と自己：自己開示

6	人間関係と対人行動：コミュニケーションとは
7	人間関係と対人行動：価値観の違い
8	人間関係と対人行動：自他尊重のコミュニケーション
9	人間関係と集団行動：集団とは
10	人間関係と集団行動：集団のコミュニケーション
11	人間関係と集団行動：リーダーシップ
12	人間関係と集団行動：群衆心理
13	家族と人間関係
14	職場と人間関係
15	まとめ：開発的・予防的人間関係について

アクティブ・ラーニングの概要

「自己概念」「葛藤方略」「グループダイナミクス」「コミュニケーション」等をテーマにしたグループワークを実施する。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

人間関係が重要であることを意識して、これからの人間関係の参考になるよう取り組んでほしい。演習では積極的に参加し、学びを深めてほしい。

準備学習（予習・復習等）

グループワークを行う際は、事前にテーマを提示するので、自分自身の経験を振り返り、まとめておくこと。

予習は、配布プリントを読み、身近な人間関係における話題やニュースについて触れながら、まとめること。

復習は、毎回の講義後、プリント整理を行い、理解を深めること。

授業1コマあたり、事前・事後学習に計4時間の学習が必要である。

テキスト

特になし

参考文献

星野欣生著『人間関係づくりトレーニング』2003年 金子書房

水國照充編著『対人コミュニケーションの心理学』2018年 北樹出版

土肥伊都子編著『自ら挑戦する社会心理学』2014年保育出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	通年
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	かごしまの未来プロジェクト		
担 当 教 員			
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	Z-189C-1/課題解決型学修〔郷土〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1.地域社会における特定の問題の現状と課題を調査・分析し、その所在を説明することができる。
- 2.地域社会における特定の問題を解決するための道筋を見だし、具体的な解決方法を説明することができる。
- 3.地域社会における特定の問題の解決方法を実行する活動に従事し、具体的な成果を発表することができる。

評価方法

地域社会に資する活動内容の実施報告書と取組成果およびプレゼンテーションを総合的に判断し単位を認定する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プロジェクト終了時、地域の関係者から講評をいただく。報告書提出後、指導教員による講評の時間を設ける。

授業の展開計画

いわゆる **Project Based Learning** である。すなわち地域社会から提示された問題について、その現状と課題を調査・分析し、具体的な解決策を提案・実行することによって地域社会に資することを目的とする。

アクティブ・ラーニングの概要

実験・実習・実技科目のため省略

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

45 時間の活動時間を確保すること。

準備学習（予習・復習等）

長期的な調査と活動等について、随時記録を取っておくこと。

テキスト

指導教員が指示する。

参考文献

指導教員が指示する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	日本国憲法		
担 当 教 員	上向 輝宜		
関 連 資 格	栄教二種免、中二種免（英語）		
備 考	SE 教職選択者優先		
ナンバリング	Z-5273-1/法学一初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 4(社会のために尽くす力)

到達目標

- 1.国家の最高法規である憲法についての意義を理解し説明できる。
- 2.日本国憲法に規定されている人権と統治機構の基礎を理解し説明できる。
- 3.身近な問題を憲法問題として捉え、論考できる。

評価方法

定期試験[60%]、小テスト[20%]、課題(レポート)[20%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは毎回実施し、実施後、講義内で解説を行う。

授業の展開計画

毎回のテーマに沿って、具体的な事例も交えながら授業を進めていく。講義中心であるが、学生にも大いに意見を求め、学生が積極的に授業に参加し、憲法の基礎と法的思考が修得できるように努める。

回	内容
1	基礎法学、憲法と立憲主義
2	国民主権の原理
3	平和主義の原理
4	基本的人権の原理
5	基本的人権の限界
6	包括的基本権と法の下の平等

7	自由権－精神的自由権
8	自由権－経済的自由権・人身の自由
9	社会権
10	受益権・参政権
11	国会
12	内閣
13	裁判所
14	財政・地方行政
15	違憲審査制・憲法改正・まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

毎回小テストを実施する。
前回の講義内容から出題するので、復習を徹底し、準備すること。

ICT 活用の概要

該当なし

履修上の注意事項

配布されたプリントを紛失しないように、必ずファイリングすること。
不明な点があれば遠慮なく質問すること。

準備学習（予習・復習等）

事前に配布したプリントや授業中に紹介する参考文献等で各回の予習と復習を行うこと。
授業1コマあたり、事前・事後に計4時間の学習が必要である。

テキスト

毎回プリントを配布する。

参考文献

随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	生活環境論		
担 当 教 員	櫻井 真		
関 連 資 格			
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	Z-7C73-1/自然・環境ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1.食糧問題、水質汚染などの環境破壊、人口増加と貧困、地球温暖化などの社会問題について理解して、説明することができる。
- 2.社会問題を解決する新しい価値観や方策について理解して、説明することができる。
- 3.社会問題の解決を阻む利害や思想の対立について理解して、解決への取り組みについて意見を述べるすることができる。

評価方法

定期試験（90％）＋臨時試験（レポート 10％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（レポート）に対しては授業でコメントする。

授業の展開計画

日常生活と関連する食環境、水質汚染、人口増加と貧困、地球温暖化、ゴミ処理などの諸問題について、現状や諸要因をグローバルな視点から概説する。問題を解決する新しい方策も紹介し、SDGs（持続可能な開発目標）や消費者である私たちが貢献できる取り組みについて考える。

回	内容
1	イントロダクション：消費社会の背景にあるグローバリゼーションと諸問題
2	新しい価値観（1）代替の価値観、持続可能な社会、SDGs
3	新しい価値観（2）フェアトレード
4	食環境（1）緑の革命とアグリビジネス

5	食環境（2）生産国と消費国の変化、穀類の争奪
6	食環境（3）多頭飼育の弊害と感染症：BSEと口蹄疫、新型インフルエンザとCSF(豚コレラ)
7	食環境（4）輸入食品とフードロス
8	食環境（5）トレーサビリティ、フードマイレージと地産地消
9	水質汚染：生活排水と赤潮、公害と水俣病
10	ゴミ問題：プラスチックゴミによる海洋汚染
11	人口増加と貧困（1）発展途上国の人口増加と貧困
12	人口増加と貧困（2）発展途上国への支援とソーシャルビジネス
13	地球温暖化：価値観の対立、脱炭素社会
14	パンデミック後の世界：グローバル社会の行方
15	総括：これからの世界と私たちの生活（新しい世界秩序、身近で増える外国人）

アクティブ・ラーニングの概要

問題の現状や解決方法について、グループ学修を通じて理解を深める。

ICT 活用の概要

サーバを通じて資料の配布やレポートの提出を行う。

履修上の注意事項

特になし。

準備学習（予習・復習等）

授業のテーマについてキーワードなどを調べておく。ノートや資料を見直して学修内容を説明できるように整理する。提示するレポートに取り組む。授業1回あたり事前事後に1時間の学修が必要である。

テキスト

プリントを随時配付する。

参考文献

DVD等の視聴覚資料を随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	倫理学		
担 当 教 員	河野 一典		
関 連 資 格	社会福祉主事任用資格		
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	Z-3573-1/哲学・宗教学ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1.現代の倫理的諸問題を自分自身に関わる問題として理解し、主体的かつ論理的な意見を述べるができる。
- 2.倫理に関する多様な考え方を理解し、自分自身の価値観・人生観を客観的に反省し、修正する術を説明することができる。
- 3.「善く生きる」ことを実践的に追求し、社会貢献する意味を説明することができる。

評価方法

臨時試験（レポート）[40%]期末レポート[60%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講カードとレポートについては授業で振り返る。

授業の展開計画

急速な科学技術や情報化社会の進展により、現代社会において新たな倫理的問題が生じるとともに、われわれの価値観も多様化してきた。現代の倫理的諸問題を概観する中で自分自身に関わる問題として理解し、論理的に主体的な意見を述べる契機とする。そのために普遍的かつ歴史的な西洋（および東洋）倫理思想を理解することは有益な手立てとなる。自らの価値観・人生観を反省・修正し、社会に積極的に関わり貢献する姿勢を養いたい。

回	内容
1	1. 倫理学入門ー倫理学とは何かー ・倫理学を学ぶ意義と目的
2	・生命倫理・医療倫理・環境倫理等々、現代の倫理的問題を紹介する。
3	・マイケル・サンデルが提示した倫理的難問の実例を紹介する。
4	2. 倫理思想概説ー考え方・生き方の学びー ・古代ギリシア哲学編（1）ソクラテスの「無知の知」と死生観
5	・古代ギリシア哲学編（2）プラトンのイデア論と想起説

6	・古代ギリシア哲学編（3）アリストテレスの『ニコマコス倫理学』
7	・中世キリスト教倫理思想編 アウグスティヌスとトマス・アキナスの神と魂の問題
8	・近世倫理思想編（1）デカルトの大陸合理論とF. ベーコンのイギリス経験論
9	・近世倫理思想編（2）カントの道德論
10	・近世倫理思想編（3）ホッブスとミルの功利主義
11	3. 現代の倫理的問題の概説（グループディスカッション・ディベートおよび意見発表を含む）・尊厳死・安楽死・緩和死の問題
12	・脳死と臓器移植の問題
13	・代理母の問題
14	・生殖ビジネスの諸問題
15	4. まとめ ・授業全体の振り返り

アクティブ・ラーニングの概要

授業内にグループディスカッション・ディベートおよび意見発表をする。

ICT 活用の概要

情報や資料の共有に教育支援サイトを活用する。

履修上の注意事項

倫理学を自分自身の問題として主体的な関心を持って取り組むとともに、資格関連科目としての重要性を理解すること。

準備学習（予習・復習等）

レポート作成、グループディスカッションおよび意見発表のために参考文献・資料を読んで予習・復習することが必要である。授業1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

プリント配布

参考文献

赤林朗・児玉聡編『入門・倫理学』、2018年1月、勁草書房
 小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理―「いのち」は誰が決めるのか』、2011年10月、ちくまプリマー新書（筑摩書房）
 香川知晶『命は誰のものか』、2009年8月、ディスカバー・トゥエンティワン
 マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録』上・下、2010年10月、早川書房
 中川純男監修 B.マギー著『知の歴史』、1999年9月、BL出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	新聞で読み解く現代		
担 当 教 員	藤田 一知		
関 連 資 格			
備 考	30 時間で 1 単位 開講せず		
ナンバリング	Z-5573-1/社会学ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1 時事問題を理解でき、口頭で自分の意見を述べるができる。
- 2 時事問題を自分たちの問題として認識し、深く考え、ディスカッション等で提案ができる。
- 3 時事問題に対する自分の課題を見つけ、自分の意見を文章にまとめることができる。

評価方法

グループ・ディスカッションなどでの発表内容の評価[40%]
小論文演習を通じてテーマの理解度、文章の構成など評価[60%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートは誤字、脱字等を点検し、コメントを付けて返却する。

授業の展開計画

- ・与えられたテーマについて数人が発表し、他の学生から質問を受けたり意見を交わしたりしながら双方向の授業を展開する。（アクティブ・ラーニング）
- ・テーマを決め、それに向けたグループ・ディスカッションを行い、お互いの考えや意見を聞くことによってテーマを掘り下げていく。
- ・小論文の演習では、与えられたテーマについて事実をしっかり把握し、自分の主張を論理的に展開できるスキルを身に付けられるような授業を展開する。
- ・新聞等で取り上げられる海外、国内、鹿児島県内のニュースや話題を解説し、一緒に考えていく。
- ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなどそれぞれの役割について学ぶ。

回	内容
1	新聞の読み方、生かし方
2	鹿児島県の現状と課題
3	鹿児島県の課題について具体的なテーマを設けてグループ・ディスカッション

4	グループ討論に基づく小論文演習
5	小論文演習に基づく発表・討論、時事問題学習
6	日本の政治、経済、社会の課題
7	日本の政治、経済、社会について具体的なテーマを設けてグループ・ディスカッション
8	グループ討論に基づく小論文演習
9	小論文演習に基づく発表・討論、時事問題学習
10	温暖化対策や安全保障問題など地球規模の課題
11	地球規模の課題について具体的なテーマを設けてグループ・ディスカッション
12	グループ討論に基づく小論文演習
13	小論文演習に基づく発表・討論、時事問題学習
14	新聞など各メディアの役割とメディアリテラシー
15	時事問題に対する自分のテーマを決めて小論文にまとめる（演習）

アクティブ・ラーニングの概要

小論文演習の前の授業でグループ・ディスカッションを行い、演習の次回授業で発表、討論を通じて理解を深める。

ICT 活用の概要

演習で書いた小論文はデータで提出し、コメントをつけて返却する。

履修上の注意事項

- ・主に新聞を題材にする関係上、できるだけ新聞を読み、その中から自分なりの課題を発見してもらう。
 - ・グループ・ディスカッションには自主的かつ積極的に参加すること。
 - ・あくまでも主人公は学生。すべてにおいて取り組む姿勢に期待する。日本、世界を取り巻く諸情勢について、できるだけ新聞、テレビなどのマスコミを通じて時事問題に対する認識と理解を深めておくこと。
- 注）再試験は実施しない。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業内容を再度確かめる。
- ・新聞を読み、毎日のニュースをチェックする。
- ・授業1コマあたり、事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

テキストは随時プリント等を準備する。

参考文献

南日本新聞、全国紙等

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

南日本新聞社論説委員会委員長

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	社会政策概論		
担 当 教 員	池水 聖子		
関 連 資 格	社会福祉主事任用資格		
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	Z-5573-2/社会学ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1.労働政策に関する基礎知識を理解している。
- 2.社会保障に関する基礎知識を理解している。
- 3.鹿児島における社会政策の現状と課題について自分の考えを述べることができる。

評価方法

臨時試験（レポート[60%]、課題計画書作成[40%]）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントをつけて返却する。

授業の展開計画

講義形式による。前の週までに配布したレジюмеや資料プリントを使用して講義を行う。パワーポイントを使用し、詳細は参考資料を配布。
地元新聞記事や、社会経済状況に関するニュースやトピックを視聴、もしくは読み込み、グループでのディスカッションを行う。そのうえで課題レポートを提出する。

回	内容
1	ガイダンス／社会政策・社会保障の概念と体系を理解する。
2	社会政策とは何か
3	社会政策の歴史的展開
4	「福祉国家」体制の原理と社会政策
5	「働き方改革」と社会政策
6	社会保障とは何か
7	社会政策における労働と生活

8	保険・社会保険・社会保障
9	男女平等をめぐる視点
10	男女平等政策の歴史的変遷（１）：国内法整備の時代
11	男女平等政策の歴史的変遷（２）：男女ともに輝く社会に向けて
12	ワークライフバランスの現状と課題
13	男女平等政策とワークライフバランス①／女性労働者の「働きやすさ」と「働きがい」
14	男女平等政策とワークライフバランス②／ハラスメントと女性
15	男女平等政策とワークライフバランス③／家庭生活と女性：結婚・妊娠・子育て・介護

アクティブ・ラーニングの概要

地元新聞記事や政府機関や行政機関等の各種データ、社会政策に関するニュースやトピックを読み、グループに分かれディスカッションを行う。さらに課題（社会政策や社会保障）についてグループで事業計画書を作成、プレゼンテーションする。

ICT 活用の概要

- ・配布資料、授業の PowerPoint 掲載
- ・予習課題、復讐課題の掲載
- ・レポート課題の掲載・提出・評価

履修上の注意事項

授業においてはレジメを使用する。事前に疑問点などを整理して授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）

次回の授業内容やディスカッションのテーマを示すので予習し、用語の意味等を調べて理解しておくこと、また、疑問点については自分の言葉でまとめておくこと。1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。

テキスト

各回授業でレジメを配布する。

参考文献

石畑良太郎他編、『よくわかる社会政策 [第 3 版]：雇用と社会保障』2019 年 5 月、ミネルヴァ出版（※購入不要、必要箇所は複写を配布）

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	食の安全と健康		
担 当 教 員	新里 葉子		
関 連 資 格			
備 考	30 時間で 1 単位 S は除く		
ナンバリング	Z-A273-1/健康科学〔食品学〕－初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

1. 鹿児島における食の安全対策の現状を理解している。
2. 食中毒や食品による代表的な感染症の特徴と予防法を理解している。
3. 個人レベルで実施可能な衛生対策の基本を理解し、留意点を説明できる。

評価方法

定期試験(70%)、臨時試験(小テスト 30%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは採点して返却するとともに授業内で解説を行う。

授業の展開計画

食品衛生に触れたことがないことを前提に、家庭でできる衛生管理や一般的な食中毒の症状や予防法を解説していく。
また、食物アレルギーや遺伝子組み換え食品、機能性表示食品などメカニズムや意義を学ぶことで自分で選択できる知識の習得を目指す。

回	内容
1	自分自身の衛生管理について（手洗い、咳エチケット、くしゃみの飛沫）
2	一般的な食中毒の特徴と予防法 1 （サルモネラ、腸炎ビブリオ、カンピロバクター、病原性大腸菌、黄色ブドウ球菌）
3	一般的な食中毒の特徴と予防法 2（ノロウイルス、ロタウイルス、肝炎ウイルス）
4	一般的な食中毒の特徴と予防法 3（アニサキス、サナダムシ、回虫、）
5	一般的な食中毒の特徴と予防法 4（植物性自然毒、動物性自然毒）
6	一般的な食中毒の特徴と予防法 5（植物性自然毒、動物性自然毒）

7	食品中の汚染物質（カビ毒、化学物質、重金属）
8	食品成分の変化による有害物質について（ヒスタミン、過酸化脂質、トランス脂肪酸）
9	食物アレルギーについて（メカニズムと症状、特定原材料に定められた食品とその表示）
10	食品添加物について（メリットとデメリット、安全性の評価）
11	遺伝子組み換え食品について（仕組みと安全性）
12	食品を取り巻く行政について（食品衛生法、食品表示法、消費者庁の役割）
13	保健機能食品制度について （トクホと機能性表示食品、栄養機能食品の違いとそれぞれの意義）
14	食品表示について （農産物、畜産物、水産物、加工食品それぞれの表示の読み取り方）
15	鹿児島における食の安全対策 （口蹄疫や鳥インフルエンザ、豚コレラなどの家畜防疫、鹿児島県産農水産物に対する独自の認証制度 K-GAP について）

アクティブ・ラーニングの概要

必要に応じてグループワークやディスカッションを行なう。

ICT 活用の概要

必要に応じて教材・資料・授業スライドの掲載を行なう。

履修上の注意事項

週に 1 回でいいので食品に関わるニュースを読むこと。

準備学習（予習・復習等）

次回の授業で行うディスカッションのテーマや小テストの範囲を示すので、事前に調べたり、前回の授業の復習をしておくこと。
コマの授業あたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。

テキスト

日本食品衛生協会著編集『わかりやすい細菌性・ウイルス性食中毒』2010 年 6 月、日本食品衛生協会

参考文献

田崎達明編『イラストレイテッド 食品衛生学』2017 年 2 月、羊土社
岸本満編『Visual 栄養学テキストシリーズ 食べ物と健康 III 食品衛生学 食品の安全と衛生管理』2019 年、中山書店

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	人間学		
担 当 教 員	佐々木 亘		
関 連 資 格			
備 考	対象：G, D		
ナンバリング	Z-10A6-1/純心教育－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（豊かな人間性と共生の精神） 区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1.人間の生き方に関する多様な考え方を受容し、批判的に理解している。
- 2.人間の幸福に関して自分自身の頭で考える方法と習慣を持ち、自分自身の考えを説得的に表現できる。
- 3.他者と自己の存在価値と、社会貢献の意義について理解している。

評価方法

テーマ報告書【30%】 期末レポート【70%】

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

11 月 10 日（詳しい日程は授業で示す）までにテーマ報告書を授業中に担当者へ提出する。そして、授業の中で学生によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答を行い、レポート作成をサポートする。テーマ報告書に対する評点とコメントは教育支援サイトで表示する。レポートの下書きに対しては、そのつど直接指導する。1 月 26 日までにレポートを担当者に提出する。

授業の展開計画

人間とは、どのような存在なのであろうか。人間らしい生き方とは、そしてそもそも人間にとっての幸せとは何を意味しているのであろうか。これらの問いは、自分らしい生き方を模索する上で欠くことができないものである。しかし、変化の激しい現代社会において、これらの問いにしっかり向き合うことは簡単ではない。

この授業では、テキスト『アウグスティヌス講話』にそくして、一人ひとりにこのような問いを投げかけていく。人間は個人として人生を形成していく主体である一方、他者を必要としており、共同体において生きている。人間を多元的に捉

回	内容
1	人間とは何か
2	アウグスティヌスの生涯
3	真実の愛
4	世界の広がり

5	人間の無限性
6	自然と悪
7	人間にとっての創造（テーマ報告書に関するプレゼンテーション①）
8	人間の自由（テーマ報告書に関するプレゼンテーション②）
9	悪とは何か（テーマ報告書に関するプレゼンテーション③）
10	世界とは何か（テーマ報告書に関するプレゼンテーション④）
11	不安と希望
12	待つことの意味
13	休日の意味
14	憩いの空間
15	ペルソナとしての人間

アクティブ・ラーニングの概要

レポートでは、「人間とは何か」をそれぞれ問いかけていく。「テーマ報告書」に関しては、授業の中でその内容に関するプレゼンテーションと質疑応答を行う。レポート作成に関しては、自ら資料の収集・分析を行い、自主的に取り組むこと。学生には個別的に指導する。

ICT 活用の概要

テーマ報告書の評価とコメントを教育支援サイトで行い、学生に表示する。

履修上の注意事項

1. 自ら問いかけ、考えていく態度を基本にすること。
2. 自らの幸せに直結する授業であるという認識を、つねに持ちつづけること。

準備学習（予習・復習等）

1. 毎回の講義内容を必ず復習して、次回の講義にのぞむこと。
2. 講義の内容を自分の言葉でまとめておくこと。
3. 人間学に関係する書籍を三冊以上読むこと。
4. 授業1コマあたり、授業の事前・事後に計4時間の学習が必要である。
5. レポートの作成に際しては、自らの人生へのメッセージとなるよう、積極的に取り組むこと。

テキスト

山田晶著『アウグスティヌス講話』、1995年7月、講談社学術文庫

参考文献

アウグスティヌス著（山田晶訳）『告白Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』、2014年3月、中央公論新社中公文庫
 佐々木亘著『共同体と共同善』、2008年10月、知泉書館
 アルボム著（別宮貞徳訳）『モリー先生との火曜日』、1998年9月、日本放送出版協会
 斉藤学著『「家族」という名の孤独』、1995年7月、講談社 その他、適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	人間学		
担 当 教 員	霧島 彬		
関 連 資 格	保育士		
備 考	対象：C, S, E		
ナンバリング	Z-10A6-1/純心教育－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（豊かな人間性と共生の精神）区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1 人間の生き方に関する多様な考え方を受容し、批判的に理解している。
- 2 人間の幸福に関して自分自身の頭で考える方法と習慣を持ち、自分自身の考えを説得的に表現できる。
- 3 他者と自己の存在価値と社会貢献の意義について理解している。

評価方法

課題[30%] 期末レポート[70%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

個別に回答する。

授業の展開計画

講義では人間学に関する主要なテーマを「キリスト教哲学」の観点のもと考察する。講義レジュメやその他の資料を活用して、哲学的思考力を身につけることを目指す。

回	内容
1	導入：「人間学」とは
2	人間としての在り方（1）：知性と意志
3	人間としての在り方（2）：感覚と感情
4	人格の尊厳
5	人間としての生き方（1）：倫理学の基礎概念
6	人間としての生き方（2）：良心、二重結果理論

7	自然法という考え方
8	小レポートの振り返り
9	安楽死（1）：問題点の考察
10	安楽死（2）：キリスト教哲学としての考察
11	人工妊娠中絶（1）：問題点の考察
12	人工妊娠中絶（2）：キリスト教哲学としての考察
13	家庭・結婚・ジェンダー
14	キリスト教的世界観・人間観
15	死と死後の世界

アクティブ・ラーニングの概要

与えられた課題について小レポートを提出する。

ICT 活用の概要

教育支援サイトに講義に関する資料を適宜掲載する。

履修上の注意事項

特になし。

準備学習（予習・復習等）

各回、事前にレジュメや配布資料等の該当箇所を読み論点を整理しておくこと。
授業1コマあたり、授業の事前・事後に計4時間の学習が必要である。
課題の小レポートは、論理を丁寧に追う精密な読解を重視する。

テキスト

テキストは指定しない。

参考文献

ガエタノ・コンプリ『人間としての哲学—その在り方・生き方を考える』2019年、マガジンハウス。
ホセ・ヨンパルト、秋葉悦子〔共著〕『人間の尊厳と生命倫理・生命法』2006年12月、成文堂。
秋葉悦子『人格主義生命倫理学』2014年2月、創文社。
その他、講義中に適宜指示する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

カトリック鹿児島司教区司祭

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	ライフデザイン		
担 当 教 員	森永 初代, 濱崎 千鶴, 大山 典子, 小田 智代		
関 連 資 格	秘書士、上級秘書士、上級秘書士（国際秘書）、上級秘書士（メディカル秘書）、上級情報処理士、上級ビジネス実務士		
備 考	対象：G, D, S, E 社会人入学者を除く		
ナンバリング	Z-F0A6-1/キャリア教育－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（人生を切り開く力）区分 3（主体的に学ぶ力）

到達目標

- 1 自分のキャリアの方向性を考え、説明することができる。
- 2 社会や環境の変化と自分との関係を交えて考察し、生き方を論じることができる。
- 3 社会的役割を果たすために継続して学ぶ姿勢が身に付いており、そのプランを説明することができる。

評価方法

臨時試験（レポート）[50%] 期末レポート[50%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートは授業内でコメントし、解説を行う。

授業の展開計画

人としての生き方と社会人としての役割について考える。

回	内容
1	ガイダンスー将来の生き方を考えるー
2	ライフイベントとキャリア
3	将来の生き方プラン
4	労働法規ー租税・年金・健康保険等ー
5	働くときの基礎知識

6	わたしのワークライフバランス
7	クラス間交流会ーこれまでの学びと社会との繋がりー
8	組織の中で働くとはーリーダーシップとフォロワーシップー
9	社会や組織におけるわたしの役割
10	PROG テスト
11	社会の今と将来
12	社会の中で生きるーわたしのライフワーカーー
13	キャリアプランを振り返るー2 年生による就職活動体験発表会ー
14	プロフェッショナルとはー学びを生かして働くー
15	PROG テストの自己評価と短大 2 年間の学びの振り返り

アクティブ・ラーニングの概要

授業内でグループディスカッションおよびリサーチの成果発表を行う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

講話に関しては事前リサーチを積極的に行い、ノートを取りながら傾聴し、事後レポートの作成に備えること。

準備学習（予習・復習等）

授業 1 コマあたり、事前事後に計 1 時間の自主学習が必要である。グループディスカッションやリサーチ等、取り組むべき内容はその都度、指示する。

テキスト

プリント・資料配布

参考文献

長尾佳代子他著、『大学生・短大生のための大学での学び方』2013 年 8 月、旺文社

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	文章表現演習		
担 当 教 員	西田 一豊		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	Z-31A6-1/日本語 [文章表現中心] ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2(人生を切り開く力)

到達目標

- 1.伝わる文章の組み立て方や書き方のポイントを理解し、実践できる。
- 2.目的や趣旨にかなった文章を実例として挙げ、その工夫やポイントを分析できる。
- 3.相手や状況に合わせて、ことばや言い回しを効果的に使い分けることができる。

評価方法

臨時試験（授業内の小レポートおよび発表 40%、期末レポート 60%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(授業内の小レポート等)についてはフィードバックを行う。
ただし、期末レポートについては、あらかじめ科目担当者が指定した期限内に申し出た学生に対してのみ対応する。

授業の展開計画

編入学試験や就職試験で必要となる小論文の作成能力の向上を目的とし、また卒業後の進路が決まっている学生は、それぞれの分野において必要になる社会的な文章力を身に付けることを目的とする。
授業の軸としては、小論文の演習を行うとともに、各自の進路に関わるテーマに基づき、訴求力のある文章を作成する作業を行う。

回	内容
1	ガイダンス
2	基本事項の練習① 文を短くする・無駄な言葉を省く
3	基本事項の練習② 文頭と文末を対応させる・主語はひとつにする
4	基本事項の練習③ 具体的に書く・ひとつの文に内容はひとつだけ
5	既存の文章の分析① 各自のテーマを設定し、文章を探す（雑誌記事、新聞記事、WEB、SNS 等）

6	既存の文章の分析② 複数の文章を比較しながら、それぞれの言葉の選び方や工夫のポイントを探る
7	既存の文章の分析③ 分析内容をまとめる
8	既存の文章の分析④ 分析結果のプレゼンテーション
9	自身のテーマに関わる文書の作成① 実例をもとに、作成の際の基本事項を押さえる
10	自身のテーマに関わる文書の作成② 各自のテーマの設定と、情報収集
11	自身のテーマに関わる文書の作成③ テーマについてのプレゼンテーション
12	自身のテーマに関わる文書の作成④ 他の受講生からの意見をもとに、内容を再考する
13	自身のテーマに関わる文書の作成⑤ テーマについての再度のプレゼンテーション
14	自身のテーマに関わる文書の作成⑥ 内容を再考し、文章にまとめる
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

小論文等の作成した文章は添削を行い返却し、それを基に次回の小論文にいかす。
自身の進路と関わって、それぞれのテーマでプレゼンテーションを行う。
また、その内容を文章にまとめて提出する。

ICT 活用の概要

プレゼンテーションの際にパワーポイント等を使用し、スクリーンに投影する。

履修上の注意事項

課題を授業内でやり終えられなかった場合は、次の授業までに仕上げてくること。

準備学習（予習・復習等）

- ・ 各自のテーマに沿って文章を探し、あらかじめそのポイントを整理しておく。
- ・ 各自の進路に関わってテーマを設定し、情報収集を行う。
- ・ 授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。

テキスト

その都度プリントを配布する。

参考文献

橋口幸生『言葉ダイエット メール、企画書、就職活動が変わる最強の文章術』2020 年 1 月、宣伝会議
西出ひろ子『イラストでまるわかり！ 入社 1 年目ビジネス文書の教科書』2020 年 4 月、プレジデント社
高橋廣敏『初心者からプロまで一生使える 伝わる文章の基本』2020 年 5 月、総合法令出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	オフィスワーク演習		
担 当 教 員	中野 由美子		
関 連 資 格			
備 考	対象：D, C, S		
ナンバリング	Z-F1A3-1/キャリア教育〔ビジネス〕ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（人生を切り開く力）

到達目標

1. オフィスで働く職業人に必要な基本的ビジネスマナーや慣習を理解している。
2. オフィスで働く職業人に求められる基礎技能を身に付け、実践できる。
3. より良い組織文化を形成する一員としての振る舞いを理解し、説明できる。

評価方法

課題 20%、臨時試験（中間試験 40%）、定期試験 40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題は評価をつけて返却し、評価のポイントを解説する。

授業の展開計画

オフィスワークの基本的知識やスキルについて、ロールプレイング等の演習を通して、実践力を養う学修プログラム。

回	内容
1	会社の組織について
2	職場における人間関係
3	言葉遣いの意義
4	ビジネスにおける敬語の使い分け
5	言葉遣いのロールプレイング
6	電話の受け方とかけ方

7	電話対応のロールプレイング
8	来客対応と名刺の受け渡し
9	来客接遇ロールプレイング
10	指示・命令の受け方
11	報告の仕方
12	社内文書の書き方
13	社外文書の書き方
14	状況対応能力ロールプレイング
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

言葉遣い、電話対応、来客接遇では相互に点検・評価する機会を設ける（ロールプレイング）

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

積極的な姿勢で授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）

授業 1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。
 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
 毎回授業で習ったことを復習し要点をまとめて整理しておくこと。ロールプレイングは何回も練習して臨むこと。

テキスト

『ビジネスマナー基礎実習』2005 年 2 月、早稲田教育出版

参考文献

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	日本語コミュニケーション演習		
担 当 教 員	二見 いすず		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	Z-32A3-1/日本語 [口頭表現中心] ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（人生を切り開く力）

到達目標

- 1 伝わる話の組み立て方や話し方を修得し、実践できる
- 2 ことばを「音」として捉え、工夫して発声・発音できる
- 3 相手や状況に合わせて、ことばや言い回しを効果的に使い分けることができる

評価方法

授業中の演習（スピーチインタビュー・朗読・課題など）[50%] 定期試験[50%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題はコメントを付けて返却する。
授業中に行うスピーチやインタビューについてはその場でコメントをする。

授業の展開計画

様々な場面、状況などを提示し、より相手に伝わる表現、効果的なコミュニケーションの取り方を演習で身につける。

回	内容
1	美しい日本語とは
2	声を磨く 1 発声 発音 滑舌
3	声を磨く 2 表情 間の取り方 声のトーン
4	人前で話す（スピーチ） 自己紹介
5	挨拶と感謝の言葉の重要性
6	朗読 1 美しい文章を声に出して読む

7	朗読 2 思い出の一冊を声に出して読む
8	語彙を増やす 表現力を磨く
9	良い話し手になるために (インタビュー形式)
10	良い聴き手になるために (インタビュー形式)
11	敬語 1 重要性 必要性
12	敬語 2 TP0 を考える
13	人前で話す (スピーチ) 聞き手の心に届く話し方
14	相手の立場にたって伝えたい事を話す
15	言葉の重み 心に響く言葉とは

アクティブ・ラーニングの概要

テーマを与え、グループディスカッションをして日本語の美しいわかりやすい表現を目指す

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

特になし

準備学習 (予習・復習等)

グループディスカッションや授業終了時に示す次回の課題については準備しておくこと。
授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。

テキスト

プリントを配布する

参考文献

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

フリーアナウンサー 職歴:元南日本放送勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	証券実務演習		
担 当 教 員	池崎 和弘		
関 連 資 格			
備 考	G は除く		
ナンバリング	Z-F9A3-1/キャリア教育〔金融〕－初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（人生を切り開く力）

到達目標

1. 金融商品の取り扱いに関する法令・諸規則についての基礎知識を身に付けている。
2. 金融商品を取り扱う業務内容についての基礎知識を身に付けている。
3. 金融商品を取り扱ううえで必要なコンプライアンスに関する基本的かつ重要な事項を理解している。

評価方法

臨時試験（40％）＋ 定期試験（60％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

臨時試験（小テスト）においては採点し、返却及び解説を行う。

授業の展開計画

金融機関等への就職希望者又は内定者を想定して授業を展開する。
金融機関等が社員に求める証券外務員一種試験の基本的な内容とする。

回	内容
1	証券市場の基礎知識、金融に関する法律、規則等
2	株式業務の基礎知識、金融に関する法律、規則等
3	債権業務の基礎知識①、金融に関する法律、規則等
4	債権業務の基礎知識②、金融に関する法律、規則等
5	投資信託及び投資法人に関する業務の基礎知識、金融に関する法律、規則等
6	付随業務、セールス業務の基礎知識、金融に関する法律、規則等

7	株式会社法概論の基礎知識、金融に関する法律、規則等
8	経済・金融・財政の常識、金融に関する法律、規則等
9	財務諸表と企業分析の基礎知識①、金融に関する法律、規則等
10	財務諸表と企業分析の基礎知識②、金融に関する法律、規則等
11	証券税制の基礎知識、金融に関する法律、規則等
12	信用取引の基礎知識、金融に関する法律、規則等
13	デリバティブ取引の基礎知識①、金融に関する法律、規則等
14	デリバティブ取引の基礎知識②、金融に関する法律、規則等
15	デリバティブ取引の基礎知識③、金融に関する法律、規則等

アクティブ・ラーニングの概要

基礎知識を前提とした演習の時間を設ける。

ICT 活用の概要

インターネットやパワーポイント等を活用した授業展開を行う。

履修上の注意事項

この科目の履修は、金融機関等に就職志望者又は内定者が望ましい。
履修者の理解度により進度を調節するので、計画が前後したり、一部を追加・省略することもある。

準備学習（予習・復習等）

授業に際し、予習をしておくこと。
アクティブラーニングの準備学習については、事前に連絡する。
1回の授業あたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

「証券外務員一種 学習テキスト」 ビジネス教育出版社
「証券外務員一種 対策問題集」 ビジネス教育出版社

参考文献

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:高等学校教諭一種免許状(商業)ほか
職歴:民間企業で営業職、電算機関係の職種に従事、その後、鹿児島県立高等学校教諭、校長職を歴任

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	心理学		
担 当 教 員	今林 俊一		
関 連 資 格	社会福祉主事任用資格		
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	Z-36F3-2/心理学ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3（主体的に学ぶ力）

到達目標

- 1.自らの心身の健康について理解し、マネジメントできる。
- 2.他者との関わりの中で自己理解を深め、協調することの意味を説明できる。
- 3.人間の一般性と個別性を理解し、心の輪郭を広い角度から表現できる。

評価方法

定期試験[70%] 課題（小レポート）[30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学生が提出（作成）したレポートに対して、口頭または書面で解説する

授業の展開計画

心理学とは何かについて概説し、心と適応では心の発達、動機づけ、性格、知能、メンタルヘルスなど、心の仕組みでは感覚・知覚、記憶、学習・思考、協調と信頼などについて、日常的な出来事や事例、演習課題も交えながら講義を展開する。
なお、授業中にレポートについて解説する時間を設ける。

回	内容
1	心理学とは
2	感覚・知覚
3	記憶
4	学習・思考
5	動機づけ① 生理的欲求と社会的動機、内発的動機

6	動機づけ② 動機階層説、フラストレーションとコンフリクト
7	性格① 性格の記述
8	性格② 性格は変わるのか
9	知能
10	メンタルヘルス
11	心の発達① 乳幼児期
12	心の発達② 青年期
13	社会的影響と社会的認知
14	協調と信頼
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

数回、理解を深めるためにディスカッションまたはプレゼンテーションを行う。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

人間の理解を深めるために、心と適応では、環境に適応していくために心がどのように役立っているのかを、心の仕組みでは、心のメカニズムに関する基本的な内容を取り上げる。そのため、心理テストばかりを期待すると少しがっかりすることになる。

準備学習（予習・復習等）

授業開始時に前回授業内容に関する小レポートを作成するので復習しておくこと。
次の授業で行うディスカッションまたはプレゼンテーションのテーマを提示するので事前に調べて各自の意見を発表できるようにしておくこと。
授業1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

テキストは使用しない。

参考文献

講義の中で必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	基礎栄養学		
担 当 教 員	櫻井 真		
関 連 資 格			
備 考	30 時間で 1 単位 S は除く		
ナンバリング	Z-A3F3-1/健康科学〔栄養学〕－初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3（主体的に学ぶ力）

到達目標

- 1 食べ物の消化吸収や代謝の概要を理解している。
- 2 栄養素や機能性非栄養成分の働きを理解し、説明できる。
- 3 欠乏症や過剰症について理解し、説明できる。

評価方法

定期試験（90％）＋臨時テスト（課題 10％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（レポートなど）は、授業内でコメントして解説する。

授業の展開計画

栄養・食と健康の関わり、栄養学の概要について解説する。消化吸収の仕組み、栄養素と機能性成分のはたらきと特性、食事の量、食生活の注意点などについて順次説明する。グループによる調べ学修と発表会を実施する。

回	内容
1	イントロダクション よい食生活とは
2	栄養の基礎（1）栄養素と栄養、欠乏症と過剰症、ライフステージごとの栄養
3	栄養の基礎（2）消化と吸収、今の食生活を振り返る
4	炭水化物のはたらき（1）糖質
5	炭水化物のはたらき（2）食物繊維

6	脂質のはたらき (1) 脂肪酸
7	脂質のはたらき (2) コレステロール
8	たんぱく質のはたらき アミノ酸と食品中のたんぱく質
9	ビタミンとミネラルのはたらき
10	栄養素への理解を深める (1) 情報の収集と整理 グループ学修
11	栄養素への理解を深める (2) 発表会 グループ学修
12	どれだけ食べたら良いの
13	機能性成分のはたらき、食に関する正しい情報を得る
14	食生活で気をつけること
15	総括：食を大切に

アクティブ・ラーニングの概要

課題についてレポートを作成し意見を発表する。栄養素についてグループで学修して発表する。

ICT 活用の概要

サーバを通じて資料の配布やレポート課題の提出を行う。

履修上の注意事項

特になし。

準備学習（予習・復習等）

授業内容に関する小レポートを提示するので復習して作成すること。
次の授業のテーマを提示するので事前に教科書を読んで調べておくこと。
授業 1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。

テキスト

飯田薫子他監修『一生役立つ きちんとわかる栄養学』2021 年 5 月、西東社

参考文献

大口健司他著『イラスト 基礎栄養学』2020 年 4 月、東京教学社

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	体育理論		
担 当 教 員	萩原 香織		
関 連 資 格	幼二種免、栄教二種免、中二種免（英語）、保育士		
備 考	30 時間で 1 単位 2 年後期同時開講は SE の教職選択者優先 C は単独開講		
ナンバリング	Z-AFA3-1/体育一初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3（主体的に学ぶ力）

到達目標

- 1 今日健康問題について理解している。
- 2 運動と健康に関する基本を理解し、説明できる。
- 3 将来の健康生活の設計を実践的に設計できる。

評価方法

復習レポート提出（50%）、最終課題レポート（50%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

復習レポートはコメントを付けて、最終課題レポートはチェックしたのち返却する。

授業の展開計画

生涯を通じて身体を動かすことは健康で有意義な人生を送るために欠かせないものである。自身の身体やこころ、健康について関心を持ち、運動と健康の関連を理解し、健やかな人生を送るための基礎知識を学ぶ。

回	内容
1	健康に関する概念や日本・海外の文化の違いなどを学ぶ。
2	ロンドンバスで始まった運動の研究について学ぶ。
3	筋活動。コンセントリックエキセントリックアイソメトリックについて学ぶ。
4	太りにくい身体をつくるにはどのように心がけるか、お菓子やジュースの糖分について学ぶ。
5	鹿児島のネーミングライツについて知る。
6	良いストレスと悪いストレスについて理解する。

7	生活習慣病と運動について学ぶ。
8	1回目～7回目の復習レポート。
9	前回のレポート返却。飲酒に関して学ぶ。
10	成人の権利である喫煙に関して学ぶ。
11	女性とスポーツに関して学ぶ。
12	体育の生活科と生活の体育科を理解し、生涯スポーツと健康について学ぶ。
13	9回目～12回目の復習レポート。結婚・妊娠・出産について学ぶ。
14	結婚・妊娠・出産について学び、自らの人生設計を考える。
15	前回のテスト返却。

アクティブ・ラーニングの概要

講義の他、講義内容に関連したテーマのグループワーク、ディスカッションを行う。

ICT活用の概要

スクリーンで教材等を投影するほか、視聴覚教材なども用いて講義を行う。

履修上の注意事項

健康や運動、スポーツに関する最新の時事も織り交ぜながら授業を行うため、自分自身でも意識的にニュースに興味関心をもち、情報や知識を収集するとともに、授業での学びを实践すること。
自分の健康について関心を持ち、ディスカッション等では積極的に発言することを求める。

準備学習（予習・復習等）

授業1コマあたり、事前・事後に1時間の学習が必要である。
健康や運動、スポーツに関する情報を常にチェックし講義中に話題提供できるように準備する。講義で話題になった内容について事後整理しレポート作成に備える。

テキスト

適宜プリントを配布する。

参考文献

西端 泉著『キネシオロジー』2010年9月 日本フィットネス協会、小澤 治夫著『フィットネス基礎理論』2009年11月 日本フィットネス協会
ジェイソン ファン著『世界最新の太らないカラダ』2019年2月 サンマーク出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

--

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	体育実技		
担 当 教 員	萩原 香織		
関 連 資 格	幼二種免、保育士		
備 考	対象：GC 30 時間で 1 単位		
ナンバリング	Z-AFF3-1/体育－初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3（主体的に学ぶ力）

到達目標

- 1.健康の保持増進のために積極的に身体活動を行うことができる。
- 2.日常生活でのスポーツの実践化を図ることができる。
- 3.生涯スポーツへ継続する姿勢と態度を身に付けている。

評価方法

毎回の授業〔50%〕授業以外での実践、iPhone ヘルスケア等（同様なアプリケーション）での活動量測定報告〔30%〕、レポートの内容等〔20%〕

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時間、授業終了前に講評の時間を設ける。

授業の展開計画

毎回、筋温上昇のためのリズム体操・筋トレ→主運動→クールダウンのためのストレッチのような流れで展開して行く。実技カードに一週間の平均歩数を記録する。
主運動の内容として以下のような運動を行う。
見学を希望する場合は、事前に申し出る。気温に合わせ種目を変更することがある。

回	内容
1	オリエンテーション・実技カード記入 握力測定
2	長縄（八の字）バドミントン
3	ウォークリレー、ミニバレーボール
4	ドリブルリレー、シュート対決、バスケットボール（ゲーム）
5	長縄（一斉跳び）バドミントン

6	リレー、ミニバレー、バレーボール
7	シュート対決、バスケットボール、ドッジボール
8	長縄（ダブルダッチ） バドミントン
9	ミニバレーボール
10	レクレーション体育
11	ドッジボール
12	卓球
13	卓球
14	ゴムチューブを使ったエクササイズやストレッチ・個々のマットの上で実施。
15	ボールを使ったエクササイズやストレッチ・個々のマットの上で実施。

アクティブ・ラーニングの概要

毎回のストレッチ。チームでのゲーム。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

ユニホームは無い。体育実技にふさわしい服装であればよい。ただし、遊び着やカジュアルな服装は不可。
見学は事前に申し出ること。原則として体育服に着替えて見学する。その他詳細は授業で説明する。
余暇時における運動の実践は、体力の維持向上に不可欠であり、体育実技の事前学習として評価できる。
そのため、毎時授業以外でのスポーツ活動の実践、週の平均歩数を実技カードに記録する。

準備学習（予習・復習等）

授業 1 コマあたり、事前・事後に 1 時間の学習が必要である。授業以外で 1 時間身体を動かす必要がある。

テキスト

トレーニングやストレッチはプリントを配布する。

参考文献

西端 泉著『キネシオロジー』2010 年 9 月 日本フィットネス協会

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

所有資格・免許：健康運動指導士（公益財団法人健康・体力づくり事業財団）、高等学校教諭一種免許状（保健体育）、中学校教諭一種免許状（保健体育）
職歴：文部科学省 「子どもの体力向上実践事業」委嘱事業（喜界町教育委員会）「親子スポーツ教室」 講師（平成 16～平成 21 年）ほか

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	0
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	ラーニングスキルズ		
担 当 教 員			
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	Z-F0AF-1/キャリア教育ー不定		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3（主体的に学ぶ力）、区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1.これまでの学修で得られた評価を生かして、主体的に学ぶ姿勢を身に付けている。
- 2.自らを客観的に評価し、継続的に工夫・改善に取り組むことができる。
- 3.これまでの学修を統合的に活用し、検定試験等に生かすことができる。

評価方法

検定試験等の認定科目。
申請した単位数に応じて 1～5 単位を認定する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

該当なし

授業の展開計画

該当なし

アクティブ・ラーニングの概要

該当なし

ICT 活用の概要

該当なし

履修上の注意事項

各種検定試験等に合格した努力を認める認定科目である。

準備学習（予習・復習等）

講義・演習・実習科目で身に付けたスキルを活用し、各種検定試験等合格で成果が認められるように努力すること。

テキスト

特になし

参考文献

適宜指示する

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	社会福祉概論		
担 当 教 員	益満 孝一		
関 連 資 格	社会福祉主事任用資格		
備 考	対象：D 30 時間で 1 単位		
ナンバリング	Z-81A3-1/社会福祉学ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1.現代社会における社会福祉の意義を理解し説明できる。
- 2.社会福祉、社会保障制度の仕組みを理解し説明できる。
- 3.社会福祉の在り方を自分なりに論考できる。

評価方法

定期試験(80%)+臨時試験（レポート 20%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートなど課題については、講義中にフィードバックを行う。
定期試験については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出た学生のみ対応する。

授業の展開計画

毎回のテーマに沿って、具体的な事例も交えながら授業を進めていく。講義中心であるが、ソーシャルワークやカウンセリングなど対人援助技術の理論と技法も取り入れながら、学生が積極的に授業に参加できるように努める。社会福祉の仕組みや枠組みを修得し、課題を抱えた人への支援について理解を深める。

回	内容
1	社会福祉の理念と歴史的変遷
2	子ども家庭支援と社会福祉
3	社会福祉の制度と法体系
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等
5	社会福祉の専門職 保育士・社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師・介護福祉士・介護支援専門員など
6	社会保障および関連制度の概要

7	相談援助の理論 ソーシャルワーク・カウンセリング
8	相談援助の意義と機能 受容・非審判的態度・秘密保持・ストレングスの視点・エンパワーメントなど
9	相談援助の対象と過程
10	相談援助の方法と技術 ソーシャルワーク・カウンセリング・コンサルテーション・スーパービジョン・グループワーク・ケースマネジメントなど
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ
12	少子高齢化社会における子育て支援
13	共生社会の実現と障害者施策 インクルージョンの理念
14	在宅福祉・地域福祉の推進
15	諸外国の社会福祉の動向 総括

アクティブ・ラーニングの概要

数回レポートを課した上で、その内容発表の時間を授業内に設ける。
レポート内容については、事前に内容を指示しておくので、そのレポート内容に関する授業の際は、各自予習し自分の意見をまとめた上で授業に臨むこと。

ICT 活用の概要

Google Classroom および GoogleMeet（ビデオ会議）を用いた授業を行う。

履修上の注意事項

不明な点があれば、授業中に遠慮なく質問すること。また、配布資料に質問のコーナーがあるので質問すること。

準備学習（予習・復習等）

テキストや事前に配布した資料等で各回の予習と復習を行うこと。
授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。

テキスト

公益財団法人児童育成協会監修／松原康雄・坪洋一・金子充編集 『社会福祉』 2019 年、中央法規

参考文献

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

令和4年度入学生 現代ビジネスコース専門教育科目

開講期		科目名
令和5年	前期	会計学Ⅲ
		コンピュータ応用演習
		情報処理演習
		ビジネス実務演習
		メディカル秘書学
		経済学
		インターンシップ
		サービス実務実習
		くらしと衣
		生活と薬
		課題実践研究Ⅰ
		GプロジェクトⅠ
	後期	応用会計学
		情報活用実践
		事務管理
		接遇実践
		メディカルコンシェルジュ
		ソーシャルビジネス
		キャリアと金融
		いのちと食
		課題実践研究Ⅱ
		GプロジェクトⅡ
		地域貢献プロジェクト

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	会計学Ⅲ		
担 当 教 員	池崎 和弘		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	G-5479-1/経営学〔会計〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的実務実践力、自立した生活者としての教養）

到達目標

- 1 会社の経営成績・財政状態・資金繰りの現状を把握し、評価できる。
- 2 会社の財務状態を理解し、今後どのような点を改善するかについて理解できる。
- 3 日商簿記 2 級（商業簿記・工業簿記）程度を習得し、会社の経営判断ができる。

評価方法

臨時試験（小テスト 30%）＋ 定期試験（70%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは採点して返却し、授業内で解説を行う。

授業の展開計画

日商簿記 2 級模擬問題・過去問題を中心に演習形式で解法を考え、解説し商業簿記・工業簿記全般の理解度を向上させ、実践的な学習を行う。

回	内容
1	演習 1 〔商業簿記〕 売買目的有価証券、商品保証引当金、株式の発行、剰余金の配当と処分
2	演習 2 〔商業簿記〕 消費税、期首減価償却累計額および期首帳簿価額の算定
3	演習 3 〔工業簿記〕 個別原価計算表 原価計算表、原価差異の分析
4	演習 4 〔工業簿記〕 標準原価計算 完成品原価、原価差異の総額
5	演習 5 〔商業簿記〕 ソフトウェアの取得、固定資産の売却と営業外受取手形
6	演習 6 〔商業簿記〕 クレジット売掛金と消費税、発送費と仕入諸掛り

7	演習 7 [工業簿記] 費目別計算と製造間接費の配賦計算
8	演習 8 [工業簿記] 月末仕掛品と完成品総合原価
9	演習 9 [商業簿記] 固定資産の割賦購入、吸収合併
10	演習 10 [商業簿記] 満期保有目的債券、役務原価
11	演習 11 [工業簿記] 補助部門費配賦表
12	演習 12 [工業簿記] 直接原価計算による損益計算書
13	演習 13 [商業簿記] 株式の発行、消費税
14	演習 14 [工業簿記] 標準原価計算 シングルプラン
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間グループ毎に問題を解き、グループワークを行う。
 次回の授業で行うグループワークの問題を提示するので、事前に調べて疑問点等をまとめておくこと。

ICT 活用の概要

インターネット、パワーポイントを活用した授業展開を行う。

履修上の注意事項

会計学ⅠA・会計学ⅡAを履修または全商会計1級・全商原価計算1級を取得または履修していることが望ましい。
 電卓を持参すること。
 履修者の理解度により進度は調整するので、計画が前後したり、一部を追加・省略することもある。

準備学習（予習・復習等）

授業に際し、あらかじめ問題集を自分で解き、疑問点を記録しておくこと。
 また、必要に応じてテキスト、資料等を持参すること。
 1回の授業あたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

「スッキリ わかる日商簿記2級 商業簿記 テキスト+問題集」TAC出版
 「スッキリ わかる日商簿記2級 工業簿記 テキスト+問題集」TAC出版

参考文献

「スッキリとける 日商簿記2級 過去+予想問題」TAC出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:高等学校教諭一種免許状(商業)ほか
 職歴:民間企業で営業職、電算機関係の職種に従事、その後、鹿児島県立高等学校教諭、校長職を歴任

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	コンピュータ応用演習		
担 当 教 員	森永 初代		
関 連 資 格	上級秘書士、上級秘書士（メディカル秘書）、上級情報処理士		
備 考			
ナンバリング	G-B176-1/情報学 [アプリケーション] ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2 (情報活用能力)、区分 3 (協働して学ぶ姿勢)

到達目標

1. 図書館やインターネットを利用して、効率的に情報を検索・収集できる。
2. 用途に応じて、アプリケーションソフトを選択・活用し、適切にデータを整理・加工することができる。
3. 学んだ知識や技術を身近な課題に活用するために、主体的に情報を収集し、工夫・改善する態度を身に付けている。

評価方法

- ・定期試験 [70%]
- ・課題&レポート [30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。
- ・定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

情報活用の基礎知識と技能を基に、実践的な情報検索能力の習得を目指す。また、情報の収集、整理、加工を学び、学んだことを説明するために必要な資料の作成、発表を行う。

回	内容
1	各種資料の作成：文書作成とページレイアウト
2	各種資料の作成：スライドマスターの活用
3	データの整理：写真データの整理
4	データの整理：データの抽出
5	データの整理：データの並べ替え

6	データの整理：データベース関数
7	データの整理：データベース関数の応用
8	データの整理：シート間処理
9	データの整理：データの管理
10	データの加工：写真データの加工
11	データの加工：動画データの加工
12	インターネットを利用した情報収集
13	プレゼンテーションの実施
14	プレゼンテーションの相互評価
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

相互に点検・評価する機会を設ける。(グループワーク)

ICT 活用の概要

・情報や資料の共有に教育支援サイトや Google ドライブを利用する。

履修上の注意事項

・本科目を履修するためには「ビジネス文書演習」及び「コンピュータ基礎演習」を履修していることが必要である。
 ・学習した内容について、他の授業などでどのように活用できるか考えること。

準備学習（予習・復習等）

・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。
 ・事前・事後に学習すべきことについては、授業中に指示する。

テキスト

必要に応じて指定する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	情報処理演習		
担 当 教 員	末永 勝征		
関 連 資 格	上級秘書士、上級秘書士（メディカル秘書）、上級情報処理士		
備 考	15 時間で 1 単位 履修制限 GPA2.5 以上		
ナンバリング	G-B079-1/情報学〔総合〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2(情報活用能力)、区分 4(学んだことを活用する力)

到達目標

1. 情報通信技術の基本的な仕組みを理解した上で、情報を収集し、得られた情報の内容を適切に判断できる。
2. 報告書や手順書を効率的に作成し、その留意点を分かりやすくまとめることができる。
3. 個人で学んだ知識や技術を身近な課題に活用するために、主体的に情報を収集し、工夫・改善する態度を身に付けている。

評価方法

- ・ 定期試験 [70%]
- ・ 課題&レポート [30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 課題については、授業中にフィードバックを行う。
- ・ 定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

インターネットや e-Learning システムなどを活用し、より実践的な学習や実務に近い演習課題を行う。その他、今まで身につけた情報活用能力を更に向上させるために、マルチメディア機器を活用したコンテンツ作成および実践的な演習を行う。

回	内容
1	イントロダクション / ネットワークリテラシー
2	情報化社会のモラルとセキュリティ / インターネットでできること
3	電子メールによるコミュニケーション
4	Web によるコミュニケーション / ネット社会に潜む危険と対策

5	インターネットのしくみ / 電子メールのしくみ
6	モバイル機器の活用と管理 / オンラインツールの活用
7	e-Learning システムとは / デジタル時代の著作権
8	e-Learning を利用した学習 / 様々な文字列操作
9	文書作成のコツ / 実践トレーニング課題:社内文書・社外文書・アウトライン
10	コンテンツ作成のための調査・計画 / 実践トレーニング課題:文書校正・SmartArt の活用
11	データの収集 / 実践トレーニング課題:表組・テンプレート・セッション区切り・はがき
12	データの整理・編集 / 実践トレーニング課題:差し込み印刷・書式の応用
13	データの整理・編集 / 実践トレーニング課題:端数処理・リスト集計
14	データの整理・編集 / 実践トレーニング課題:統合・3-D 参照・財務関数・日付時間計算
15	コンテンツの相互評価 / まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

特定の事例について、教員と意見を交わす機会を設ける。(ディスカッション)
相互に点検・評価する機会を設ける。(グループワーク)

ICT 活用の概要

- ・情報や資料の共有に教育支援サイトや Google ドライブを利用する。

履修上の注意事項

- ・本科目を履修するためには「コンピュータ基礎演習」を履修していることが必要である。
- ・本科目を履修する場合「コンピュータ応用演習」を必ず受講すること。
- ・学習した内容について、他の授業などでどのように活用できるか考えること。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。
- ・事前・事後に学習すべきことについては、授業中に指示する。

テキスト

『情報モラル&情報セキュリティ<改訂 3 版>』2020 年 1 月、FOM 出版
必要に応じて指定する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	ビジネス実務演習		
担 当 教 員	中村 民恵		
関 連 資 格	上級ビジネス実務士		
備 考	15 時間で 1 単位		
ナンバリング	G-F176-1/キャリア教育〔ビジネス〕ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（現代のビジネス社会の理解）、（専門的実務実践力）

到達目標

1. ビジネス実務を行なうために必要な基礎知識と技能を身につけている。
2. 組織における人間行動・人間関係・自身の立場を理解し行動できる。
3. ビジネス活動のあり方を実践的に理解して行動できる。

評価方法

定期試験（60％）＋ 課題・レポート（40％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 課題については、授業中にフィードバックを行う。
- ・ 定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

ビジネス実務の基礎知識を基に、ロールプレイング等の演習を通しビジネスマナーや技能、業務の進め方について学んでいく。

回	内容
1	ビジネスと企業① 企業と組織について
2	ビジネスと企業② ビジネスに必要な資金について
3	ビジネスと企業③ 企業活動と税について
4	ビジネスと企業④ 企業倫理について
5	ビジネスと売買取引について
6	ビジネス活動の基本 仕事における聞く・話す力について 言葉遣い 敬語 聞き取る力

7	ビジネスマナーの基本1 報告・連絡・相談 ビジネスマナーの基本2 指示の受け方、報告の仕方 応対業務 ビジネスマナーの基本3 電話応対 名刺交換
8	ビジネスマナーの基本4 訪問 応接室でのマナー 仕事の進め方 日程計画
9	仕事の進め方 日程計画 仕事の優先順位
10	電子メールの利用
11	情報の収集と活用 仕事と交渉
12	企画とプレゼンテーション
13	ビジネスシミュレーション①社内
14	ビジネスシミュレーション②お客様
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

共通の課題について、解決策を各グループごとにディスカッション後にプレゼンテーションする。

ICT 活用の概要

情報や資料の共有、課題の掲載や提出に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

- ・演習においては積極的に活動することを求める。
- ・学習した内容について、他の授業などでどのように活用できるか考えること。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業1コマあたり計4時間の自主学修が必要である。
- ・新聞のコラム欄をよく読んでおくこと。
- ・事前・事後に学習すべきことについては、授業中に指示する。

テキスト

特になし

参考文献

適宜配布する

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	メディカル秘書学		
担 当 教 員	佐々木 大輔		
関 連 資 格	上級秘書士（メディカル秘書）		
備 考			
ナンバリング	G-F376-1/キャリア教育〔医療秘書〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的実務実践力）

到達目標

- 1 日本の社会保障制度のしくみと特色を理解している。
- 2 医療保険制度とその種類について理解している。
- 3 保険医療と医療機関、診療報酬について理解している。

評価方法

定期試験[80%] 臨時試験[20%]（授業毎の小テスト）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・小テストは授業内で解説を行い返却する。

授業の展開計画

世界最高レベルの日本の医療保険制度のしくみ、医療保険制度の種類や内容について学ぶ。超高齢化社会における医療保障問題を踏まえながら、保険診療のしくみ、診療報酬について理解し、医療現場に携わる際に必要な知識を習得する。

回	内容
1	医療機関の事務職の業務
2	医療保険制度の背景と成り立ち
3	医療関係法規
4	医療保険の種類と内容
5	保険診療の基本
6	保険診療の施設基準等
7	療養担当規則（保険診療の方針と診療録の作成）

8	療養担当規則（保険医療機関の責務）
9	診療報酬請求事務（外来診療）
10	診療報酬請求事務（入院診療）
11	診療報酬請求事務（医学管理）
12	診療報酬請求事務（検査・画像診断・投薬・注射）
13	診療報酬請求事務（リハビリ・処置・手術）
14	診療報酬請求と審査制度
15	総括

アクティブ・ラーニングの概要

小テストは各コマでの重要な点を再度復習し理解を深める。

ICT 活用の概要

- ・ Google form を活用した毎時間の復習小テストの実施と即時採点フィードバック
- ・ 教材・資料・授業スライドの掲載

履修上の注意事項

特になし

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

特になし・必要に応じてプリント配布

参考文献

「医科点数表の解釈」2022 年 4 月 社会保険研究所

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

佐々木 病院事務勤務(医事課、総務課、業務改善室等勤務)

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	経済学		
担 当 教 員	池崎 和弘		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	G-5376-1/経済学－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（現代のビジネス社会の理解）

到達目標

- 1 日本経済をマクロ的にとらえ、景気の変動と国民生活の関係について理解している。
- 2 金融の仕組み、租税の意義や財政の役割を理解し、課題を考察できる。
- 3 日本経済の現状や背景、望ましい解決策の方向性などについて知識を身に付けている。

評価方法

臨時試験（小テスト 30%）＋ 定期試験（70%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは採点して返却し、授業内で解説を行う。

授業の展開計画

経済学の基礎的な考え方（ミクロ経済学・マクロ経済学）を理解しながら、ビジネス社会及び生活経済全般における諸課題を学習する。また行動経済学の視点から、企業や私たちのとるべき行動を考える。

回	内容
1	経済の 3 つの主体と市場メカニズム、労働価値説と効用価値説、需要と供給の法則
2	完全競争市場、独占・寡占市場と情報の非対称性
3	囚人のジレンマとナッシュ均衡、需要の価格弾力性、限界効用逓減の法則
4	収穫逓減の法則、収穫逓増の法則
5	インセンティブ契約理論、サンクコスト（埋没費用）
6	比較優位の原理、合理性と限定合理性、比較制度分析

7	ライフサイクル仮説と恒常所得仮説、名目と実質
8	資産価格の理論、規制緩和、イノベーション
9	経済用語の基礎知識、GDP と経済成長率
10	付加価値と三面等価の原則
11	経常収支の内訳と現状、財政政策と国の借金
12	金融政策と貨幣数量説
13	潜在成長率と格差社会、金融市場のメカニズム
14	民営化・規制緩和の新自由主義
15	日本の金融危機とインターネットの普及

アクティブ・ラーニングの概要

相互に話し合い、評価する機会を設ける。(グループワーク)

ICT 活用の概要

インターネット、パワーポイントを活用した授業展開を行う。

履修上の注意事項

1. 自ら問いかけ、考えていく態度を基本にすること。
2. 自らのキャリア形成に直結する授業であるという認識を、常に持ちつづけること。

準備学習（予習・復習等）

1. 毎回の授業内容を必ず復習して、次回の授業にのぞむこと。
2. 毎回指定される次週分の個所には、必ず目を通し、わからない用語などは事前に調べておくこと。
3. 日々の経済ニュースについて理解しておくこと。
4. 1回の授業あたり、授業の事前・事後に計4時間の学習が必要である。

テキスト

著者：坪井賢一 会社に入る前に知っておきたい「これだけ経済学」 発行所：ダイヤモンド社

参考文献

「ポイントマスター 社会科学」TAC 出版、
「大学4年間の経済学見るだけノート」著者：木暮太一 発行所：株式会社 宝島社

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	インターンシップ		
担 当 教 員	森永 初代		
関 連 資 格			
備 考	学外実習		
ナンバリング	G-FB7F-1/キャリア教育 [インターンシップ] ー不定		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（現代のビジネス社会の理解）、区分 2(情報を共有し判断する力)、区分 3(協働して学ぶ姿勢)

到達目標

1. 就業体験を通して働くことの意義について理解し、説明することができる。
2. 各自の体験を報告書にまとめ、その情報を共有し、活用することができる。
3. インターンシップ参加の心構え、社会常識やマナーを身に付けている。

評価方法

研修ノート、研修レポート、研修報告(プレゼンテーション)、研修先の評価を総合的に判定し単位を認定する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 情報や資料の共有に教育支援サイトや Google ドライブを利用する。

授業の展開計画

- ・ インターンシップに参加することを意識させ、受入研修先についての企業研究を十分に行う。
- ・ 事前研修では、実習の心構え、ビジネスマナー、身だしなみなどについて指導し、目標を達成するための準備を行う。
- ・ 研修中は研修ノートの作成などを行い、研修後の振り返りに役立つように記録する。
- ・ 研修後は、グループディスカッションによる振り返りを行い、学生間で情報共有を行う。
- ・ 研修についての報告（プレゼンテーション）は 1 人 3 分程度でまとめる。
- ・ 研修で学んだことを今後の学生生活でどのように活用するかを考え報告書（レポート）を作成する。

アクティブ・ラーニングの概要

学外実習、事後報告会(プレゼンテーション)

ICT 活用の概要

- ・ 情報や資料の共有に教育支援サイトや Google ドライブを利用する。

履修上の注意事項

学習した内容について、他の授業などでどのように活用できるか考えること。

準備学習（予習・復習等）

事前・事後に学習すべきことについては、別途指示する。

テキスト

必要に応じて指定する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

インターンシップ科目

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	サービス実務実習		
担 当 教 員	中村 民恵		
関 連 資 格			
備 考	1 単位認定する 学外（東京ビジネス研修）		
ナンバリング	G-F17F-1/キャリア教育〔ビジネス〕－不定		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3（協働して学ぶ姿勢）、 区分 4（学んだことを活用する力）

到達目標

1. 研修で習得した情報をまとめ、プレゼンテーション（説明）することができる。
2. 研修先の情報をメンバーで共有し、活用することができる。
3. 課題に気づき、自ら設定した課題に学んできたことを活用することができる。

評価方法

課題・レポート等（50%）＋ 研修記録とプレゼンテーション等（50%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

授業の展開計画

東京での研修先の企業研修等と研修内容をよく理解させ、自主的に活動をできるように内容の展開を図る。
研修の前後にはガイダンス・指導を行う。

回	内容
1	研修の概要・研修の目的について
2	自主研修計画について① 芸術分野を含む研修ルートについて（グループワーク）
3	自主研修計画について② 歴史分野を含む研修ルートについて（グループワーク）
4	自主研修計画について③ 羽田国際空港について（グループワーク）
5	研修の注意事項

6	ビジネス現場研修 1（東京証券取引所）（研修のまとめを含む）
7	ビジネス現場研修 2－1（各企業）（研修のまとめを含む）
8	ビジネス現場研修 2－2（各企業）（研修のまとめを含む）
9	自主研修 1 芸術分野（美術館/博物館）（研修のまとめを含む）
10	ビジネス現場研修 3（テーブルマナー 和食）（研修のまとめを含む）
11	自主研修 2 歴史分野（史跡等）（研修のまとめも含む）
12	ビジネス現場研修 4－1 ディズニーアカデミー 実施
13	ビジネス現場研修 4－2 ディズニーシー視察研修 実施
14	自主研修 3 羽田空港国際線ターミナル見学研修
15	事後指導 研修の報告（プレゼンテーション）

アクティブ・ラーニングの概要

研修をとおして課題を発見し、解決策を発表する時間を設ける。

ICT 活用の概要

情報や資料の共有、課題の掲載や提出に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

研修中に学んだ知識を他の授業などでどのように活用できるかを考えること。

準備学習（予習・復習等）

事前・事後に学習すべきことについては、別途指示する。

テキスト

特になし

参考文献

必要に応じて配布

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	くらしと衣		
担 当 教 員	濱崎 千鶴		
関 連 資 格			
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	G-8076-1/生活学－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（自立した生活者としての教養）

到達目標

- 1.社会生活と衣服にはどのような関係が生じているのかを説明できる。
- 2.衣に関する歴史性や地域性を理解し説明できる。
- 3.衣をとりまく問題点について論じることができる。

評価方法

定期試験（70％）＋ レポート（30％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを付けて返却する。
定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

衣服と上手に付きあうために必要な知識と応用力を身につける。

回	内容
1	衣服のはじまりと変遷
2	民族衣装、スポーツ服
3	日本と西洋の着物
4	繊維の歴史と衣服の素材（天然繊維）
5	繊維の歴史と衣服の素材（化学繊維）
6	衣服の素材 糸・布（織物、編物）

7	衣服の素材 布（革、その他）・性能
8	色彩とファッション
9	衣服の表示（取り扱い絵表示、サイズ）
10	衣服の汚れ、洗剤の種類と働き
11	家庭洗濯、洗濯機
12	洗濯以外の衣服の手入れ
13	クリーニング
14	衣服ロス
15	ユニバーサルデザイン

アクティブ・ラーニングの概要

衣服の素材の確認（実験実習）、衣に関して問題提起し話し合う（ディスカッション）

ICT 活用の概要

レポート課題の掲載に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

サンプルや DVD など必要に応じて利用するので、参考にしながら学習すること。
衣服について興味を持ち生活すること。

準備学習（予習・復習等）

1 コマの授業あたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。事前・事後に取り組むべき内容は、随時指示する。
レポート課題を出すので、毎時学んだことを復習しておくこと。

テキスト

プリント配布

参考文献

随時紹介する

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	生活と薬		
担 当 教 員	木下 力		
関 連 資 格	上級秘書士（メディカル秘書）		
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	G-F376-2/キャリア教育〔医療秘書〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的実務実践力）（自立した生活者としての教養）

到達目標

- 1 病気のとき薬がどのように効くかを理解している。
- 2 薬にはどのような副作用があるかを理解している。
- 3 人類の生活に薬はどのように貢献したか、あるいは害を及ぼしたかを理解している。

評価方法

定期試験[100%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

特になし

授業の展開計画

薬の事を知るには病気の事を理解する必要がある。
主な病気とその症状なども解説しながら講義する。

回	内容
1	薬とは何か、薬による病気の治療
2	薬が作用するしくみ、薬の体内での動き
3	薬物相互作用、薬の効果の個人差
4	薬の有益性と危険性
5	薬と法律、添付文書
6	抗生物質、抗菌薬

7	抗がん薬、免疫治療薬
8	抗アレルギー薬、抗炎症薬
9	末梢神経作用薬
10	中枢神経作用薬
11	心臓・血管系に作用する薬
12	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬
13	ホルモン・ビタミン
14	皮膚科用薬、眼科用薬、救急薬
15	漢方薬、消毒薬、輸液製剤、輸血剤

アクティブ・ラーニングの概要

特になし

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

この科目は座席指定である。必ず指定された座席に着席すること。

準備学習（予習・復習等）

教科書をよく読んで予習をしてくること。
教科書とノートで復習を十分行うこと。
授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。

テキスト

吉岡充弘著『薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3 第 15 版』 2022 年 1 月、医学書院

参考文献

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:薬剤師 職歴:鹿児島大学医学部附属病院薬剤部勤務ほか

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	課題実践研究 I		
担 当 教 員	末永 勝征, 濱崎 千鶴		
関 連 資 格	上級秘書士、上級秘書士（メディカル秘書）、上級情報処理士、上級ビジネス実務士		
備 考			
ナンバリング	G-1A7C-1/課題解決型学修〔ビジネス〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2(情報を共有し判断する力)、区分 3(協働して学ぶ姿勢)、区分 4(学んだことを活用する力)

到達目標

1. 周囲の状況を的確に把握し、何が課題であるかを見つけ出すことができる。
2. 実践活動の場でメンバーとともに課題を明確にし、資料にまとめることができる。
3. 計画的な学びを継続し、演習課題において創意工夫を積み重ねることができる。

評価方法

- ・ 定期試験〔 60% 〕
- ・ 課題&レポート〔 40% 〕

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 課題については、授業中にフィードバックを行う。
- ・ 定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

チーム学修の技法（ブレインストーミング・バスセッション）を習得し、チームで課題に向けた活動を重ねる体験学習プログラム

回	内容
1	課題解決学修の進め方（イントロダクション）
2	課題の明確化
3	課題に関する資料収集①（個人活動）
4	課題に関する資料収集②（グループ活動）
5	収集したデータのまとめ方と考察の仕方について
6	プレゼンテーションの基礎

7	収集したデータのまとめと考察①（個人活動）
8	収集したデータのまとめと考察②（グループ活動）
9	課題解決活動の計画①（グループ活動）
10	課題解決活動の計画②（全体）
11	課題解決活動の実施と結果の共有化①（グループ活動）
12	課題解決活動の実施と結果の共有化②（全体）
13	実施結果の振り返り①（グループ別）
14	実施結果の振り返り②（全体）
15	実施結果の振り返りと報告書作成

アクティブ・ラーニングの概要

- ・課題を明確するためにディスカッションを設ける。
- ・各グループごとのプレゼンテーションを実施する。

ICT 活用の概要

- ・情報や資料の共有に教育支援サイトや Google ドライブを利用する。

履修上の注意事項

日頃から、問題意識をもちながら行動すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。
- ・事前・事後に学習すべきことについては、授業中に指示するが、課題は期日までに仕上げてくること。

テキスト

必要に応じて指定する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	G プロジェクト I		
担 当 教 員	森永 初代, 佐々木 亘, 中村 民恵, 進藤 智子		
関 連 資 格	上級秘書士、上級秘書士（メディカル秘書）、上級情報処理士、上級ビジネス実務士		
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	G-1A76-1/課題解決型学修〔ビジネス〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（情報を共有し判断する力） 区分 3（協働して学ぶ姿勢） 区分 4（学んだことを活用する力）

到達目標

1. 目標実現に向けた実行計画を立てることができる。
2. 全体の目標を正しく理解している。
3. 課題解決の経験を、別の場面での課題設定に生かすことができる。

評価方法

共通レポート【20%】＋プレゼンテーション【20%】＋試験・成果物【60%】

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題については、授業中にフィードバックを行う。

授業の展開計画

指導教員のもとで学生達が大学祭に向けて企画したプロジェクトチームごとの実行計画に基づき、協働して活動する中で問題に気づき、自ら設定した課題に学んできたことを活用することができる。

回	内容
1	大学祭に向けて G プロジェクト入門で企画した各プロジェクトについて発表
2	企画したプロジェクトごとの活動 1（制作活動/スケジュールを立てる）
3	企画したプロジェクトごとの活動 2（制作活動/実行 1）
4	企画したプロジェクトごとの活動 3（制作活動/実行 2）
5	企画したプロジェクトごとの活動 4（制作活動/実行 3）
6	企画したプロジェクトごとの活動 5（制作活動/実行 4）

7	企画したプロジェクトごとの活動 6（制作活動/実行 5）
8	企画したプロジェクトごとの活動 7（制作活動/実行計画の振り返り 1）
9	企画したプロジェクトごとの活動 8（制作活動/実行計画の振り返り 2）
10	企画したプロジェクトごとの活動 9（制作活動/実行計画の見直し 1）
11	企画したプロジェクトごとの活動 10（制作活動/実行計画の見直し 2）
12	企画したプロジェクトごとの活動 11（制作活動/見直した計画の実行 1）
13	企画したプロジェクトごとの活動 12（制作活動/見直した計画の実行 2）
14	企画したプロジェクトごとの活動 13（制作活動/見直した計画の実行 3）
15	企画したプロジェクトごとの活動報告

アクティブ・ラーニングの概要

共同制作（グループワーク）、企画発表（プレゼンテーション）

ICT 活用の概要

教育支援サイトを活用して、提出物に対する評価を行う。

履修上の注意事項

- ・「魅力学」「食の魅力」「衣の魅力」を履修しておく必要がある。
- ・各プロジェクトにおける活動が主となる。

準備学習（予習・復習等）

- ・2 コマ連続で授業を行う。
- ・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。
- ・事前・事後に取り組むべき内容は、適宜指示する。

テキスト

各プロジェクトに応じて、個別的に紹介する。

参考文献

各プロジェクトに応じて、個別的に紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	応用会計学		
担 当 教 員	池崎 和弘		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	G-54A9-1/経営学〔会計〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的実務実践力）

到達目標

- 1 ビジネスパーソンとしての会計の知識習得に基づきビジネスを観られるようになる。
- 2 会計を習得し、企業を分析、状況を読み取り、会社の健全度をチェックすることができる。
- 3 財務諸表を読む力、経営管理する力が身に付き、会社の財務を分析をすることができる。

評価方法

臨時試験（小テスト 30%）＋ 定期試験（70%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは採点して返却し、授業内で解説を行う。

授業の展開計画

日商簿記 2 級模擬問題・過去問題を中心に演習形式で解法を考え、解説し商業簿記・工業簿記全般の理解度を向上させ、実践的な学習を行う。
課題については採点後返却する。

回	内容
1	演習 1 〔商業簿記〕 固定資産の建設、外貨建取引
2	演習 2 〔商業簿記〕 ファイナンス・リース、社内利用目的のソフトウェア
3	演習 3 〔工業簿記〕 本社工場会計
4	演習 4 〔工業簿記〕 パーシャルプランによる標準原価計算
5	演習 5 〔商業簿記〕 準備金の組み入れ、為替予約
6	演習 6 〔商業簿記〕 連結精算表
7	演習 7 〔工業簿記〕 製造間接費の予定配賦、原価差異の計算

8	演習 8 [工業簿記] 組別総合原価計算
9	演習 9 [商業簿記] 売上の計上基準、税効果会計
10	演習 10 [商業簿記] 製造業会計に関する仕訳と貸借対照表
11	演習 11 [工業簿記] 個別原価計算における仕掛品、売上原価勘定記入
12	演習 12 [工業簿記] 工程別原価計算
13	演習 13 [商業簿記] アップストリーム、圧縮記帳、電子記録債権
14	演習 14 [工業簿記] 実際総合原価計算の勘定記入
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間グループ毎に問題を解き、グループワークを行う。
 次回の授業で行うグループワークの問題を提示するので、事前に調べて疑問点等をまとめておくこと。

ICT 活用の概要

インターネット、パワーポイントを活用した授業展開を行う。

履修上の注意事項

会計学ⅠA・会計学ⅡAを履修または全商会計1級・全商原価計算1級を取得または履修していることが望ましい。
 電卓を持参すること。
 履修者の理解度により進度は調整するので、計画が前後したり、一部を追加・省略することもある。

準備学習（予習・復習等）

授業に際し、あらかじめ問題集を自分で解き、疑問点を記録しておくこと。
 また、必要に応じてテキスト、資料等を持参すること。
 1回の授業あたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

TAC出版開発グループ編『スッキリとける 日商簿記2級 過去＋予想問題集』 TAC出版

参考文献

「スッキリ わかる日商簿記2級 商業簿記 テキスト＋問題集」 TAC出版
 「スッキリ わかる日商簿記2級 工業簿記 テキスト＋問題集」 TAC出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:高等学校教諭一種免許状(商業)ほか
 職歴:民間企業で営業職、電算機関係の職種に従事、その後、鹿児島県立高等学校教諭、校長職を歴任

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	情報活用実践		
担 当 教 員	末永 勝征, 上村 尚史		
関 連 資 格	上級情報処理士		
備 考	15 時間で 1 単位		
ナンバリング	G-B0AC-1/情報学〔総合〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2(情報活用能力)、区分 2(情報を共有し判断する力)、区分 4(学んだことを活用する力)

到達目標

1. 環境変化に対応するために、異なる条件下での課題解決策を提案できる。
2. 実践的な課題に対して、協働して創意工夫することができる。
3. 集団で学んだ知識や技術を身近な課題に活用するために、主体的に情報を収集し、工夫・改善する態度を身に付けている。

評価方法

- ・ 定期試験[70%]
- ・ 課題&レポート[30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 課題については、授業中にフィードバックを行う。
- ・ 定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

社会における現状を知る、行動するために、実社会における実データを紹介する。2 年間の学習の中で協働する集団における自分の役割を理解し、限られた条件下での処理、分析、表現方法などの情報活用能力を向上させる。

回	内容
1	イントロダクション / 現状の把握と課題の洗い出し
2	社会における現状分析 / 目的別の情報収集・分析する手段
3	身近な IoT(モノのインターネット)の今後について(集団討議)
4	社会調査の意義と目的 / 集団における課題の明確化
5	統計的調査と事例研究の方法 / 集団における課題の情報共有

6	社会調査のいろいろな方法 量的調査と質的調査
7	官庁統計及び公開データの活用 / マーケティングリサーチとは
8	データの集計応用：ピボットテーブル、クロス集計
9	データの要約化：基本統計量(代表値、散布度)、分析ツールの活用
10	グループ活動：実データを用いた課題設定、資料作成
11	グループ活動：資料の点検・確認
12	グループ活動：資料の修正・改善
13	グループ活動：資料の相互評価
14	グループ活動での個人の役割と意義(発表)
15	振り返りとまとめ

アクティブ・ラーニングの概要

集団討議（グループディスカッション）
 グループ活動（グループワーク）
 発表（プレゼンテーション）

ICT 活用の概要

- ・情報や資料の共有に教育支援サイトや Google ドライブを利用する。

履修上の注意事項

- ・本科目を履修するためには「情報処理演習」を履修していることが必要である。
- ・学習した内容について、他の授業などでどのように活用できるか考えること。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。
- ・事前・事後に学習すべきことについては、授業中に指示する。

テキスト

必要に応じて指定する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	事務管理		
担 当 教 員	中村 民恵		
関 連 資 格	上級秘書士、上級情報処理士、上級ビジネス実務士		
備 考	15 時間で 1 単位		
ナンバリング	G-F1A9-1/キャリア教育〔ビジネス〕ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的実務実践力）区分 2（情報を共有し判断する力）区分 4（学んだことを活用する力）

到達目標

- 1.PDCA サイクルの活用方法を理解し、組織的に実践することができる。
- 2.ビジネス実務における情報共有の重要性や効果的な共有手順を理解し、留意点を説明できる。
- 3.現状と目標、課題をメンバーと共有し、協働して工夫・改善に取り組むことができる。

評価方法

課題（15％）＋ プレゼンテーション（15％）＋ 定期試験（70％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題は評価をつけて返却し、評価のポイントを解説する。

授業の展開計画

まず事務とは何かを明確にし、それをどのように活用していけば良いのかを考える。従来の「読み、書き、計算する」といった事務作業から、企業経営の意思決定に必要な情報を扱う仕事に変化してきていることを解説していく。また、創意工夫して課題解決に取り組む方法を学び、その成果をグループで討議したり発表する学修プログラム。

回	内容
1	事務の定義
2	事務のはたらき
3	事務の内容
4	企業における組織とヒト
5	企業の目的と役割

6	PDCA サイクルで事務を管理する
7	PDCA サイクル事例研究
8	PDCA サイクル実践例発表（個人）
9	事務改善の手順について
10	事務改善の事例研究（グループ討議）
11	事務改善について研究発表（グループ）
12	文書管理
13	社内文書作成
14	社外文書作成
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

PDCA サイクル実践例発表、事務改善研究発表（プレゼンテーション）事務改善事例研究（グループ討議）

ICT 活用の概要

情報や資料の共有、課題の掲載や提出に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

積極的な姿勢で授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）

授業 1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学修が必要である。
 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を調べよく理解しておくこと。
 復習として毎回授業で習ったことを整理し要点をまとめておくこと。実践例と研究発表をプレゼンしてもらうので、事前に考えをまとめておく。

テキスト

必要に応じて適宜配付。

参考文献

室屋洋一編著『情報化時代の事務・文書管理』2011 年 3 月、嵯峨野書院

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	接遇実践		
担 当 教 員	中村 民恵		
関 連 資 格	上級秘書士		
備 考	15 時間で 1 単位 含学内外実習		
ナンバリング	G-F2A9-1/キャリア教育〔秘書実務〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（情報を共有し判断する力）、区分 3（協働して学ぶ姿勢）

到達目標

- 1.上司との会話や所作など、秘書としてセンスのよい動き、コミュニケーション能力を身に付けている。
- 2.総合的演習を通して、メンバーとともに課題を明確にし、成果を出すことができる。
- 3.秘書実務の工夫・改善を組織的に実践できる。

評価方法

定期試験（50％）＋ 課題レポート・学内外実習（50％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。
- ・定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う

授業の展開計画

秘書実務の基本知識・スキルを活用する総合的演習を通して、メンバーとともに課題を明確にし、成果を出すことができるプログラム。

回	内容
1	基礎演習① ケーススタディ 状況対応能力 社内
2	基礎演習② ケーススタディ 状況対応能力 お客様
3	応用演習① ケーススタディ 社内
4	応用演習② ケーススタディ お客様
5	クレーム対応の基本①クレームとは

6	クレーム対応の基本②基本と心構え
7	クレーム対応 応用編 ケーススタディ
8	電話対応 プロに学ぶ（外部講師）
9	お客様対応の心得 プロに学ぶ（外部講師）
10	トップマネジメントと話す（外部講師）
11	学外活動 ボランティア活動（鴨池リレーマラソン等）から学ぶ
12	学外 ホテルで学ぶ マナー講座①西洋料理の歴史
13	学外 ホテルで学ぶ マナー講座②お客様としてのマナー
14	学内活動から学ぶ 秘書業務①上司とのコミュニケーション
15	学内活動から学ぶ 秘書業務②同僚とのコミュニケーション

アクティブ・ラーニングの概要

実習をとおして課題を発見し、解決策を発表する時間を設ける。

ICT 活用の概要

情報や資料の共有、課題の掲載や提出に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

- ・秘書検定 2 級取得に努めること。
- ・学内外活動については積極的に活動に参加しレポートを提出すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業 1 コマあたりに授業の事前・事後に計 4 時間の学修が必要である。
- ・学内実習においては実施マニュアルが作成できるように励むこと。

テキスト

適宜、プリントを配布する。

参考文献

適宜、プリントを配布する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	メディカルコンシェルジュ		
担 当 教 員	本屋 梨紗		
関 連 資 格	上級秘書士（メディカル秘書）		
備 考	外部講師 オムニバス		
ナンバリング	G-F3A9-1/キャリア教育〔医療秘書〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的実務実践力）

到達目標

- 1.メディカルコンシェルジュの役割を理解している。
- 2.メディカルコンシェルジュとして事例をもとに対処策を考え、どのように行動したらよいか理解している。
- 3.医療機関のシステムや倫理的立場を理解した対応について理解している。

評価方法

オムニバス形式の為、各講師が 100 点満点で評価を出し、その平均を単位認定評価点とする。
評価は小テスト・レポート（100%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題については授業内で解説を行う。
小テストは採点して返却するとともに授業内で解説を行う。
レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

医療機関で働く人のためのケアの基本知識や現場情報、実践的演習を中心に展開する。
講師の都合等により土曜日集中講義となる場合がある。

回	内容
1	仕事で一番大事なこと（リッツ・カールトン・ホテルから学んだこと）
2	日本の看護サービスを考える：看護現場の実際と社会のニーズから
3	医療に必要な倫理観：医療倫理の 3 つのルール、個人情報への捉え方他
4	病院における接遇のあり方と事例演習
5	医療の基礎知識：医療法等、よく使う医学用語・略語ほか

6	医療の基礎知識:医療機関の体系とその内容から MC の立場を考える
7	MC 実践演習:道案内の要点、交通事故等の支払いの問い合わせほか
8	MC 実践演習:介護保険制度等、患者様などからの要望への対応ほか
9	病院における清潔と不潔:病室・廊下・器具等から感染予防について考える
10	バイタルサインの基礎知識と脈拍測定と体温測定の実際
11	心肺蘇生法の基礎知識と意識の確認・心臓マッサージ、傷病者の寝かせ方(体位と保温)の実際
12	移動(搬送)方法の留意点と付き添い歩行・車いす操作の実際
13	手当ての基本と実際:色々な傷、やけど、鼻血など
14	公衆衛生活動を知る:生活習慣病対策、介護予防対策
15	公衆衛生活動を知る:認知症患者への接し方(認知症サポーター養成講座)

アクティブ・ラーニングの概要

理解を深めるため随時グループワークを行う。

ICT 活用の概要

教材や情報の共有に教育支援サイトを活用する

履修上の注意事項

入学時に別に定めた科目の授業条件の説明を受けること。
受講時にその条件を満たしていること。

準備学習(予習・復習等)

随時、学習課題を提示する。
専門用語が多く出てくるため、復習を十分に行い理解しておくこと。
演習内容によっては知識確認の試験を行う。(事前に予告する。)
1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

特になし

参考文献

短大図書館 4 階和書 492. 9 の付近に並べてある『基礎看護技術』等の書籍参照
短大図書館 5 階ビデオルームにある「ビデオに学ぶ介護技術の基本 1～9 巻」参照

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:看護師、助産師、保健師 実務経験:総合周産期母子医療センター勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	ソーシャルビジネス		
担 当 教 員	池崎 和弘		
関 連 資 格			
備 考	15 時間で 1 単位		
ナンバリング	G-55A6-1/社会学ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（現代のビジネス社会の理解）

区分 4（社会のために尽くす力、学んだことを活用する力）

到達目標

- 1.社会的な視点で、現代社会における諸問題を考察できる。
- 2.現代社会をとりまく諸問題について論じることができる。
- 3.社会の現実を捉え、自らの視線だけでなく他の人の捉え方を理解できる。

評価方法

レポート提出と内容（30%）、課題に関する報告書（70%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出の評価は毎回点数化し、返却する。

授業の展開計画

現代ビジネスコースの他の科目で学んだ知識を生かし、授業内容について資料や新聞記事、インターネット等を活用して深く考察し、自分の考えを適切に説明する。

回	内容
1	環境 （自然破壊、ヒートアイランド、ゴミ問題、放射能問題、生物多様性、地球温暖化、気候変動、異常気象、CO2 排出）
2	教育 （待機児童、学級崩壊、途上国女子教育、識字率問題、ニート問題、子育て・育児放棄）
3	文化 （文化財保護、スポーツ支援、伝統文化継承、日本文化発信、後継者問題）
4	経済 （所得格差、貧困、途上国支援、ブラック企業問題、密猟、タックスヘイブン、インフラ老朽化、大量生産・大量消費、雇用）

5	倫理 (動物保護、フェアトレード(公正取引)、企業倫理、ブラック企業問題、コンプライアンス、エシカルファッション、安楽死、代理出産、自殺、窃盗被害、腐敗防止、反競争的行為、コンプライアンス)
6	人権 (虐待・暴力、ダイバーシティ、ハラスメント、マイノリティ受容、障がい者雇用、家庭内問題、片親支援、ホームレス支援、LGBT 支援、売春・援助交際、人身売買、先住民保護)
7	労働 (長時間労働、女性活躍推進、過労死、ワークライフバランス、女性リーダー育成、非正規雇用、強制労働・児童労働、ワーキングプア、労働安全衛生)
8	人口 (晩婚化、未婚化、高齢社会、人口増加、人口減少、移民受入れ、事業後継者問題、地域消滅)
9	医療 (介護問題、老老介護、医療格差、早期検査推進、セーフティネット問題、生活習慣病、薬物依存、公衆衛生)
10	地域 (病児保育、NPO 支援、被災地支援、ボランティア活動、公共政策)
11	資源 (電力自由化、レアメタル、資源の枯渇、原子力、自然エネルギー、紛争鉱物、水問題)
12	安全 (防災・減災、個人情報保護、低年齢犯罪、性犯罪、詐欺、自然災害、戦争、ネットセキュリティ)
13	食料 (食の安全、食品廃棄、農業、干ばつ、飢餓、食品偽装、異物混入問題)
14	総合課題①
15	総合課題②

アクティブ・ラーニングの概要

基礎知識を前提としたグループ討議の時間を設ける。

ICT 活用の概要

インターネット、パワーポイントを活用した授業展開を行う。

履修上の注意事項

1. 他の科目で学んだ基礎知識をもとに、様々な情報媒体を活用して考察すること。
2. 課題の提出は、定められた期限内に必ず提出すること。
3. グループ活動の際には、自分の役割を積極的に果たすこと。
4. 参考資料の一部を引用する場合には、引用元を明記すること。

準備学習（予習・復習等）

1. 1回の授業あたり、事前・事後に計4時間の学習が必要である。

テキスト

「ニュース解説室へようこそ」発行所 株式会社 清水書院

参考文献

授業の中で、随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし。

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	キャリアと金融		
担 当 教 員	池崎 和弘		
関 連 資 格			
備 考	証券外務員対策講座 30 時間で 1 単位		
ナンバリング	G-F9A6-1/キャリア教育〔金融〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的実務実践力）

到達目標

- 1 金融、証券業務における専門的な法令・諸規則を習得している。
- 2 証券会社、金融機関が取り扱う商品業務について専門的な知識を習得している。
- 3 証券・金融機関等の業務を遂行するために必要な専門的関連知識を習得している。

評価方法

小テスト（40％） 定期試験（60％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストにおいては採点し、返却及び解説を行います。

授業の展開計画

金融機関等への就職希望者又は内定者を想定して授業を展開する。
金融機関等が社員に求める証券外務員一種試験の内容とする。

回	内容
1	証券市場の基礎知識、金融に関する法律、規則等
2	株式業務、金融に関する法律、規則等
3	債権業務①、金融に関する法律、規則等
4	債権業務②、金融に関する法律、規則等
5	投資信託及び投資法人に関する業務、金融に関する法律、規則等
6	付随業務、セールス業務、金融に関する法律、規則等

7	株式会社法概論、金融に関する法律、規則等
8	経済・金融・財政の常識、金融に関する法律、規則等
9	財務諸表と企業分析①、金融に関する法律、規則等
10	財務諸表と企業分析②、金融に関する法律、規則等
11	証券税制、金融に関する法律、規則等
12	信用取引、金融に関する法律、規則等
13	デリバティブ取引の概説①、金融に関する法律、規則等
14	デリバティブ取引の概説②、金融に関する法律、規則等
15	デリバティブ取引の商品など、金融に関する法律、規則等

アクティブ・ラーニングの概要

基礎知識を前提とした演習の時間を設ける。

ICT 活用の概要

インターネット、パワーポイントを活用した授業を展開する。

履修上の注意事項

この科目の履修は、金融機関等に就職志望者又は内定者が望ましい。
履修者の理解度により進度を調節するので、計画が前後したり、一部を追加・省略することもある。

準備学習（予習・復習等）

授業に際し、予習をしておくこと。
1回の授業あたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

「証券外務員一種 学習テキスト」 ビジネス教育出版社
「証券外務員一種 対策問題集」 ビジネス教育出版社

参考文献

必要に応じて、随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	いのちと食		
担 当 教 員	榊 順子		
関 連 資 格			
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	G-80A6-1/生活学－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（自立した生活者としての教養）

到達目標

- 1 社会生活と食物はどのような関係が生じているのかを説明できる。
- 2 食に関する歴史性や地域性を理解し説明できる。
- 3 食をとりまく問題点について自分なりに論じることができる。

評価方法

定期試験 60%、 臨時試験（レポート） 40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

食料自給率の低い日本では、なぜか食べ物が無駄に消費されているが、世界では飢餓に苦しむ人々が非常に多い。世界および日本の食糧事情、歴史や現状を知り、大切な動植物のいのちを消費する意味、そして心身ともに健康維持ができる食事等について考え、グループ討議や発表を通して現代を生き抜く力を身に付ける。

回	内容
1	最近の食に関する話題（食の視点から見た SDGs）
2	いただきますの言葉の意味
3	尊い”いのち”の誕生
4	商品化された”いのち”の食べ方
5	世界の飢餓問題

6	日本の食糧事情
7	資本化される水
8	家庭における食の問題
9	食教育の必要性
10	食べ物と生活習慣病の関わり
11	食事バランスガイドの活用
12	食べ物と栄養
13	身体活動レベルから自分に必要なエネルギーを計算する・献立作成
14	テーマごとのグループ発表
15	まとめと評価

アクティブ・ラーニングの概要

必要に応じてグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行う。

ICT 活用の概要

教材・資料・授業スライドの掲載

履修上の注意事項

日頃から「食」に関心を持ち情報収集に努めること。

準備学習（予習・復習等）

次回の授業で行うディスカッションのテーマを提示するので、事前に調べて自分の意見をまとめておくこと。

グループごとに指定されたテーマについて調べ、プレゼンテーション資料を作成すること。

1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

各週の内容に沿ったプリントを配布する。

参考文献

適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:管理栄養士、栄養教諭一種免許状 職歴:鹿児島県小・中学校・学校給食センター所属栄養教諭として勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	課題実践研究Ⅱ		
担 当 教 員	森永 初代, 末永 勝征, 中村 民恵		
関 連 資 格	上級秘書士、上級秘書士（メディカル秘書）、上級情報処理士、上級ビジネス実務士		
備 考			
ナンバリング	G-1AAC-1/課題解決型学修〔ビジネス〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（情報を共有し判断する力）、区分 3（協働して学ぶ姿勢）、区分 4（学んだことを活用する力）

到達目標

1. 周囲の状況を的確に判断し、今後の展望を示すことができる。
2. G プロジェクトでの活動などをおして、チームとしての力を発揮することができる。
3. 協働で課題解決する活動を通じて、自分の能力の課題に気づき、能力を高める行動をとることができる。

評価方法

各報告書・レポート（60%）＋プレゼンテーション（40%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題については、授業中にフィードバックを行う。

授業の展開計画

チーム学修の技法（ブレインストーミング・バスセッション）を習得し、チームで課題に向けた活動を重ねる体験学習プログラム

回	内容
1	G プロジェクトに向けて（役割の明確化）
2	情報共有（各部門ごと）
3	情報共有（G プロジェクト全体）
4	実践活動（G プロジェクト）①各グループ活動における問題についてのディスカッション
5	実践活動（G プロジェクト）②問題解決につながる自らの考え行動についてまとめる

6	実践活動（Gプロジェクト）③問題解決の検証（変化）改善策を探る
7	実践活動をととしての問題点と今後の課題について部門ごとのプレゼンテーション
8	実践活動をととしての問題点と今後の課題について全体に向けてのプレゼンテーション
9	Gプロジェクトをととして自己分析① レポートの形式（目的、方法、結果、考察）について説明
10	自己分析のレポート作成①目的 各自が自分の悩み、改善したい癖や習慣、向上させたい能力や行動
11	自己分析のレポート作成②改善方法
12	自己分析のレポート作成③改善した結果と考察
13	各自の成果報告①Aクラス（プレゼンテーション）
14	各自の成果報告②Bクラス（プレゼンテーション）
15	各自の成果報告③報告書の作成・まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

- ・課題を明確するためにディスカッションを設ける。
- ・各グループごとのプレゼンテーションを実施する。

ICT 活用の概要

情報や資料の共有、課題の掲載や提出に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

日頃から、問題意識をもちながら行動すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業1コマあたりに1時間の自主学修が必要である。
- ・事前・事後に学習すべきことについては、授業中に指示するが、出された課題は期日まで に仕上げてくること。

テキスト

特になし

参考文献

適宜プリントを配布

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	G プロジェクトⅡ		
担 当 教 員	森永 初代, 佐々木 亘, 中村 民恵, 進藤 智子		
関 連 資 格	上級秘書士、上級秘書士（メディカル秘書）、上級情報処理士、上級ビジネス実務士		
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	G-1AA9-1/課題解決型学修〔ビジネス〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（情報を共有し判断する力） 区分 3（協働して学ぶ姿勢） 区分 4（学んだことを活用する力）

到達目標

1. 目標実現に向けた計画を実行し、見直すことができる。
2. 集団での活動に対する自分の役割を見いだし、果たそうとしている。
3. 身につけた知識や経験を踏まえて、特定のテーマについて論じることができる。

評価方法

・共通レポート【20%】＋プレゼンテーション【20%】＋試験・成果物【60%】

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題については、授業中にフィードバックを行う。

授業の展開計画

指導教員のもとで学生達が大学祭に向けて企画したプロジェクトチームごとの実行計画に基づき、集団での活動に対する自分の役割を見いだし、果たすことができる演習

回	内容
1	大学祭における役割分担とスケジュール
2	企画したプロジェクトごとの活動 1（実践活動 1）
3	企画したプロジェクトごとの活動 2（実践活動 2）
4	企画したプロジェクトごとの活動 3（実践活動 3）
5	企画したプロジェクトごとの活動 4（実践活動 4）
6	企画したプロジェクトごとの活動 5（実践活動 5）

7	企画したプロジェクトごとの活動 6（実践活動 6）
8	企画したプロジェクトごとの活動のまとめ 1（実践活動の振り返り 1）
9	企画したプロジェクトごとの活動のまとめ 2（実践活動の振り返り 2）
10	企画したプロジェクトについて全体で振り返る
11	企画したプロジェクトについて全体で活用する 1（修得した技術を伝える）
12	企画したプロジェクトについて全体で活用する 2（修得した技術を伝える）
13	企画したプロジェクトについて全体で活用する 3（修得した技術を伝える）
14	各プロジェクト活動に関連したテーマについて個人発表する 1
15	各プロジェクト活動に関連したテーマについて個人発表する 2

アクティブ・ラーニングの概要

共同制作（グループワーク）、企画発表（プレゼンテーション）

ICT 活用の概要

教育支援サイトを活用して、提出物に対する評価を行う。

履修上の注意事項

- ・ G プロジェクト 1 を履修しておく必要がある。
- ・ 各プロジェクトにおける活動が主となる。

準備学習（予習・復習等）

- ・ 2 コマ連続で授業を行う。
- ・ 授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。
- ・ 事前・事後に取り組むべき内容は、適宜指示する。

テキスト

各プロジェクトに応じて、個別的に紹介する。

参考文献

各プロジェクトに応じて、個別的に紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	地域貢献プロジェクト		
担 当 教 員	森永 初代		
関 連 資 格			
備 考	1 単位認定する 学内外実習		
ナンバリング	G-18AF-1/課題解決型学修〔郷土〕－不定		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（情報を共有し判断する力）、区分 3（協働して学ぶ姿勢）、区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1.相手の意見を正確に聴き、自分の意見を適切に表現することができる。
- 2.他者との関わりの中で、協働する姿勢を身に付けている。
- 3.地域活動への参加をとおり、その経験を別の課題設定にいかすことができる。

評価方法

活動記録、活動報告書と取組成果およびプレゼンテーションを総合的に判断し単位を認定する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・活動記録や活動報告書、商品開発の議事録については、必要に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

- ・学内外の地域活動への参加は、1 年次から実施する。
- ・学内外での地域活動に参加することを意識させ、活動に対する理解を深めるための事前準備を行う。
- ・事前研修では、地域活動の心構え、ビジネスマナー、身だしなみなどについて指導を行う。
- ・学外での活動については、活動記録を作成し、活動後の振り返りや学生間での情報共有に役立つように記録する。
- ・学外での活動においては、活動ごとに代表者が活動報告書を作成し、商品開発では、代表者が議事録の作成を行う。
- ・1 年間の活動についての報告（プレゼンテーション）は 1 人 3 分程度でまとめ発表を行う。

アクティブ・ラーニングの概要

学外ボランティア

ICT 活用の概要

- ・ 情報や資料の共有に教育支援サイトや Google ドライブを利用する。

履修上の注意事項

スケジュール管理に十分注意すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・ 過去の活動の記録を参照し、活動内容について事前に調べる。
- ・ 事後においては、各個人が作成した活動記録を参照し、活動毎に活動記録をまとめた報告書を代表者が作成する。

テキスト

必要に応じて指定する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

学外ボランティア科目

令和4年度入学生 デザイン表現コース専門教育科目

開講期		科目名
令和5年	前期	ビジュアルデザインⅡ
		アニメーション
		リテールグラフィック
		映像デザインⅡ
		WebデザインⅡ
		造形表現Ⅱ
		かごしまの芸術
		インテリアデザインⅠ
		イベントプランニングⅠ
		ドレスメーカーⅡ
		テキスタイル材料・管理学
		大島紬研究Ⅰ
		秘書実務Ⅱ
		情報デザイン
		ファッションビジネス
	後期	ビジュアルデザインⅢ
		WebデザインⅢ
		メディア表現実践
		造形表現Ⅲ
		食のデザイン
		インテリアデザインⅡ
		イベントプランニングⅡ
		ドレスメーカーⅢ
		ファッションモード実習
		大島紬研究Ⅱ
		事務管理

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	必	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	ビジュアルデザインⅡ		
担 当 教 員	五十嵐 ゆか		
関 連 資 格			
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	D-3D76-1/デザイン [ビジュアル] ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）、区分 2（気付き受け取る力）、区分 4（豊かさを創造する力）

到達目標

- 1 ビジュアルデザインに関する専門的な表現技術を修得している。
- 2 これまでに学んだ技術や知識を制作物に活用することができる。
- 3 相手の制作意図を踏まえて、効果的なアドバイスをすることができる。

評価方法

作品評価 [70%]、プレゼンテーション [30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・制作過程では、授業中にコメントする。
- ・成果物については、それぞれ講評会でフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、実践を通してビジュアルデザインに関する専門的な知識と専門的な技法を学ぶ。また、作品制作と並行してデザインによる課題解決に取り組む。

回	内容
1	課題 1（T シャツデザイン）／課題説明、アイデア
2	課題 1（T シャツデザイン）／制作、仕上げ
3	課題 1（T シャツデザイン）／プレゼンテーション、講評会、ブラッシュアップ、完成
4	課題 2（マニュアルデザイン）／課題説明、アイデア
5	課題 2（マニュアルデザイン）／原稿制作、素材準備
6	課題 2（マニュアルデザイン）／制作、仕上げ

7	課題 2 (マニュアルデザイン) /プレゼンテーション、講評会、ブラッシュアップ、完成
8	課題 3 (立体デザイン) /課題説明、アイデア、展開図制作
9	課題 3 (立体デザイン) /制作
10	課題 3 (立体デザイン) /プレゼンテーション、講評会
11	課題 4 (ブランディング) /課題説明、アイデア
12	課題 4 (ブランディング) /ロゴマーク制作
13	課題 4 (ブランディング) /グラフィックツール制作
14	課題 4 (ブランディング) /仕上げ
15	課題 4 (ブランディング) /プレゼンテーション、講評会、ブラッシュアップ、完成

アクティブ・ラーニングの概要

- ・作品制作（実習）および講評会（プレゼンテーション&ディスカッション）を行う。

ICT 活用の概要

- ・個人所有のコンピュータ（Mac）で作品制作や情報共有を行う。
- ・情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

- ・ Adobe Creative Cloud（コンプリートプラン）がインストールされたコンピュータ（Mac）を持参すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・2 コマ連続で授業を行う。授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。事前・事後に取り組むべき内容は、適宜指示する。

テキスト

特になし

参考文献

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	アニメーション		
担 当 教 員	河村 明		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	D-3D76-2/デザイン [ビジュアル] ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）

到達目標

1. Adobe Animate の基本操作を身に付け、アニメーションコンテンツを作成できる。
2. Adobe AfterEffects を活用して魅力的なアニメーションコンテンツを表現できる。
3. アニメーションコンテンツの制作過程を理解し、実践できる。

評価方法

- ・プレゼンテーション [30%]
- ・作品評価 [70%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・制作過程では、授業中にコメントする。
- ・作品については、それぞれ講評会でフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、「イラストレーション」で修得した知識と技術に加えて、Adobe AfterEffects を用いたアニメーション表現の技術を身に付ける演習を行う

回	内容
1	アニメーション制作の流れ／ AE のインターフェイスと基本設定
2	プロジェクトの作成と保存／ フッテージの読み込みと配置
3	映像のプレビュー・調整・書き出し
4	プリセット・エフェクトの適用
5	テキストアニメーションの作成
6	タイムリマップの活用

7	カメラワークの活用
8	光の表現・演出
9	総合演習：構成／シナリオ 作成
10	総合演習：絵コンテ／レイアウト作成
11	総合演習：原画作成
12	総合演習：動画作成
13	総合演習：調整・レンダリング
14	総合演習：講評会
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

- ・作品制作および講評会（プレゼンテーション&ディスカッション）を行う。

ICT 活用の概要

- ・個人所有のコンピュータ（Mac）で作品制作や情報共有を行う。
- ・情報や資料の共有に教育支援サイトや Google Workspace for Education を利用する。

履修上の注意事項

- ・本科目を履修するためには「イラストレーション」を履修していることが必要である。
- ・Adobe Creative Cloud（コンプリートプラン）がインストールされたコンピュータ（Mac）を持参すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。
- ・所定の課題を終えるよう取り組むこと。
- ・講評会でお互いの作品について議論する機会を設けるので、プレゼンテーションの内容を事前に考えてまとめておくこと。

テキスト

- ・必要に応じて資料を提供する。

参考文献

- ・大平幸輝 著 『AfterEffects for アニメーション BEGINNER [CC 対応 改訂版]』 2015 年 10 月 ビー・エヌ・エヌ新社
- ・神村幸子 著 『アニメーションの基礎知識大百科 増補改訂版』 2020 年 3 月 グラフィック社

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

--

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	リテールグラフィック		
担 当 教 員	五十嵐 ゆか		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	D-3D79-1/デザイン [ビジュアル] ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）

到達目標

- 1 ソフトウェアやツールの特性を理解して、訴求力の高い表現に活用できる。
- 2 イベントや空間のコンセプトをふまえたフライヤーや POP をデザインし、作成できる。
- 3 商品の魅力を効果的に伝えるパッケージをデザインし、作成できる。

評価方法

プレゼンテーション [30%]、作品評価 [70%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・制作過程では、授業中にコメントする。
- ・課題については、それぞれ講評会でフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、フライヤーや POP 作成、パッケージデザインなどの演習を通して、限られたスペースに必要な情報を適切に配置し、印象的に表現する技術を身に付けるための演習を行う。

回	内容
1	課題①（商品パッケージ）／課題説明
2	アイデア・チェック
3	商品サンプル作成
4	商品サンプル作成、完成
5	箱の展開図、素材・原稿作成
6	レイアウトデザイン

7	制作、仕上げ
8	プレゼンテーション、講評会
9	ブラッシュアップ、完成
10	課題②商品のフライヤーと POP／課題説明
11	アイデア、ラフスケッチ・チェック
12	素材・原稿作成
13	レイアウト、仕上げ
14	プレゼンテーション、講評会
15	すべてのブラッシュアップ、完成

アクティブ・ラーニングの概要

- ・作品制作（実習）および講評会（プレゼンテーション&ディスカッション）を行う。

ICT 活用の概要

- ・個人所有のコンピュータ（Mac）で作品制作や情報共有を行う。
- ・情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

- ・本科目を履修する場合「DTP デザイン」を履修していることが必要である。
- ・Adobe Creative Cloud（コンプリートプラン）がインストールされたコンピュータ（Mac）を持参すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。事前・事後に取り組むべき内容は、適宜指示する。

テキスト

特になし

参考文献

- ・『欲しくなるパッケージのデザインとブランディング』 2019 年 12 月 パイ・インターナショナル
- ・日経デザイン 『パッケージデザインの教科書 第 3 版』 2017 年 6 月 日経 BP

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

グラフィックデザイナー、デザイン会社経営

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	映像デザインⅡ		
担 当 教 員	河村 明		
関 連 資 格			
備 考	大島紬研究Ⅰと同時開講 30 時間で 1 単位		
ナンバリング	D-3D79-2/デザイン〔ビジュアル〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術） 区分 2（考えて伝える力） 区分 2（実務能力）

到達目標

- 1 複数のアプリケーションを効果的に活用し、長編の映像コンテンツを作成できる。
- 2 作品のコンセプトを資料にまとめ、映像で表現できる。
- 3 映像コンテンツの制作過程や役割分担を理解し、実践できる。

評価方法

作品評価[70%]、課題・レポート[30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・課題レポートについては、授業中にコメントする。
- ・作品評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、前 3 分の 2 を **Premiere Pro** や **After Effects** を使い **CM** や **アニメーション** 等を製作し、後 3 分の 1 で、マルチカメラを使った撮影や、ディレクション、中級レベルの撮影技術などを学習する。

回	内容
1	講義内容ガイダンス
2	Adobe Premiere Pro エフェクト（スタビライザー、レンズフレア）を使いこなす
3	Adobe Premiere Pro マルチカム編集
4	Adobe Premiere Pro カラーグレーディングを学習する
5	After Effects インフォグラフィックス、ヌルオブジェクト
6	After Effects インフォグラフィックス、イーजीーズ、エクスプレッション

7	After Effects アニメーション、タイムシートを読みこなす
8	After Effects アニメーション、フラクタルノイズ、3D レイヤー
9	After Effects 15 秒 CM を製作する（絵コンテ、素材の製作、収集）
10	After Effects 15 秒 CM を製作する（絵コンテに沿って製作、レンダリングする）
11	撮影のディレクションについて学習する
12	複数台のカメラを使ったマルチアングル撮影について学ぶ
13	ND フィルタを使い、最適なシャッタースピードに近づける
14	ジンバルを効果的に使いこなす
15	動画作品発表会（各自が製作した動画を評価する）

アクティブ・ラーニングの概要

- ・動画に対する造詣を深めるため、学生それぞれが撮影した作品を評価したり、YouTube チャンネルにアップする機会を設ける。

ICT 活用の概要

- ・個人所有のコンピュータ（Mac）で演習を行う。

履修上の注意事項

- ・精密機器を使用するため、機材の取扱には十分気をつける。

準備学習（予習・復習等）

- ・2 コマ連続で授業を行う。授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。
- ・事前・事後に取り組むべき内容は適宜指示する。

テキスト

After effects Animation PDF テキスト

参考文献

特になし。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

フォトグラファー、デジタルクリエイター、写真事務所経営

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	Web デザインⅡ		
担 当 教 員	足達 直樹		
関 連 資 格	上級情報処理士		
備 考	ファッションビジネスと同時開講		
ナンバリング	D-3D76-3/デザイン [ビジュアル] ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）、区分 2（実務能力）

到達目標

1. Adobe XD の基本操作を身に付け、Web サイトの見た目(UI)と動き(UX)をデザインできる。
2. 情報の優先度や役割を考慮したページレイアウトや導線設計ができる。
3. Web サイトの制作過程を理解し、役割分担や現場のマナー・ルールを説明できる。

評価方法

- ・プレゼンテーション [30%]
- ・作品評価 [70%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・制作過程では、授業中にコメントする。
- ・成果物については、それぞれ講評会でフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、Adobe XD & Photoshop & Illustrator を活用し、Web コンテンツの企画からデザインカンプ作成までを実践し、Web での表現技術を身に付けるための演習を行う。

回	内容
1	Web 制作の現場と AdobeXD・コンセプト・ターゲット・調査/分析・サイトマップ・制作方法・adobeXD の特徴
2	コンセプト共有・AdobeXD の基本操作、画面構成
3	ディレクターの仕事内容・AdobeXD の使い方（基本操作）ワイヤーフレーム作成（ヘッダー、フッター、トップページ）
4	ディレクター視点で使う・AdobeXD の使い方（基本操作）ワイヤーフレーム作成（サブページ、PC 画面、スマホ画面、プロトタイプ、共有）
5	デザイナー視点で使う・AdobeXD の使い方（応用）デザイン作成（商品一覧、詳細、お問い合わせ）

6	デザイナー視点で使う・Adobe XD の使い方（応用）デザイン作成（プロトタイプ作成）
7	デザイナー視点で使う・Adobe XD の使い方（応用）デザイン作成（その他応用）
8	エンジニア視点で使う・Adobe XD の使い方（応用）adobeXD でデザイン作成（仕様、素材の書き出し、コーディングの前に）
9	グループ制作（コンセプト、ターゲット設定、調査、分析、機能、サイトマップ）
10	制作（XD の共有機能を使って、資料を共同作成、ワイヤーフレーム作成）
11	制作（XD の共有機能を使って、資料を共同作成、デザイン作成）
12	制作（XD の共有機能を使って、資料を共同作成、プロトタイプ作成）
13	制作・プレゼンテーション資料作成（クライアントに提案する資料作成）
14	プレゼンテーション発表練習
15	グループ発表準備・発表

アクティブ・ラーニングの概要

- ・講評会（プレゼンテーション&ディスカッション）を行う。

ICT 活用の概要

- ・個人所有のコンピュータ（Mac）で演習を行う。
- ・情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。
- ・公式のチュートリアル他、参考となるサイトを適宜紹介する。

履修上の注意事項

- ・本科目を履修する場合「Web デザイン I」を履修していることが必要である。
- ・Adobe Creative Cloud（コンプリートプラン）がインストールされたコンピュータ（Mac）を持参すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。
- ・興味を持って情報を収集・整理し、積極的に共有すること。
- ・操作方法等は、その都度振り返り、着実に修得すること。

テキスト

・相原典佳、沖良矢、濱野将 著 『初心者からちゃんとしたプロになる Adobe XD 基礎入門』
2021 年 10 月、エムディエヌコーポレーション

参考文献

- ・西澤明洋 著『ブランディングデザインの教科書』 2020 年 12 月、パイインターナショナル

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

Web クリエーター

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	必	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	造形表現Ⅱ		
担 当 教 員	高田 さとこ, 濱崎 千鶴		
関 連 資 格			
備 考	陶芸・キルト 30 時間で 1 単位		
ナンバリング	D-3C76-1/デザイン〔工芸〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）、区分 2（考えて伝える力）、 区分 4（豊かさを創造する力）

到達目標

- 1.より専門的な技法を修得し、独創的な作品制作に挑戦することができる。
- 2.主題に沿った表現方法を徹底して追及し、創造的な表現の構想を練ることができる。
- 3.これまでに学んだ知識や技術を応用してデザインに活用できる。

評価方法

作品評価 60%、プレゼンテーション・ポートフォリオ 40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・制作過程では、授業中にコメントする。
- ・作品評価については、プレゼンテーションの際にフィードバックを行う。

授業の展開計画

〔陶芸〕造形表現Ⅰに引き続き、作品を焼き上げる。また、サムホールサイズの作品を制作する。
〔キルト〕造形表現Ⅰに引き続き、作品を制作する。また、サムホールサイズの作品を制作する。

回	内容
1	陶芸：輪積み成形の素焼き 素焼きの窯詰め キルト：キルティング 中間部分
2	陶芸：輪積み成形の素焼き 炙り キルト：キルティング 外側部分
3	陶芸：輪積み成形の施釉 施釉の方法 キルト：縁の始末
4	陶芸：輪積み成形の施釉 コンプレッサーの掛け方 キルト：仕上げ

5	陶芸：輪積み成形の施釉 支柱の組み方 キルト：サムホールサイズのデザイン
6	陶芸：輪積み成形の本焼き 棚板の組み方と温度の設定 キルト：型紙作成
7	陶芸：輪積み成形の本焼き 窯詰めと本焼き キルト：裁断
8	陶芸：タタラ成形の制作 陶板のデザイン キルト：パッチワーク、アップリケ、刺繍
9	陶芸：タタラ成形の制作 土を板状にスライス キルト：トップの仕上げ
10	陶芸：タタラ成形の制作 陶板の成形 キルト：キルティング 準備、中心部分
11	陶芸：タタラ成形の制作 陶板の加飾 キルト：キルティング 外側部分
12	陶芸：タタラ成形の制作 陶板の素焼き キルト：縁の始末・仕上げ
13	陶芸：タタラ成形の制作 陶板の施釉 キルト：自主制作 デザイン
14	陶芸：タタラ成形の制作 陶板の本焼き キルト：自主制作 型紙
15	プレゼンテーション・講評会・ポートフォリオ

アクティブ・ラーニングの概要

作品制作（実習）、講評会（プレゼンテーション&ディスカッション）

ICT 活用の概要

情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

本科目を履修するためには、原則として「造形表現Ⅰ」を履修していることが必要である。
陶芸とキルトから1つを選択し履修すること。
希望者は公募展に出品することができる。
陶芸選択者は、作品の制作過程と完成作の写真を撮り、制作過程と技法・題名・釉薬名・サイズ・作品解説を入れたポートフォリオ（作品集）を作成し、最終回に提出すること。
陶芸選択者は、成形と窯詰めや焼成などで授業外の時間も必要となる場合があるので事前に確認し、次回使う陶土の荒練りと菊練りを授業開始までに必ず済ませておくこと。
陶芸選択者は、アイデアスケッチを授業開始までに必ずスケッチブックに描いてくること。
陶芸選択者は、成形法と窯詰めや素焼きのあぶりや本焼きなどの焼成法を確実に覚えること。

準備学習（予習・復習等）

2コマ連続で授業を行う。授業1コマあたり、事前・事後に計1時間の学修が必要である。
制作のスケジュールを確認し、自主的に制作し作品を完成させ、課題の作品を提出すること。
講評会でお互いの作品について議論する機会を設けるので、プレゼンテーションの内容を事前に考えてまとめておくこと。

テキスト

特になし

参考文献

〔陶芸〕鈴木昌子編 『基礎からわかる はじめての陶芸』2009年10月、学研パブリッシング
〔キルト〕随時紹介する

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	かごしまの芸術		
担 当 教 員	高田 さとこ, 西田 一豊		
関 連 資 格			
備 考	学外演習を含む		
ナンバリング	D-D176-1/地域研究〔郷土〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（気づき受け取る力）、区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1.美術・工芸・文学作品の内面を深く探り、鑑賞する力を身に付けている。
- 2.郷土にゆかりのある作家の日本の近代美術史・文学史における足跡や業績を説明することができる。
- 3.学外研修での体験に基づいて、郷土の芸術の「今」を自由に論じることができる。

評価方法

期末レポート・課題 50%、見学レポート 25%、プレゼンテーション 25%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・課題(見学レポート等)は、授業中にフィードバックを行う。
- ・期末レポートの評価については、履修者の要請に応じて フィードバックを行う。

授業の展開計画

鹿児島県の美術・工芸品を DVD や美術館・鹿児島ブランドショップなどで鑑賞し、郷土出身の洋画家やゆかりのある文学者の日本の近代美術史・文学史における足跡を辿り、学外研修の体験を基に、現代の鹿児島の作家達の心の在り方を目で読み取る。また、グループ別にテーマを決めて、調査研究したことをプレゼンテーションする。

回	内容
1	鹿児島の日本画・洋画・彫刻・工芸・特産品／グループ分け
2	鹿児島にゆかりの文学者・鹿児島を舞台にした作品－海音寺潮五郎、林芙美子、椋鳩十、梅崎春生、島尾敏雄、向田邦子
3	かごしま近代文学館－郷土にゆかりのある文学作品の鑑賞（フィールドワーク）
4	かごしまメルヘン館－ミニアスレチック・トリックアートで童話や絵本の世界を体感（フィールドワーク）
5	鹿児島の近代洋画史における郷土出身の作家と薩摩焼－黒田清輝・和田英作・有島生馬／白薩摩・黒薩摩
6	長島美術館－郷土出身作家の洋画鑑賞（フィールドワーク）

7	長島美術館 - 白薩摩・黒薩摩の鑑賞（フィールドワーク）
8	鹿児島県産業会館 - 鹿児島県特産品協会での薩摩焼・工芸品などの講話（フィールドワーク）
9	鹿児島県産業会館 - 鹿児島ブランドショップでの薩摩焼・工芸品などの鑑賞（フィールドワーク）
10	南日本女流美術展 - 鹿児島の女流作家の日本画・洋画鑑賞（フィールドワーク）
11	南日本女流美術展 - 鹿児島の女流作家の工芸美術鑑賞（フィールドワーク）
12	デパートの工芸品 - 薩摩焼・薩摩切子・琉球漆器鑑賞（フィールドワーク）
13	薩摩料理の器鑑賞（フィールドワーク）
14	フィールドワークのまとめ
15	グループ別プレゼンテーション

アクティブ・ラーニングの概要

学外研修（フィールドワーク）、事後報告会（プレゼンテーション）

ICT 活用の概要

個人所有のコンピュータ（Mac）で資料作成や情報共有を行う。
情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

学外研修は 2 コマ続きの授業となり、開催時期により実施日の変更もあり得るので、必ず事前に確認すること。
美術館などでの見学時は、コインロッカーに手荷物を預けて見学すること。
美術作品、工芸品、文学作品を見学する時は、作品保護のため必ず鉛筆を持参してメモを取ること。学外研修後は、毎回見学レポートを提出すること。
郷土の美術・工芸・文学作品について図書館の本を利用し、理解を深めること。

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。
次回の授業内容を確認し、図書館等で事前に必要なことを調べておくこと。
郷土の美術・工芸・文学作品について学んだことをノートにまとめること。
郷土の美術・工芸・文学作品についてグループでテーマを決め、協力して調査研究すること。
事後報告会でお互いの調査研究したテーマについて提案する機会を設けるので、プレゼンテーションの内容を事前に考えてまとめておくこと。

テキスト

特になし

参考文献

飯田正毅著『かごしま文庫② 薩摩の伝統工芸』平成 7 年 9 月、春苑堂出版
蟹江松雄、藤本滋生、水元弘二著『かごしま文庫 67 薩摩の伝統製法食品』平成 13 年 3 月、春苑堂出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	インテリアデザイン I		
担 当 教 員	奥ノ菌 浩二, 内田 隆之		
関 連 資 格			
備 考	ユニバーサルデザインを含む 30 時間で 1 単位		
ナンバリング	D-3F73-1/デザイン〔空間〕－初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（美しく生きる力） 区分 2（気付き受け取る力）

到達目標

- 1 インテリアプランニングおよびデザインの概念、構成要素、カラー、表現方法の基本を理解している。
- 2 人を中心とした、人に心地よい環境づくりがインテリア計画の基本であることを理解している。
- 3 学んだことをもとに、空間や素材をよく観察することができ、その結果をまとめることができる。

評価方法

自身で選択した用途店舗のインテリアに関するレポート提出 100%
観点は以下の 2 点とする。
・空間や素材をよく観察したか
・レポートの構成と表現

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

この授業では、インテリアプランニング、デザインの基礎について造形を深めるための講義・演習を行う。

回	内容
1	オリエンテーション（奥ノ菌・内田）講師紹介／ガイダンス
2	インテリア概論 デザイン史（内田）インテリア全体の概要
3	インテリア計画 I（内田）構造 仕上材料 家具 建具
4	インテリア計画 II（内田）採光 照明の種類 ユニバーサルデザイン キッチン

5	インテリア構成（奥ノ菌）人間工学 立体的空間構成
6	建築製図法Ⅰ（奥ノ菌）基礎(平面図の描き方/講義)
7	建築製図法Ⅱ（奥ノ菌）基礎(立面図の描き方/講義)
8	透視図法Ⅰ（奥ノ菌）基礎(透視図基礎/講義)
9	透視図法Ⅱ（奥ノ菌）基礎(透視図仕上/講義)
10	透視図法Ⅲ（奥ノ菌）基礎(透視図仕上/演習)
11	インテリア表現Ⅰ（内田）店舗設計について(講義1)
12	インテリア表現Ⅱ（内田）店舗設計について(講義2)
13	プレゼンテーションⅠ(内田) DTPによるインテリア表現(講義1)
14	プレゼンテーションⅡ（奥ノ菌・内田）DTPによるインテリア表現(講義2)
15	プレゼンテーションⅢ（奥ノ菌・内田）製作物の発表 講評会

アクティブ・ラーニングの概要

自分の住まいを客観的に見直し、平面図の作成方法を学ぶ。
透視図の基本を書くことで学ぶ。
普段目にする店舗の動線を理解し店舗計画を学ぶ。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

特になし。

準備学習（予習・復習等）

授業1コマあたり、事前・事後に計4時間の学修が必要である。
事前に教科書、ノート等を見直して書く練習をしておく。
実際にある店舗をよく観察し、特徴を写真やノートに控えておく。
事前に教科書、インテリアプレゼン資料等を見直し、提出物作成に備えておくこと。

テキスト

和田浩一他著『世界で一番やさしいインテリア 改訂版』 2021年3月、エクスナレッジ出版

参考文献

建築雑誌等

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

奥ノ菌 設計事務所経営 保有資格・免許:一級建築士
内田 設計事務所経営 保有資格・免許:二級建築士

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	イベントプランニング I		
担 当 教 員	高田 さとこ, 濱崎 千鶴, 上村 尚史, 宮地 真奈美, 西田 一豊		
関 連 資 格	秘書士、情報処理士、上級情報処理士		
備 考			
ナンバリング	D-1B7C-1/課題解決型学修 [デザイン] ー実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3（学びに向かい合う力）、区分 3（協働して挑戦する姿勢）

到達目標

- 1.限られたリソースを有効に活用する実現可能性の高い企画・計画を立案できる。
- 2.協働意識をもって行動し、創意工夫を重ね、イベントのクオリティを追及できる。
- 3.目的の共有と過程や成果の検証・評価によって改善点を明確にできる。

評価方法

レポート（活動報告書[100%]）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・成績評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、各種イベント、コンテスト等に向けて、企画立案からスケジュールリング、実施・運営までを繰り返し経験し、協働して課題解決に取り組む力を高めるための演習を行う。

回	内容
1	イントロダクション・プロジェクトチーム編成
2	プロジェクトチーム発足（役割分担、スケジュール確認）
3	公募展出品計画の確認
4	体験型イベントの企画案検討
5	体験型イベントの企画案選考・決定
6	広報・伝達系イベントの企画案検討

7	広報・伝達系イベントの企画案選考・決定
8	体験型イベントの準備
9	体験型イベントの実施
10	広報・伝達系イベントの資料作成
11	大学祭の企画案検討
12	大学祭の企画案選考・決定
13	広報・伝達系イベントの準備
14	広報・伝達系イベントの実施
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

共同制作（グループワーク）、企画発表（プレゼンテーション）&選考会（ディスカッション）

ICT 活用の概要

個人所有のコンピュータ(Mac)で資料作成や情報共有を行う。
情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

Adobe Creative Cloud（コンプリートプラン）がインストールされたコンピュータ（Mac）を持参すること。
複数のプロジェクトが並行して進行するので、計画的に遂行できるように、報告、連絡、相談、確認を徹底すること。
グループワークでは、協力して役割分担を遂行できるように工夫すること。

準備学習（予習・復習等）

授業 1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。
毎回の授業の冒頭に進捗状況の報告を求めるので、準備しておくこと。
定期的に活動報告書の提出を求めるので、記録を整理しておくこと。

テキスト

随時プリント等を配布する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	ドレスメーカーⅡ		
担 当 教 員	宮地 真奈美		
関 連 資 格	ファッションアドバイザー		
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	D-3E76-1/デザイン [ファッション] ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）、 区分 4（豊かさを創造する力）

到達目標

- 1 作品製作において、見栄え良く仕上げるための専門的縫製技術を身に付けている。
- 2 これまでに学んだ技術や知識を応用して、デザインに活用できる。
- 3 独創的なドレスの縫製方法や技術を獲得し、応用展開している。

評価方法

作品評価[70%] 定期試験（実技）[30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・製作過程では、授業中にコメントする。
- ・作品については、最後の作品発表の際にフィードバックを行う。
- ・成績評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

ドレス製作については、1 年次の基礎的知識や技術に基づき、さらに高度な技術が必要なため、理解しやすいサンプルを工夫し、技術の向上を図る。

回	内容
1	1 年次のドレス製作を継続 ボトムス土台型紙製図
2	オーバースカート型紙製図
3	シーチングでのボトムス製作（裁断、縫製）
4	シーチングでのボトムス製作（試着、補正）
5	素材選定、型紙の修正
6	企画書、縫製工程表作成

7	本素材でのボトムス製作（土台スカート裁断）
8	本素材でのボトムス製作（土台スカート芯貼り、ロックミシン）
9	本素材でのボトムス製作（各パーツ縫い）
10	本素材でのボトムス製作（ファスナー付け）
11	本素材でのボトムス製作（オーバースカート裁断）
12	本素材でのボトムス製作（オーバースカート各パーツ縫い）
13	本素材でのボトムス製作（ウエスト仕上げ）
14	仕上げ
15	作品発表、相互評価

アクティブ・ラーニングの概要

作品製作（実習）、企画書、縫製工程表作成

ICT 活用の概要

個人所有のコンピュータ(Mac)で資料作成や情報共有を行う。
情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

本科目を履修するためには「ドレスメイキングⅠ」を修得していることが必要である。
本科目を履修した場合、原則として「ドレスメイキングⅢ」を履修すること。
計画表にそって製作できるように、縫製は分かりやすいサンプル等を用意すること。

準備学習（予習・復習等）

2 コマ連続で授業を行う。授業 1 コマあたり、事前・事後に 1 時間の学修が必要である。
次回の授業内容を確認し必要な材料を用意すること。
様々なファッションショーの映像を見て、イメージをまとめておくこと。
進度に遅れた場合は、次回までに仕上げること。
必要に応じて個別指導を受けること。

テキスト

野中慶子、岡本あづさ、松尾一弘 著『Wedding & Color dress』2017 年 3 月、文化出版局

参考文献

『手作りドレスでウエディング』2004 年 5 月、文化出版局
『モードエモード』モードエモード社（2・4・8・11 月に出版）
『服飾造形応用編 1』2003 年 4 月、文化出版局

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

職歴：ヒロコシノインターナショナル(株)チーフパタンナー、(株)ワールド、他でパタンナーとして勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	テキスタイル材料・管理学		
担 当 教 員	濱崎 千鶴		
関 連 資 格	ファッションアドバイザー		
備 考			
ナンバリング	D-3E76-2/デザイン [ファッション] ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）、区分 1（美しく生きる力）

到達目標

- 1.衣服を構成する素材の歴史と特性を理解している。
- 2.衣服の取り扱いとそれに伴う必需品について理解している。
- 3.安全・快適で合理的な衣生活を送るための実践的方法を説明できる。

評価方法

定期試験（80％）＋ レポート（20％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントをつけて返却する。
定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

衣服材料となる繊維・糸・布の特性および、衣服の取扱いについて学び、豊かな衣生活を送るためにはどうしたらいいかを考える。

回	内容
1	繊維とは何か、繊維の歴史
2	衣服の素材 天然繊維
3	衣服の素材 化学繊維
4	衣服の素材 糸・布（織物）
5	衣服の素材 布（編物・皮革・その他）
6	衣服素材の性能

7	衣服素材の加工・染色と新素材
8	衣服の取り扱い絵表示
9	衣服の汚れと洗剤、汚れ除去のメカニズム
10	家庭洗濯
11	商業洗濯
12	工場見学（学外）
13	衣服の仕上げ
14	衣服の保管、アフターケア
15	廃棄とリサイクル、環境問題

アクティブ・ラーニングの概要

布の織り、編みの確認（実習）、洗剤等の実験、学外実習

ICT 活用の概要

レポート課題の掲載と提出に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

DVD やサンプルも利用するので、参考にしながら学習すること。また、現在着用している衣服や新しく購入する衣服等にも関心を持って生活すること。

準備学習（予習・復習等）

授業 1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学修が必要である。
適宜、課題を出すので、しっかり取り組むこと。またそれ以外の事前・事後に取り組むべき内容は、適宜指示する。
学外実習として、クリーニング工場見学を行うので、会社について事前に調べておくこと。

テキスト

岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』2015 年 11 月、建帛社

参考文献

随時紹介する

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	大島紬研究 I		
担 当 教 員	宮地 真奈美, 濱崎 千鶴		
関 連 資 格			
備 考	産学共同研究		
ナンバリング	D-D176-2/地域研究〔郷土〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）、区分 2（実務能力）

到達目標

- 1.現代の生活スタイルに相応しい洋装のドレスをデザインし、作品を製作することができる。
- 2.大島紬の特徴や素材の特性に関する基本的な知識を身に付け、表現に活用できる。
- 3.大島紬の歴史や現状を理解し、普及、活性化のアイデアを提供できる。

評価方法

作品評価（80％）＋ レポート（20％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントをつけて返却する。
定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、大島紬の文様や色合いを生かした洋装をデザインし、創作する。また、大島紬織物工房の見学を行う。

回	内容
1	大島紬の歴史について、古代染色・織りについての技法（DVD 鑑賞）
2	伝統工芸士の講義
3	大島紬の製作工程の見学
4	講義・見学のまとめ プレゼンテーション及びディスカッション
5	デザイン画を描き、デザイン画に相応しい大島紬を選択
6	企画書、縫製工程表を作成

7	トップス部分（型紙製図）
8	シーチングトップス部分（裁断）
9	シーチングトップス部分（仮縫い）
10	トップス部分（パターンの補正, 縫い代付け）
11	ボトムス部分（パターンの作図）
12	シーチングボトムス部分（裁断）
13	シーチングボトムス部分（仮縫い）
14	ボトムス部分（パターンの補正, 縫い代付け）
15	トップス部分 大島紬裁断

アクティブ・ラーニングの概要

作品製作（実習）、企画書、縫製工程表作成、学外実習、学外実習の振り返り（プレゼンテーション及びディスカッション）

ICT 活用の概要

レポート課題の掲載と提出に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

本科目を履修した場合、原則として「大島紬研究Ⅱ」を履修すること。
大島紬のビデオ鑑賞および見学についてレポートを提出すること。
製作のスケジュールを確認し、決められた部分まで完成させること。

準備学習（予習・復習等）

2 コマ連続で授業を行う。授業 1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。
事前・事後に取り組むべき内容は、適宜指示する。
学外実習後、振り返りをするので、プレゼンテーションの内容を考えておくこと。
＊「ファッションモード実習」と二重カウントされていないか確認すること。

テキスト

特になし。

参考文献

随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

宮地 職歴：ヒロコシノインターナショナル(株)チーフパタンナー、(株)ワールド、他でパタンナーとして勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	秘書実務Ⅱ		
担 当 教 員	中村 民恵		
関 連 資 格	秘書士		
備 考			
ナンバリング	D-F276-1/キャリア教育〔秘書実務〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（実務能力）、区分 3（学びに向き合う力）

到達目標

- 1.秘書としての仕事の進め方を理解し、適切に連絡・調整・報告を行い、スケジュールリング・出張業務を実践できる。
- 2.秘書として必要な実務知識・スキルを修得し、身近な課題に応用できる。
- 3.センスのよい秘書として何が必要であるかを理解し、その実践結果を振り返って、学びを継続できる。

評価方法

定期試験（80％）＋ 課題（20％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。
- ・定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

秘書実務の基本知識・スキルを活用する演習を通して、メンバーとともに成果を振り返り、次の活動に活かすことができるプログラム。

回	内容
1	会議・会合① 会議・会合の意義
2	会議・会合② 議事録作成
3	ファイリング① ファイリングの意義
4	ファイリング② グループワーク
5	オフィス管理① 環境の管理

6	オフィス管理② 環境の整備
7	受信と発信① 受信発信の意義
8	受信と発信② ケーススタディ
9	受信と発信③ 文書管理
10	受信と発信④ 会計業務・法律業務
11	出張業務① 出張業務の意義
12	出張業務② 旅程表の作成
13	慶弔業務① 慶事について
14	慶弔業務② 弔事について
15	まとめ 総合演習

アクティブ・ラーニングの概要

演習課題ではグループワークの機会を設ける。

ICT 活用の概要

情報や資料の共有、課題の掲載や提出に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

- ・本科目を履修するためには「秘書実務Ⅰ」を履修していることが必要である。
- ・課題提出については期限厳守（提出期限後のレポートは受け取らないので注意）
- ・文字を丁寧に書けるようになっておくこと。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業 1 コマあたりに授業の事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。
- ・あいさつ・言葉づかいは基本となるため、日常生活においても心がける。

テキスト

武田秀子・岡田小夜子共著『秘書・オフィス実務』2016 年 2 月、早稲田教育出版

参考文献

随時、紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	情報デザイン		
担 当 教 員	上村 尚史		
関 連 資 格	秘書士、情報処理士、上級情報処理士		
備 考			
ナンバリング	D-B076-1/情報学〔総合〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（考えて伝える力）、区分 2（実務能力）、区分 4（豊かさを創造する力）

到達目標

1. 情報を視覚的に表現し、シンプルにメッセージを伝えることができる。
2. 得られた情報を目的や用途に照らして吟味し、論理的、客観的に判断して利用できる。
3. これまでに学んだ知識や技術を活用して、伝えたい内容の構造を表現に反映させることができる。

評価方法

- ・期末レポート〔70%〕
- ・プレゼンテーション〔30%〕

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・プレゼンテーションについては、授業中にフィードバックを行う。
- ・期末レポートの評価については、履修者の要請に応じ、教育支援サイトを通じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、これまでの学修経験を統合的に活用して、情報を視覚的に表現する力を身に付けるための演習を行う。また、インフォグラフィックを用いた企画書やプレゼンテーション資料作成に取り組む。

回	内容
1	イントロダクション
2	情報の収集と整理
3	情報の加工と分析
4	伝達系コンテンツ制作
5	プレゼンテーション実践

6	アンケート作成
7	アンケート調査
8	アンケート集計
9	検証と評価
10	総合演習：テーマの選定とストーリー立案
11	総合演習：情報の収集と整理
12	総合演習：プレゼン資料の作成
13	総合演習：配布資料（企画書）の作成
14	総合演習：プレゼンテーションと相互評価
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

- ・相互に発表・評価する機会を設ける。（プレゼンテーション&ディスカッション）

ICT 活用の概要

- ・パソコン教室で演習を行う。
- ・情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

- ・本科目を履修するためには、原則として「Microsoft Office 活用」を履修していることが必要である。
- ・授業に参加し、積極的に技術の習得に励むことを重視する。
- ・学習した内容について、他の授業などでどのように活用できるか考えること。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の自主学修が必要である。
- ・事前・事後に学習すべきことについては、授業中に指示する。

テキスト

- ・必要に応じて資料を提供する。

参考文献

- ・一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 『改訂版 J 検情報デザイン完全対策公式テキスト』 2014 年 12 月、日本能率協会マネジメントセンター

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	ファッションビジネス		
担 当 教 員	宮地 真奈美		
関 連 資 格	ファッションアドバイザー		
備 考	ファッションビジネス能力検定対策 30 時間で 1 単位 Web デザインⅡと同時開講		
ナンバリング	D-F576-1/キャリア教育〔アパレル〕ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（実務能力）

到達目標

- 1 基本的なファッションビジネス知識（マーケティング、生産、流通など）を理解している。
- 2 基本的なファッション造形知識（ファッションコーディネート、商品知識、品質表示など）を理解している。
- 3 ファッション業界でのキャリアプランを描くことができ、店舗運営やスタッフ管理等の基本を理解している。

評価方法

小テスト [30%]、定期試験（筆記）[70%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストについては、授業中にフィードバックを行う。
小テストの得点が 7 割以下は再試を行う。

授業の展開計画

この科目では、企画や生産から流通にわたるファッションビジネスの業務を遂行する際に必要なファッションとビジネスの基本的な知識を深めるための講義、演習を行う。

回	内容
1	ファッションビジネスの概要
2	消費者行動とファッション表現
3	ライフスタイルとファッション、購買行動
4	アパレル産業の概要
5	ファッション小売業の概要

6	マーケティングの基礎知識
7	マーケティング上の分類方法、市場調査
8	マーチャンダイジング基礎知識
9	商品企画・生産・販売の流れ
10	ファッション流通
11	ビジネス基礎知識
12	デザインの定義と特性
13	ファッションコーディネート
14	ファッション商品知識
15	過去問

アクティブ・ラーニングの概要

前回の授業内容の定着度を把握するため毎時間小テストを実施する。
また、小テスト後に解説の時間を設ける。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

本科目を履修するためには、原則として「ファッション販売Ⅰ」及び「ファッション販売Ⅱ」を履修していることが必要である。

準備学習（予習・復習等）

授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。
授業の最初に小テストを実施する。必ず前回の授業の復習をすること。
事前・事後に取り組むべき内容は、適宜、指示する。

テキスト

『ファッションビジネス 3 級新版、日本ファッション教育振興協会出版
『ファッションビジネス能力検定試験 3 級 項目別試験問題・解答集 改訂版』2012 年 4 月、
日本ファッション教育振興協会出版

参考文献

『ファッションビジネス用語辞典 改訂第 3 版』2017 年 3 月、日本ファッション教育振興協会出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

職歴：ヒロコシノインターナショナル(株)チーフパタンナー、(株)ワールド、他でパタンナーとして勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	ビジュアルデザインⅢ		
担 当 教 員	五十嵐 ゆか		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	D-3DA9-1/デザイン [ビジュアル] ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術） 区分 2（考えて伝える力） 区分 4（豊かさを創造する力）

到達目標

- 1 特定領域における高度な表現技術を主体的に修得し、創造的な表現に活かすことができる。
- 2 本質をシンプルで力強いビジュアルに置き換え、見る人が共感できる表現で伝えることができる。
- 3 これまでの学修経験を統合的に活用し、魅力的な表現をトータルにデザインすることができる。

評価方法

作品評価[70%] プレゼンテーション[30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・制作過程では、授業中にコメントする。
- ・成果物については、それぞれ講評会でフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、これまでの学修経験を統合的に活用し、卒業制作に取り組む。

回	内容
1	課題 1（ポスター）／課題説明、アイデア・チェック
2	課題 1（ポスター）／制作、仕上げ
3	課題 1（ポスター）／プレゼンテーション、講評会
4	課題 2（自主テーマ）／テーマ設定、アイデア・チェック
5	課題 2（自主テーマ）／計画、素材準備

6	課題 2（自主テーマ）／素材準備、制作
7	課題 2（自主テーマ）／制作
8	課題 2（自主テーマ）／中間チェック、鑑賞会
9	課題 2（自主テーマ）／ブラッシュアップ
10	課題 2（自主テーマ）／プレゼンテーション、講評会
11	課題 2（自主テーマ）／ブラッシュアップ、完成
12	課題 3（冊子デザイン）／制作
13	課題 3（冊子デザイン）／総まとめ
14	課題 3（冊子デザイン）／プレゼンテーション・講評会
15	課題 3（冊子デザイン）／印刷入稿データ作成

アクティブ・ラーニングの概要

- ・作品制作（実習）および講評会（プレゼンテーション&ディスカッション）を行う。

ICT 活用の概要

- ・個人所有のコンピュータ（Mac）で作品制作や情報共有を行う。
- ・情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

- ・Adobe Creative Cloud（コンプリートプラン）がインストールされたコンピュータ（Mac）を持参すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・授業時間内に所定の課題を終えるよう取り組むこと。
- ・講評会でプレゼンテーションを行うので各自準備しておくこと。

テキスト

特になし

参考文献

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	Web デザインⅢ		
担 当 教 員	足達 直樹		
関 連 資 格	上級情報処理士		
備 考	大島紬研究Ⅱと同時開講 30 時間で 1 単位		
ナンバリング	D-3DA9-2/デザイン [ビジュアル] ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）

到達目標

1. Web 標準仕様に準拠した視認性の高いコードを記述することができる。
2. JavaScript の代表的なライブラリを利用して、Web ページの機能性を高めることができる。
3. SEO やアクセシビリティ、ユーザビリティに配慮した Web コンテンツを作成できる。

評価方法

- ・プレゼンテーション [30%]
- ・作品評価 [70%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・制作過程では、授業中にコメントする。
- ・成果物については、それぞれ講評会でフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、Adobe Dreamweaver の基本操作を学び、HTML や CSS によるコーディング技術および JavaScript ライブラリの活用方法を身に付けるための演習を行う。

回	内容
1	web サイトの種類・仕組み・制作の流れ・html、css とは html の基本（html とは、見出し、文章、画像、リンク）
2	html の基礎（表、フォーム） css の基礎（css とは、基本、装飾、Web フォント）
3	css の基礎（余白、線、リスト）
4	html、css の実装（基本構造、レイアウト）
5	html、css の実装（フルスクリーン、カラム、タイル）

6	javascript の基本・jquery の基本・jquery の使い方・bootstrap・wordpress
7	制作・ターゲット、・調査・分析・サイトマップ作成 adobeXD でカンパデザイン制作
8	制作 (html・基本構造作成)
9	制作 (css・基本構造作成)
10	制作 (html,css・基本構造作成)
11	制作 (サブページの制作)
12	制作 (その他の web 制作テクニック)
13	制作完成 (javascript など追加)
14	プレゼンテーション準備
15	発表

アクティブ・ラーニングの概要

- ・講評会（プレゼンテーション&ディスカッション）を行う。

ICT 活用の概要

- ・個人所有のコンピュータ（Mac）で演習を行う。
- ・情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。
- ・公式のチュートリアル他、参考となるサイトを適宜紹介する。

履修上の注意事項

- ・本科目を履修する場合「Web デザインⅡ」を履修していることが必要である。
- ・Adobe Creative Cloud（コンプリートプラン）がインストールされたコンピュータ（Mac）を持参すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・2 コマ連続で授業を行う。授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。
- ・興味を持って情報を収集・整理し、積極的に共有すること。
- ・操作方法等は、その都度振り返り、着実に修得すること。

テキスト

- ・Web クリエイターボックス Man『1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座』 2019 年 3 月、SB クリエイティブ

参考文献

- ・エビスコム『HTML5&CSS3 デザイン 現場の新標準ガイド【第 2 版】』 2020 年 10 月、マイナビ出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

Web クリエイター

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	メディア表現実践		
担 当 教 員	上村 尚史 牧野田 宏		
関 連 資 格			
備 考	30 時間で 1 単位 原則として GPA3.0 以上のみ		
ナンバリング	D-3DAC-1/デザイン [ビジュアル]－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識と技術）、区分 2（考えて伝える力）、区分 4（豊かさを創造する力）

到達目標

1. 明確に制作意図を持ち、説得力のある資料を基に、論理的に伝えることができる。
2. 複数領域における表現技術を高度に融合し、創造的な表現に活かすことができる。
3. これまでの学修経験を統合的に活用し、独創的な作品を制作することができる。

評価方法

- ・プレゼンテーション [30%]
- ・作品評価 [70%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・制作過程では、授業中にコメントする。
- ・作品については、それぞれ講評会でフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、ジャンルを問わず自らが希望する作品の制作に取り組む。初回の授業で作りたい作品の構想をプレゼンテーションし、審査する。なお、複数人での共同制作もあり得る。

回	内容
1	オリエンテーション／企画案のプレゼンテーション
2	企画・構想：プロジェクトの進め方の基本
3	企画・構想：市場調査の基本
4	企画・構想：プロトタイプの制作
5	企画・構想：企画案のブラッシュアップ
6	企画・構想：最終企画のプレゼンテーション

7	作品制作：コンセプトシート作成
8	作品制作：素材等の準備・制作
9	作品制作：制作・編集
10	作品制作：進捗状況の共有
11	作品制作：編集・調整
12	作品制作：校正・確認
13	PR 媒体の作成
14	講評会
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

- ・作品制作（実習）および講評会（プレゼンテーション&ディスカッション）を行う。

ICT 活用の概要

- ・個人所有のコンピュータ（Mac）で作品や資料の作成を行う。
- ・情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

- ・原則として、通算 GPA3.0 以上の者に限り履修を認める。なお、特定ジャンルにおいて高いスキルを持っていると認められる場合、例外を認めることがある。

準備学習（予習・復習等）

- ・2 コマ連続で授業を行う。授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。
- ・共同制作に取り組む場合は、進捗状況を把握し、スケジュール管理を徹底すること。
- ・講評会でお互いの作品について議論する機会を設けるので、プレゼンテーションの内容を事前に考えてまとめておくこと。

テキスト

- ・特になし。

参考文献

- ・適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

--

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	造形表現Ⅲ		
担 当 教 員	高田 さとこ, 濱崎 千鶴		
関 連 資 格			
備 考	陶芸・キルト		
ナンバリング	D-3CA9-1/デザイン〔工芸〕ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）、区分 2（考えて伝える力）、 区分 4（豊かさを創造する力）

到達目標

1. 特定分野の専門的知識と技術を身に付けており、創造的な表現に活かすことができる。
2. 手順や手法を工夫することができ、明確な意図を持って適切に表現することができる。
3. これまでの学修経験を統合的に活用し、生活空間を豊かにする作品を表現することができる。

評価方法

作品評価 60%、プレゼンテーション・ポートフォリオ 40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・制作過程では、授業中にコメントする。
- ・作品評価については、プレゼンテーションの際にフィードバックを行う。

授業の展開計画

〔陶芸〕生活空間を彩る陶の時計を制作し、食空間を楽しむ食器を作る。さらに、レザークラフトとして、革の素材体験をととしてテキスタイルの基本を学び、制作する。

〔キルト〕タペストリー以外で生活の中で使用できるもの、生活空間を楽しめる作品を制作する。レザークラフトとして、革の素材体験をととしてテキスタイルの基本を学び、制作する。

回	内容
1	陶芸：タラ成形の制作 陶の時計のデザイン キルト：自主制作 裁断
2	陶芸：タタラ成形の制作 陶の時計の成形 キルト：自主制作 パッチワーク
3	陶芸：タタラ成形の制作 陶の時計の加飾 キルト：自主制作 アププリケ、刺繍

4	陶芸：タタラ成形の制作 陶の時計の素焼き キルト：自主制作 キルティング（内側部分）
5	陶芸：タタラ成形の制作 陶の時計の施釉 キルト：自主制作 キルティング（外側部分）
6	陶芸：タタラ成形の制作 陶の時計の本焼き キルト：自主制作 仕上げ
7	レザークラフト 革の説明・配色・制作
8	レザークラフト 制作
9	レザークラフト 仕上げ
10	陶芸：自主制作 生活の器のデザイン キルト：自主制作（小物） デザイン・型紙
11	陶芸：自主制作 生活の器の成形 キルト：自主制作（小物） 裁断
12	陶芸：自主制作 生活の器の素焼き キルト：自主制作（小物） パッチワーク、アップリケ、刺繍
13	陶芸：自主制作 生活の器の施釉 キルト：自主制作（小物） キルティング
14	陶芸：自主制作 生活の器の本焼き キルト：自主制作（小物） 仕上げ
15	プレゼンテーション・講評会・ポートフォリオ

アクティブ・ラーニングの概要

作品制作（実習）、講評会（プレゼンテーション&ディスカッション）

ICT 活用の概要

情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

本科目を履修するためには、「造形表現Ⅱ」を履修していることが必要である。
 陶芸とキルトから1つを選択し履修すること。
 授業時間内に所定の課題を終えるよう取り組むこと。
 陶芸選択者は、次回使う陶土の荒練りと菊練りは、授業終了時までには必ず済ませておくこと。
 陶芸選択者は、成形と窯詰めや焼成などで、授業以外の時間も必要となる場合があるので、事前に確認すること。
 陶芸選択者は、アイデアスケッチは、授業開始までにスケッチブックに必ず描いてくること。
 陶芸選択者は、作品の制作過程と完成作の写真を撮り、制作過程と技法・題名・釉薬名・サイズ・作品解説を入れたポートフォリオ（作品集）を作成し、最終回に提出すること。
 講評会でお互いの作品について議論する機会を設けるので、プレゼンテーションの内容を事前に考えてまとめておくこと。

準備学習（予習・復習等）

特になし

テキスト

特になし

参考文献

〔陶芸〕鈴木昌子編 『基礎からわかる はじめての陶芸』2009年10月、学研パブリッシング出版
〔キルト〕随時紹介する

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	食のデザイン		
担 当 教 員	鎌田 典子		
関 連 資 格			
備 考	製菓と調理実習		
ナンバリング	D-3FA6-1/デザイン〔空間〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（美しく生きる力）、区分 3（協働して挑戦する姿勢）

到達目標

- 1 美しく美味しい食のデザインを表現するための製菓技術とラッピング技術を身に付けている。
- 2 動植物のいのちの尊さを考えた無駄なく健康的な食生活について理解し、説明ができる。
- 3 自らの働きかけによって周囲と協働し、役割を果たすことができる。

評価方法

定期試験 70%、臨時試験（レポート 30%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを付けて返却する。
定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

調理実習とラッピング実習で、美味しく美しい食のデザインを学ぶ。 学外実習でテーブルマナー、豊かな食のデザインを学ぶ。 いのちと食の諸問題を考えながら、無駄なく健康的な食のデザインを学ぶ

回	内容
1	はじめに（食を通して表現する力を磨く）
2	調理実習（自作の大皿に季節の果物をコーディネート）
3	調理実習（調理の基本・和食）
4	調理実習（デコレーション寿司）
5	調理実習（季節の行事食）

6	製菓実習（洋菓子）
7	製菓実習（洋菓子）
8	ラッピング実習
9	調理実習（松花堂弁当）
10	テーブルコーディネートとマナーについての基礎知識
11	学外ホテルにおいてテーブルマナー講習会
12	最近の食に関する話題と問題点 いのちの尊さと”いただきます”の言葉の意味
13	製菓実習・招待状（カード）作り
14	製菓実習（アップルパイ）
15	お別れパーティーをテーマとしたテーブルコーディネートの実践

アクティブ・ラーニングの概要

製菓・調理実習。いのちと食の諸問題については、理解を深めるためにディスカッションを行う。

ICT 活用の概要

教材・資料・授業スライドの掲載

履修上の注意事項

実習時には清潔な調理用白衣とキャップを用意すること。
製菓実習の際は事前に調理器具等の準備や食材料の計量が必要となる。

準備学習（予習・復習等）

授業で行うディスカッションのテーマを提示するので、事前に調べて自分の意見をまとめておくこと。
この授業は2コマ連続で行う。1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

随時プリント配布

参考文献

適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:管理栄養士ほか
職歴:鹿児島市立病院、鹿児島市医師会病院等で管理栄養士として勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	インテリアデザインⅡ		
担 当 教 員	奥ノ菌 浩二, 内田 隆之		
関 連 資 格			
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	D-3FA6-2/デザイン〔空間〕 ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（美しく生きる力） 区分 1（専門知識と技術）

到達目標

- 1 自分の住んでみたい空間・建築と場所をイメージすることができる。
- 2 具体的に外観パースや内観パースを平面として表現することができる。
- 3 具体的に家具・照明等、空間構成素材をセレクトし表現することができる。

評価方法

プレゼンテーションボードによる採点 100%
観点は以下の 2 点とする。
・自分の個性を十分に表現出来ているか
・プレゼンボードの構成が美しく、かつ訴求力があるか

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

自分のつくりたいイメージを描き、それを図面、パース、構成材料(エレメント)等をセレクトし、A3 2～3 枚のボードに表現し、プレゼンする。

回	内容
1	自分の住みたい空間についてコンセプト発表（奥ノ菌）
2	表現技法Ⅰ（奥ノ菌）イメージプランニング(外観・立地等)
3	表現技法Ⅱ（奥ノ菌）平面プランニング 1
4	表現技法Ⅲ（奥ノ菌）平面プランニング 2
5	表現技法Ⅳ（奥ノ菌・内田）イメージプランニング(内部空間)

6	空間構成Ⅰ（内田）立面構成 内外部イメージの整理
7	空間構成Ⅱ（内田）空間構成材料を選択 仕上材料 カラースキーム
8	空間構成Ⅲ（内田）空間構成材料を選択 エレメント(sofa・テーブルなど・照明計画)
9	空間構成Ⅳ（内田）平面 立面 内外部空間 まとめ
10	プレゼンテーション（内田）最終プレゼンテーションについて コンセプト
11	パース実技Ⅰ（奥ノ菌・内田）内外観パース仕上
12	パース実技Ⅱ（奥ノ菌）内外観パース作成
13	プレゼンテーションボード制作（奥ノ菌）コンセプト, 平面、パース、内外観着彩
14	プレゼンテーションボード制作（奥ノ菌・内田） プレゼンボードレイアウト
15	プレゼンテーションボード制作最終調整 講評会（奥ノ菌・内田）

アクティブ・ラーニングの概要

作成したプレゼンテーションボードについて、発表・講評会を行う。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

本科目を履修するためには「インテリアデザインⅠ」を履修していることが必要である。

準備学習（予習・復習等）

第1回授業が始まる前までに自分の住みたい場所・空間等をイメージしておく事。
2コマ連続で授業を行う。授業1コマあたり、事前・事後に計1時間の学修が必要である。
発表までにプレゼンテーションボードを完成させておくこと。

テキスト

和田浩一他著『世界で一番やさしいインテリア 改訂版』 2021年3月、エクスナレッジ出版

参考文献

適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

奥ノ菌 設計事務所経営 保有資格・免許:一級建築士
内田 設計事務所経営 保有資格・免許:二級建築士

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	イベントプランニングⅡ		
担 当 教 員	高田 さとこ, 濱崎 千鶴, 上村 尚史, 宮地 真奈美, 西田 一豊		
関 連 資 格	秘書士、情報処理士、上級情報処理士		
備 考			
ナンバリング	D-1BAC-1/課題解決型学修〔デザイン〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3（学びに向き合う力）、区分 3（協働して挑戦する姿勢）、 区分 4（豊かさを創造する力）

到達目標

- 1.グループとしての目標達成に向けて、自らの能力を主体的に高める姿勢を身に付けている。
- 2.課題解決に向けて、協働して創意工夫し、取り組みを前に進める行動を実践している。
- 3.これまでの学修経験を統合的に活用して実践し、イベントを印象的にプロデュースすることができる。

評価方法

レポート（活動報告書[100%]）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・成績評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

この科目では、各種イベントを企画・立案・実行する総合実践を通して、複数分野の学びを統合的に活用する力を高めるための演習を行う。

回	内容
1	イントロダクション
2	大学祭の催し物部門の販売計画
3	大学祭の展示部門の展示計画
4	大学祭の舞台発表部門の企画立案と舞台装置のデザイン
5	大学祭の舞台発表のウォーキング
6	大学祭の舞台発表のポージング

7	卒業制作展の役割分担と記録
8	卒業制作展の案内状・リーフレット・立て看板のデザイン
9	卒業制作展の出品リスト作成・キャプションのデザイン
10	卒業制作展などの展覧会の企画立案
11	卒業制作展のコメントパネルとアンケートのデザイン
12	卒業制作展の備品・消耗品等の準備、確認／搬入・飾付けと撤去・搬出方法
13	卒業制作展の展示作品の選定
14	卒業制作展の展示作品の展示レイアウト
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

共同制作（グループワーク）、企画発表（プレゼンテーション）＆選考会（ディスカッション）

ICT 活用の概要

個人所有のコンピュータ(Mac)で資料作成や情報共有を行う。
情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

Adobe Creative Cloud（コンプライートプラン）がインストールされたコンピュータ（Mac）を持参すること。
計画的に遂行できるように、報告、連絡、相談、確認を徹底すること。
グループワークでは、協力して役割分担を遂行できるように工夫すること。

準備学習（予習・復習等）

2 コマ連続で授業を行う。授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学修が必要である。
毎回の授業の冒頭に進捗状況の報告を求めるので、準備しておくこと。
定期的に活動報告書の提出を求めるので、記録を整理しておくこと。

テキスト

随時プリント等を配布する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	ドレスメーカーⅢ		
担 当 教 員	宮地 真奈美		
関 連 資 格	ファッションアドバイザー		
備 考			
ナンバリング	D-3EA9-1/デザイン〔ファッション〕ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）、区分 2（考えて伝える力）

到達目標

- 1 洋裁の専門的な知識と技術を身に付けており、クオリティの高いパンツをデザイン、製作することができる。
- 2 ドレスを引き立てる装飾や独創的なフォルムなどを創意工夫している。
- 3 得られた評価をもとに、改善を重ね、オリジナリティ溢れる魅力的な表現を演出できる。

評価方法

作品評価[80%]、表現力評価[20%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・製作過程では、授業中にコメントする。
- ・作品については、最後の作品発表の際にフィードバックを行う。
- ・成績評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

完成したドレスで大学祭においてファッションショーを開催する。さらに 2 年間の集大成として、卒業制作展で発表することをふまえ、入念に製作する。

回	内容
1	前期に引き続いての作品の装飾パーツ製作（型紙製作、裁断）
2	装飾パーツ製作（縫製）
3	ファッションショー構成
4	コーディネート用小物製作
5	企画書仕上げ

6	ファッションショー反省、レポート作成
7	パンツデザイン決定、企画書、縫製工程表作成
8	型紙製図
9	シーチングでのパンツ製作（裁断、縫製）
10	シーチングでのパンツ製作（試着、補正）
11	素材選定、型紙の仕上げ裁断、
12	本素材でのパンツ製作（裁断、芯貼り、ロックミシン）
13	本素材でのパンツ製作（各パーツ縫製、ファスナー付け）
14	本素材でのパンツ製作（ウエストベルト付け、裾始末）
15	作品発表、相互評価

アクティブ・ラーニングの概要

作品製作（実習）、企画書、縫製工程表作成

ICT 活用の概要

個人所有のコンピュータ(Mac)で資料作成や情報共有を行う。
情報や資料の共有に教育支援サイトや G Suite for Education を利用する。

履修上の注意事項

本科目を履修するためには「ドレスメイキングⅡ」を修得していることが必要である。
次回の授業内容を確認し、必要な材料を用意すること。
授業時間内に所定の課題を終えるよう取り組むこと。
ファッションショーの反省点をまとめておくこと。

準備学習（予習・復習等）

特になし。

テキスト

野中慶子、岡本あづさ、松尾一弘 著『Wedding & Color dress』2017年3月、文化出版局
『誌上・パターン塾 Vol.3 パンツ編』 2017年2月、文化出版局

参考文献

『手作りドレスでウエディング』 2004年5月、文化出版局
『モードエモード』 モードエモード社（2・4・8・11月に出版）
『服飾造形応用編1』 2003年4月、文化出版局

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

職歴：ヒロコシノインターナショナル(株)チーフパタンナー、(株)ワールド、他でパタンナーとして勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	ファッションモード実習		
担 当 教 員	濱崎 千鶴		
関 連 資 格			
備 考	2 年間におけるウォーキング・メイク技術・舞台発表		
ナンバリング	D-3EAF-1/デザイン [ファッション] ー不定		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（考えて伝える力）、区分 2（気づき受け取る力）、区分 3（学びに向き合う力）

到達目標

- 1.演出やコンセプトに応じて自身の表現を吟味し、工夫することができる。
- 2.客観的に観察し、グループ内での個々の役割に応じたアドバイスすることができる。
- 3.周囲から得られた評価を自身の表現にフィードバックできる。

評価方法

活動記録・レポート 100%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントをつけて返却する。
成績評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画

大学祭・卒業制作展時のファッションショーおよび学外での大島紬のファッションショーを行うにあたり、講師の先生に依頼し、歩き方、ポージングの取り方、構成の仕方などをよりよく学び、身に付けるために、指導していただく。
ご指導をもとに、練習を行い、照明や音響とも合わせていく。
衣装や構成にあわせて、どのようなメイクやヘアアレンジがいいのか考えていく。
ショー終了後は振り返りを行う。

アクティブ・ラーニングの概要

実験・実習・実技科目のため省略

ICT 活用の概要

レポート課題の掲載に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

2年間とおして活動するが、履修登録は2年後期で行う。
ショーの構成、曲選び等、自分たちで考える。
その都度、日時・活動内容を指定の用紙に記録しておくこと。
再試験は行わない。

準備学習（予習・復習等）

練習がスムーズにいくように、事前に考え、練習後は振り返りを行うこと。

テキスト

特になし

参考文献

随時紹介する

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	大島紬研究Ⅱ		
担 当 教 員	宮地 真奈美, 濱崎 千鶴		
関 連 資 格			
備 考	産学共同研究		
ナンバリング	D-D1A9-1/地域研究〔郷土〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門的知識と技術）、区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1.きもの幅の反物をドレスに展開するためにデザインを工夫し、独創的なドレスを製作することができる。
- 2.大島紬の特徴や素材の特性に関する専門的な知識を身に付けている。
- 3.完成した作品のファッションショーを一般に公開し、大島紬の普及、活性化に繋げることができる。

評価方法

作品評価（80％）＋ レポート（20％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントをつけて返却する。

授業の展開計画

この科目では、大島紬の文様や色合いを生かした服飾品をデザイン・創作し、地域で開催される大島紬のイベントに出演する。

回	内容
1	前期から引き続き 大島紬トップス部分（芯貼り、ロックミシン）
2	大島紬トップス部分（各パーツを縫う）
3	大島紬トップス部分（ファスナー付け）
4	大島紬トップス部分（見返しつけ）
5	大島紬トップス部分（仕上げ）

6	大島紬ボトムス部分（裁断）
7	大島紬ボトムス部分（芯貼り、ロックミシン）
8	大島紬ボトムス部分（各パーツを縫う）
9	大島紬ボトムス部分（ウエスト仕上げ）
10	大島紬ボトムス部分（裾仕上げ）
11	試着後補正、仕上げ
12	コーディネート用小物製作
13	大島紬反物のデザイン
14	大島紬の商品開発についてディスカッション
15	大島紬の商品開発レポート作成

アクティブ・ラーニングの概要

作品製作（実習）、商品開発についてディスカッション（グループワーク）

ICT 活用の概要

レポート課題の掲載と提出に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

本科目を履修するためには「大島紬研究Ⅰ」を履修していることが必要である。
製作のスケジュールを確認し、作品を完成させ提出すること。

準備学習（予習・復習等）

2コマ連続で授業を行う。授業1コマあたり、事前・事後に計1時間の学修が必要である。
事前・事後に取り組むべき内容は、適宜指示する。
ファッションショーを行うにあたり、グループ編成構成や曲選び等をするので、事前に考えておくこと。
＊「ファッションモード実習」と二重カウントされていないか確認すること。

テキスト

特になし

参考文献

随時紹介する

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

宮地 職歴：ヒロコシノインターナショナル(株)チーフパタンナー、(株)ワールド、他でパタンナーとして勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	事務管理		
担 当 教 員	中村 民恵		
関 連 資 格	秘書士		
備 考	15 時間で 1 単位		
ナンバリング	D-F1A6-1/キャリア教育〔ビジネス〕ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（実務能力）区分 3（協働して挑戦する姿勢）

到達目標

- 1.PDCA サイクルの活用方法を理解し、組織的に実践することができる。
- 2.ビジネス実務における情報共有の重要性や効果的な共有手順を理解し、留意点を説明できる
- 3.現状と目標、課題をメンバーと共有し、協働して工夫・改善に取り組むことができる。

評価方法

課題（15%）＋ プレゼンテーション（15%）＋ 定期試験（70%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題は評価をつけて返却し、評価のポイントを解説する。

授業の展開計画

まず事務とは何かを明確にし、それをどのように活用していけば良いのかを考える。従来の「読み、書き、計算する」といった事務作業から、企業経営の意思決定に必要な情報を扱う仕事に変化してきていることを解説していく。また、創意工夫して課題解決に取り組む方法を学び、その成果をグループで討議したり発表する学修プログラム。

回	内容
1	事務の定義
2	事務のはたらき
3	事務の内容
4	企業における組織とヒト
5	企業の目的と役割

6	PDCA サイクルで事務を管理する
7	PDCA サイクル事例研究
8	PDCA サイクル実践例発表（個人）
9	事務改善の手順について
10	事務改善の事例研究（グループ討議）
11	事務改善について研究発表（グループ）
12	文書管理
13	社内文書作成
14	社外文書作成
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

PDCA サイクル実践例発表、事務改善研究発表（プレゼンテーション）事務改善事例研究（グループ討議）

ICT 活用の概要

情報や資料の共有、課題の掲載や提出に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

積極的な姿勢で授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）

授業 1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学修が必要である。
 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を調べよく理解しておくこと。
 復習として毎回授業で習ったことを整理し要点をまとめておくこと。実践例と研究発表をプレゼンしてもらうので、事前に考えをまとめておく。

テキスト

必要に応じて適宜資料を配付。

参考文献

室屋洋一編著『情報化時代の事務・文書管理』2011 年 3 月、嵯峨野書院

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

令和4年度入学生 こども学専攻専門教育科目

開講期		科目名
令和5年	通年	こども学研究
	前期	こども栄養学
		こどもと健康
		障がい児保育
		こどもと環境
		社会的養護Ⅱ
		保育内容(言葉)の指導法(絵本の読み聞かせ)
		ピアノ実践法
		からだを動かすあそび
		保育・教育課程総論
		保育実習Ⅰ(保育所)
		保育実習Ⅰ(施設)
		保育実習指導Ⅱ(保育所)
		保育実習指導Ⅲ(施設)
	その他	保育実習Ⅱ(保育所)
		保育実習Ⅲ(施設)
	後期	幼稚園教育実習Ⅰ
		幼稚園教育実習指導Ⅱ
		幼稚園教育実習Ⅱ
		こどもの食と栄養
		こどもと人間関係
		幼児理解と教育相談
		子育て支援
		こども家庭支援の心理学
		保育内容総論
		こども家庭支援論
		こどもとことば
		こども文学
		保育とメディア
		保育内容(表現)の指導法Ⅰ(工作による表現)
		ピアノ表現法
		保育・教職実践演習(幼稚園)

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	通年
単 位 区 分	必	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	こども学研究		
担 当 教 員	河野 一典, 益満 孝一, 今林 俊一, 森木 朋佳, 味園 佳奈, 中島 賢太郎, 大迫 貴, 本屋 梨紗		
関 連 資 格	保育士		
備 考	保育実践演習		
ナンバリング	C-9099-1/こども学〔総合〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3 (主体的に学ぶ力)、 区分 3 (探究心と自己研鑽力)、 区分 4 (こどもの未来を創造する力)

到達目標

- 1 自分たちで具体的な研究テーマを決め、研究目的と方法について明確に説明することができる。
- 2 研究テーマをめぐって調査・研究し、論文等としてまとめていく力が身に付いている。
- 3 論文等でまとめた研究成果を公に発表する力が身についている。

評価方法

最終論文等(50%)+口頭発表(30%)+グループ活動内容（主体性・協調性・探求心など）および個人レポート(20%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

研究過程で出されたレポートや成果は、その都度口頭で指導する。

授業の展開計画

指導教員のもとでグループごとに研究テーマを決定し、研究に取り組む。前期の授業の中で研究テーマ・目的・方法の概要を全体会で発表し、論文等の作成を視野に入れた研究を進める。後期 11 月頃からは口頭発表にむけたパワーポイントの作成に取りかかる。口頭発表のリハーサルを経て、1 月には 1 年生も交えて全体会で口頭発表を行う。最終授業では個人レポート（研究の振り返り）および完成した論文等の成果物を提出する。なお論文等は製本し専攻と図書館で保管する。

回	内容
1	〔前期〕「こども学研究」についてのガイダンス
2	各グループでのテーマ別研究 1(研究テーマの構想を練る)
3	各グループでのテーマ別研究 2(研究方法の構想を練る)

4	各グループでのテーマ別研究 3（先行研究の収集）
5	各グループでのテーマ別研究 4（先行研究の調査）
6	各グループでのテーマ別研究 5（研究資料の収集）
7	各グループでのテーマ別研究 6（研究資料の調査）
8	各グループでのテーマ別研究 7（研究目的や方法の具体的な検討）
9	各グループでのテーマ別研究 8（中間発表会の準備）
10	中間発表会：各グループの研究概要発表・質疑応答（全体）
11	各グループでのテーマ別研究 9（中間発表の反省と修正）
12	各グループでのテーマ別研究 10（グループ内の役割分担会議）
13	各グループでのテーマ別研究 11（フィールドワーク等の調査・研究活動 1）
14	各グループでのテーマ別研究 12（フィールドワーク等の調査・研究活動 2）
15	各グループでのテーマ別研究 13（前期のまとめと今後の課題の確認）
16	
17	〔後期〕各グループでのテーマ別研究 14（個別進捗状況の発表）
18	各グループでのテーマ別研究・論文等作成 1（目次・章立てを考える）
19	各グループでのテーマ別研究・論文等作成 2（序論の概要作り）
20	各グループでのテーマ別研究・論文等作成 3（第一章の文章化）
21	各グループでのテーマ別研究・論文等作成 4（第二章の文章化）
22	各グループでのテーマ別研究・論文等作成 5（第三章・第四章の文章化）
23	各グループでのテーマ別研究・論文作成 6（論文全体の仮提出）
24	口頭発表準備 1・パワーポイント原稿作成
25	口頭発表準備 2・パワーポイント作成
26	口頭発表リハーサル 1（質疑応答）
27	口頭発表リハーサル 2（質疑応答）または口頭発表の修正
28	口頭発表リハーサル 3（質疑応答）または口頭発表の修正
29	専攻内研究発表（前半グループ）および評価
30	専攻内研究発表（後半グループ）および評価
31	個人レポート・論文等の完成・提出

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間、全体またはグループで調査結果や自分の見解を披露して討論を重ねる。活発な意見交換を通じて、新たな疑問や課題を見出し、研究を深める。

ICT 活用の概要

情報や資料の共有に教育支援サイトを活用する。

履修上の注意事項

テーマ別研究においては各人が問題意識を持ち、主体的かつ協力的に研究を進めていくこと。探求したいテーマに沿って、自分の分担箇所については責任を持って執筆・編集等ができるように、授業外学修に取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）

各指導教員のアドバイスに従って、参考文献等を積極的に読むこと。また、論文作成やパワーポイント作成のために、授業時間以外にグループごとに研究作業を進めること。1回の授業の事前・事後に計1時間以上の学習が必要である。

テキスト

こども学専攻作成の「こども学研究ガイドライン」

参考文献

必要に応じて随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	こども栄養学		
担 当 教 員	鎌田 典子		
関 連 資 格	保育士		
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	C-9273-1/こども学〔心と身体の健康〕ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の基礎理解）（子ども理解）

到達目標

- 1 保育士として、子どもや保護者への食育指導に必要な実践的事項を理解し実践できる。
- 2 保育現場での食の様々な課題に気づき、それを解決するための手段を選択することができる。
- 3 保育士として、小児期の望ましい栄養について基礎的事項を理解し説明できる。

評価方法

定期試験（70%）、臨時試験（中間試験 20%・レポート 10%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは採点して返却するとともに授業内で解説を行う。

授業の展開計画

五大栄養素やその消化吸収、日常食の献立作成、食中毒の予防などの基礎知識を学び、食物アレルギー等を含めた乳幼児期の栄養の特徴をふまえて、保育所における子どもや保護者への食育が推進出来るような知識と態度を養う。

回	内容
1	自分の食生活を振り返ろう「私の一日の食事：プレゼンテーション」
2	子どもの健康と食生活の意義
3	栄養に関する基礎知識と摂り方「炭水化物」「脂質」
4	栄養に関する基礎知識と摂り方「たんぱく質」「ミネラル」「ビタミン」「水分」
5	栄養に関する基礎知識「食べ物の消化と吸収」「献立作成と調理の基本」

6	子どもの発育・発達の基本と食生活「胎児期」「乳児期」
7	子どもの発育・発達の基本と食生活「幼児期」「学童期など」
8	食育の基本「食育基本法」「食育推進基本計画」「保育における食育」
9	食育の基本と内容「食育の内容と計画および評価」「環境」「保護者への支援」
10	家庭における食事と栄養
11	児童福祉施設における食事と栄養
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養「疾病および体調不良の子どもへの対応」
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養「食物アレルギーのある子どもへの対応など」
14	子どもの食生活上の問題（食育について：ディスカッション）
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

必要に応じてグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行う。

ICT 活用の概要

教材・資料・授業スライドの掲載

履修上の注意事項

毎回異なるテーマを扱うが、自分の考えを積極的に持ち、それを他者に発表する態度で授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）

予習：教科書の該当部分を事前に読んでくること。

復習：本や雑誌、インターネット等を利用した調べ学習で既習の内容をより深め説明できるようにする。

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。

テキスト

飯塚美和子ほか編『最新子どもの食と栄養』2021 年 3 月、学建書院

参考文献

適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:管理栄養士

職歴:鹿児島市医師会病院等で管理栄養士として勤務

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	こどもと健康		
担 当 教 員	本屋 梨紗		
関 連 資 格	幼二種免、保育士		
備 考	保育内容演習		
ナンバリング	C-9276-1/こども学〔心と身体の健康〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の基礎理解）、区分 1（子ども理解）

到達目標

- 1.現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を理解している。
- 2.領域「健康」の保育内容（ねらい、内容等）及び保育者の役割について理解している。
- 3.心身の成長・発達を踏まえて、遊びや基本的生活習慣の形成、安全教育、健康管理に対する保育者の役割と援助方法について理解している。

評価方法

レポート（60％）＋課題（40％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題については授業内で解説を行う。
レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

- 1.乳幼児の健康を増進することを意識しながら進める。
- 2.演習方法は、映像資料や事例等の活用、グループ検討、全体発表、課題提出を随時取り入れる。
- 3.課題については説明の時間を設ける。

回	内容
1	領域「健康」の意味すること:子どもの健康とは何か、領域「健康」において育むもの
2	健康に関わる子どもの生活実態:現代社会における子どもたちの健康に関わる生活実態について意見交換する
3	健康に関わる子どもの生活実態:グループ検討内容とそこから見出される課題の発表
4	子どもの心身の健康:基本的生活習慣の支援の必要性について考える
5	子どもの身体の発達と園生活:子どもにとって身体・運動が発達することの意味を考える
6	子どもの心の発達と園生活:情緒・社会性・知的能力への支援について考える

7	遊びと健康:室内遊びや戸外の遊びなどから、運動遊びの意義
8	健康に関わる遊びと保育者の援助:遊びの種類とその支援についてまとめる
9	基本的生活習慣の指導・援助(1):基本的生活習慣をあげて、その支援方法をまとめる
10	基本的生活習慣の指導・援助(2):子どもの意欲を引き出すための支援について考える
11	保健への配慮と子どもへの指導・援助(1):園での健康管理、食育、保健計画
12	保健への配慮と子どもへの指導・援助(2):疾病とその予防、事故とその処置
13	保育者としての安全の管理と指導・援助(1):安全管理の意義、事故や怪我の実態、重大事故の予防
14	保育者としての安全の管理と指導・援助(2):災害に対する安全指導
15	園外保育で育つ心身の健康:事例をもとにグループ検討と発表

アクティブ・ラーニングの概要

理解を深めるため、随時グループワークを行う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

特になし

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。具体的には、授業者が指定した範囲について教科書を熟読しておくこと。またグループワークのテーマを提示するので、事前に調べて自分の意見をまとめておくこと。
日頃から子どもの健康や保育現場（健康に関する取り組みや事故等）に関する書籍や新聞・雑誌の記事に関心を持ち目を通す習慣をもつこと。
随時レポート課題を出す。

テキスト

榎沢良彦・入江礼子著『シードブック 保育内容 健康』2009年1月、建帛社出版
文部科学省『幼稚園教育要領』2017年4月、『幼稚園教育要領解説』2018年3月、フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針』2017年4月、『保育所保育指針解説』2018年3月、フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年4月、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2018年3月、フレーベル館

参考文献

河邊貴子・鈴木康弘・渡辺英則編著『新しい保育講座7 保育内容 「健康」』2020年4月、ミネルヴァ書房

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:看護師、助産師、保健師 実務経験:総合周産期母子医療センター勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	障がい児保育		
担 当 教 員	中島 賢太郎		
関 連 資 格	保育士		
備 考	障害児保育		
ナンバリング	C-9276-2/こども学〔心と身体の健康〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（豊かな人間性と共生の精神）	区分 1（子どもの理解）	区分 1（保育・教育の実践力）
--------------------	--------------	-----------------

到達目標

- | |
|---|
| <p>1.障がい種別ごとの特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解し、保育における計画の作成や具体的な支援方法について説明することができる。</p> <p>2.障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解している。</p> <p>3.当事者及び援助者の立場に立った体験的な学びを通して、援助の基本的な知識・理解が身に付いている。</p> |
|---|

評価方法

定期試験 50%、授業毎の小レポート・提出物 50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ワーク毎にレポートを課し、全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

障がいを自分のこと・保育者として理解するために、ワークを通して体感したり事例を考えたりして学び考える。一年次に学んだ実際の援助の仕方を実習での経験や対話を通して身に付けていく。障がい児者に対する理解と支援についてインクルーシブ保育の視点からも意識が深まるように進める。

回	内容
1	「障害」の概念と障がい児保育の歴史的変遷
2	インクルージョン及び合理的配慮の理解と障がい児保育の基本
3	障がいの理解と援助：知的障がい
4	障がいの理解と援助：肢体不自由
5	障がいの理解と援助：視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい
6	発達障がいの理解と援助：自閉症スペクトラム

7	発達障がい理解と援助：注意欠陥多動性障がい・学習障がい
8	重症心身障がい児及び医療的ケア児の理解と援助
9	特別な支援を要する子どもの理解と援助 インクルーシブ保育のあり方
10	障がい児の多角的支援：家庭支援・関係機関との連携
11	指導計画及び個別の支援計画の理解
12	指導計画及び個別の支援計画の作成
13	個々の発達を促す生活や遊びの環境
14	子ども同士の関わり合いと育ち合い
15	障がい児保育における子どもの健康と安全

アクティブ・ラーニングの概要

障がい種別ごとに体験ワークを実施する。

ICT 活用の概要

教育リソースの活用(インターネット等を通じて無償で入手可能な講義教材、教育ソフトウェアを含む教育リソースの活用)

履修上の注意事項

障がいに関心を持たないと授業の内容が身に付かないので、ボランティア等を通し積極的に障がい児者に触れて欲しい。

障がい児者についてのニュースやテレビ番組等も積極的に観るなどし、理解を深めること。

準備学習（予習・復習等）

体験ワークを実施する際には、事前に体験内容を提示するので、介助の方法や配慮点をまとめておくこと。

各障がいの内容について事前に資料を配布するので必ず予習すること。

復習としては、講義内容を振り返りプリントを整理し理解を深めること。

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。

テキスト

小橋拓真編著 『障がい児保育』2019 年、中山出版

参考文献

尾崎康子 阿部美穂子 水内豊和編著 『よくわかるインクルーシブ保育』2020 年、ミネルヴァ書房

村田一二著作代表 『障害児保育 子どもとともに成長する保育者を目指して』2018 年、萌文書林

ユーキャン学芸出版 『ユーキャンの発達障害の子の保育 さいしよの一冊 第 2 版』2020 年、自由国民社

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:小学校・中学校・特別支援学校専修免許状、学校心理士、公認心理師
職歴:神奈川県及び鹿児島県の公立小学校教諭、さつま町教育委員会学校教育課指導主事(特別支援教育、生徒指導、不登校児童生徒対応を担当)

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	こどもと環境		
担 当 教 員	味園 佳奈		
関 連 資 格	幼二種免、保育士		
備 考	保育内容演習		
ナンバリング	C-9376-1/こども学〔こどもと環境〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1(保育・教育の基礎理解) 区分 1(子ども理解)

到達目標

- 1.乳幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解している。
- 2.乳幼児期の思考・科学的概念の発達、文字・数・情報との関わりの発達について理解している。
- 3.領域「環境」のねらい及び内容について理解し、それを踏まえた援助の在り方について考え、説明できる。

評価方法

臨時試験(レポート 50%)+課題(40%)+発表(10%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題については全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能について理解を深める。特に事例検討や発表、栽培活動等を通して子どもが環境に関わる力を育てるための指導の在り方や保育者の役割について学ぶ。

回	内容
1	授業ガイダンス 保育の基本と領域「環境」
2	子どもの育ちと環境
3	栽培活動① アサガオの種まき
4	ものや道具との関わり
5	自然に親しむ① フィールドビンゴの作成

6	自然に親しむ② 事例検討
7	文字や標識、数量、図形との関わり
8	生活の情報との関わり① 年中行事について調べる
9	生活の情報との関わり② 指導案の作成
10	生活の情報との関わり③ プレゼンテーション
11	生活の情報との関わり④ クラス発表
12	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「環境」
13	幼児教育の現代的課題と領域「環境」
14	栽培活動② アサガオの観察、世話ほか
15	領域「環境」における人的環境の意味

アクティブ・ラーニングの概要

第10回の授業では理解を深めるためにプレゼンテーションを行う。

ICT活用の概要

レポート課題の掲載・提出

履修上の注意事項

演習が主となる。積極的に取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）

活動に必要な物を事前に確認して準備しておくこと。
 1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。
 第10回のプレゼンテーションでは、取り扱いたい年中行事について調べ、指導案作成や試作をした上で、どのように保育を展開するのかプレゼンテーションできるように準備しておくこと。

テキスト

無藤隆監修 『事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境』 2007年 萌文書林

参考文献

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 2018年 フレーベル館
 厚生労働省 『保育所保育指針解説』 2018年 フレーベル館
 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年 フレーベル館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	社会的養護Ⅱ		
担 当 教 員	益満 孝一		
関 連 資 格	保育士		
備 考	社会的養護Ⅱ		
ナンバリング	C-9376-2/こども学〔こどもと環境〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の基礎理解）区分 1（保育・教育の職務理解）区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1.社会的養護の基礎的な内容と施設養護及び家庭養護の実際について理解し論考できる。
- 2.社会的養護における計画・記録・自己評価の実際及びソーシャルワークの方法・技術について理解し論考できる。
- 3.社会的養護における児童虐待防止と家庭支援について論考できる。

評価方法

定期試験(80%)+臨時試験（レポート 20%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートなど課題については、講義中にフィードバックを行う。
定期試験については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出た学生のみ対応する。

授業の展開計画

社会的養護の問題について、具体的な事例について、ソーシャルワークやカウンセリングなど専門的技術を取り入れた演習を行う。
事例についての理解を深め、相談援助の支援の在り方について理解を深める。

回	内容
1	子どもの権利擁護
2	社会的養護における子どもの理解
3	社会的養護の内容 ①日常生活支援
4	社会的養護の内容 ②心理的支援 カウンセリングによる心理的支援について学ぶ
5	社会的養護の内容 ③自立支援 コーチングによる自立支援について学ぶ

6	施設養護の生活特性および実際 ①乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設生活施設での生活支援、ソーシャルワークによる支援について学ぶ
7	施設養護の生活特性および実際 ②障害児施設、児童心理治療施設など障害や心理的課題のある子どもへのケースマネジメントによる支援について学ぶ
8	家庭養護の生活特性および実際 里親、養子縁組などについて学ぶ 里親支援専門員、里親、専門里親など家庭養護について学ぶ
9	アセスメントと個別支援計画の作成 グループワークにより個別支援計画を作成する
10	記録および自己評価
11	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践
12	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 ソーシャルワーク、カウンセリング、ケースマネジメントなど対人援助技術について理解を深める
13	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用） コミュニケーションスキルを体験的に学ぶ
14	社会的養護における家庭支援・児童家庭福祉・地域との連携
15	今後の社会的養護の課題と展望 社会的養護の中で家庭養護への動向について学ぶ

アクティブ・ラーニングの概要

ソーシャルワークやカウンセリングなど専門的技術を取り入れた演習を行う。

ICT 活用の概要

Google Classroom および GoogleMeet（ビデオ会議）を用いた授業を行う。

履修上の注意事項

授業中のロールプレイやグループワークには、積極的に参加すること。

準備学習（予習・復習等）

授業 1 コマあたり、事前・事後学習に計 1 時間の学習が必要である。
教科書や配布資料をもとに、計画的に事前・事後学習を行うこと。

テキスト

公益財団法人児童育成協会監修／相澤仁・村井美紀・大竹智編集『社会的養護Ⅱ』2019 年、中央法規

参考文献

随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	保育内容(言葉)の指導法(絵本の読み聞かせ)		
担 当 教 員	森木 朋佳		
関 連 資 格	幼二種免、保育士		
備 考	保育内容の理解と方法		
ナンバリング	C-9476-1/こども学〔こどもと文化〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の実践力）

到達目標

- 1.乳児や幼児の発達過程における絵本の役割と意義について適切な言葉で説明できる。
- 2.絵本の種類や絵本の構造等を踏まえ、対象やねらいに合わせて適切な題材の絵本を選定できる。
- 3.具体的な保育場面に応じて、絵本やその他の児童文化財を活用できる。

評価方法

課題(基礎技能の習得状況・授業や演習の記録・絵本リスト:80%)+最終レポート(20%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題は授業中にフィードバックする。最終レポートについては、履修者の求めに応じて教育支援サイトを通じてフィードバックする。

授業の展開計画

絵本の種類や構造について学び、乳児・幼児の発達と絵本の関わりについて理解深める。また、読み聞かせの基礎技能の習得を目指すとともに、絵本リストの作成やパネルシアターなどの作成を通して、教材管理の方法や教材開発の方法について学ぶ。
グループ別での演習では、絵本やその他の児童文化財を活用した、子どもの豊かな言葉や表現の育ちにつながる保育実践の方法について検討していく。

回	内容
1	ガイダンス：「絵本の読み聞かせ」の授業で学ぶこと 基礎技能(1)：絵本の種類・絵本リストの作成方法
2	基礎技能(2)：絵本の基本構造・構造理解から見る乳幼児の発達
3	基礎技能(3)：絵本の基本構造から考える絵本の取り扱い・読み方の基本
4	基礎技能(4)：読み聞かせの技術・読み方記号の活用とテキスト分析
5	基礎技能(5)：言葉やお話のリズムと間を意識した読み聞かせの意義と方法

6	テーマ別演習(1)：季節を感じられる絵本の選択
7	テーマ別演習(2)：ねらいに合わせた絵本の選択とテーマ理解の工夫
8	テーマ別演習(3)：絵本の内容理解を目的とした活動への展開
9	絵本からの発展(1)：パネルシアターの構造・特性と教材開発の方法
10	絵本からの発展(2)：パネルシアターの作成
11	絵本からの発展(3)：指導計画に基づくパネルシアターの実演と評価
12	絵本からの発展(4)：紙芝居の取り扱いと教材としての紙芝居の意義
13	絵本からの発展(5)：保育場面に合わせた紙芝居の選定（実演と評価）
14	まとめと評価(1)：ねらいに合わせた絵本の読み聞かせ（実演と評価：前半）
15	まとめと評価(2)：ねらいに合わせた絵本の読み聞かせ（実演と評価：後半）

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間、絵本や他の児童文化財の扱いについて、グループワークを行う。グループワークでは、取り組みの様子や成果を報告し合う機会を設け、それらに授業者がコメントしたり、全体で意見を交換したりする方法でフィードバックを行う。

ICT 活用の概要

教材の提供や授業の補足に教育支援サイトを活用する。

履修上の注意事項

理論の説明が中心となる授業回もあるが、技術の向上と実践力をつける機会となるよう、主体的に課題や演習内容に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）

授業1コマあたり、事前・事後に計1時間の学習が必要である。具体的には授業の予習として6～10冊程度の絵本を読み、それらを絵本リストに記録しておくこと。また、演習で利用する絵本などの選定を行ったり、パネルシアターなどの製作に取り組んだりしておくこと。

テキスト

北欧民話 マーシャ・ブラウン え せたていじ やく『三びきのやぎのがらがらどん』1965年、福音館書店
東京子ども図書館『よみきかせのきほん 保育園・幼稚園・学校での実践ガイド』2018年、東京子ども図書館

参考文献

ウクライナ民話 エウゲーニー・M・ラチョフ え うちだりさこ やく『てぶくろ』1965年、福音館書店

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	ピアノ実践法		
担 当 教 員	大迫 貴, 嘉野 美津子, 井ノ上 綾香		
関 連 資 格	保育士		
備 考			
ナンバリング	C-9576-1/こども学〔こどもと表現〕—中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の実践力）

到達目標

1. 実習園や就職試験のための課題曲や童謡などをコード奏法も活用し、ピアノ経験に応じた柔軟な演奏ができる。
2. 修得したコード奏法を活用し、子どもの歌の曲想に合わせた伴奏を工夫して演奏できる。
3. 保育の場の音楽活動を想定し、子どもの声や動きを生かしたピアノ伴奏ができる。

評価方法

実技発表（70%）＋小レポート・期末レポート（30%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回与えられる課題への取り組み、上達度、および実技発表における評価と指導を行う。
小レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

保育内容（表現）の指導法Ⅳ（ピアノ表現Ⅱ）の授業内容を引き継ぎ、保育現場で必要なピアノ演奏に即応できるよう、基礎テクニックとコードの基礎を活用し、童謡の伴奏のレパートリーを増やす。少人数グループレッスンにより、90 分の授業を全体の指導と個人指導に時間配分して授業を展開する。

回	内容
1	ピアノテクニック：ハ長調の音階 童謡：かたつむり①コード奏と伴奏 実習園の課題曲①
2	ピアノテクニック：ハ長調の音階復習 童謡：かたつむり②弾き歌い 実習園の課題曲②

3	ピアノテクニック：ト長調の音階 童謡：時計のうた①コード奏と伴奏 実習園の課題曲③
4	ピアノテクニック：ト長調の音階復習 童謡：時計のうた②弾き歌い 実習園の課題曲④
5	ピアノテクニック：ニ長調の音階 童謡：あめふりくまのこ①コード奏と伴奏 実習園の課題曲⑤
6	ピアノテクニック：ニ長調の音階復習 童謡：あめふりくまのこ②弾き歌い 実習園の課題曲⑥
7	ピアノテクニック：ヘ長調の音階 童謡：ぞうさん①コード奏と伴奏 子どもの動きに合わせて：マーチ①
8	ピアノテクニック：ヘ長調の音階復習 童謡：ぞうさん②弾き歌い 子どもの動きに合わせて：マーチ②
9	ピアノテクニック：3和音の基本形 童謡：こぶたぬきつねこ①コード奏と伴奏 実践的なピアノ伴奏を目指して：自由曲①
10	ピアノテクニック：3和音の基本形復習 童謡：こぶたぬきつねこ②弾き歌い 実践的なピアノ伴奏を目指して：自由曲②
11	ピアノテクニック：3和音の転回形 童謡：たなばたさま①コード奏と伴奏 より実践的なピアノ伴奏を目指して：自由曲①
12	ピアノテクニック：3和音の転回形復習 童謡：たなばたさま②弾き歌い より実践的なピアノ伴奏を目指して：自由曲②
13	ピアノテクニック：分散和音 童謡：南の島のハメハメハ大王①コード奏と伴奏 伴奏をアレンジして：自由曲
14	ピアノテクニック：分散和音復習 童謡：南の島のハメハメハ大王②弾き歌い 伴奏をアレンジして：自由曲 復習
15	ピアノテクニック：復習 童謡弾き歌い 自由曲 発表

アクティブ・ラーニングの概要

学びを深め、練習の成果を保育の音楽活動につなげていくために、随時課題を発表し、他者の演奏を聴き合う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

毎日、コツコツと練習を積み重ねることが大切である。
 毎回与えられる課題曲を随時発表し、評価するので休まないようにする。
 実習園の課題曲の練習に積極的に取り組み、ピアノ技能の修得に努める。
 保育内容（表現）の指導法Ⅳ（ピアノ表現Ⅱ）の履修を済ませておくこと。

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の練習が必要である。
 毎回、進度に応じた課題が与えられるので、次の授業までにしっかりと練習をしておくこと。

テキスト
鹿児島市私立幼稚園協会編『うたとあそび「うた」をきっかけに広がる保育のために』2019年6月、共同音楽出版社 在原章子、菊本哲也、三好優美子、柳田憲一、山内悠子共著『新版和音伴奏による幼児の歌100曲』2019年3月、全音楽譜出版社

参考文献
随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要
該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	からだを動かすあそび		
担 当 教 員	萩原 香織		
関 連 資 格	保育士		
備 考			
ナンバリング	C-9576-2/こども学〔こどもと表現〕—中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の実践力）

到達目標

- 1.自然発生的な自己表現が発育に伴い、単純なルールを伴う社会性を帯びた遊びへと発展することを理解できる。
- 2.からだを動かす縄遊びや初歩的なスポーツなどを通して、人間関係がどのように成立していくかを理解できる。
- 3.からだを動かすことで、こどもが表現したいことを理解できる。

評価方法

実践演習試験（80%）、レポート（20%）から評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時間の学習シートはコメントをつけて返却する。

授業の展開計画

こどもが楽しく運動の欲求を満たすことはもちろんのこと安全に遂行できるよう保育者としての視点でそれぞれのプログラムを構築できる実践力を養成する。1 年前期で実施したリズム体操を毎回の準備体操とする。気温に合わせて実施種目を変更することがある。

回	内容
1	オリエンテーション、1 年で実施したリズムダンスの復習をする。
2	リズム運動、グループに分かれ、それぞれオリジナルで簡単なリズム体操の創作をする。
3	ゴム跳び、NO. 1. 2. 3 のステップをマスターする。入念な足のストレッチをする。
4	ゴム跳び、グループで実施する。足のマッサージをする。
5	縄跳び（短縄）、個人で跳ぶ。幼児への指導法を学ぶ。

6	縄跳び（長縄）、複数で跳ぶ。色々な跳び方で跳ぶ。ダブルダッチを実施する。
7	色々な生き物に変身、何も器具を使わず自分のからだを使ってみる。
8	マット運動、幼児への指導法を学ぶ。
9	ボール遊び、柔らかい・硬い素材の違いを実感してあそびを考える。
10	フープあそび、個人でグループで様々なあそびを考える。
11	新聞あそび、新聞紙を使ってからだを使うあそびを考える。
12	ドッジビー、フリスビーとドッジボールのコラボレーションドッジビーに親しむ。
13	輪投げ、ボーリングもどき 数人でオリジナルを作成する。
14	運動会の種目をつくる
15	運動会の種目・発表会

アクティブ・ラーニングの概要

チームでの取り組み。グループでのディスカッション。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

こども達に適したからだあそびとは何かについて考えることが、事前学習として必要である。そして、そのことについて授業の中で、意見交換を行う。何より自分たちも楽しむことである。

準備学習（予習・復習等）

1回の授業あたり、事前事後に1時間の学修が必要である。
次時の内容予告を受けて、同類のあそびについてグループで情報交換する。
毎回の授業後に学習シートの記入をする。

テキスト

必要に応じて資料を配布する。

参考文献

柳沢秋孝著『鉄棒、とび箱、なわとび、マットができるようになる運動あそび』2006年11月
ひかりのくに
『幼児体育指導者検定公式テキスト』2013年7月 タイケン出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし。

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	保育・教育課程総論		
担 当 教 員	味園 佳奈		
関 連 資 格	幼二種免、保育士		
備 考	保育の計画と評価		
ナンバリング	C-9776-1/こども学〔乳幼児教育〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1(保育・教育の基礎理解)

到達目標

- 1.教育課程・保育の計画の意義を理解している。
- 2.教育課程・保育の計画と幼稚園教育要領・保育所保育指針等の関係、教育評価の意義、指導計画との関連性について理解している。
- 3.カリキュラム・マネジメントの意味や意義を理解している。

評価方法

定期試験(90%)＋課題(10%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学びを振り返ることを目的にミニレポートを課す。レポートは評価後返却し、その際、解説する。

授業の展開計画

入園から修了までの園生活の大綱である教育課程・保育の計画と評価について学ぶ。教育・保育の場におけるカリキュラムの編成の方法及び留意点、カリキュラムの基礎となる幼稚園教育要領・保育所保育指針の理解を深めるとともに、計画性のある保育を実践するための方法について学ぶ。また、教育・保育を「計画、実施、評価、改善」の過程から捉え、保育の質の向上のためのシステムについても学ぶ。

回	内容
1	保育における計画の意義
2	幼稚園・保育所における保育の計画
3	乳幼児の発達的特徴
4	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の変遷
5	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の内容と社会的背景

6	保育の計画の基本①：環境を通して行う保育
7	保育の計画の基本②：乳幼児期にふさわしい生活
8	保育の計画の基本③：遊びを通した総合的な指導・一人一人の発達の特性に応じた指導
9	幼児期に育みたい資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿及び5領域のねらい・内容
10	長期指導計画①：教育課程・保育の計画との関連
11	長期指導計画②：長期指導計画作成の手順・ポイント
12	短期指導計画①：長期指導計画との関連
13	短期指導計画②：短期指導計画作成の手順・ポイント
14	保育の記録・反省・評価ーカリキュラム・マネジメントの構築ー
15	保育の質向上に向けた改善の取組ーカリキュラム・マネジメントの意義と重要性ー

アクティブ・ラーニングの概要

学びを振り返ることを目的にミニレポートを課す。レポートは評価後返却し、その際、解説する。

ICT 活用の概要

教材・資料の掲載

履修上の注意事項

理解すること・考えることを重視して授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）

ミニレポートを課すので、復習としてテキストを精読し、授業で学んだことの確認を行うこと。
1コマあたり、事前・事後に計4時間の学習時間が必要となる。

テキスト

岸井勇雄他 『保育の計画と方法』 2013年4月、同文書院

参考文献

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 2018年3月、フレーベル館
厚生労働省 『保育所保育指針解説』 2018年3月、フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年3月、フレーベル館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	保育実習Ⅰ（保育所）		
担 当 教 員	森木 朋佳 大迫 貴		
関 連 資 格	保育士		
備 考	保育実習Ⅰ 学外実習		
ナンバリング	C-964C-1/こども学〔保育実習〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の職務理解）、区分 2（企画力・観察力・実行力）、区分 4（こどもの未来を創造する力）

到達目標

1. 保育所等の役割や機能を理解している。
2. 保育所等の生活の流れや、そこでの子どもの姿について説明できる。
3. 様々な保育場面での保育士の配慮や意図・工夫に気づき、説明できる。

評価方法

実習状況・実習記録・指導計画（20%）+実習施設の評価（80%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

履修者の求めに応じて個別にフィードバックする。

授業の展開計画

保育所での実習を行う。実習期間はおおむね 11 日間である。保育実習Ⅰでは、主に保育所の生活の流れに参加し、そこで生活する乳幼児等への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶことに主眼をおく。

回	内容
1	保育所における実習（学外実習）
2	実習の内容 実習園について理解する。
3	実習園での生活の流れを理解し、参加する。
4	子どもの観察や関わりをとおして、乳幼児等への理解を深める。
5	保育計画・指導計画等について理解する。
6	生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する。

7	保育所における保育士の職務について理解する。
8	職員間の役割分担や、チームワークについて理解する。
9	生活や遊びの一部を対象とした指導計画を立案する。
10	指導計画をもとに保育を実践し、その評価を行う。
11	記録に基づく省察と自己評価を行う。
12	子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。
13	保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
14	安全及び疾病予防への配慮について理解する。
15	保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲに向け自己課題を明確化する。

アクティブ・ラーニングの概要

実験・実習・実技科目のため省略。

ICT 活用の概要

必要な書式の提供や情報の共有に教育支援サイトを活用する。

履修上の注意事項

保育実習指導Ⅰ（保育所）と合わせて履修すること。
 実習生としてふさわしい態度・姿勢で臨むこと。
 事前のオリエンテーションは必ず実施し、実習園から提示された課題等に取り組んでおくこと。
 実習を無断で遅刻・欠席した場合には、単位を認定しないことがある。

準備学習（予習・復習等）

実習時間 90 時間で 2 単位科目のため、実習時間内に含める。

テキスト

特に指定しない。「保育実習記録」を配布する。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』2017 年 4 月、フレーベル館
 厚生労働省『保育所保育指針解説書』2018 年 3 月、フレーベル館
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017 年 4 月、フレーベル館
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2018 年 3 月、フレーベル館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

学外実習科目

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	保育実習 I（施設）		
担 当 教 員	益満 孝一 大竹山 なつき		
関 連 資 格	保育士		
備 考	保育実習 I 学外実習		
ナンバリング	C-964C-2/こども学〔保育実習〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の職務理解） 区分 2（企画力・観察力・実行力） 区分 4（こどもの未来を創造する力）

到達目標

- 1.児童福祉施設等（保育所外）で日々営まれている保育に参加し、保育士の業務内容や職業倫理について理解している。
- 2.児童福祉施設等（保育所外）での日常の生活や遊び場面を通して、保育に必要な知識や技能を習得し、実践することができる。
- 3.児童福祉施設等（保育所外）の役割や機能を具体的に理解するとともに、保育士としての自己の課題を明確にすることができる。

評価方法

実習状況・実習記録・指導計画（20%）、実習施設の評価（80%）を総合して評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

個別にフィードバックを行う。

授業の展開計画

保育所以外の児童福祉施設等で実習を行う。実習期間はおおむね 11 日間である。保育実習 I では、主に保育所や保育所以外の児童福祉施設等の生活の流れに参加し、そこで生活する乳幼児等への理解を深めるとともに、実習施設の機能と保育士の職務について学ぶことに主眼をおく。

回	内容
1	保育所以外の児童福祉施設等における実習（学外実習）
2	実習の内容 実習施設について理解する。
3	実習施設での生活の流れを理解し、参加する。
4	子どもや利用者の観察や関わりをとおして、乳幼児等への理解を深める。

5	保育計画・指導計画、援助計画について理解する。
6	生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する。
7	実習施設における保育士の職務について理解する。
8	職員間の役割分担や、チームワークについて理解する。
9	生活や遊びの一部を対象とした指導計画を立案する。
10	指導計画をもとに保育を実践し、その評価を行う。
11	記録に基づく省察と自己評価を行う。
12	子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。
13	保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
14	安全及び疾病予防への配慮について理解する。
15	保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲに向け自己課題を明確化する。

アクティブ・ラーニングの概要

福祉施設での学外実習を行う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

保育実習指導Ⅰ（施設）と合わせて履修すること。
 実習には実習生としてふさわしい姿勢で臨むこと。
 提出物などの期限は厳守すること。
 実習を無断欠席・無断遅刻した場合には、単位を認定しないことがある。

準備学習（予習・復習等）

実習に必要な手続きを確実に行うとともに、事前のオリエンテーションは必ず実施すること。
 また、実習施設から提示された課題等には必ず取り組んでおくこと。

テキスト

特になし

参考文献

岡本幹彦他編集『四訂福祉施設実習ハンドブック』 2013年、みらい
 鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻 『幼稚園教育実習・保育実習の手引き』

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

福祉施設での学外実習

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	保育実習指導Ⅱ（保育所）		
担 当 教 員	森木 朋佳		
関 連 資 格	保育士		
備 考			
ナンバリング	C-9679-1/こども学〔保育実習〕一上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3（探究心と自己研鑽力）

到達目標

1. 保育実習Ⅱの意義・目的を理解していて、必要な手続きや準備を確実に行うことができる。
2. 子ども理解に基づく指導案作成の方法を理解していて、具体的な保育場面の指導案が作成できる。
3. 保育実習Ⅱの意義・目的を理解していて、実習および今後の自己課題を設定できる。

評価方法

課題・提出物（70%）+最終レポート（30%）
 ※事前と事後を一体して評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題・小レポートは、授業中にフィードバックする。最終レポートについては、履修者の求めに応じて教育支援サイトを通じてフィードバックする。

授業の展開計画

事前指導では、保育実習Ⅱに向けて実習実施上の留意点などを確認するとともに、指導実習を行うことを念頭におき、保育実習Ⅰを踏まえた深い子ども理解や、それに基づく指導計画の作成などを行う。事後指導では、保育実習Ⅱの経験を客観的に振り返る機会とするとともに、これまでの実習を総括し、将来の保育士としての今後の課題を明確にする。

回	内容
1	保育実習Ⅰの具体的な内容を振り返り、保育実習Ⅱの課題を明確化
2	保育実習Ⅱの内容と方法:実習で経験する内容/実習の段階/実習の方法
3	対象年齢にあわせた指導案の立案(1):素案マップの作成の仕方
4	対象年齢にあわせた指導案の立案(2):素案マップの作成
5	対象年齢にあった保育計画の立案(3):素案マップの発表

6	実習記録の活用(1)：記録の見直し
7	実習記録の活用(2)：記録を活用した指導案の作成（朝の会/降園活動/読み聞かせ活動など）
8	指導案の立案と素材研究・教材研究(1)：素材研究の意義・方法
9	指導案の立案と素材研究・教材研究(2)：素材研究の実際（身近な素材）
10	指導案の立案と素材研究・教材研究(3)：素材研究に基づく素案の立案
11	指導案の立案と素材研究・教材研究(4)：素材研究に基づく素案の発表（前半）
12	指導案の立案と素材研究・教材研究(5)：素材研究に基づく素案の発表（後半）
13	指導案の立案と素材研究・教材研究(6)：素材研究に基づく指導案の作成
14	事後指導(1)：全体でのまとめ（実習の段階・内容・指導案の立案と実施について）
15	事後指導(2)：自己評価と今後の課題の設定

アクティブ・ラーニングの概要

素材研究や指導案の立案では、グループワークを取り入れる。
グループワークでは、取組みの様子や成果を報告し合う機会を設け、それらに授業者がコメントしたり、全体で意見を交換したりする方法でフィードバックを行う。

ICT 活用の概要

教材や授業の補足等に教育支援サイトを活用する。

履修上の注意事項

保育実習指導Ⅱを履修しようとする者は、保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修していなければならない。保育実習Ⅱと合わせて履修すること。
保育実習指導Ⅱでは届出なしの欠席は認めない。

準備学習（予習・復習等）

授業1コマあたり、事前・事後に計1時間の学習が必要である。具体的には、授業の進行に合わせ、指導案の作成や実習計画の作成等の課題を提示するので、必ず取組んでおくこと。また、実習に必要な手続きや提出すべき書類の作成に取組んでおくこと。

テキスト

幼少年教育研究所編著『新版 遊びの指導 乳・幼児編』2009年、同文書院

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』2017年4月、フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説書』2018年3月、フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年4月、フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2018年3月、フレーベル館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	保育実習指導Ⅲ（施設）		
担 当 教 員	益満 孝一		
関 連 資 格	保育士		
備 考			
ナンバリング	C-9679-2/こども学〔保育実習〕一上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3（探究心と自己研鑽力）

到達目標

1. 保育実習Ⅰ（施設）での反省を踏まえ、保育実習の意義と目的を理解し、実習における自己目標を明確にすることができる。
2. 保育士の専門性と職業倫理を踏まえ、自身の保育観を明確にするとともに、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について理解している。
3. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行ない、今後の課題や目標を明確にすることができる。

評価方法

課題への取り組み・提出物、レポート（100%）
※事前・事後を一体として評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元ごとに提出物またはレポートを課し、論評を加え返却する。

授業の展開計画

社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習Ⅰ」での実習体験をいかして、福祉施設での子どもや障がい者への援助内容や方法について理解を深め、家族を含めた家庭支援の知識や技術、判断力を養うことができるように、実習ⅠとⅢとの比較の中で学んでいく。

回	内容
1	保育実習Ⅲの意義
2	保育実習Ⅲの目的と内容
3	多様な児童福祉施設の理解
4	実習施設と入所者の理解
5	保育士とソーシャルワーク：近年の子どもと家庭の福祉ニーズの理解

6	保育士とソーシャルワーク：保育士にとってのソーシャルワークの視点
7	保育士と地域社会のかかわり：施設と地域の関係、相談・子育て支援
8	ケース研究：ケースの背景の理解
9	ケース研究：子どもの状態に応じたかかわり方
10	援助計画の立案
11	施設に対する評価の実際
12	実習Ⅲの目標と課題の設定
13	実習Ⅲにおける記録の工夫
14	事後指導：実習報告等
15	事後指導：実習の評価（施設の評価と自己評価）、課題の明確化

アクティブ・ラーニングの概要

実際の事例を基にケースワークの組み立てやケース研究を行う。

ICT 活用の概要

資料の掲載

履修上の注意事項

保育実習Ⅲ（施設）と合わせて履修すること。
事前指導では、施設実習に必要な準備などを行う。原則欠席は認めないので、やむを得ない場合は必ず連絡すること。
テキストと「実習の手引き」を必ず持参すること。

準備学習（予習・復習等）

ケースワークやケース研究をする際は、事前にケースの内容を提示するので、地域の社会資源を調べ、自分の考えをまとめておくこと。
福祉のニュースやテレビ番組に関心をもって観るなどし、施設理解を深めること。
積極的にボランティアに参加するなどして準備を進めること。
1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

岡本幹彦他編集『四訂福祉施設実習ハンドブック』 2013年、みらい
鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻 『幼稚園教育実習・保育実習の手引き』

参考文献

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	その他
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	保育実習Ⅱ（保育所）		
担 当 教 員	森木 朋佳 大迫 貴		
関 連 資 格	保育士		
備 考	保育実習Ⅱ 学外実習 前期及び後期に開講		
ナンバリング	C-967C-1/こども学〔保育実習〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の職務理解）、区分 2（企画力・観察力・実行力）、区分 4（こどもの未来を創造する力）

到達目標

1. 保育士の多様な業務内容や役割を理解していて、説明できる。
2. 子ども理解に基づく指導案を作成し、計画に基づく保育が展開できる。
3. 質の高い保育実践に必要な子ども理解や子どもと関わる力を持っている。

評価方法

実習状況・実習記録・指導計画（20%）+実習施設からの評価（80%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

履修者の求めに応じて個別にフィードバックする。

授業の展開計画

保育所で実習を行う。実習期間はおおむね 11 日間である。保育実習Ⅱでは、保育実習Ⅰでの学びを踏まえた上で保育全般に参加するとともに、指導実習を行うことで、子どもの実態に沿った保育の展開や、保育士の支援を学ぶ。また、家庭や地域社会の実態に触れ、それらとの連携の必要性や連携のあり方についても目を向ける。

回	内容
1	保育所における実習（学外実習）
2	実習の内容 生活の流れに沿って、保育全般に積極的に参加する。
3	保育士の職務を理解し、保育技術を習得する。
4	子どもの個人差に応じた対応の実践を学ぶ。
5	子どもの発達の違いや個人差への理解を深める。
6	保育の一部を担当する指導計画を立案し、実践する。

7	一日の保育を担当する指導計画を立案し、実践する。
8	指導保育について省察・評価を行い、自分の保育を客観的に振り返る。
9	家庭との連携について具体的に学ぶ。
10	地域社会との連携について具体的に学ぶ。
11	保育士の支援や対応から、子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。
12	守秘義務の遵守について实际的に学ぶ。
13	保育士の实际的な職業倫理について理解する。
14	実習を総括し、今後の課題を確認する。
15	保育士に必要な資質について理解する。

アクティブ・ラーニングの概要

実験・実習・実技科目のため省略。

ICT 活用の概要

情報の提供等に教育支援サイトを活用する。

履修上の注意事項

保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）を履修していること。保育実習指導Ⅱと合わせて履修すること。
 実習には実習生としてふさわしい態度・姿勢で臨むこと。提出物などの期限は厳守すること。
 事前のオリエンテーションは必ず実施し、実習園から提示された課題等に取り組んでおくこと。
 実習を無断で遅刻・欠席をした場合には、単位を認定しないことがある。

準備学習（予習・復習等）

実習時間 90 時間で 2 単位科目のため、実習時間内に含める。

テキスト

特に指定しない。「保育実習記録」を配布する。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』2017 年 4 月、フレーベル館
 厚生労働省『保育所保育指針解説書』2018 年 3 月、フレーベル館
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017 年 4 月、フレーベル館
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2018 年 3 月、フレーベル館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保育所での学外実習

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	その他
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	保育実習Ⅲ（施設）		
担 当 教 員	益満 孝一，大竹山 なつき		
関 連 資 格	保育士		
備 考	保育実習Ⅲ 学外実習 前期及び後期に開講		
ナンバリング	C-967C-2/こども学〔保育実習〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の職務理解） 区分 2（企画力・観察力・実行力） 区分 4（こどもの未来を創造する力）

到達目標

1. 児童福祉施設等（保育所外）の役割や機能について実践を通して、理解する。
2. 家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、保育士としての自己の課題を明確にすることができる。

評価方法

実習状況・実習記録・指導計画（20%）、実習施設の評価（80%）を総合して評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

個別面談にてフィードバックを行う。

授業の展開計画

施設実習Ⅲでは、実習Ⅰで体験した施設について理解を深める、若しくはそれ以外の施設について幅広く理解を深めると共に、支援の実際についても実習Ⅰを基礎に更にステップアップを目指した実習を行う。また、保育士の多様な業務を理解し将来の職業選択に結びつけていく。

回	内容
1	実習内容：児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について理解する
2	実習内容：生活の流れ全般に参加し、養護技術を修得する
3	実習内容：生活の流れをとおして、施設における保育士の職務について理解する
4	実習内容：子ども（利用者）の個人差に応じた対応（受容や共感）について学ぶ

5	実習内容：子ども（利用者）の発達や課題に応じた養護の方法について学ぶ
6	実習内容：生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子どもの理解
7	実習内容：援助計画の理解と個別支援計画の作成
8	実習内容：子ども（利用者）の生活の流れにそって、具体的な支援を行う
9	実習内容：家族との連携の方法について理解する
10	実習内容：多様な専門職、地域社会との連携の方法について理解する
11	実習内容：地域社会における役割と実情の理解
12	実習内容：子ども（利用者）の最善の利益への配慮について学ぶ
13	実習内容：子ども（利用者）の権利擁護の実際について学ぶ
14	実習内容：施設保育士としての職業倫理について学ぶ
15	実習内容：施設保育士に必要な資質の理解と自己課題の明確化

アクティブ・ラーニングの概要

福祉施設での学外実習を行う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

保育実習指導Ⅲ（施設）と合わせて履修すること。
提出物などの期限は厳守のこと。また、やむをえない場合を除き欠席は認めない。
実習先の指導に従って実習を行う。

準備学習（予習・復習等）

実習記録を執る、指導案の作成、その他施設側の指示に沿って準備する。

テキスト

特になし

参考文献

岡本幹彦他編集『四訂福祉施設実習ハンドブック』 2013年、みらい
鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻 『幼稚園教育実習・保育実習の手引き』

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

福祉施設での学外実習

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	幼稚園教育実習 I		
担 当 教 員	味園 佳奈, 中島 賢太郎		
関 連 資 格	幼二種免		
備 考	学外実習 30 時間で 1 単位		
ナンバリング	C-974C-1/こども学〔乳幼児教育〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1(保育・教育の職務理解) 区分 2(企画力・観察力・実行力) 区分 4(こどもの未来を創造する力)

到達目標

- 1.幼稚園等の役割や機能を理解している。
- 2.幼稚園等の生活の流れや子どもの姿について理解し、保育に参加することができる。
- 3.体験を通して幼稚園教諭の職務内容や子どもへの援助の仕方を学び、説明できる。

評価方法

実習園における評価(90%)、提出物の状況・実習記録など(10%)から総合的に判断する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習園からの評価等について、幼稚園教育実習指導 I を通して全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

幼稚園で実習を行う。幼稚園教育実習 I では、幼稚園の生活の流れや子ども姿について理解するとともに、幼稚園の役割や機能、幼稚園教諭の職務内容について体験を通して学ぶ。

回	内容
1	学外実習 2 週間
2	実習の態度 保育の実践 実習の記録
3	※ 学外実習のため各実習幼稚園の状況により行う。
4	明るくあいさつ 積極的な取組 謙虚な態度 責任ある行動
5	実習幼稚園の沿革・教育方針・運営等の理解
6	保育の 1 日の流れの理解

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	幼稚園教育実習指導Ⅱ		
担 当 教 員	味園 佳奈		
関 連 資 格	幼二種免		
備 考			
ナンバリング	C-9779-1/こども学〔乳幼児教育〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 3（探究心と自己研鑽力）

到達目標

- 1.実習の意義やねらいを理解し、実習に必要な手続きを行うことができる。
- 2.実習の進め方・留意事項・指導案や記録の書き方等を理解した上で、課題をもって実習に臨むことができる。
- 3.事後指導を通して自分の課題を明確にし、幼稚園教諭としての資質・能力を高めるため具体的方策について考え、説明できる。

評価方法

課題(45%)＋提出物(40%)＋発表(15%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

指導案や指導計画作成等の課題は、全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

実習の意義・目的を理解し、幼稚園教育実習Ⅰでの学びを踏まえ、幼稚園教育実習Ⅱの課題・目標を明確にする。また、関係書類の作成やオリエンテーション等、幼稚園教育実習Ⅱに必要な手続きについて計画的に行う。さらに、指導案や記録の意義についても理解を深めるとともに、幼稚園教諭としての資質・能力を高めるための具体的方策について考える。

回	内容
1	教育実習Ⅱに向けて 実習Ⅰの反省と実習Ⅱの課題の確認
2	指導案の作成①：設定保育
3	指導案作成②：部分保育
4	実習課題の設定

5	実習記録の書き方
6	指導案作成上の留意点の確認
7	教育実習Ⅱの心構え・留意事項の確認
8	教育実習Ⅱの振り返り①：実習の反省・課題の達成度の確認
9	教育実習Ⅱの振り返り②：子どもとの関わり グループディスカッション
10	教育実習Ⅱの振り返り③：指導案の確認
11	保育実技及び教材研究①：画用紙を使った遊び
12	指導案作成③：画用紙を使った遊び
13	保育実技及び教材研究②：紙コップを使った遊び
14	教育実習Ⅱの振り返り④：実習記録の確認、今後の課題について
15	教材研究及び保育実技③：絵の具を使った遊び

アクティブ・ラーニングの概要

授業の進行に応じて、指導案作成の課題を課す。
第9回の授業では、理解を深めるためにグループディスカッションを行う。

ICT 活用の概要

教材・資料の掲載

履修上の注意事項

幼稚園教育実習指導Ⅰを履修していること。
幼稚園教育実習Ⅱと合わせて履修すること。

準備学習（予習・復習等）

実習に向けて必要な準備を計画的に進めること。
1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要となる。
第9回のグループディスカッションについては、事前にテーマを提示するので、実習で学んだことを踏まえ、自分の意見をまとめておくこと。

テキスト

『実習の手引き』
阿部恵編著『教育・保育実習安心ガイド』2019年1月、ひかりのくに

参考文献

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 2018年3月、フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年3月、フレーベル館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	その他
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	幼稚園教育実習Ⅱ		
担 当 教 員	味園 佳奈, 中島 賢太郎		
関 連 資 格	幼二種免		
備 考	学外実習 30 時間で 1 単位 前期及び後期に開講		
ナンバリング	C-977C-1/こども学〔乳幼児教育〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1(保育・教育の職務理解) 区分 2(企画力・観察力・実行力) 区分 4(子どもの未来を創造する力)

到達目標

- 1.幼稚園教育実習Ⅰの反省を踏まえ、各自が課題をもち、主体的に実習に臨むことができる。
- 2.今までの学習を生かしながら子どもと関わったり、自分で保育内容を構成し実践したりすることができる。
- 3.実習の振り返りを通して自己課題を見つけ、今後の自己の生き方にどう繋げるか考え、説明できる。

評価方法

実習園における評価(90%)、提出物の状況・実習記録など(10%)により、総合的に評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習園からの評価等について、幼稚園教育実習指導Ⅱを通して全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

幼稚園で実習を行う。幼稚園教育実習Ⅱでは、幼稚園教育実習Ⅰの経験を踏まえた上で保育に参加し、子ども理解・幼稚園教諭の職務に対する理解を深めるとともに、指導実習（部分・半日・一日）を通して子どもの姿に応じた保育の展開や援助について学ぶ。また、家庭や地域との連携についても触れ、幼稚園の機能についての理解も深める。

回	内容
1	学外実習 2 週間
2	実習の態度・保育の実践・実習の記録
3	※ 学外実習のため各実習幼稚園の状況により行う。

4	明るいまいさつ 積極的な取組 謙虚な態度 責任ある行動
5	幼稚園教諭としての保育技術の習得
6	指導計画に基づいた保育実践と評価
7	子ども理解（個人・集団の中の一員）
8	幼稚園教諭の職務内容についての理解
9	一人一人に応じた援助
10	職員間の役割分担やチームワーク
11	クラス経営・家庭や地域との連携の在り方
12	幼稚園の教育方針・教育課程の理解
13	教育者としての自覚
14	社会人としての態度や職務遂行能力
15	実習のまとめ・新しい課題の確認 など

アクティブ・ラーニングの概要

実験・実習・実技科目のため省略

ICT 活用の概要

教材・資料の掲載

履修上の注意事項

幼稚園教育実習Ⅰを履修していること。
 幼稚園教育実習指導Ⅱと合わせて履修すること。
 実習生としてふさわしい態度。姿勢で臨むこと。
 事前のオリエンテーションは必ず実施し、実習園から提示された課題等に取り組んでおくこと。

準備学習（予習・復習等）

幼稚園教育実習Ⅰの反省を踏まえ、実習課題を明確にし、その課題解決を図ることを意識しながら実習に臨むこと。

テキスト

『幼稚園教育実習記録』を配付する。

参考文献

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 2018年3月、フレーベル館
 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年3月、フレーベル館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

教育実習科目

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	こどもの食と栄養		
担 当 教 員	鎌田 典子		
関 連 資 格	保育士		
備 考	子どもの食と栄養		
ナンバリング	C-92A6-1/子ども学〔心と身体の健康〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の実践力）

到達目標

- 1 食と健康との繋がりを理解し、献立作成・調理に関する基本的な知識・技術が身に付いている。
- 2 子どもの発育・発達と食生活及び特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解し、基本的な実践ができる。
- 3 実習の構成メンバーで作業工程を考え、協力し合いながら作業を進め、決められた調理を時間内に作ることができる。

評価方法

定期試験 60%、臨時試験（実技試験 10%、レポート 30%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

栄養と健康に関する消費者教育及び献立作成・調理に関する基本的な知識及び技術を学ぶ。乳幼児から中学生までの各年代に合わせた栄養の特徴や食事調整及び特別な配慮を要する子どもたちの食生活について、実習を通して実践力を身に付ける。

回	内容
1	栄養と健康に関する基礎知識と食を取り巻く環境
2	調理と献立作成の基本＜一汁三菜の献立＞
3	乳児期：調乳（乳汁）栄養＜調乳の実際と衛生管理＞
4	離乳期：離乳栄養 1＜5、6 か月頃・7、8 か月頃の離乳食の献立＞
5	離乳期：離乳栄養 2＜9～11 か月頃・12～18 か月頃の離乳食の献立＞

6	幼児期：幼児期の栄養と食生活＜1～2 歳児・3～4 歳児の比較献立＞
7	幼児期：食育の基本と内容＜保育所給食＞
8	学童期：学童期の栄養と食生活＜郷土料理を生かした学校給食の献立，地産地消＞
9	思春期：思春期の栄養と食生活＜中学女子の献立(鉄・カルシウム強化食)＞
10	子どもの発育発達と食生活＜間食の意義とその実践＞ 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 1＜障害のある子どもへの対応＞
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 2＜食物アレルギー・他＞
12	家庭や福祉施設における食事と栄養 1＜行事食 1：クリスマス料理＞
13	家庭や福祉施設における食事と栄養 2＜行事食 2：鹿児島県の郷土料理＞
14	実技試験＜調理技術について＞
15	子どもの食に関わる活動・まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

調理実習。幼児期の発達段階に合わせた献立作成についてグループディスカッションを行う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

白衣・三角布は毎回必ず持参すること。

準備学習（予習・復習等）

次回の授業範囲を予習し、実習手順の確認、作業計画を立てておくこと。
授業内容についてノートをとっておくこと。実習した内容について実習の反省、感想を記録しておくこと。
この授業は2コマ連続で行う。1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト

毎回プリントを配布する。
飯塚美和子他編「最新 子どもの食と栄養」2021年3月 第9版第2刷 学建書院

参考文献

森永靖子他 「郷土の味」2010年 鹿児島県食生活改善推進委員連合協議会

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:管理栄養士
職歴:鹿児島市医師会病院等で管理栄養士として勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	こどもと人間関係		
担 当 教 員	味園 佳奈		
関 連 資 格	幼二種免、保育士		
備 考	保育内容演習		
ナンバリング	C-92A6-2/こども学〔心と身体の健康〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1(保育・教育の基礎理解) 区分 1(子ども理解)

到達目標

- 1.人間関係の発達及び人間関係の重要性、環境の重要性について理解している。
- 2.領域「人間関係」の保育内容（ねらい、内容等）及び保育者の役割について理解している。
- 3.幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題について理解し、自分なりの考えを説明できる。

評価方法

臨時試験(レポート 50%)+課題(50%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートや課題については、全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

領域「人間関係」について、保育の基本を踏まえた上で理論的枠組みを理解する。さらに、事例検討や発表、レポート作成などを通して子どもが人と関わる力を育てるための指導の在り方や保育者の役割を考える。

回	内容
1	保育の基本と人との関わり
2	領域「人間関係」の変遷
3	乳幼児期における人との関わりの発達
4	遊びの中で育つ人との関わり
5	実習エピソードから考える① グループディスカッション

6	実習エピソードから考える② クラス発表
7	人との関わりを育てる保育の実践
8	人との関わりを育てる保育者の役割
9	人間関係において気になる子ども① 子どもの内面を考える
10	人間関係において気になる子ども② 自分の保育を問い直す
11	絵本を通して学ぶ人間関係① 道徳性の芽生え
12	絵本を通して学ぶ人間関係② 領域「人間関係」との関連
13	園・家庭・地域の生活と人との関わり
14	領域「人間関係」をめぐる諸問題① 社会化と個性化
15	領域「人間関係」をめぐる諸問題② 自立と他律

アクティブ・ラーニングの概要

第5回の授業では、理解を深めるためにグループディスカッションを行う。

ICT 活用の概要

課題の掲載・提出

履修上の注意事項

演習が主となる。積極的に取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要となる。
第5回の授業でグループディスカッションを行うので、事前に与えられたテーマについて自分の意見をまとめておくこと。

テキスト

森上史朗他 『保育内容「人間関係」』 2009 年 ミネルヴァ書房

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018 年、フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説』2018 年、フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2018 年、フレーベル館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	幼児理解と教育相談		
担 当 教 員	大竹山 なつき		
関 連 資 格	幼二種免、保育士		
備 考			
ナンバリング	C-92A6-3/こども学〔心と身体の健康〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（子ども理解） 区分 1（保育・教育の実践力）

到達目標

1. 幼児理解の理論や方法を理解するとともに、具体的な子ども達の問題について教育相談と結びつけて説明することができる。
2. 教育相談に必要な基礎的知識やカウンセリングの理論・方法を理解するとともに、カウンセリングマインドを習得している。
3. 実際の支援に向け、組織的な取り組みや連携の必要性を理解するとともに相談の進め方を具体的に計画することができる。

評価方法

定期試験（70%）＋レポート・提出物等（30%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元ごとのレポートを課し、全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

「幼児理解」および「教育相談」とは何かを概説し、続いて子どもの問題行動と対応について講義をすすめていく。また本科目ではさらに保育者・教師が行える支援技術について講義する。カウンセリングの姿勢や方法についてロールプレイを通して理解を深めるとともに、組織的対応や連携の視点から相談計画に必要な知識について講義していく。

回	内容
1	幼児理解の重要性と教育相談
2	幼児理解を基盤としたカウンセリングの基本
3	幼児の心の理解（1）ことば・遊び・いたずら
4	幼児の心の理解（2）発達課題
5	問題の理解とカウンセリングマインド

6	幼児の問題への関わり方（１）プレイセラピー・箱庭療法
7	幼児の問題への関わり方（２）絵画療法・コラージュ療法
8	幼児の問題（１）情緒障害・行動障害（不登園）
9	幼児の問題（２）家庭環境と虐待
10	幼児の問題（３）発達に関する課題
11	幼児の問題における早期発見と効果的な支援
12	教育相談の組織と運営
13	保護者・専門機関との連携支援
14	ロールプレイ実施（１）子どもとの関わり方
15	ロールプレイ実施（２）保護者との関わり方

アクティブ・ラーニングの概要

具体的な相談場面(育児不安や登園しぶりなど)を想定した、ロールプレイを行う。

ICT 活用の概要

授業スライド、資料の掲載

履修上の注意事項

現場での教師・保育者の支援や子どもとの関わりを予想しながら、しっかりと学んでほしい。
私語・遅刻・提出物などには厳しく対処する。

準備学習（予習・復習等）

授業で行うロールプレイのテーマを提示するので、支援に必要な地域の社会資源について事前に調べておくこと。
予習としては紹介した参考図書を積極的に読むこと、復習としては毎回講義後、プリント整理を行い理解を深めること。
1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

特になし

参考文献

青木久子編著 『子ども理解とカウンセリングマインド』 2001 年、萌文書林
大竹直子編著 『やさしく学べる保育カウンセリング』 2014 年、金子書房
佐藤修策監修 『学校カウンセリングの理論と実践』 2007 年、ナカニシヤ出版
大野精一編著 『教師・保育者のための教育相談』 2017 年、萌文書林

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	子育て支援		
担 当 教 員	本屋 梨紗		
関 連 資 格	保育士		
備 考	子育て支援		
ナンバリング	C-93A6-1/こども学〔こどもと環境〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の職務理解）、区分 2（企画力・観察力・実行力）、区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

1. 保育者としての保育の専門性を背景とした保護者に対する保育相談支援について、その特性と展開を理解している。
2. 様々なケースに即した支援の内容・方法及び技術を、実践事例等を通し学び理解している。
3. 子育て支援に関わる社会資源の活用と自治体・関係機関との連携・協働について事例等を通し学び理解している。

評価方法

定期試験（70%）＋課題（30%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題については授業内で解説を行う。
定期試験の結果については、指定した期間内において申し出により解説を行う。

授業の展開計画

子育て支援が導入された背景と必要性について理解し、事例を活用したグループ検討、全体発表、模擬面接等を行い、様々な場面での保育の専門性を生かした支援の実際に繋がるようにする。
課題については授業の中で説明の時間を設ける。

回	内容
1	保育士の行う子育て支援の特徴(1):子どもの保育とともに行う保護者の支援
2	保育士の行う子育て支援の特徴(2):日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
3	保育士の行う子育て支援の特徴(3):保護者や家庭の抱える支援ニーズへの気づきと多面的な理解
4	保育士の行う子育て支援の特徴(4):子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提

	供
5	保育士の行う子育て支援の展開(1):子ども及び保護者の状況・状態の把握
6	保育士の行う子育て支援の展開(2):支援の計画と環境の構成
7	保育士の行う子育て支援の展開(3):支援の実践・記録・評価・カンファレンス
8	保育士の行う子育て支援の展開(4):職員間の連携・協働、社会資源の活用と関係機関や専門職との連携・協働
9	保育士の行う子育て支援とその実際(1):保育所等における支援
10	保育士の行う子育て支援とその実際(2):地域の子育て家庭に対する支援
11	保育士の行う子育て支援とその実際(3):障害のある子ども及びその家庭に対する支援
12	保育士の行う子育て支援とその実際(4):特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
13	保育士の行う子育て支援とその実際(5):子どもの虐待の予防と対応
14	保育士の行う子育て支援とその実際(6):要保護児童等の家庭に対する支援
15	保育士の行う子育て支援とその実際(7):多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

アクティブ・ラーニングの概要

理解を深めるため、随時グループワークを行う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

こどもの保健、相談支援関連科目を参考にしながら学ぶこと。

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。具体的には、授業者が指定した範囲について教科書を熟読しておくこと。
日頃から相談関係の本を積極的に読むことや子育てに関する記事等に関心を持ち、保護者の気持ちや支援の重要性を理解し、どのような支援ができるか考えること。

テキスト

西村重稀・青井夕貴編著『子育て支援』2019 年 2 月、中央法規

参考文献

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:看護師、助産師、保健師 実務経験:総合周産期母子医療センター勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	こども家庭支援の心理学		
担 当 教 員	大竹山 なつき		
関 連 資 格	保育士		
備 考	子ども家庭支援の心理学		
ナンバリング	C-93A9-1/こども学〔こどもと環境〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の職務理解）、区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

1. 家族・家庭の意義や機能、家族の発達について理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得している。
2. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について学び、支援の重要性を理解している。
3. 子どもの精神保健とその課題について理解している。

評価方法

定期試験（70％）＋レポート・提出物等（30％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元ごとのレポートを課し、全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

「生涯発達」および「家族」とは何かを概説し、子育て家庭をめぐる現代の社会状況や課題、その対応について講義をすすめていく。また本科目では、生活環境と子どもの精神保健について教授する。

回	内容
1	生涯発達(1)乳幼児期から児童期前期
2	生涯発達(2)児童期後期から青年期
3	生涯発達(3)成人期・老年期
4	家族・家庭の理解(1)家族・家庭の意義と機能
5	家族・家庭の理解(2)親子関係・家族関係の理解

6	家族・家庭の理解(3)子育ての経験と親としての育ち
7	家族・家庭の理解(4)家族心理学と家族療法
8	子育て家庭に関する現状と課題(1)子育てを取り巻く社会状況
9	子育て家庭に関する現状と課題(2)ライフコースと仕事・子育て
10	子育て家庭に関する現状と課題(3)男女共同参画社会とワークライフバランス・ダイバーシティ
11	子育て家庭に関する現状と課題(4)多様な家族とその理解
12	子育て家庭に関する現状と課題(5)特別な配慮を要する家庭
13	子どもの精神保健とその課題(1)子どもの情緒障害
14	子どもの精神保健とその課題(2)子どもの生活・生育環境とその影響
15	子どもの精神保健とその課題(3)子どもの健康に関わる問題

アクティブ・ラーニングの概要

单元ごとのレポートを実施する。

ICT 活用の概要

授業スライド、資料の掲載

履修上の注意事項

私語・遅刻・提出物などには厳しく対処する。

準備学習（予習・復習等）

予習としてはプリントを配布するのでよく読み、身近な社会問題やニュース等を引用し、自分の考えをまとめておくこと。講義で学んだ知見を実際に保育現場で、どのように活用することが出来るのかについて、講義後必ず整理すること。

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

特になし

参考文献

土肥伊都子編 『家族心理学』 2017 年 教育情報出版
新保 幸男編 『家庭支援論』 2017 年 中央法規出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	保育内容総論		
担 当 教 員	森木 朋佳		
関 連 資 格	幼二種免、保育士		
備 考	保育内容総論		
ナンバリング	C-93A9-2/こども学〔こどもと環境〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の基礎理解）

到達目標

- 1.生活をとおして「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を育成するという「保育」の目標と、保育の全体構造の関係を理解している。
- 2.保育内容が目指すものと子どもの生活を結びつけて考え、適切な方法で提示できる。
- 3.領域にとらわれず 5 領域の内容を扱う事ができ、保育現場で必要とされる総合的な指導を実践できる。

評価方法

課題・セクションごとの小レポート（40%）+定期試験（60%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題・小レポートは、授業中にフィードバックする。定期試験については、履修者の求めに応じて教育支援サイトを通じてフィードバックする。

授業の展開計画

前半では、保育所保育指針および幼稚園教育要領における保育内容の視点について整理し、これらが目指す保育のあり方について考える。また、保育をとおして実現される具体的な子ども像について考える。

後半は演習を通し、乳幼児期の子どもの発達特性や、発達過程を踏まえた保育実践のあり方について検討していく。

授業ではセクションごとにテーマが提示されるので、グループ単位でテーマに沿った課題を見つけたら、それらに取り組んだりする。

回	内容
1	ガイダンス:保育内容総論の位置づけについて/保育の基本・全体構造と乳幼児の生活
2	保育内容とその展開(1):課題の説明及び散歩ルートの確認
3	保育内容とその展開(2):ねらいが経験される散歩ルートの検討

4	保育内容とその展開(3):散歩ルートの立案
5	保育内容とその展開(4):立案した散歩ルートの検証と評価 (前半)
6	保育内容とその展開(5):立案した散歩ルートの検証と評価 (後半)
7	保育内容とその展開(まとめ):保育の計画と保育者の役割/環境を通した保育の意味
8	保育と 5 領域(1):保育の計画と 5 領域の取り扱い
9	保育と 5 領域(2):保育と 5 領域の関係のイメージ作成とグループ内での共有
10	保育と 5 領域(3):保育と 5 領域の関係を示したモデルの考案
11	保育と 5 領域(4):グループで考えたモデルの発表 (前半)
12	保育と 5 領域(5):グループで考えたモデルの発表 (後半)
13	保育と 5 領域(まとめ):保育における 5 領域の取り扱い/保育の計画 (長期計画・短期計画) /保育の評価と改善
14	多様な保育と保育者の役割
15	まとめおよび評価

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間、提示されたテーマに沿って課題を見つけ、グループワークを行う。また各テーマへの理解を深めるために、小レポートを課す。レポートは評価後返却し、その際解説を行う。

ICT 活用の概要

教材の提供や授業の補足に教育支援サイトを活用する。

履修上の注意事項

提示された課題についてグループでディスカッションしたり、お互いに考えを深めあったりする機会となるよう、積極的にグループワークに取り組むこと。

準備学習 (予習・復習等)

授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。具体的には、毎時間の授業で経験した事柄や考えたことについて各自記録の作成に取り組んでおくこと。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領』2017 年 4 月、フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針』2017 年 4 月、フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017 年 4 月、フレーベル館

参考文献

授業の中で適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	こども家庭支援論		
担 当 教 員	益満 孝一		
関 連 資 格	保育士		
備 考	子ども家庭支援論		
ナンバリング	C-93A9-3/こども学〔こどもと環境〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（子ども理解）区分 1（保育・教育の職務理解）

到達目標

- 1.子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の意義や保育士等の役割について理解し論考できる。
- 2.保育士による子ども家庭支援の基本と子育て家庭に対する支援体制について理解し論考できる。
- 3.子育て家庭のニーズに応じた多様な支援展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解し論考できる。

評価方法

定期試験(80%)+臨時試験（レポート 20%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートなど課題については、講義中にフィードバックを行う。
定期試験については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出た学生のみ対応する。

授業の展開計画

毎回のテーマに沿って、具体的な事例も交えながら授業を進めていく。講義中心となるが、学生にも大いに意見を求める等、学生が積極的に授業へ参加できる環境を作るように心掛ける。授業中に数回レポートを課し、内容発表時間を授業内に設けるとともに、全体の傾向をフィードバックする。

回	内容
1	子ども家庭支援の意義と必要性
2	子ども家庭支援の目的と機能
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源

5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
6	子どもの育ちの喜びの共有
7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
8	保育士に求められる基本的態度
9	家庭の状況に応じた支援
10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
11	子ども家庭支援の内容と対象
12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援
13	地域の子育て家庭への支援
14	要保護児童およびその家庭に対する支援
15	子育て支援に関する課題と展望 総括

アクティブ・ラーニングの概要

数回レポートを課した上で、その内容発表の時間を授業内に設ける。
レポート内容については、事前に内容を指示をしておくので、そのレポート内容に関する授業の際は、各自予習し自分の意見をまとめた上で授業に臨むこと。

ICT 活用の概要

Google Classroom および GoogleMeet（ビデオ会議）を用いた授業を行う。

履修上の注意事項

配布されたプリントを紛失しないように、必ずファイリングをすること。
不明な点があれば遠慮なく質問すること。

準備学習（予習・復習等）

事前に配布したプリントや授業中に紹介する参考文献等で各回の予習と復習を行うこと。
1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

公益財団法人児童育成協会監修／新保幸男・小林理編集『子ども家庭支援論』2019 年、中央法規

参考文献

随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	こどもとことば		
担 当 教 員	森木 朋佳		
関 連 資 格	幼二種免、保育士		
備 考	保育内容演習		
ナンバリング	C-94A6-1/こども学〔こどもと文化〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の基礎理解）、区分 1（子ども理解）

到達目標

1. ことばの機能やことばの発達過程について理解している。
2. 具体的な生活場面においてことばが育つ様子や保育者が果たすべき役割が分かり、説明できる。
3. 児童文化財が果たす役割について理解し、具体的な保育場面で効果的に活用できる。

評価方法

定期試験（80％）＋課題（20％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題は授業中にフィードバックする。定期試験については、履修者の求めに応じて教育支援サイトを通じてフィードバックする。

授業の展開計画

保育内容「言葉」について、その領域の性格と位置づけについて概説する。また、言葉における発達の道筋を追うとともに、豊かな言葉が育つ環境と保育者の果たすべき役割について考えていく。

わらべうたなどの児童文化財を取扱う授業回では、グループワークを行う。グループワークでは、取り組みの様子や成果を報告し合う機会を設け、それらに授業者がコメントしたり、全体で意見を交換したりする方法でフィードバックを行う。

回	内容
1	ガイダンス：この授業で何を学ぶか：「ことばの前のことば」の意義
2	ことばの育ちを支えるもの：乳児の特徴と言葉の獲得・保育者の役割
3	ことばの機能(1)：コミュニケーション機能、思考機能について
4	ことばの機能(2)：思考機能、行動調節機能獲得の意義について
5	領域「言葉」のねらいと内容を通して育てたい子どもの姿について

6	ことばの発達(1)：発達の道筋・泣き～初語まで
7	ことばの発達(2)：初語の意義・泣きと初語の質的な違いについて
8	ことばの発達(3)：初語～幼児期前半のことばについて：ごっこあそびの意義
9	ことばの発達(4)：幼児期後半・書き言葉への関心について
10	ことばの発達(5)：ことばの豊かさ：事例を通してことばの豊かさについて考える
11	ことばの育ちを支える(1)：日々の保育の中でのことばの育ち：事例検討
12	ことばの育ちを支える(2)：児童文化財とことばの育ち〈素話・エプロンシアターを中心に〉
13	ことばの育ちを支える(3)：児童文化財とことばの育ち〈わらべうたを中心に〉
14	ことばの育ちを支える(4)：特別な配慮が必要な子どもとの関わり
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

わらべうたなどの児童文化財を取扱う授業回では、グループワークを行う。グループワークでは、取組みの様子や成果を報告し合う機会を設け、それらに授業者がコメントしたり、全体で意見を交換したりする方法でフィードバックを行う。

ICT 活用の概要

教材の提供や授業の補足に教育支援サイトを活用する。

履修上の注意事項

理論に基づく実践ができることを目標に意欲を持って取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）

授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。具体的には、乳児・幼児の発達過程について自分なりにまとめたり、教科書を読み直したりしておくこと。また、幼稚園教育実習や保育実習などで子どものことばや表現に注目し、記録しておくこと。

テキスト

太田光洋・古相正美・野中千都「保育内容『言葉』-話し、考え、つながる言葉の力を育てる-」2021 年、同文書院

参考文献

ウクライナ民話 エウケゲーニー・M・ラチョフ絵 うちだりさこ訳 『てぶくろ』 1965 年、福音館書店
 文部科学省『幼稚園教育要領』2017 年 4 月、フレーベル館
 厚生労働省『保育所保育指針』2017 年 4 月、フレーベル館
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017 年 4 月、フレーベル館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	こども文学		
担 当 教 員	西田 一豊		
関 連 資 格	保育士		
備 考	保育士資格の取得を希望する場合、「こども文学」「保育とメディア」「ピアノ表現法」から 1 つ以上履修することが望ましい。 原則として累積 GPA2.0 以上履修可		
ナンバリング	C-94A6-2/こども学〔こどもと文化〕 一中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2(人生を切り開く力)

到達目標

- 1.授業で扱った文学作品からポイントをつかみ出し、それをこどもに伝える方法を考察することができる。
- 2.授業で扱った文学作品と比較することで、保育の場で扱う低年齢向けのお話や絵本が持つ特質や意義を、より明らかに説明することができる。
- 3.授業で扱った文学作品に関する知識や教養と、自身のキャリアプランとの関わりを考察し、説明することができる。

評価方法

臨時試験(授業内の小レポート 40%、期末レポート 60%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(授業内の小レポート等)についてはフィードバックを行う。
ただし、期末レポートについては、あらかじめ科目担当者が指定した期限内に申し出た学生に対してのみ対応する。

授業の展開計画

〈こどもが書いた作品〉と〈こどものために書かれた作品〉の双方に目を向け、こどもと文学の関わりについて考えていく。
作品ごとに担当者を決めて口頭発表を行う。
また、次回に口頭発表が実施される作品について、あらかじめ授業内で輪読する機会を設ける。

回	内容
1	ガイダンス
2	日本の児童文学史
3	『赤い鳥』と児童文学
4	『綴方教室』

5	棕鳩十「大造じいさんとガン」
6	棕鳩十「片耳の大シカ」
7	鹿児島とこども文学
8	かごしま近代文学館・メルヘン館を見学する（フィールドワーク）
9	フィールドワークの検討・報告
10	宮沢賢治「注文の多い料理店」
11	宮沢賢治「セロ弾きのゴーシュ」
12	芥川龍之介「蜘蛛の糸」
13	芥川龍之介「杜子春」
14	小川未明「赤いろうそくと人魚」
15	新美南吉「ごん狐」

アクティブ・ラーニングの概要

口頭発表を受けて、学生間で質疑応答を行う。
また、扱った作品について考えたことを自身の言葉で表現する力を身につけるために、授業内で小レポートを課す。レポートは次の授業でフィードバックを行う。
また、かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館で学外研修を行う。学外研修後は、見学レポートを提出すること。

ICT 活用の概要

口頭発表は、パワーポイント資料をスクリーンに投影して行う。当日使用するパソコンは教員が用意する。

履修上の注意事項

特になし

準備学習（予習・復習等）

授業で扱う作品は事前にコピーして配布するので、授業までに読んでおくこと。
また、質疑応答を想定して、各自が質問内容等を考えておくこと。
発表を担当する場合は、発表準備および資料作成をする必要がある。
1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学修が必要である。

テキスト

授業ごとにコピーして配布する。

参考文献

各回で扱う作品が掲載された文庫本等を、その都度紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	保育とメディア		
担 当 教 員	森木 朋佳, 森永 初代		
関 連 資 格	保育士		
備 考	保育士資格の取得を希望する場合、「こども文学」「保育とメディア」「ピアノ表現法」から 1 つ以上履修することが望ましい。 原則として累積 GPA2.0 以上履修可		
ナンバリング	C-94A6-3/こども学〔こどもと文化〕—中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の実践力）、区分 2（企画力・観察力・実行力）

到達目標

1. スマートフォンなど身近な情報機器を倫理的に活用し、保育の素材や情報を収集できる。
2. 保育現場で活用されているアプリケーションを目的に応じて選択し、おたよりや教材を作成できる。
3. 保育現場で情報機器を活用する方法について提案できる。

評価方法

課題・小レポート（70%）+定期試験（30%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題・小レポートは、授業中にフィードバックする。定期試験については、履修者の求めに応じて教育支援サイトを通じてフィードバックする。

授業の展開計画

授業は演習形式で行う。幼稚園や保育所など、実際の保育現場で活用できる資料の作成や、情報収集の方法について学ぶ。ワードやパワーポイントなどのアプリケーションソフトの基本的な操作の確認や、より効果的な資料作成の方法について検討する。また個人情報保護法のもと、著作権や肖像権等にも十分配慮した倫理的なメディア活用についても学ぶ。

回	内容
1	ガイダンス：保育とメディアの授業で学ぶこと（この授業の目標・授業の展開計画） 既習のスキルの確認・メールの送り方
2	情報収集の方法とルール：パソコンやスマートフォンを活用した情報収集の方法と留意点 保育現場でのマルチメディアの活用事例の収集

3	訪問マップの作成:Google マップを利用して訪問マップを作成する Google マップの使い方 (検索・ストリートビュー)・マイマップの作成 (アカウントへのログイン・マップの作成と保存)・ワードへの挿入 (ルートマップの作成・ワードへの挿入)
4	絵本紹介カードの作成(1):「絵本リスト」を活用して、絵本紹介カードを作る 概要説明・データの整理 (フィルターの使用)・コメントの入力 (関数:LEN)
5	絵本紹介カードの作成(2):印刷用データの作成 (ラベル屋さんの使い方) レイアウト・構成・データの読み込み (エクセルデータの読み込み・関連付け)・PDF 形式への変換
6	絵本紹介カードの作成(3):出力・展示計画の作成 (ワードでの文書作成)
7	おたよりの作成(1):ワードを利用してクラスだよりを作る 概要説明・資料検索・テンプレートの作成 (ワードでの書式作成・保存の方法)
8	おたよりの作成(2):ワードでの文書作成 文章の入力・画像の挿入・図形へのテキストの追加・インデント・文字下げ
9	おたよりの作成(3):出力・PDF 形式への変換
10	運動会プログラムの作成(1):パワーポイントを利用して運動会のプログラムを作る 概要説明・スライドマスターの使い方・設定 (プログラムデータの挿入)
11	運動会プログラムの作成(2):運動会プログラムの作成 図形へのテキストの追加・テキストボックスへの入力・テキストボックスの書式設定
12	運動会プログラムの作成(3):データの確認 データの修正・出力・掲示用データへの変更 (スライドデザイン・書式設定)
13	保護者向け文書の作成(1):ワードとエクセルを利用した保護者向け文書の作成 概要説明・テンプレートの作成 (ワードでの書式作成・保存)・エクセルデータの作成 (名簿作成・コメントの入力・データの整理)
14	保護者向け文書の作成(2):ワード書式との関連づけ 差し込み印刷・PDF データへの変換
15	まとめ:授業のまとめ・学習内容の確認

アクティブ・ラーニングの概要

授業の中でプレゼンテーションを行ったり、ディスカッションをしたりする機会を設け、それらについて授業者がコメントしたり、補足したりする方法でフィードバックを行う。

ICT 活用の概要

教材の提供や授業の補足に教育支援サイトを活用する。

履修上の注意事項

授業の準備や課題の提示は教育支援サイトを通じて行うので、授業の前に必ず確認して臨むこと。

準備学習 (予習・復習等)

授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。具体的には、授業で使用するデータの収集やデータの作成に取り組んでおくこと。また、授業の進行に合わせて課題を提示するので、取り組んでおくこと。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

授業の中で適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	保育内容(表現)の指導法Ⅰ(工作による表現)		
担 当 教 員	高田 さとこ		
関 連 資 格	幼二種免、保育士		
備 考	保育内容の理解と方法		
ナンバリング	C-95A6-1/こども学〔こどもと表現〕—中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の実践力）、区分 2（企画力・観察力・実行力）

到達目標

- 1.保育者・教育者としての造形表現力を深め、造形表現活動の援助に必要な指導力と知識が身についている。
- 2.自由な造形表現活動から、子どもの特性や理解を深め、美的感情や豊かな情操を養い造形表現へと結びつけることができる。
- 3.材料の研究や技術指導の向上を図り、保育や幼児教育の現場で活かす多様な心情や表現方法を習得している。

評価方法

作品評価 50%、作品の感想・指導のポイント 30%、ポートフォリオ 20%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

製作過程では、授業中にコメントする。
作品の感想・指導のポイントとポートフォリオの評価については、履修者の要請に応じてフィードバックする。

授業の展開計画

子どもが様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培えるように、子どもの感性と表現力・創造性を培うための造形活動を想定し製作する。

回	内容
1	『何に見えるかな?』(1) 身近にあるペットボトルや牛乳パックなどを利用して、動くものを作る。

2	『何に見えるかな?』(2) 竹串や割り箸を使い動くように工夫する。
3	『何に見えるかな?』(3) ビニールテープで接着し完成
4	動物や人のお面の製作 (1) はじき絵の技法で動物や人の形のお面を作る。
5	教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できる指導案を作成する。
6	誕生月のカレンダーの製作 (1) 誕生月に因んだデザイン
7	誕生月のカレンダーの製作 (2) 誕生月の折り紙・はじき絵・コラージュ・フロッタージュの組み合わせ
8	誕生月のカレンダーの製作 (3) 製作・仕上げ
9	紙粘土を用いた製作 (1) お弁当やお菓子を入れるケースを色画用紙で作る。
10	紙粘土を用いた製作 (2) 紙粘土に水性マーカーや水彩絵の具を練り込む。
11	紙粘土を用いた製作 (3) お弁当の主菜やお菓子を作る。
12	紙粘土を用いた製作 (4) お弁当やお菓子を完成
13	グループワーク (1) 様々な素材を用いて、春夏秋冬の行事を、広幅用紙 1 枚で表現する。
14	グループワーク (2) 協力して完成させ、額縁を付ける。
15	グループワークの発表 感性や想像力を働かせて製作した作品を発表し講評する。

アクティブ・ラーニングの概要

講評会 (プレゼンテーション&ディスカッション)

ICT 活用の概要

予習課題・復習課題の掲載・提出や資料の掲載に教育支援サイトを利用する。

履修上の注意事項

エプロンなどを持参し、製作にふさわしい服装で授業に臨むこと。
 必要な技法書を図書館などで借りて、持参すること。
 完成作品の写真を撮り、キャプションを付けて、指定された回に提出すること。
 指定した回に作品を提出できない時は、次回の授業開始までに完成させて提出すること。
 製作した作品の感想・指導のポイントをまとめて最終回に提出すること。
 製作した全作品のポートフォリオ (作品集) を最終回に提出すること。

準備学習 (予習・復習等)

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要。
 授業の展開計画に沿って、事前に製作するもののアイデアスケッチを考えてくること。
 課題の作品を完成させ、製作の感想と指導のポイントをまとめて授業に臨むこと。
 完成作品の全ての写真を撮り、題名・技法・製作者名・作品解説を明記したポートフォリオ (作品集) を作ること。

テキスト
適宜、プリントを配布する。

参考文献
必要に応じて紹介する。 文部科学省「幼稚園教育要領」2017年4月、フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説」2018年3月、フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針」2017年4月、フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針解説書」2018年3月、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」2017年4月、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」2018年3月、フレーベル館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要
該当なし

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	ピアノ表現法		
担 当 教 員	大迫 貴, 嘉野 美津子		
関 連 資 格	保育士		
備 考	保育士資格の取得を希望する場合、「こども文学」「保育とメディア」「ピアノ表現法」から 1 つ以上履修することが望ましい。 原則として累積 GPA2.0 以上履修可		
ナンバリング	C-95A6-2/こども学〔こどもと表現〕—中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（保育・教育の実践力）

到達目標

1. 保育の場で使用される種々の子どもの歌に取り組み、ピアノ経験に応じたレパートリーを持っている。
2. 保育の場の音楽活動を想定し、コード伴奏を生かした伴奏形を工夫し、柔軟なピアノ伴奏ができる。
3. 子どもの動きに合わせた伴奏を工夫し、自分なりのアレンジを加えて即興で演奏できる。

評価方法

実技発表（70%）＋小レポート・期末レポート（30%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回与えられる課題への取り組み、上達度、および実技発表における評価と指導を行う。
小レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

ピアノ実践法で修得した演奏法を応用して、弾き歌いのレパートリーを広げ、各自のレベルに応じたコード伴奏を学習し、ピアノ表現力を高める。保育現場で多様な音楽活動に対応できるよう、実践的な演奏技術の向上を目指す。90 分の授業を全体の指導と個人指導に時間配分して授業を展開する。

回	内容
1	ピアノテクニック：ハ長調のスケールとカデンツ 童謡：お花が笑った①コード奏と伴奏 就職試験課題曲①
2	ピアノテクニック：ハ長調のスケールとカデンツ復習 童謡：お花が笑った②弾き歌い 就職試験課題曲②

3	ピアノテクニック：ト長調のスケールとカデンツ 童謡：おもちゃのチャチャチャ①コード奏と伴奏 就職試験課題曲③
4	ピアノテクニック：ト長調のスケールとカデンツ復習 童謡：おもちゃのチャチャチャ②弾き歌い 就職試験課題曲④
5	ピアノテクニック：二長調のスケールとカデンツ 子どものうた：小さな世界①コード奏と伴奏 就職試験課題曲⑤
6	ピアノテクニック：二長調のスケールとカデンツ復習 子どものうた：小さな世界②弾き歌い 子どもの動きを生かして：自由曲①
7	ピアノテクニック：ヘ長調のスケールとカデンツ 子どものうた：にじ①コード奏と伴奏 子どもの動きを生かして：自由曲②
8	ピアノテクニック：ヘ長調のスケールとカデンツ復習 子どものうた：にじ②弾き歌い 豊かな表現を目指して：自由曲①
9	ピアノテクニック：ハ長調のアルペジオ 子どものうた：ともだちになるために①コード奏と伴奏 豊かな表現を目指して：自由曲②
10	ピアノテクニック：ハ長調のアルペジオ復習 子どものうた：ともだちになるために②弾き歌い 伴奏をアレンジして：自由曲①
11	ピアノテクニック：ト長調のアルペジオ 子どものうた：世界中のこどもたちが①コード奏 伴奏をアレンジして：自由曲②
12	ピアノテクニック：ト長調のアルペジオ復習 子どものうた：世界中のこどもたちが②弾き歌い 旋律をアレンジして：自由曲①
13	ピアノテクニック：ヘ長調のアルペジオ 子どものうた：にんげんていいな①コード奏と伴奏 旋律をアレンジして：自由曲②
14	ピアノテクニック：ヘ長調のアルペジオ復習 子どものうた：にんげんていいな②弾き歌い 自由曲復習
15	ピアノテクニック復習 子どものうた弾き歌い 自由曲発表

アクティブ・ラーニングの概要

学びを深め、練習の成果を保育の様々な音楽活動につなげていくために、随時課題を発表し、他者の演奏を聴き合う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

毎日、コツコツと練習を積み重ねることが大切である。
 毎回与えられる課題曲を随時発表し、評価するので休まないようにする。
 就職試験などの課題曲の練習に積極的に取り組み、ピアノ技能の修得に努める。
 ピアノ実践法の履修を済ませておくこと。
 注) 履修は最大 16 名とする。8 名を超えた場合は 2 コマ開講とする。

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の練習が必要である。
 毎回、進度に応じた課題が与えられるので、次の授業までにしっかりと練習をしておくこと。

テキスト
鹿児島市私立幼稚園協会編『うたとあそび「うた」をきっかけに広がる保育のために』2019年6月、共同音楽出版社 在原章子、菊本哲也、三好優美子、柳田憲一、山内悠子共著『新版和音伴奏による幼児の歌100曲』2019年3月、全音楽譜出版社

参考文献
随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要
該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	保育・教職実践演習（幼稚園）		
担 当 教 員	味園 佳奈, 中島 賢太郎, 今林 俊一		
関 連 資 格	幼二種免、保育士		
備 考	15 時間で 1 単位		
ナンバリング	C-97A9-1/こども学〔乳幼児教育〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1(保育・教育の職務理解)、区分 3(探究心と自己研鑽力)、区分 4(こどもの未来を創造する力)

到達目標

1. 教職の意義や職務内容について理解し説明することができる。
2. 実習の振り返りや履修履歴の確認を通して、保育者としての自分の課題とその解決策について俯瞰的にまとめることができる。
3. 保育者としての必要な知識・技術をもとに、幼児教育のあり方について自らの見解を述べるることができる。

評価方法

臨時試験(レポート 80%)、発表 (20%) により評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題については、全体の傾向をフィードバックする。
テーマ別研究のレポートは、コメントをつけて返却する。

授業の展開計画

教職の意義や職務内容、使命感・責任感・教育的愛情、社会性・対人関係の能力、幼児理解と学級経営等について、これまでの学内での学びや学外実習を振り返り、グループ討議・発表などを通してさらに深め、教材研究等を通して実践力を高める。また、実習園等において保育現場を見学することで子ども理解を深めるとともに、保育者として必要な知識や技術について確認し、幼児教育のあり方について考察していく。

回	内容
1	オリエンテーション：本演習の目的・計画、これまでの振り返り（担当：中島・味園）
2	外部講師の講話①「幼児理解や学級経営、キャリア形成に関する探究」（担当：中島・味園）
3	保育者としての社会性や対人関係能力等に関する探究①：自分を知る（担当：中島）
4	保育者としての社会性や対人関係能力等に関する探究②：コンセンサスの形成（担当：中島）

5	指導力に関する探究 テーマ別グループ研究①：研究テーマの設定（担当：中島・味園）
6	指導力に関する探究 テーマ別グループ研究②：文献購読（担当：中島・味園）
7	外部講師の講話②「保育者としての使命感・責任感・教育的愛情に関する探究」（担当：中島・味園）
8	幼児理解・指導力に関する探究 保育現場での確認①：見学の事前指導（担当：味園）
9	幼児理解・指導力に関する探究 保育現場での確認②：幼稚園教諭等の職務の理解（担当：味園）
10	幼児理解・指導力に関する探究 保育現場での確認③：幼児理解（担当：味園）
11	幼児理解・指導力に関する探究 保育現場での確認④：保育カンファレンス（担当：味園・中島）
12	幼児理解・指導力に関する探究 保育現場での確認⑤：見学の振り返り（担当：中島・味園）
13	指導力に関する探究 テーマ別グループ研究③：教材研究・ICTを活用した保育実践（担当：中島・味園）
14	指導力に関する探究 テーマ別グループ研究④：まとめ・ICTを活用したプレゼンテーション（担当：中島・味園）
15	本科目に関する振り返り・確認・評価・まとめ（担当：中島・味園）

アクティブ・ラーニングの概要

グループごとのディスカッションを適宜取り入れ、共同研究と発表の力を鍛える。
保育現場での確認を通して幼児理解を深めるとともに、保育者の職務理解に励む。

ICT 活用の概要

教材・資料の掲載

履修上の注意事項

各人が保育者を目指す者としての自分を振り返り、自分なりの課題を持ち続けること。
テーマ別グループ研究においては、一人ひとりが問題意識をもって、主体的かつ協力的に研究を深めていくこと。

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

配布プリントほか、必要に応じてその都度提示する。

参考文献

適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

令和4年度入学生 食物栄養専攻専門教育科目

開講期		科目名
令和5年	前期	公衆衛生学Ⅱ
		生化学
		食品学各論
		食品衛生学実験
		食品加工学
		臨床栄養学各論
		臨床栄養学実習
		健康管理概論
		栄養指導論Ⅱ
		栄養情報処理Ⅱ
		給食管理実習Ⅰ（校内）
		給食管理実習Ⅱ（校外）
		学校給食管理実習（校外）
		給食管理実習事前指導
		応用調理学実習Ⅰ
	後期	社会福祉
		有機化学
		解剖生理学実験
		運動生理学
		生化学実験
		食品微生物学
		食品加工学実習
		食と健康
		栄養指導論実習
		公衆栄養学
		応用調理学実習Ⅱ
		栄養士スキルアップ講座

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	公衆衛生学Ⅱ		
担 当 教 員	青山 公治		
関 連 資 格	栄養士		
備 考			
ナンバリング	S-A076-1/健康科学〔公衆衛生〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解）区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

公衆衛生の目的はすべての人々の疾病防止と健康保持増進であり、集団をそのアプローチの対象とすることが特徴である。将来、公衆衛生的素養をもった栄養士として活躍するために必要な基礎的知識、技術及び習慣、態度を学修することを目標とする。

- ・住民の健康と生活基盤としての地域とのダイナミクスな関係を理解し、地域保健活動の意義、現状、および課題について、また主な保健行政の役割について説明できる。
- ・産業保健、学校保健の意義と活動内容について説明できる。
- ・公衆衛生活動の展開の中での栄養士の役割について説明できる。

評価方法

定期試験[80%] 臨時試験（レポート）[20%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートは評価後返却し、授業中に解説する。

授業の展開計画

住民の健康と生活の基盤とする地域との密接な関係を解説し、その中での地域保健活動としての母子保健、高齢者保健、精神保健の重要性について保健行政の役割を含めて概説する。またさらにそれらの活動の医療・福祉との連携について解説する。一方産業保健、学校保健についてそれらの意義と活動内容について概説する。

回	内容
1	地域保健
2	地域保健活動と保健行政

3	母子保健	a 母子保健の現状と課題・母子保健対策
4	高齢者の保健	a 老化と高齢者の健康状態
5		b 高齢者の保健・医療・介護
6	精神保健	a 精神の健康・精神保健福祉活動
7	産業保健	a 産業保健の意義・勤労者の健康状況・職業病
8	学校保健	a 学校保健の意義、児童生徒の健康状況・学校保健管理と教育

アクティブ・ラーニングの概要

学びを振り返ることを目的にレポートを課す。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

講義内容だけでなく、公衆衛生に関連する日頃の情報にも関心を持ちながら理解を深めること。
この科目を履修する場合、「公衆衛生学Ⅰ」を履修していること。

準備学習（予習・復習等）

次回の講義範囲の教科書に目を通して、講義内容をおおよそ理解しておくこと。
1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

小山 洋他 編『シンプル衛生公衆衛生学 2022』 2022 年 3 月、南江堂

参考文献

「国民衛生の動向」厚生統計協会（2022-2023）、2022 年 8 月

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	生化学		
担 当 教 員	松元 圭太郎		
関 連 資 格	栄養士、フードサイエンティスト		
備 考			
ナンバリング	S-A176-1/健康科学〔基礎医学〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解）

到達目標

- | |
|--|
| 1 三大栄養素の構造、代謝および機能を理解し、質問に解答できる。
2 ビタミン・ミネラルの代謝および機能を理解し、質問に解答できる。
3 生体内の調節機構および情報伝達の種類や機序を理解し、質問に解答できる。 |
|--|

評価方法

定期試験（80％）＋ 臨時試験（授業毎の小テスト）（20％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストについては、小テスト終了後に解説の時間を設ける。 定期試験については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出た学生に対してのみ対応する。

授業の展開計画

最初に身近な栄養素について学び、それらの代謝と機能について、酵素やホルモンなども含めて生体の維持機能にどのように関わっているか学習する。
--

回	内容
1	人体の構成
2	アミノ酸・たんぱく質の構造と機能
3	糖質の構造と機能
4	脂質の構造と機能
5	酵素
6	ビタミン

7	ミネラル
8	生体エネルギーと代謝
9	糖質の代謝
10	脂質の代謝
11	アミノ酸・たんぱく質の代謝
12	核酸の構造・機能とその代謝
13	遺伝子発現とその制御
14	ホルモン
15	情報伝達の機構

アクティブ・ラーニングの概要

前回の授業内容の定着度を把握するために、小テストを実施する。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

わからない点は積極的に質問すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・毎回授業の最初に前回の授業内容に係る小テストを実施するので、しっかり授業内容を復習しておくこと。
- ・予習として、次回講義のキーワード・学習目的を教科書で確認しておくこと。
- ・準備学習時間：1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

岡純・田中進 編 『人体の構造と機能および疾病の成り立ち II. 生化学』 2016 年 11 月、中山書店

参考文献

相原英孝 他著 『イラスト 生化学入門 栄養素の旅 <第 3 版>』 2020 年 4 月、東京教学社
 藺田勝 編 『生化学 第 3 版（栄養科学イラストレイテッド）』 2017 年 12 月、羊土社
 木元幸一・後藤潔 編著 『人体の構造と機能 三訂 生化学（N ブックス）』 2016 年 10 月、建帛社
 阿佐美章次 他編 『わかりやすい生化学』 2007 年 5 月、同文書院

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	食品学各論		
担 当 教 員	櫻井 真		
関 連 資 格	フードサイエンティスト		
備 考			
ナンバリング	S-A276-1/健康科学〔食品学〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解）、区分 4（食を通じて社会に尽くす力）

到達目標

- 1 食品の分類、種類や旬などの特性について説明できる。
- 2 各食品群の成分の特徴について説明できる。
- 3 環境や食品の生産に配慮して食品を利用する考えを説明できる。

評価方法

定期試験 80%、臨時試験（小テスト）20%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、授業内で解説する。

授業の展開計画

食品成分表の収載食品や収載成分などについて概説する。農産食品、畜産食品、水産食品を中心として食品群別に、種類や旬などの生物学的特性、成分などの栄養学的特性、利用方法などについて説明する。

回	内容
1	日本人の食生活：食品ロス、食料自給率、食材の旬 食品成分表：食品成分表の概要、収載食品、収載成分
2	穀類（1）穀類の種類、こめの性状
3	穀類（2）小麦、とうもろこし、その他の種類と性状
4	いも類：じゃがいも、さつまいも、その他の種類と性状 でん粉類
5	豆類：だいず、らっかせい、あずき、その他の種類と性状 種実類：主な種類と性状

6	野菜類（１）野菜類の種類、葉菜類、茎菜類の種類と性状
7	野菜類（２）根菜類、果菜類、花菜類の種類と性状
8	果実類（１）果実類の種類と分類、化学成分
9	果実類（２）仁果類、準仁果類、核果類、液果類の種類と性状
10	きのこ類・海藻類：主な種類と性状
11	魚介類：筋肉と成分、主な種類と特性
12	食肉類（１）主な種類、食肉の性状
13	食肉類（２）食肉の化学成分、熟成と成分変化
14	卵類：卵類の成分、種類と性状 乳類：乳類の成分、牛乳の性状
15	油脂類・嗜好飲料類他 総括

アクティブ・ラーニングの概要

前回授業内容の理解度を把握するため、小テストを実施する。提示する課題についてディスカッションを通じて理解を深める。

ICT 活用の概要

資料などをサーバに掲載する。

履修上の注意事項

特になし。

準備学習（予習・復習等）

授業範囲のテキストを読んで概要を把握しキーワードを調べる。教科書とノートを見直して小テストに備える。食品成分などの性状について説明できるよう授業内容を整理する。授業１コマあたり、事前・事後に計４時間の学修が必要。

テキスト

喜多野宣子他著『食べ物と健康Ⅱ 知っておきたい食品素材と加工の基礎』2020年9月、化学同人

参考文献

種村安子他著『イラスト食品学総論』2021年4月、東京教学社

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	食品衛生学実験		
担 当 教 員	新里 葉子		
関 連 資 格	栄養士、フードサイエンティスト		
備 考			
ナンバリング	S-A276-2/健康科学〔食品学〕ー応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1(専門知識・技術と理解)、区分 2(情報を収集、整理して伝える力)

到達目標

- 1 対象物に応じた微生物実験の操作ができ、食品添加物の定性または定量実験ができる。
- 2 実験器具を正しく使用することができ、実験に関する操作を分担して取り組むことができる。
- 3 実験結果に基づいて、食品の衛生性や安全性について考察してレポートを作成することができる。

評価方法

臨時試験（実験結果：30%、実習の手法・操作：30%、レポート提出：40%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

微生物の培養や検鏡方法を学ぶとともに、食品の微生物学的試験方法や食品添加物の検出、定量方法について基本となる考え方や操作を修得する。

回	内容
1	オリエンテーション：食品衛生学実験を進めるに当たっての諸留意事項 食品微生物検査の説明：操作法、培地の種類、培地の作製法、試薬の調製、使用器具の取り扱い
2	調理場の環境微生物の検査：使用後と殺菌方法別の洗浄スポンジの検査 調理施設での環境微生物の検査：シンクや調理器具の拭き取り検査
3	人体表面常在菌の検査：調理作業後の手指、水洗い後の手指、石鹸洗い後の手指
4	食肉の微生物検査：正常な状態と腐敗状態
5	魚介類の微生物検査：正常な状態と腐敗状態

6	惣菜類、弁当の微生物検査：正常な状態と腐敗状態
7	家庭料理の微生物検査：正常な状態と腐敗状態
8	腐敗につながる環境要因のまとめ 食中毒対策についての講義
9	乳類の微生物検査：アイスクリーム類（アイスクリーム、アイスマルク、ラクトアイス、氷菓） 乳酸菌数検査：発酵乳、乳酸菌飲料、その他乳酸菌加工食品
10	その他発酵食品の微生物検査：漬物類、甘酒、納豆など
11	食品添加物の検査：保存料、着色料の抽出 食器の汚染度試験：デンプンの残留試験、油脂性残留物の試験、たんぱく質残留物の試験
12	食品添加物の検査：保存料、着色料の測定 食品添加物の基準についての講義
13	食物アレルギーの検出：検出キットを用いた食物アレルギーの検出 食物アレルギーについて講義
14	調整試料を用いた微生物検査：食品の特性に合わせた検査方法
15	総括

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間、理解を深めるために実験またはディスカッションを行う。

ICT 活用の概要

必要に応じてスライドを掲示する

履修上の注意事項

毛髪はゴムで結ぶ、金具でまとめるなどして実験の妨げにならないようにすること。
実験室では指示があるまで白衣を着用すること。
爪は指からはみ出さない程度に切り、マニキュアなどはしないこと。
食品衛生の実験であるため、指輪の着用は一切認めない。
※以上を守られていない学生は授業途中であっても出席を認めない。

準備学習（予習・復習等）

特になし

テキスト

最初にプリント集を配付

参考文献

相磯和嘉監修『食品微生物学』1976 年、医歯薬出版
東匡伸著『シンプル微生物学』1994 年、南江堂
食品保健研究会編『食品衛生の手引』1999 年、新日本法規出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要
該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	食品加工学		
担 当 教 員	新里 葉子		
関 連 資 格	栄養士、フードサイエンティスト		
備 考			
ナンバリング	S-A276-3/健康科学〔食品学〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1(専門知識・技術と理解)、区分 3(学び続ける力)、区分 4(食を通じて社会に尽くす力)

到達目標

- 1 加工食品の種類や食品の加工に伴う成分変化、安全性について説明できる。
- 2 規格基準や品質表示など加工食品に関する 6 つの法規について説明できる。
- 3 加工食品の加工方法、保蔵法、包材・包装方法等の目的や種類について説明できる。

評価方法

定期試験(80%)、臨時試験(小テスト 20%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは採点して返却するとともに授業内で解説を行う。
レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

食品加工法の基本原理や食品の品質劣化の機構や貯蔵・保存の原理および、個々の加工食品の製造技術について説明する。説明の際には、市販の加工食品など実物を見せたり、映像なども使用して行ない、主要な加工食品の特徴や加工原理をしっかりと学ぶ。

回	内容
1	食品の加工・保蔵の目的と歴史、および食品加工業の現状
2	食品の保蔵 1：水分活性、乾燥、塩蔵・糖蔵、酸貯蔵、燻煙
3	食品の保蔵 2：高温処理、低温・冷凍貯蔵、植物の呼吸と CA 貯蔵
4	食品の保蔵 3：食品の包装、包材の種類と特徴
5	食品加工の操作：物理的操作、化学的操作、生物的操作

6	食品加工と成分変化：加熱、老化、酸化、褐変
7	食品製造・加工と微生物および酵素：微生物・酵素と食品
8	食品加工と安全性：食品添加物、機能性食品
9	食品加工の表示と規格：関連法規（JAS 法、景表法、食品表示法）、栄養成分、賞味期限、消費期限
10	食品加工と食物アレルギー：アレルギー表示と表示の見方
11	農産加工品（穀類・芋類）
12	農産加工品（豆類・野菜類・果実類）
13	畜産加工品（乳製品・畜肉製品・卵製品）
14	水産加工品（練り製品・缶詰製品）
15	発酵食品（酒類・味噌・醤油・味醂・食酢）、調味料・嗜好食品（調味料・食塩・甘味料）・食用油脂

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間、理解を深めるためにディスカッションまたは、小テストを実施する。

ICT 活用の概要

必要に応じて教材・資料・授業スライドの掲載を行なう。

履修上の注意事項

習ったことに当てはまる食品など目についたらノートに書き留める習慣をすること。
食に関わる事例や原因、対策などのテーマについて考える習慣をすること。
間違っても良いのでなぜそうなのかを考えて自分の意見を発言すること。

準備学習（予習・復習等）

次回の授業で行うディスカッションのテーマや小テストの範囲を示すので、事前に調べたり、前回の授業の復習をしておくこと。
食品に関わるニュースを新聞やテレビで見て意識すること。
1 コマの授業あたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

宮尾茂雄・北尾悟 編著編『食品加工学』四訂版、2019 年 11 月、建帛社

参考文献

杉田浩一他編『日本食品大事典』2003 年、医歯薬出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	臨床栄養学各論		
担 当 教 員	大山 典子		
関 連 資 格	栄養士		
備 考			
ナンバリング	S-A379-1/健康科学〔栄養学〕－発展		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解）

到達目標

- 1 疾病の病態について知識を持ち、栄養療法の必要性を理解している。
- 2 栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解している。
- 3 栄養療法を理解の上、献立・調理さらに栄養指導ができる。

評価方法

定期試験 80%、臨時試験（小テスト 20%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは採点して返却するとともに授業内で解説する。定期試験の結果については、指定した期間内において申し出により解説を行う。

授業の展開計画

疾病の病態について学び、食事療法・献立・調理さらに栄養教育の具体的手法を解説する。最後に結果のモニタリグ・評価・フィードバック・再評価の考え方を述べる。その他に薬と栄養・食物の相互作用や栄養ケアの記録などについて修得する。

回	内容
1	臨床栄養の基礎
2	代謝性疾患について（食事療法・献立・調理）
3	代謝性疾患（メタボリックシンドローム）について（食事療法・献立・調理）
4	循環器疾患について（食事療法・献立・調理）
5	消化管疾患について（食事療法・献立・調理）

6	肝胆膵疾患について(食事療法・献立・調理)
7	腎臓疾患について (食事療法・献立・調理)
8	呼吸器・血液疾患について (食事療法・献立・調理)
9	内分泌・骨疾患について (食事療法・献立・調理)
10	免疫・アレルギー疾患について (食事療法・献立・調理)
11	術前・術後の栄養管理について (食事療法・献立・調理・)
12	悪性腫瘍と栄養について (食事療法・献立・調理)
13	栄養ケア・マネジメント・栄養アセスメント
14	薬と栄養・食物の相互関係
15	総括

アクティブ・ラーニングの概要

必要に応じてディスカッションを行う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

臨床栄養学総論で学んだ臓器の働きや、病気のしくみを理解しておくこと。

準備学習 (予習・復習等)

次回の授業範囲の教科書を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
臨床栄養学実習における栄養成分コントロール食の献立作成につなぐようにすること。(4時間)

テキスト

友竹裕之 塚原丘美編『栄養科学シリーズ NEXT 臨床栄養学概論』、2016年8月、講談社 長浜幸子他編『臨床栄養学実習』、2016年1月、第一出版 日本栄養士会編『管理栄養士栄養士必携』2022年度版、2022年3月 日本糖尿病学会『糖尿病食事療法のための食品交換表』2013年11月、文光堂 医療情報科学研究所編『クエスチョンバンク管理栄養士 2022』、2021年7月、第一出版

参考文献

玉川和子他著『臨床調理』第5版、2012年2月、医歯薬出版など随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:管理栄養士 職歴:相良病院にて栄養管理部長として勤務ほか

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	臨床栄養学実習		
担 当 教 員	大山 典子		
関 連 資 格	栄養士、フードサイエンティスト		
備 考			
ナンバリング	S-A379-2/健康科学〔栄養学〕－発展		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（栄養士業務の実践力） 区分 3（主体的に学ぶ力）

到達目標

- 1 傷病者の身体状況や栄養状態、疾病に対応した食事療法を学び、献立作成できる。
- 2 保健機能食品や特別用途食品の特性を理解したうえで食事と併用し、協力しあって献立を作成し調理し、その特性を説明できる。
- 3 一般食から各治療食へ栄養素の増減・調理形態・調味など制約を考慮して、協力して展開献立を考え調理し、その工夫を説明できる。

評価方法

定期試験 50%＋ 臨時試験（実技 40% 実習時の献立展開とその内容、提出レポート 10%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

献立作成・展開時にアドバイスし、出来上がった食事内容・調理方法について授業内で解説する。定期試験の結果については、指定した期間内において申し出により解説を行う。

授業の展開計画

病院栄養士の業務および病院における一般治療食と特別治療食を概説する。次いで、各疾患のガイドラインや指針による栄養基準量の決定や食品群別荷重平均成分表および糖尿病食品交換表による食品構成を学び、それを踏まえて常食の献立を作成し、各疾患に対応した献立へと展開させ、臨床調理を実習する。

回	内容
1	病院栄養部門の業務、一般治療食の概要・種類
2	特別治療食の概要・種類 ①成分栄養特別食
3	特別治療食の概要・種類 ②その他の特別食
4	一般治療食の食品構成作成および献立作成
5	一般治療食調理実習 軟菜食への展開食献立作成

6	軟菜食調理実習
7	流動食調理実習 エネルギーコントロール食への展開食作成
8	エネルギーコントロール食調理実習 たんぱく質コントロール食への展開食作成
9	たんぱく質コントロール食調理実習 脂質コントロール食への展開食作成
10	脂質コントロール食調理実習 ナトリウムコントロール食への展開食作成
11	ナトリウムコントロール食調理実習 胃腸疾患食への展開食作成
12	胃腸疾患食調理実習 貧血食への展開食作成
13	貧血食調理実習 食物アレルギー食への展開食作成
14	食物アレルギー食調理実習
15	総括

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間、理解を深めるためにディスカッションを行う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

一般食を特別治療食へ展開し、その材料を準備する。
 特別治療食の作り方を理解し、時間内に出来上がるよう作業工程を話し会っておく。
 調理後、その仕上がり・調理方法などの工夫した点・問題点などを挙げ、解決策を話し合うこと。
 授業時間内に所定の課題を終えるように努めること。
 実習内容を献立表を添付して、レポートを提出する。

準備学習（予習・復習等）

特になし

テキスト

長浜幸子編『臨床栄養学実習』2016 年 1 月、第一出版 玉川和子他著『臨床調理』第 7 版、2016 年 3 月、医歯薬出版
 日本栄養士会編『管理栄養士栄養士必携』2022 年度版、2022 年 3 月、第一出版

参考文献

日本糖尿病学会『糖尿病食事療法のための食品交換表』2013 年文光堂
 黒川清『腎臓病食品交換表』2008 年 10 月、医歯薬出版など随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:管理栄養士 職歴:相良病院にて栄養管理部長として勤務ほか

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	健康管理概論		
担 当 教 員	相星 壮吾		
関 連 資 格	栄養士		
備 考			
ナンバリング	S-A076-2/健康科学〔公衆衛生〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解）区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1 健康とは何か？…について正しく理解し、説明できる。
- 2 健康に関する様々な情報を適切に取捨選択し、問題点を指摘できる。
- 3 健康の保持増進のための方策を理解・実践し、適切にアドバイスできる。

評価方法

授業中の発言内容及びグループワーク等で検討した結果の発表内容[40%]
課題に対するレポート[60%]（初回の授業でレポート課題を提示する）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・授業中の発言内容及びグループワーク等で検討された成果物については発表のあと評価と解説を行う。
- ・定期試験として提出を求めるレポートについては、最終授業の中で評価項目の説明と解説を行うとともに、レポート提出時まで申し出た学生に対してはコメントを付して返却する。

授業の展開計画

少子高齢が加速度的に進行している現在社会においては、健康や長寿への関心がますます高まっており、食（栄養）に関する専門職が果たす役割は極めて大きい。自らが健康に関する正しい知識を持ち、適切に行動することができるよう、また、一般住民等への助言指導を適切に実施することができるよう、わかりやすい実例を挙げながら授業を進める。
グループワークにおいて取り組む課題については、授業の中で評価と解説を行う。

回	内容
1	健康とは？ … 健康の概念、健康の促進因子・阻害因子 など
2	健康増進・疾病予防のためにできること（個人またはグループによる検討と発表）
3	生活習慣と健康 … 生活習慣病の概念と現状

4	望ましい生活習慣を実現するためにできること（個人またはグループによる検討と発表）
5	生活習慣病対策とヘルスプロモーション … 健康教育の実際
6	生活習慣病対策の啓発資材（個人またはグループによる検討と発表）
7	健康管理に関する知識のまとめと確認
8	健康管理に関する技術のまとめと確認、レポートの提出と解説

アクティブ・ラーニングの概要

第1回・第3回・第5回の授業内容に関して理解度を把握するため、第2回・第4回・第6回の授業において個人またはグループによる検討及び検討結果の発表を行う。

ICT 活用の概要

授業で使用したプレゼンテーション（PDF ファイルに変換したもの）を教育支援サイトにアップロードする。
感染症の流行状況等を踏まえ、WEB 授業で対応可能な内容については WEB 授業を実施する。

履修上の注意事項

授業で得た知識や技術を家庭・学校・職場・地域における生活場面で実際に活かすことができるように、主体的・積極的な態度で好奇心を持って受講して欲しい。

準備学習（予習・復習等）

次回授業で予定される内容について指定された教科書の該当部分を読んでおくこと。
授業に集中できる体調で受講すること。
授業後はレポート課題及び授業中に出题する宿題等に取り組むこと。
授業1コマあたり、事前・事後に概ね4時間の学習が必要である。

テキスト

中谷弥栄子、武山英磨著『サクセス管理栄養士講座 社会・環境と健康[公衆衛生学][健康管理概論]（2022年版）』2022年3月、第一出版
加えて、各回の授業に関する資料を配付する。

参考文献

特になし。（必要に応じて講義の際に資料として文献を配付する場合がある）

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:医師免許 職歴:病院勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	栄養指導論Ⅱ		
担 当 教 員	大山 典子		
関 連 資 格	栄養士		
備 考			
ナンバリング	S-A576-1/健康科学〔栄養指導〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解）（栄養士業務の実践力）

到達目標

- 1 栄養特性を理解したうえで、うまく伝わるような指導内容・方法を考えることができる。
- 2 身体的、精神的、社会的な状況を考慮したライフステージによる栄養特性を理解し、指導できる。
- 3 ライフスタイル別の栄養特性を理解し、指導できる。

評価方法

定期試験 80%、臨時試験（レポート 20%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントをつけて返却する。定期試験の結果については、指定した期間内において申し出により解説を行う。

授業の展開計画

出生から高齢期に至るまでのライフステージごとに、その特性や問題視される食と健康の現状を知り、健康の維持・増進および疾病の治癒に貢献する栄養教育・指導のあり方について解説する。

回	内容
1	栄養教育と指導時の計画 他
2	妊娠・授乳期 妊婦・授乳婦の特性、実態と問題点
3	妊娠期の臨床栄養教育と指導
4	新生児・乳児期 乳児の特性、実態と問題点、成長・発達、離乳について
5	幼児期 幼児期の特性、実態と問題点、保育について

6		乳・幼児期の臨床栄養教育と指導
7	思春期	思春期の特性、実態と問題点、成長・発達について
8		ダイエット、貧血、摂食障害、運動と栄養の関連
9	成人期	成人期の特性、実態と問題点、生活習慣病予防
10		臨床栄養教育と指導（消化器疾患・肝臓疾患・循環器疾患）
11		臨床栄養教育と指導（腎臓疾患・代謝性疾患・内分泌疾患）
12	高齢期	高齢期の特性、実態と問題点
13		介護を伴う障害（摂食・嚥下）、骨疾患の栄養教育と指導
14		QOLの確立および寝たきり予防の栄養教育と指導
15	総括	

アクティブ・ラーニングの概要

必要に応じてディスカッションする。

ICT活用の概要

特になし

履修上の注意事項

栄養指導論Ⅰを復習し、ライフステージ別の食事の特性について熟知しておくこと。

準備学習（予習・復習等）

次回の授業範囲を予習し専門用語の意味を理解し、授業後はライフステージ別疾患についてまとめること。（4時間）

テキスト

芦川修貳 田中弘之編『栄養士のための栄養指導論』第7版 2021年2月、学建書院、配布プリント

参考文献

随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許：管理栄養士 職歴：相良病院にて栄養管理部長として勤務ほか

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	栄養情報処理Ⅱ		
担 当 教 員	櫻井 真, 鎌田 典子		
関 連 資 格	栄教二種免		
備 考			
ナンバリング	S-A776-1/健康科学〔情報〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（栄養士業務の実践力）、区分 2（情報を収集、整理して伝える力）

到達目標

- 1 アプリケーションソフトを活用し、栄養指導媒体の作成、アンケート調査とデータ整理を行うことができる。
- 2 栄養管理ソフトを活用し、給食管理を実施することができる。
- 3 守秘義務など実務における情報の取り扱いの基本的な留意点と情報セキュリティの必要性を理解し、説明できる。

評価方法

定期試験 75%、臨時試験（レポート）25%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（レポートなど）は、授業内でコメントして解説する。

授業の展開計画

栄養管理ソフトについて、栄養価計算を行い献立作成を演習する。情報倫理について、具体的な事例に基づき情報管理の考え方を学ぶ。プレゼンテーションソフトについて、スライド編集の基本などを演習する。文書作成ソフトと表計算ソフトを活用して、食事調査アンケート用紙の作成、データの集計とレポートの作成を演習する。

回	内容
1	イントロダクション 櫻井 栄養管理（1）給食管理実習献立案作成 鎌田
2	栄養管理（2）給食管理実習実施献立作成 鎌田
3	栄養管理（3）物資管理—使用量の計算・発注書作成 鎌田

4	栄養管理（４）指導資料作成（チケット作成含む）	鎌田
5	栄養管理（５）報告書作成・実施献立栄養価等	鎌田
6	情報倫理（１）グループワーク：職場に必要な情報スキルとは	末永
7	プレゼンテーション（１）スライドの編集、レイアウト、図形描画機能他	櫻井
8	プレゼンテーション（２）画像やイラストの挿入、アニメーション、配付資料他	櫻井
9	情報倫理（２）グループワーク：日常生活の中にある恐怖	末永
10	食事調査アンケート（１）質問用紙の作成	櫻井
11	食事調査アンケート（２）調査結果の集計	櫻井
12	食事調査アンケート（３）グラフの作成	櫻井
13	食事調査アンケート（４）レポートの作成	櫻井
14	情報倫理（３）復習	末永
15	総合演習	櫻井・末永

アクティブ・ラーニングの概要

学生相互の理解を確認する機会を設ける。（グループワーク）

ICT 活用の概要

レポート課題の掲載。復習用選択式問題。

履修上の注意事項

特になし。

準備学習（予習・復習等）

予習：テキスト該当項目や課題のプリントを読み概要を把握しておくこと。栄養管理では献立を事前に準備してくること。授業でタッチタイピング速度を計測するので、日頃から練習しておくこと。30 分。

復習：授業で取り組んだ課題、栄養管理について復習すること。30 分。

テキスト

杉本くみ子・大澤栄子著 『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』 2019 年 5 月 実教出版

実教出版編集部 『2021 事例でわかる情報モラル』 2021 年 2 月 実教出版
プリントを配付する。

参考文献

特になし。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

鎌田 保有資格・免許:管理栄養士 職歴:鹿児島市医師会病院等で管理栄養士として勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	給食管理実習 I（校内）		
担 当 教 員	鎌田 典子		
関 連 資 格	栄養士		
備 考	校内実習		
ナンバリング	S-A67C-1/健康科学〔給食管理〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（栄養士業務の実践力）、区分 2（情報を収集、整理して伝える力）、区分 3（協働する姿勢）

到達目標

- 1 給食管理を学生が主体的に進めることにより、大量調理の方法・技術を修得し、実践できる。
- 2 栄養管理ソフトや文書作成ソフトを活用し、栄養管理や事務管理を効率的に実施できる。
- 3 チームで作業することで、人と共働して役割遂行ができる。

評価方法

臨時試験（レポート・発表能力）100%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題はコメントをつけて返却する。

授業の展開計画

特定給食施設での給食管理の目的に沿って、これまで学習してきた栄養士専門科目の基礎知識を活かして、実際に 20 歳前後の学生を対象とした給食作成(100 食以上)を実施する。また、それに伴う事務処理を適切に行う。

回	内容
1	1. オリエンテーション 給食業務の目的と意義・実習計画
2	2. 計画（plan） 給与栄養基準量の算出・献立計画および栄養価計算
3	試作・献立検討
4	調理作業計画および発注・出庫計画
5	栄養教育の計画および学生食堂の媒体計画
6	3. 実施（do） 発注・出庫

7	検収・保管および学生食堂の準備
8	大量調理実習・盛り付けおよび検食・保存食
9	供食（配膳・喫食）
10	食器の回収と洗浄，調理器具の洗浄と消毒および後片付けと点検
11	4. 評価（see） 残食、残菜調査
12	調理作業と調理機器操作の衛生管理および作業の安全管理の検討
13	帳票整理
14	実習全体を通しての検討・反省・評価
15	5. 総括

アクティブ・ラーニングの概要

PDCA サイクルに基づき、グループワーク、プレゼンテーションを行う。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

実習へ向けて、健康管理に留意すること。
 実習形式で授業を展開するため、出席を重視する。
 実習前ミーティング・終了後反省を、授業時間外に行う場合がある。
 授業時間内に所定の課題を終えるように努めること。

準備学習（予習・復習等）

事前に作業工程表に従って作業内容・調理方法等確認をしておくこと。

テキスト

配布プリント

参考文献

「日本人の食事摂取基準」（2020 年版）厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書 第一出版
 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」平成 30 年 9 月 学建書院
 厚生労働省「大量調理施設衛生管理マニュアル」平成 29 年 6 月
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzendu/0000168026.pdf#search>

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:管理栄養士 職歴:鹿児島市医師会病院等で管理栄養士として勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	給食管理実習Ⅱ（校外）		
担 当 教 員	進藤 智子		
関 連 資 格	栄養士		
備 考	校外実習 原則として累積 GPA2.0 以上履修可		
ナンバリング	S-A67C-2/健康科学〔給食管理〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（栄養士業務の実践力）、区分 4（食を通じて社会に尽くす力）

到達目標

病院、保育所、高齢者福祉施設、事業所など校外での実習を通し以下のことができるようになる。

- 1 実習施設の給食提供に関わるサービスの流れ（給食管理）を理解し、適切な判断および行動ができる。
- 2 実習施設の目的に沿った栄養管理・献立作成ができる。
- 3 実習での気づき（問題発見）を問題解決へつなぐことができる。

評価方法

実習施設評価 50%、臨時試験（実習ノート、報告書など）50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題及び実習ノートは、それぞれの実習先へ提出し指導を受けることとなる。
実習終了後、実習ノートは実習報告のため学内指導者に提出するが、返却時に個別指導を行う。

授業の展開計画

2 週間にわたる実習期間内に、施設の概要を把握し、給食運営に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳などの基本操作の流れについて、段階を踏んで実習する。

回	内容
1	実習施設の概要把握 組織、運営形態、喫食者の特徴、給食施設構成員の役割分担
2	給食委員会の設置と運営など
3	食材料の管理 食材料の発注・検収、在庫管理・棚卸し、食数管理
4	栄養管理 給与栄養目標量と食品構成、

5		予定および実施献立作成
6		喫食状況および食事指導状況
7		残食調査および嗜好調査
8	施設・設備管理	外設備・備品の点検と清掃
9	衛生・安全管理	調理中の食材料の取り扱い、残菜および廃棄物の取り扱い
10		保存食および検食、作業中の事故防止と安全管理
11	作業管理	食堂整備と片付け、食材料の下処理、調理作業、食器洗浄
12		1日終了後の清掃など
13	事務管理	給食関係帳票の種類・様式・記入要領
14		報告書類の種類・様式・作成要領・提出先
15	総括	

アクティブ・ラーニングの概要

実習期間中、毎日栄養士業務を実地で学ぶ。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

履修に関する内規に抵触していないこと。
 社会人としての意識を持ち、実習先に就職したつもりで実習に臨むこと。
 問題意識を持ち、積極的な態度で臨むこと。
 実習時間以内に所定の課題は終えること。
 実習期間は、特に体調を崩さないようにしっかりと自己管理すること。

準備学習（予習・復習等）

特になし

テキスト

プリント
 日本栄養士会編『管理栄養士栄養士必携 2022 年度版』2022 年刊行予定、第一出版

参考文献

随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

病院・高齢者福祉施設・保育所等での実習

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	学校給食管理実習（校外）		
担 当 教 員	榊 順子		
関 連 資 格	栄教二種免		
備 考	校外実習（栄養教諭履修者） 原則として累積 GPA2.5 以上履修可		
ナンバリング	S-A67C-3/健康科学〔給食管理〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

特になし

到達目標

- | |
|--|
| 1 学校給食の献立の作成方法を理解して、自ら献立作成ができる。
2 共同調理場または単独調理場での学校給食の厳しい衛生管理について正しく理解し実地に実践ができる。
3 共同調理場または単独調理場での日々の作業内容を実践し地域社会と協働する重要性を理解する。 |
|--|

評価方法

実習施設評価 70%、実習記録ノート 30%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

単独調理場である自校式の小・中学校、もしくは共同調理場である学校給食センターにおいて、給食運営に必要な給食費や献立作成、材料発注・検収、食数管理、調理作業、配膳などの基本操作の流れを 1 週間にわたって実習する。
--

回	内容
1	学校給食の歴史・目的、学習の要点及び実習の心得の再確認
2	ガイダンス 組織、運営形態、給食施設構成員の役割分担
3	喫食者の特徴、給食委員会の設置と運営など

4	食材料管理	発注・検収、在庫管理・棚卸し、食数管理等
5	栄養管理	給与栄養基準量と食品構成、予定および実施献立作成
6	喫食状況および食事指導状況、残食調査および嗜好調査	
7	施設・設備管理	厨房内外設備・備品の点検と清掃
8	衛生・安全管理	調理中の食材料や残菜・廃棄物の取り扱い
9	保存食および検食、作業中の事故防止と安全管理	
10	調理業務	大量調理の生産管理
11	作業管理	食堂整備と片付け、食材料の下処理、食器洗浄、清掃等
12	事務管理	給食関係帳票の種類・様式・記入要領
13	報告書類の種類・様式・作成要領・提出先	
14	学校給食関連指導媒体「給食だより」など	
15	1 週間を振り返っての総括	

アクティブ・ラーニングの概要

校外の学校給食施設における実習

ICT 活用の概要

実習における課題・質問の解説等の受講者のパソコンへの転送

履修上の注意事項

1 年前期と 1 年後期の教職関連科目を全て修得し、2 年前期の教職関連科目も全て履修していること。
 実習開始までに事前課題を完了させ、計画等を実習ノートに記入しておくことが望ましい。
 実習終了後はすみやかに実習ノートを完成させ指導者の指導を受けることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）

特になし

テキスト

日本栄養士会『管理栄養士・栄養士必携一データ・資料集一』2022 年 3 月、 第一出版
 給食管理実習Ⅱの実習記録ノート、配布プリント

参考文献

適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

学校給食センター等での実習

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	給食管理実習事前指導		
担 当 教 員	進藤 智子, 大山 典子, 鎌田 典子		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	S-A676-1/健康科学〔給食管理〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（栄養士業務の実践力）、区分 4（食を通じて社会に尽くす力）

到達目標

- 1 給食管理実習Ⅱ（校外）の目的や実習内容などについて説明することができる。
- 2 給食管理実習Ⅱ（校外）の実習施設別の目的に沿った献立作成や栄養指導ができる。
- 3 大量給食時の衛生管理について説明できる。

評価方法

臨時試験（施設別課題 100%、課題のない場合は同様施設相当の課題 100%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

随時、指導する。

授業の展開計画

給食管理実習Ⅱ（校外）の目的を達成するための諸準備を行う。

回	内容
1	実習の目的と内容の概要
2	大量給食の基本と流れ
3	大量給食の衛生管理について
4	施設別の特性および実習内容
5	事前訪問するにあたって

6	施設別指導（病院・高齢者福祉施設・保育園・事業所） 献立作成についての説明
7	施設別指導（病院・高齢者福祉施設・保育園・事業所） 献立作成
8	施設別指導（病院・高齢者福祉施設・保育園・事業所） 栄養価計算
9	施設別指導（病院・高齢者福祉施設・保育園・事業所） 栄養指導案作成
10	施設別指導（病院・高齢者福祉施設・保育園・事業所） 媒体作り
11	施設別指導（病院・高齢者福祉施設・保育園・事業所） 栄養指導模擬練習
12	実習にあたって（諸注意他必要書類の配布）
13	実習ノートの書き方
14	施設別指導（病院・高齢者福祉施設・保育園・事業所） 個人テーマについての準備
15	施設別指導 まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

各自の計画により実習先のテーマや課題に取り組み、給食管理実習Ⅱ（校外）に備えるが、進捗状況は毎回施設別指導者に報告し、助言を受けながら準備を進める。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

給食管理実習Ⅱ（校外）の事前準備のための科目である。計画的に準備を進めること。

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。

テキスト

田上貞一郎、田中ひさよ著『管理栄養士・栄養士になるための国語表現』2022 年 4 月、萌文書林

参考文献

適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

大山 保有資格・免許:管理栄養士 職歴:相良病院にて栄養管理部長として勤務ほか
 鎌田 保有資格・免許:管理栄養士 職歴:鹿児島市医師会病院等で管理栄養士として勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	応用調理学実習 I		
担 当 教 員	進藤 智子		
関 連 資 格	栄養士		
備 考			
ナンバリング	S-A476-1/健康科学〔調理学〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（栄養士業務の実践力）、 区分 3（協働する姿勢）、 区分 4（社会のために尽くす力）

到達目標

- 1 既習の基礎調理の技術や調理理論を応用して調理ができる。
- 2 保育園や高齢者福祉施設等での給食へつながる献立作成や調理ができる。
- 3 グループワークを通じて協働しながら目的に応じた料理を完成させることができる。

評価方法

定期試験（40%）、臨時試験（実習ノート・献立作成等の課題 20%、実技試験 40%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題はコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

春夏向きの献立、鹿児島の郷土料理を実習する。また、栄養士としての視点に立った献立作成や、調理能力を培うことを目標としたい。

回	内容
1	鹿児島の郷土料理 1（春） あくまき、かるかん
2	日本料理 1 調理の基本（炊飯・揚げ物・煮物・和え物） 麦飯・天ぷら・かぼちゃの含め煮・白和え
3	西洋料理 1 調理の基本（ルー・バターケーキ） マカロニグラタン・フルーツサラダ・レモンピールケーキ
4	西洋料理 2（春） フルコースの献立 そら豆のクリームスープ・スコッチエッグ他

5	鹿児島県の郷土料理 2（春）	酒ずし、しゅんかん 他
6	中国料理 1	調理の基本（いかの切り方・砂糖の扱い方） 炒墨魚（いかの炒め物）・拔絲地瓜（さつまいもの飴だき）他
7	保育園の給食	1～2歳、3～5歳、離乳食への展開
8	高齢者福祉施設の給食	高齢者向けの献立（夏）
9	テーマ別実習	（保育園・高齢者福祉施設給食献立他）
10	中国料理 2（飲茶料理）	鶏粥（鶏肉入り粥）、焼売（しゅうまい）他
11	日本料理 2（初夏の客膳料理）	鰹のたたき、沢煮椀他
12	鹿児島県の郷土料理 3（夏）	鶏飯、さつま揚げ他
13	西洋料理 3（夏）	フルコースの献立 夏野菜のスープ、小エビのエスカベージュ他
14	日本料理 3（夏）	冷やし鯛めん、豆腐の田楽他
15	実技総括	

アクティブ・ラーニングの概要

毎回、テーマに沿って実習を行う。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

清潔な白衣、キャップを忘れないこと。
授業中に所定の課題は終えること。

準備学習（予習・復習等）

特になし。

テキスト

プリント
西堀すき江編『調理学実習』2019年12月、建帛社

参考文献

鹿児島県食生活改善推進員連絡協議会編『故郷の味』2010年12月、鹿児島県食生活改善推進員連絡協議会
竹中 優・土江節子編『応用栄養学 栄養マネジメント 演習・実習』2020年3月、医歯薬出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	社会福祉		
担 当 教 員	益満 孝一		
関 連 資 格	栄養士、社会福祉主事任用資格		
備 考			
ナンバリング	S-81A3-1/社会福祉学－基礎		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解）区分 3（学び続ける力）

到達目標

1. 現代社会における社会福祉の意義を理解し説明できる。
2. 社会福祉、社会保障制度の仕組みを理解し説明できる。
3. 社会福祉の在り方を自分なりに論考できる。

評価方法

定期試験 (80%) + 臨時試験（レポート 20%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートなど課題については、講義中にフィードバックを行う。
定期試験については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出た学生のみ対応する。

授業の展開計画

毎回のテーマに沿って、具体的な事例も交えながら授業を進めていく。講義中心であるが、ソーシャルワークやカウンセリングなど対人援助技術の理論と技法も取り入れながら、学生が積極的に授業に参加できるように努める。社会福祉の仕組みや枠組みを修得し、課題を抱えた人への支援について理解を深める。仲間同士のピアヘルピングを学ぶことで、お互いのウェルビーイングを尊重した関係づくりについても学ぶ。

回	内容
1	社会福祉の理念と歴史的変遷
2	子ども家庭支援と社会福祉
3	社会福祉の制度と法体系
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等
5	社会福祉の専門職 保育士・社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師・介護福祉士・介護支援専門員など

6	社会保障および関連制度の概要
7	相談援助の理論 ソーシャルワーク・カウンセリング
8	相談援助の意義と機能 受容・非審判的態度・秘密保持・ストレングスの視点・エンパワーメントなど
9	相談援助の対象と過程 相談面接の過程
10	相談援助の方法と技術 ソーシャルワーク・カウンセリング・コンサルテーション・スーパービジョン・グループワーク・ケースマネジメントなど
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ
12	少子高齢化社会における子育て支援
13	共生社会の実現と障害者施策 インクルージョンの理念
14	在宅福祉・地域福祉の推進
15	諸外国の社会福祉の動向

アクティブ・ラーニングの概要

数回レポートを課した上で、その内容発表の時間を授業内に設ける。
レポート内容については、事前に内容を指示しておくので、そのレポート内容に関する授業の際は、各自予習し自分の意見をまとめた上で授業に臨むこと。

ICT 活用の概要

Google classroom を使用する。インターネットを用い、プロジェクターなど視聴覚教材を活用して講義を行う。

履修上の注意事項

不明な点があれば、講義中、あるいは配布資料の質問のところで、遠慮なく質問すること。

準備学習（予習・復習等）

テキストや事前に配布した資料等で各回の予習と復習を行うこと。
1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

公益財団法人児童育成協会監修／松原康雄・坪洋一・金子充編集 『社会福祉』 2019 年 中央法規

参考文献

日本教育カウンセラー協会編 『ピアヘルパーワークブック』 2002 年 図書文化

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	有機化学		
担 当 教 員	新里 葉子		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	S-7AA6-1/理科〔化学〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1(基礎知識) (専門知識・技術と理解)

到達目標

- | |
|---|
| 1 代謝の概念及び細胞の基本的機能について説明できる。
2 糖質、脂質、たんぱく質、酵素、核酸など、生命活動を支える物質の性質を説明できる。
3 糖質、脂質、たんぱく質、酵素、核酸など、生命活動を支える物質の代謝や遺伝情報について説明できる。 |
|---|

評価方法

定期試験 60%、臨時試験(授業毎の小テスト 40%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは採点して返却するとともに授業内で解説を行う。 レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

人体の仕組みと化学 I、人体の仕組みと化学 II を学んだ上で、体内での様々な化学反応の仕組みを正しく理解し、生化学的な基礎知識の蓄積と、臨床栄養学へのさらなる理解への基礎を作る。
--

回	内容
1	代謝とは・生命維持に必要な栄養素の構造と性質
2	酵素の役割と性質
3	糖質代謝：糖質代謝の概要、解糖のしくみ、糖新生
4	脂質代謝：脂質代謝の役割と概要、脂質の消化吸収と貯蔵、ケトン体
5	たんぱく質・アミノ酸の代謝：役割と概要、たんぱく質の消化・吸収

6	核酸・ヌクレオチドの代謝：役割と概要、ヌクレオチドの合成・分解
7	エネルギー代謝の統合と制御
8	遺伝情報：遺伝情報を担う物質、DNA の複製・転写・翻訳

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間、理解を深めるためにディスカッションを行う。

ICT 活用の概要

必要に応じて教材・資料・授業スライドの掲載を行なう。

履修上の注意事項

「人の体の仕組みと化学 I」「人の体の仕組みと化学 II」を履修していること。

準備学習（予習・復習等）

次回の授業のディスカッションのテーマを掲示するので、事前に調べておくこと。
1 回の授業あたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

宮澤恵二 編『臨床生化学』第 5 版、2018 年 1 月、メディカ出版
岡純・田中進 編『人体の構造と機能および疾病の成り立ち II. 生化学』、2016 年 11 月、中山書店

参考文献

清水孝雄監訳『イラストレイテッド ハーパー・生化学』第 30 版、2016 年 12 月、丸善出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	解剖生理学実験		
担 当 教 員	牛飼 美晴, 指宿 りえ		
関 連 資 格	栄養士		
備 考			
ナンバリング	S-A1A9-1/健康科学〔基礎医学〕－発展		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解） 区分 2（情報を収集、整理して伝える力）

到達目標

- 1 講義で得た知識をもとに実験を行うことによって、自分たち自身の身体の構造をより深く理解している。
- 2すでに学んだ知識と実際に自分の身体に起きている様々な生理的現象を結びつけ、説明できる。
- 3 科学論文の記載様式に準じてレポートを作成することができる。

評価方法

提出スケッチおよびレポート 100%

すべての実習を実施してそのスケッチまたはレポートを提出し、指定した期日までにそれらの提出物を完成しなければ、単位認定の対象とはしない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出されたスケッチおよびレポートは確認後返却する。返却されたスケッチまたはレポートに訂正点が指摘された場合には、その部分を訂正して再提出する。訂正点が無くなりスケッチまたはレポートが完成するまで、この作業を繰り返す。

授業の展開計画

1 年次で学んだ解剖学と生理学の内容について、自分自身の身体と人体標本を使って実験を行い、学んだ知識をより現実的な生きた知識として身に付けるための実験である。
最初の 1・2 回目は、授業全体の流れの説明や提出物作成における注意点について、および 4 種類の実験について実施方法や実施にあたっての注意点等について説明する。3～6 回目は 4 班に別れ、班毎にローテーションをしながら 4 種類の実験を実施する。次の 8・9 回目で残り 5 種類の実験についての説明を行い、10～14 回目は 5 班に分かれて、同様に班毎にローテーションをしながら

回	内容
1	実習説明（A） 骨学実習、解剖学実習の説明【牛飼】
2	実習説明（B） 組織実習、感覚に関する実験（1）の説明【牛飼】

3	骨学実習	人体骨格標本の観察【牛飼】
4	解剖学実習	サルの各器官の観察【牛飼】
5	組織実習	人体組織標本の観察【牛飼】
6	感覚に関する実習（１）	皮膚感覚（触・圧覚、痛覚、温覚、冷覚）の分布【牛飼】
7	実習前半のまとめ、資料文献検索【牛飼】	
8	実習説明（Ｃ）	感覚に関する実験（２）、身体状況に関する実習の説明【指宿】
9	実習説明（Ｄ）	血液に関する実験（１）・（２）、循環に関する実習の説明【指宿】
10	感覚に関する実験（２）	味覚と風味【指宿】
11	循環に関する実習	血圧の測定、血圧変動要因の影響【指宿】
12	血液に関する実験（１）	赤血球数・白血球数の算定・血液型の同定【指宿】
13	血液に関する実験（２）	血色素量の測定、血糖値の測定、【指宿】
14	身体状況に関する実習	身長・体重・BMI・皮脂厚・腹囲の測定の測定【指宿】
15	実習全体のまとめ、レポートの最終チェック【牛飼】	

アクティブ・ラーニングの概要

1. 実験・実習内容を復習して理解を深め、情報を検索して考察することで論理的な思考を養うことを目的に毎回レポート提出を行う。
2. レポート提出後、添削を行い理解度が一定のレベルに達するまで、再提出を行う。
3. 相互協力・協働を養い、広い視野における思考の発展と問題解決に取り組む力の形成を目的に、実験・実習で得られた結果を基にグループワーク及びプレゼンテーションを行う。

ICT 活用の概要

- ・教育支援サイトを利用してレポートの提出・コメント等を行う。
- ・授業では PowerPoint を用いて説明することがある。

履修上の注意事項

- ・スケッチは実験実施当日、レポートは次回実験実施日に提出すること。
- ・欠席した回の実験は必ず個別に空き時間に実施し、すべての実験のスケッチおよびレポートを提出すること。

準備学習（予習・復習等）

- ・事前に、テキストを熟読し授業内容の予習を行うこと。
- ・レポートは、考察のために情報検索を行うことで新たな知見を修得し、自分の考えを記述することで復習し理解を深めること。
- ・グループワーク・プレゼンテーションでは、テーマについて事前に復習し、役割分担を行い各自予習した上で情報を共有し、発表を行うための準備学修を行うこと。

テキスト

配布プリント

参考文献

適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	運動生理学		
担 当 教 員	指宿 りえ		
関 連 資 格	栄養士		
備 考			
ナンバリング	S-A1A6-1/健康科学〔基礎医学〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解）

到達目標

1. 健康に対する身体活動の効果について理解している。
2. 栄養と身体活動に関する生理学的メカニズムを理解している。
3. ライフステージに応じた運動と、食生活について説明できる。

評価方法

定期試験 80%、臨時試験（授業毎の小テスト 10%、グループ発表 10%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・小テストは、授業内で解説を行い採点して返却する。
- ・レポートは、評価後返却する。
- ・グループワークは、プレゼンを行い質疑応答で相互理解を深め、解説を行う。

授業の展開計画

肥満やメタボリックシンドロームの増加を背景に、「食」と「身体活動」の問題は多様化している。エビデンスに基づいた身体活動と栄養との関連について理解し、臨床の現場で活用できる基礎知識を修得する。

回	内容
1	運動生理と栄養
2	骨格筋の構造（種類、筋収縮の様式）
3	神経系の役割（構造と機能、分類、運動神経による骨格筋の制御のしくみ）
4	運動と循環・呼吸（心臓の機能と血液循環、運動時のエネルギー代謝）
5	運動とエネルギー源（エネルギー産生の三大栄養素とその利用）
6	エネルギー消費と身体組成・体格（肥満とやせ）
7	筋肉に必要な蛋白質の代謝（合成と分解のしくみ、蛋白質の摂取量とタイミング）

8	骨の構造と栄養素・身体活動（骨代謝、骨量と栄養摂取量、運動量）
9	体温調節と水分補給（骨格筋と熱産生・放散）
10	加齢に伴う身体機能の変化（サルコペニア・ロコモティブシンドローム）
11	運動と健康（身体活動、生活習慣病予防）
12	身体活動、運動、生活活動の定義と健康に及ぼす影響（身体活動基準）
13	スポーツ活動における栄養の特徴と食事管理
14	グループワーク・プレゼンテーションの準備
15	グループ発表、解説、総括

アクティブ・ラーニングの概要

1. 前回の授業内容の理解度を把握し、補助するため小テストを実施する。
2. テーマを提示し、情報収集、考察を行い自分の考えを論ずることで主体的に取り組む姿勢の形成を目的にレポートを課す。
3. 課題の解決を図るために、集団内におけるメンバー相互協力・協働することで共感を共有し、思考の発展と問題解決に取り組む力の形成を目的に、グループワーク及びプレゼンテーションを行う。

ICT 活用の概要

- ・レポート課題の掲載・提出・評価
- ・教材・資料・授業スライドの掲載

履修上の注意事項

特になし。

準備学習（予習・復習等）

- ・小テストを行うので、授業内容の復習を行うこと。
- ・レポートは、新たに情報収集を行うことで予習し、自分の考えを記述することで復習し理解を深めること。
- ・グループワーク・プレゼンテーションでは、テーマについて事前に復習し、役割分担を行い各自予習した上で情報を共有し、Powerpoint でスライドを作成し、発表のための準備学習を行うこと。
- ・1回の授業あたり、授業の事前・事後に計4時間の学習が必要である。

テキスト

麻見直美, 川中健太郎 編「栄養科学イラストレイテッド／運動生理学」2019年03月20日発行 羊土社

参考文献

適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	生化学実験		
担 当 教 員	松元 圭太郎		
関 連 資 格	栄養士、フードサイエンティスト		
備 考			
ナンバリング	S-A1A9-2/健康科学〔基礎医学〕－発展		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解） 区分 2（情報を収集、整理して伝える力） 区分 3（協働する姿勢）

到達目標

- 1 基本的な実験操作を習熟し、再現性良く操作できる。
- 2 生化学の講義で学んだ知識を基に、生体内の生化学反応や各種生化学パラメーターの測定法や実験結果をまとめてレポートが作成できる。
- 3 実験内容や目的を理解して、班員と協力して実験に取り組むことができる。

評価方法

期末レポート（班作成レポート 1 つ・個人作成レポート 1 つ）[40%]、実験の精度[30%]、ピペット検定[20%]、プレゼンテーション[10%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

班作成レポートについては、プレゼンテーション時に教員から指導・助言を行う。
個人レポートについては、評価のポイントを解説する。

授業の展開計画

初めに、基本的な実験操作、生体試料の取り扱いなどを学ぶ。その後は生体試料を用いて各種パラメーターの測定を行う。最後に、班毎に担当した実験テーマについて、実験結果をまとめて発表を行う。なお、実験器具の制限のため、3－11 回の実験の実施順番は班毎に異なる。

回	内容
1	オリエンテーション（実験の概要および基本操作の説明） 脂質の過酸化実験
2	ピペット検定（1 回目） 生体サンプルを用いた実験の説明
3	血糖の定量（生体試料）
4	グリコーゲンの定量（生体試料）

5	脂質の抽出（生体試料）
6	トリグリセリド定量（生体試料）
7	脂質の薄層クロマトグラフィー（生体試料）
8	コレステロール定量（生体試料）
9	乳酸脱水素酵素活性の測定（生体試料）
10	タンパク質の定量（生体試料）
11	タンパク質の電気泳動（生体試料）
12	DNA の抽出（生体試料）
13	抗原抗体反応を利用した食物アレルギーの検出
14	ピペット検定（2 回目） DNA の電気泳動（生体試料） データまとめ・解析、プレゼンテーション資料作成
15	プレゼンテーション 総括（実験、プレゼンテーション、レポート）

アクティブ・ラーニングの概要

実験開始前に、理解を深めるとともに、安全確保のために、行う実験の目的や実験操作（特に注意を要する点）等についての打ち合わせを行う。

毎回の実験では、班の中での役割分担を学生間で決めて、連携して実験を遂行する（様々な役割を担うよう、実験ごとに役割はできる限り変えて行うこと）。

最終回到班毎に指定された実験テーマについてプレゼンテーションを行う。

ICT 活用の概要

実験データのまとめ・解析の手段としてエクセルを、レポート作成の手段としてワードを、プレゼンテーション発表の手段としてパワーポイントを用いる。なお、レポート作成用の実験データは、共有フォルダに掲載する。

履修上の注意事項

- ・実験は、教員との打ち合わせを行い、予習内容（実験の目的・原理・実験方法についてしっかり予習）の点検を受けてから開始すること。
- ・実験中は事故を防ぐために、教員の指示に従うとともに、無駄な私語を慎み、細心の注意を払うこと。
- ・必ず白衣を着用し、長い髪を束ね、できるだけコンタクトよりも眼鏡を使用すること。
- ・すべての実験終了後に、班毎に指定された実験テーマについて、レポート（期末レポート・班）を作成し提出するとともに、プレゼンテーションを行う。
- ・班のレポートとは別の 1 つの実験テーマについて、個人レポート（期末レポート・個人）を作成し提出する。

準備学習（予習・復習等）

特になし

テキスト

プリント 生化学実験 (初回授業で全員に配布)

参考文献

- ・相原英孝 他編 『イラスト 栄養生化学実験』 2020 年 4 月 東京教学社
- ・岡本光弘 著 『管理栄養士のための栄養生化学実験ハンドブック』 2013 年 3 月 帝塚山大学出版会
- ・加藤秀夫 他編 『栄養生理学・生化学実験 (栄養科学シリーズ NEXT) 』 2012 年 2 月 講談社
- ・山本克博 他編 『はじめてみよう生化学実験』 2008 年 3 月 三共出版
- ・谷政八 他著 『生理・生化学実験 (第 4 版)』 2007 年 2 月 地人書館
- ・八木達彦 他編 『生化学実験法』 1998 年 9 月 東京化学同人

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	食品微生物学		
担 当 教 員	新里 葉子		
関 連 資 格	フードサイエンティスト		
備 考			
ナンバリング	S-A2A6-1/健康科学〔食品学〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1(専門知識・技術と理解)、区分 4(食を通じて社会に尽くす力)

到達目標

- 1 主要な微生物の種類や基本的性質について説明できる。
- 2 発酵食品をはじめとする食品加工で使用されている微生物の種類や働きについて説明できる。
- 3 微生物の生理を理解し、微生物によって生産される有用物質の種類や性質、生産方法について説明できる。

評価方法

定期試験(80%)、臨時試験(小テスト 20%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは採点して返却するとともに授業内で解説を行う。
レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

食品に使用される微生物の分類学上の位置づけ、種類と性質、生理について十分理解を深めた上で、
食品加工への利用や微生物管理、さらには微生物バイオテクノロジーの応用について学ぶことで食品の特性や原理を理解する。

回	内容
1	微生物学の歴史と微生物の利用
2	微生物の種類と性質 1：微生物の分類学上の位置、真菌類
3	微生物の種類と性質 2：細菌類、ウイルス
4	微生物の生理 1：微生物の栄養、培養、微生物の生育

5	微生物の生理 2：微生物の酵素、微生物の物質代謝
6	微生物の利用 1：調味料（みそ、醤油、食酢、みりん）
7	微生物の利用 2：アルコール飲料（日本酒、焼酎、ビール、ワイン）
8	微生物の利用 3：乳製品（チーズ、ヨーグルト）
9	微生物の利用 4：そのほかの加工食品（パン、納豆、漬物）
10	微生物の利用 5：鹿児島県の伝統的発酵食品（かつお節、黒酢、焼酎、山川漬け）
11	微生物の酵素・代謝系の利用 1：旨味成分・呈味性ヌクレオチド、有機酸（酢酸、乳酸、クエン酸）
12	微生物の酵素・代謝系の利用 2：アミノ酸（グルタミン酸、リシン、アスパラギン酸）
13	微生物の酵素・代謝系の利用 3：酵素製剤（アミラーゼ、グルコアミラーゼ、プロテアーゼ）、甘味料
14	食品の保存と微生物管理：微生物による反応と活性
15	微生物のバイオテクノロジー：微生物を利用した遺伝子組み換え

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間、理解を深めるためにディスカッションやグループワークを行う。

ICT 活用の概要

必要に応じて教材・資料・授業スライドの掲載を行なう。

履修上の注意事項

生活の中にある発酵食品が何を利用しているものなのか考える習慣をすること。
間違っても良いのでなぜそうなのかを考えて自分の意見を発言すること。

準備学習（予習・復習等）

次の授業で行うディスカッションのテーマを掲示するので、事前に調べておくこと。
1 コマの授業あたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

高見伸治他著『食品微生物学』改訂版、2016 年 3 月、建帛社

参考文献

蟹江松雄他著『鹿児島の伝統製法食品』2001 年、春苑堂出版
鹿児島県本格焼酎技術研究会『鹿児島の本格焼酎』2001 年、春苑堂出版
宮尾茂雄他著『発酵と醸造のいろは 伝統技法からデータに基づく製造技術まで』2017 年、NTS

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	食品加工学実習		
担 当 教 員	新里 葉子		
関 連 資 格	栄養士、フードサイエンティスト		
備 考			
ナンバリング	S-A2A6-2/健康科学〔食品学〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1(専門知識・技術と理解)、区分 3(協働する姿勢)、区分 4(食を通じて社会に尽くす力)

到達目標

- 1 食品加工に関連する器具・機器の機能について理解して操作できる。
- 2 食品加工による成分変化や工程を理解し、作業を分担して作り上げることができる。
- 3 日常よく使用されている食品素材（卵、大豆、乳、魚肉、小麦、多糖類等）の化学的・物理的特性を理解でき、食品の加工操作ができる。

評価方法

臨時試験（加工品の出来上がり：30%、実験の操作：30%、レポート提出：40%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

日常利用する機会の多い加工食品について、その出発原料として使用されている大豆・卵・乳・魚肉・小麦粉・多糖類などの食材についての理解を深めるとともに、加工技術の基本的な流れと操作方法を修得する。

回	内容
1	ところてん：水溶性食物繊維、難溶性食物繊維
2	こんにゃく：水溶性食物繊維、アルカリ変性
3	味噌作り・黒酢工場見学（学外研修）：微生物を利用した発酵
4	木綿豆腐：大豆タンパク質の塩沈殿
5	フードサイエンティスト講習会

6	ウスターソース：農産物加工と熟成
7	ヨーグルト・甘酒：微生物を利用した発酵、牛乳タンパク質の酸沈殿、デンプン糖化
8	納豆：微生物を利用した発酵
9	りんごジャム・その他果実ジャム：ペクチンによるゲル化
10	かまぼこ：魚介類加工と魚肉タンパク質の特性
11	中華麺：穀類加工品、小麦タンパク質の特性
12	食パン：微生物を利用した発酵、小麦タンパク質の特性
13	カステラ：鶏卵の気泡性、小麦タンパク質の特性
14	ハードキャンデー：糖のカaramel化、粘性
15	総括

アクティブ・ラーニングの概要

毎時間、理解を深めるために実習またはディスカッションを行う。

ICT 活用の概要

必要に応じて教材・資料・授業スライドの掲載を行なう。

履修上の注意事項

加工実習室には白衣とキャップは必ず着用して入室すること。
爪は指からはみ出さない程度に切り、マニキュアなどはしないこと。
食品加工の実習であるため、ピアス、指輪、ネックレス等のアクセサリー等の着用は一切認めない。
授業が終わるまで白衣やキャップは正しく着用すること。
※以上を守られていない学生は授業途中であっても出席を認めない。

準備学習（予習・復習等）

特になし。

テキスト

最初にプリント集を配付・実習ごとに参考資料としてプリントを配布

参考文献

杉田浩一他編『新版 日本食品大事典』2017年、医歯薬出版
文部科学省資源調査分科会編『日本食品標準成分表 2015』2015年、全国官報販売協同組合
吉田照男 著『図解 食品加工プロセス』2011年、森北出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	食と健康		
担 当 教 員	櫻井 真, 大山 典子, 榊 順子, 鎌田 典子, 進藤 智子, 新里 葉子		
関 連 資 格			
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	S-A3A9-1/健康科学〔栄養学〕－発展		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解）（栄養士業務の実践力）、区分 3（学び続ける力）

到達目標

- 1 栄養士実力認定試験に出題される専門知識を理解して説明できる。
- 2 栄養士業務に必要な知識や技術、取り組み姿勢を理解して説明できる。
- 3 食に関する学びを継続するための基礎知識を身に付けている。

評価方法

定期試験〔100%〕

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

給食管理実習Ⅱ（校外）の報告会については、授業内で総括してコメントする。
各分野の授業内での課題（過去問題）については、随時解説する。

授業の展開計画

各専門分野について教員がオムニバス形式で授業して重要項目を整理、解説する。栄養士実力認定試験の過去問題にも取り組む。また、給食管理実習Ⅱ（校外）について報告会を実施して総括する。

回	内容
1	給食管理実習Ⅱ（校外）報告会 進藤
2	社会福祉概論 鎌田
3	公衆衛生学 榊
4	解剖生理学 三島
5	生化学 三島
6	食品学総論 櫻井

7	食品学各論	櫻井
8	食品加工学・食品衛生学	三島
9	栄養学総論	櫻井
10	応用栄養学	進藤
11	臨床栄養学	大山
12	栄養指導論	榊
13	公衆栄養学	進藤
14	給食管理	鎌田
15	調理学	榊

アクティブ・ラーニングの概要

給食管理実習Ⅱ（校外）に関するプレゼンテーションとディスカッションを通じて栄養士業務への理解を深める。

ICT 活用の概要

資料などをサーバに掲載する。

履修上の注意事項

特になし。

準備学習（予習・復習等）

提示された過去問題について取り組む。学修内容を復習し、不明点は各自調べて必要に応じて質問するなどして解決すること。授業 1 コマあたり事前事後に 1 時間の学修が必要。

テキスト

全国栄養士養成施設協会編『2022 年版栄養士実力認定試験過去問題集』2023 年 2 月（予定）、建帛社

参考文献

医療情報科学研究所編『クエスチョンバンク・管理栄養士国家試験問題解説 2023』2022 年 7 月（予定）、メディックメディア

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

大山 保有資格・免許:管理栄養士 職歴:相良病院にて栄養管理部長として勤務ほか
 榊 保有資格・免許:管理栄養士、栄養教諭 職歴:小・中学校・学校給食センター所属栄養教諭として勤務
 鎌田 保有資格・免許:管理栄養士 職歴:鹿児島市医師会病院等で管理栄養士として勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	栄養指導論実習		
担 当 教 員	大山 典子		
関 連 資 格	栄養士		
備 考	栄養カウンセリング論を含む		
ナンバリング	S-A5A9-1/健康科学〔栄養指導〕－発展		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（栄養士業務の実践力） 区分 3（主体的に学ぶ力） 区分 4（食を通じて社会に尽くす）

到達目標

- 1 栄養教育の実践方法を学ぶことで、対象者に合わせた栄養教育のスキルを身につけ栄養の指導ができる。
- 2 指導案、指導媒体など解りやすい資料を作成できる。
- 3 健康の維持・増進、生活習慣病の予防のための集団栄養指導を行うことができる。

評価方法

臨時試験（実技 70%、レポート 30%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを付けて返却する。実技試験終了後に講評時間を設ける。

授業の展開計画

栄養指導について概説し、その際に必要とされる基礎知識・スキルを実習を通して学ぶ。ライフステージ別の食及び健康上の問題点を改善することを目的に指導案・媒体作成、及び模擬栄養指導を行う。

回	内容
1	栄養指導の方法と技術 集団及び個人栄養指導の特徴と技術
2	栄養指導の方法と技術 栄養指導の計画・評価
3	栄養指導の実践 教材・媒体活用の意義、種類
4	栄養指導の実践 プレゼンテーションの方法と技術
5	栄養指導の実践 コミュニケーションの方法と技術

6	栄養指導の実践 栄養カウンセリングスキル
7	栄養指導計画 栄養指導案の作成
8	栄養指導計画 栄養指導媒体の作成
9	栄養指導計画 栄養指導媒体の修正、指導原稿作成
10	栄養指導計画 「給食だより」または「リーフレット」作成
11	栄養指導実践 保育所
12	栄養指導実践 学校
13	栄養指導実践 職域・地域
14	栄養指導実践 高齢者福祉施設・在宅
15	総括 栄養指導の評価とフィードバック

アクティブ・ラーニングの概要

グループワークや、各自テーマを決めてプレゼンテーションを行う。

ICT 活用の概要

集団栄養指導は PP で行う

履修上の注意事項

ロールプレイングなどグループワーク時は積極的に臨むこと
配布されたプリントを必ずファイリングし、授業には必ず持参すること

準備学習（予習・復習等）

栄養指導の指導案、媒体作成に必要な資料を準備すること

テキスト

芦川脩貳 田中弘之編『栄養士のための栄養指導論』第6版、2019年3月、学建書院、丸山千寿子 中野豊編『ビジュアル栄養療法』2015年3月、南江堂、配布プリント

参考文献

長浜幸子編『臨床栄養学実習』2017年7月、第一出版、玉川和子他著『臨床調理』2016年3月、医歯薬出版など随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:管理栄養士 職歴:相良病院にて栄養管理部長として勤務ほか

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	公衆栄養学		
担 当 教 員	進藤 智子		
関 連 資 格	栄養士		
備 考			
ナンバリング	S-A5A6-1/健康科学〔栄養指導〕－応用		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（専門知識・技術と理解）、区分 3（学び続ける力）

到達目標

- 1 国民の健康の現状と問題点について説明できる。
- 2 公衆栄養活動の実際について理解し、説明することができる。
- 3 公衆栄養プログラムの計画・実践・評価するための知識と方法について説明できる。

評価方法

定期試験 80%、臨時試験（小テスト）20%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは、返却するとともに授業内で解説を行う。

授業の展開計画

公衆栄養学は、集団の健康問題が栄養学的にどのような因子に基づき、問題解決のためにはどうあるべきかを明らかにし、人々の健康の維持・増進および疾病予防を図るための学問である。公衆栄養の概要、その現状と問題点を知り、プログラムを計画・実施・評価するための知識と方法について学ぶ。

回	内容
1	公衆栄養の概要
2	公衆栄養の歴史
3	国民の健康の現状と公衆栄養活動
4	日本の栄養問題－現状と課題－
5	日本の食糧需給の現状

6	公衆栄養行政 栄養行政組織
7	公衆栄養関係法規 栄養士法、健康増進法、地域保健法、
8	公衆栄養関係法規 母子保健法、高齢者医療確保法、その他の関連法規
9	公衆栄養プログラムの計画・実施・評価
10	公衆栄養活動の実際
11	健康日本 21(第2次) と公衆栄養活動
12	公衆栄養活動の指針 日本人の食事摂取基準、食生活指針、食品表示制度
13	公衆栄養プログラムと健康教育・栄養教育
14	世界の栄養政策
15	総括

アクティブ・ラーニングの概要

ディスカッションのテーマを提示するので、説明や自分の意見が述べられるようにしておくこと。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

社会背景や公衆栄養の歴史について理解しておく。

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり、授業の事前事後に計 4 時間の学習が必要。
 予習は、教科書をよく読み、専門用語を調べておくこと。
 授業の最初に小テストを実施する。必ず前回の授業の復習をすること。教科書の演習問題や配布資料等でしっかりと理解する。

テキスト

芦川修貳編『公衆栄養学概論』2021 年 4 月、同文書院

参考文献

適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	応用調理学実習Ⅱ		
担 当 教 員	榊 順子		
関 連 資 格	栄養士、フードサイエンティスト		
備 考			
ナンバリング	S-A4A9-1/健康科学〔調理学〕－発展		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 2（人生を切り開く力）、区分 3（協働する姿勢）、区分 4（食を通じて社会に尽くす力）

到達目標

- 1 大量調理を見据えた実践的な調理実習ができる。
- 2 実習の班員間で作業工程を考え、お互いに協力しあいながら調理ができる。
- 3 季節性や食をめぐる環境に考慮しながら、各種食材に適した調理方法で調理ができる。

評価方法

定期試験 40%、臨時試験（実技試験 40%、実習ノート 20%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習ノートはコメントを付けて返却する。実技試験終了後に講評時間を設ける。

授業の展開計画

秋から冬にかけての季節の変化を考えた献立および行事食やスチコンを活用した実践調理、環境に考慮した調理を実習する。2 年間の総括として給食施設毎の集団給食調理を実践する。

回	内容
1	デザートの基本 （分担：榊）
2	デザートの応用 （分担：榊）
3	日本料理 1 秋の献立 （分担：榊）
4	日本料理 2 冬の献立 （分担：榊）
5	献立作成の総括 （分担：榊）
6	中国料理 （分担：榊）

7	韓国料理	(分担: 榊)
8	調理技術の総括	(分担: 榊)
9	病院・介護施設給食	(分担: 榊・大山・鎌田)
10	保育園給食	(分担: 榊・大山・鎌田)
11	学校給食	(分担: 榊・大山・鎌田)
12	学外実習	ホテルにて和食のテーブルマナー (分担: 榊)
13	新調理システムを活用した調理	(分担: 榊)
14	環境(SDGs)を考慮した食の展開	(分担: 榊)
15	2年間の総括	(分担: 榊)

アクティブ・ラーニングの概要

調理実習・集団給食実習・ディスカッション

ICT 活用の概要

教材・資料・授業スライドの掲載

履修上の注意事項

清潔な白衣、キャップを用意すること。

準備学習（予習・復習等）

実習内容を把握し、班員間で作業工程を確認しておくこと。
実習ノートをとめること。

テキスト

西堀すき江編『調理学実習』2019年12月、建帛社 配布プリント

参考文献

適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許: 管理栄養士、栄養教諭 職歴: 小・中学校・学校給食センター所属栄養教諭として勤務

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	栄養士スキルアップ講座		
担 当 教 員	櫻井 真, 大山 典子, 榊 順子, 鎌田 典子, 進藤 智子, 新里 葉子		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	S-F0AF-1/キャリア教育－総合		

ディプロマ・ポリシーとの関連

区分 1（栄養士業務の実践力）、区分 3（主体的に学ぶ力）（学び続ける力）

到達目標

- 1 栄養士として必要な実践的知識を説明できる。
- 2 社会生活に必要な基礎知識やマナーを理解して説明できる。
- 3 仕事に取り組む姿勢など社会人としての心構えを説明できる。

評価方法

期末レポート（100%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（レポート）は、授業内でコメントする。

授業の展開計画

栄養士の就業現場に必要な専門性、社会人として必要な基礎知識やマナー、心構えなどについて、外部講師や教員によるオムニバス形式で説明する。

回	内容
1	大量調理で使用する食材 櫻井
2	栄養士現場に必要な専門性 外部講師
3	給食管理に必要な食品など 外部講師
4	社会人としての心得 大山
5	病院栄養士としての心得 鎌田
6	食育指導や栄養教諭としての心得 榊

7	保育所栄養士としての心得	進藤
8	栄養士職場における衛生管理	新里

アクティブ・ラーニングの概要

栄養士として必要な専門性や資質についてディスカッションなどを通じて理解を深める。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

再試験は実施しない。

準備学習（予習・復習等）

授業のテーマについてキーワードなどを調べておく。ノートや資料を見直し学修内容を説明できるように整理する。提示されるレポートに取り組む。授業1回あたり、事前事後に各2時間の学修が必要である。

テキスト

必要に応じてプリントを配付する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

大山 保有資格・免許:管理栄養士 職歴:相良病院にて栄養管理部長として勤務ほか
 榊 保有資格・免許:管理栄養士、栄養教諭 職歴:小・中学校・学校給食センター所属栄養教諭として勤務
 鎌田 保有資格・免許:管理栄養士 職歴:鹿児島市医師会病院等で管理栄養士として勤務

令和4年度入学生 英語科教育科目

開講期		科目名
令和5年	前期 (その他含む)	ディスカッションスキルズ
		ケンブリッジイングリッシュ
		アカデミックライティング
		英語絵本の読み聞かせ
		サブカル英訳 'かごしま'
		エアライン・カスタマーサービス
		世界地域研究
		世界文化研究
		グローバルスタディーズ
		現代社会研究Ⅰ
		フランス語Ⅰ
		韓国語Ⅰ
		中国語Ⅰ
		イングリッシュシアター
		日英対照言語
		スクリーン・イングリッシュ
		こども英語
		海外留学Ⅰ
		海外留学Ⅱ
		海外インターンシップⅠ
		秘書学概論
		秘書実務Ⅱ
		情報社会とデータ
		ICT活用演習
	後期	ディスカッション&ディベート
		ビジネスライティング
		グローバル化と環境問題
		現代社会研究Ⅱ
		英語で案内する鹿児島
		フランス語Ⅱ
		韓国語Ⅱ
		中国語Ⅱ
		現代日本語学概論
		イングリッシュミュージカル
		英文学概論
		英語学概論
		TOEIC演習
		JEBプロジェクト
		海外インターンシップⅡ
		国際秘書概論
		マナーとプロトコール
		日本語教授法

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	ディスカッションスキルズ		
担 当 教 員	エーラーズ, N, ワトソン, M		
関 連 資 格			
備 考	ケンブリッジイングリッシュと同時開講 2 者択 1 習熟度別 コアプログラム		
ナンバリング	E-2479-1/英語 [口頭表現中心] ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

Category 1 - Practical English Communication Ability
Category 3 - Social Skills
Category 4 - Global Sense and Contribution to Society

到達目標 (Class Objectives)

1. Students can communicate with some confidence on familiar routine and non-routine matters related to their interests.
2. Students can use the necessary skills they need to become active members of society such as independence, communication and the spirit of cooperation.
3. Students can show knowledge of various issues around the world today and discuss them in English.

評価方法 (Evaluation Method)

Presentations and Reflections – 60%
English Central - 20% Solo Presentation - 20%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

Oral feedback will be given on role plays and presentations.

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

Building on students' capacity to understand and use natural speed English, students will present their ideas on various issues and back up their opinions with reasons. Feedback will be given in class.

回	内容 (contents)
1	Introduction to Discussion Skills Unit 7: Eat, Drink, Be Happy – Comfort Food and Eat in the Street
2	Unit 8: Trips – Home-Here and There and Ticket to Ride
3	Unit 8: Trips – That's a Great Idea Presentation Preparation
4	Presentation 1

5	Unit 9: Looking Good – What to Wear at Work and Baby Photos
6	Unit 9: Looking Good – Image is Everything Presentation Preparation
7	Presentation 2
8	Unit 10: Risky Business – Danger on the Job and Don't Worry, Dad
9	Unit 10: Risky Business – What's the Matter Presentation Preparation
10	Presentation 3
11	Unit 11: Me, Online – I've Never Been Happier and Social Media Likes
12	Unit 11: Me, Online – Can I Use Your Phone? And Selfies
13	Unit 12: Outdoors
14	Solo Presentation Practice
15	Final Solo Presentation

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Student-led presentations.
Student-led interviews
Pair work.
Peer review.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

Students will utilize an appropriate device (computer/smartphone) to complete assignments on English Central.
In-class videos will be recorded on phones or cameras.
Online sessions will be held using Zoom - either on campus or at home.

履修上の注意事項 (Remarks)

This class will be conducted in English.

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

1 hour.
Students will be assessed monthly on English Central to develop listening skills.
Students must pre-read the text book units before class.
Students have to prepare questions and content for video presentations/ online sessions.

テキスト (Materials)

Cambridge Evolve 2B

参考文献 (References)

None.

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

None

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	ケンブリッジイングリッシュ		
担 当 教 員	フォーブス, G		
関 連 資 格			
備 考	ディスカッションスキルズと同時開講 2 者択 1 習熟度別 コアプログラム		
ナンバリング	E-2579-1/英語 [外部試験対策] ー 上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

Category 3: Strong Community Spirit.
Category 4: Global Sense & Contribution to Society.

到達目標 (Class Objectives)

- 1, Students can use appropriate speech patterns in order to communicate effectively at Cambridge FCE level.
2. Students can demonstrate familiarity with a range of expressions used by the global English-speaking community, and therefore feel a sense of inclusion in that community.
2. Students can demonstrate the English skills necessary to express themselves, give opinions and comment on common social issues.

評価方法 (Evaluation Method)

In Class work and class tests 80%
Final Exam 20%

課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

Small group feedback. In class pointers to stay on topic. Pair work feedback related to Cambridge test.

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

Students will review English structures necessary for all 4 skills.
Students are expected add their own input to classes.
Students will be prepared to take the Cambridge FCE exam.

回	内容 (contents)
1	Yourself and others. Daily life topics. Present tense review and time clauses.
2	Adjective ing and ed endings. Prefixes and suffixes. Multiples and matching. Word formation.
3	Informal language. Multiple-choice. Describing people and home.

4	Eating and meeting. Food and drink. Relationships. Past tense review.
5	Fixed phrases. Gapped text. Open cloze.
6	Narrative linking expressions. Sentence completion. Opinions and comparisons.
7	Getting away from it. Travel and tourism. Festivals and customs. Modal verbs. Adverbs of degree.
8	Dependent prepositions. Multiple-choice. Multiple-choice cloze.
9	Linking expressions. Multiple matching. Turn taking, suggesting, speculating.
10	Taking time out. Entertainment. Verbs followed by to+ infinitive or ing. Too and enough.
11	Phrasal verbs. Gapped text. Word transformations.
12	Descriptive adjectives. Multiple-choice questions. Justifying opinions.
13	Learning and Earning. Education, study and careers. Future forms, countable and uncountable nouns.
14	Phrasal verbs. Multiple matching. Word formation.
15	Formal expressions. sentence completion. Future plans.

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Topic-based discussion. Student centered activities (think - pair - share). Peer comment.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

None

履修上の注意事項 (Remarks)

This class will be conducted in English.

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

Students are required to spend at least 1 hour a week reviewing and preparing for this course. The course will need both preparation and review.
It is recommended that students pre-read course materials.

テキスト (Materials)

Cambridge English Compact First, Second Edition Student's Book (Peter May) 2016

参考文献 (References)

None

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

None

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	アカデミックライティング		
担 当 教 員	フォーブス, G, エーラーズ, N, ヴィゲラスラ, A		
関 連 資 格			
備 考	習熟度別 コアプログラム		
ナンバリング	E-2376-1/英語 [文章表現中心] 一中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

Category 1: Practical English Ability
Category 2: Problem Solving Skills, Global Reasoning.

到達目標 (Class Objectives)

1. Students can write an essay or report that develops an argument, giving reasons in support of or against a particular point of view and explaining the advantages and disadvantages of various options.
2. Students can demonstrate critical thinking through their academic writing process.
3. Students can use various written English expressions and vocabulary depending on the composition format.

評価方法 (Evaluation Method)

In-class work 10%, Five short essays or compositions 90%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

Individual feedback in written and verbal form. Class feedback on main points of error after every exercise (5 in total). Continuous feedback in class on board and individually.

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

Students will work on learning different essay formats as well as writing structures in class and prepare assignments for homework.
Written feedback will be given on compositions. Oral feedback in class to cover common errors.

回	内容 (contents)
1	Review of paragraph format and main components of a paragraph
2	Introducing information paragraphs
3	Developing a five paragraph personal statement

4	Introducing the basic structure of an essay and thesis statement
5	Introducing opinion paragraphs
6	Analysing and developing opinion paragraphs
7	Introducing on how to write a movie review
8	Movie review in class activity
9	Introducing descriptive essays and adjective order
10	Analysing the organisation of a descriptive essay
11	Reviewing template and developing a descriptive essay
12	Introducing comparative and contrast essays
13	Organising and developing own comparative and contrast essay
14	Introducing argumentative essays
15	Final review on argumentative essays

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Assimilation of study abroad material. Peer review and advice, Pair work.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

None

履修上の注意事項 (Remarks)

Students will write five short essays or compositions in this class. Students will use the textbook in the class and for reference.

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

Students can prepare by reviewing the basics of English paragraphs from year one. They may also see one of the writing teachers for guidance on short essay writing -- teachers have texts with lots of examples to show. Students are required to spend at least 1 hour a week reviewing and preparing for this course.

テキスト (Materials)

Real Writing - From structured paragraph to complete essay by Kawasaki, Hasian, Haugh, Nakano and Ibaraki (Nan'un-do 2019).

参考文献 (References)

None

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

None

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	英語絵本の読み聞かせ		
担 当 教 員	ワトソン, M		
関 連 資 格			
備 考	最大 25 名までとする。こども英語履修モデル選択者優先。		
ナンバリング	E-2776-1/英語〔教育〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

Category 1 Practical English and Communication Ability
Category 2 Problem Solving Skills

到達目標 (Class Objectives)

1. Students can learn effective strategies for a career in English education for children.
2. Students can develop presentation skills involved in reading stories to children.
3. Students can practice giving classroom instructions in English.

評価方法 (Evaluation Method)

Participation on set texts 50%
Original story book 30%
Final Recitation 20%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

Individual feedback on class and final presentations

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

Students will use a variety of picture books for children to practice reading and telling these stories effectively. The focus will be on improving pronunciation, rhythm, and intonation while presenting the stories. Students will learn how to plan creative and enjoyable lessons around a picture book.

回	内容 (contents)
1	Course Outline : Basic Introductions.
2	Types and examples of Picture Books 【Baby Books-0-2, Interactive Books 2-6
3	Worldless Books, Alphabet Books, Counting Books, Concept Books, Nursery Rhymes】
4	(a)Classroom language for children using books, (b)Things Children like in a Picture Book

5	(a)Tips for reading books, (b)Reasons for using Picture Books,
6	(c)How do picture books help a child read?
7	Review of key points with examples
8	In depth studies of 6 famous books
9	The Very Hungry Caterpillar by Eric Carle Little Robin Red Vest by Jan Fearnley
10	Fox in Socks by Dr. Seuss, Mr. Rabbit and the lovely present by Charlotte Zolotow
11	Where the Wild Things Are by Maurice Sendak,
12	Always in Trouble
13	Student presentations on material from Aesop's Fables
14	Student presentations on material from Grimm Brothers
15	Student presentations on original material

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Students should be prepared to engage actively in discussions.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

Nothing in particular

履修上の注意事項 (Remarks)

Prepare a file to keep various handouts.
This class will be conducted in English.

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

Read as many children's books in English as you can before the course begins.

テキスト (Materials)

Prepared by the teacher

参考文献 (References)

None

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

None

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	サブカル英訳 'かごしま'		
担 当 教 員	永正 理恵子		
関 連 資 格			
備 考	英語検定 2 級または TOEIC470 点以上取得者が望ましい 「日英対照言語」と同時開講		
ナンバリング	E-2279-1/英語［言語理解］－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1（多言語理解、実践的コミュニケーション能力）、区分 4（国際的センスと社会への貢献）

到達目標 (Class Objectives)

1. 英語と日本語の表現方法の違いを理解し、自然な英語に訳すことができる。
2. 場面や登場人物の関係などを考慮し、的確な英語に訳すことができる。
3. 鹿児島のことを海外の人々に英語でわかりやすく伝えることができる。

評価方法 (Evaluation Method)

課題 80%、定期試験 20%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

課題の英訳について、授業中にディスカッションを行い、的確な英語表現や訳出のポイントについて解説をする。定期試験の結果については、指定した期間内において申し出により解説を行う。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

「薩摩剣士隼人」などの鹿児島のご当地ヒーロー・ゆるキャラに関する映像コンテンツや漫画等の英訳を行い、鹿児島の海外発信へ協力する。各自が課題で行った英訳を授業中に全員でディスカッションし、よりよい訳を作り出していく。

回	内容 (contents)
1	イントロダクション 鹿児島の映像コンテンツ等の紹介
2	『薩摩剣士隼人』英訳：主語の捉え方
3	『薩摩剣士隼人』英訳：動詞の使い方
4	『薩摩剣士隼人』英訳：名詞句のせりふの訳出
5	『薩摩剣士隼人』英訳：繰り返しの回避

6	『薩摩剣士隼人』英訳：類義語のニュアンスの違い
7	『薩摩剣士隼人』英訳：擬態語・擬声語の訳出
8	『薩摩剣士隼人』英訳：文脈による表現の違い
9	『薩摩剣士隼人』英訳：感情表現
10	『薩摩剣士隼人』英訳：話し手の意図に沿った訳出
11	『薩摩剣士隼人』英訳：鹿児島弁のニュアンスを捉えた訳出
12	ご当地ゆるキャラコンテンツの英訳：ご当地ゆるキャラのコンセプトの伝え方
13	ご当地ゆるキャラコンテンツの英訳：鹿児島の特産物、観光地などの伝え方
14	ご当地ゆるキャラコンテンツの英訳：海外の人々へアピールする伝え方
15	鹿児島を海外へ発信するためのアイデア まとめ

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

各自が課題で行った英訳を授業中に全員でディスカッションし、よりよい訳を作り出していく。

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

課題の英訳は、教育支援サイトに提出する。

履修上の注意事項 (Remarks)

英語検定 2 級または TOEIC470 点以上を取得していることが望ましい。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

- 1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。
1. 毎週、課題を行い、指定された日時までに提出する。授業は、課題で行った各自の訳を皆でディスカッションし、フィードバックする形で進めていくので、自分の訳について説明ができるよう、考えをまとめておく。
2. 社会的・文化的背景、方言の意味について、図書館の文献等を利用して自分でリサーチする。
3. 授業には辞書を持参する。必要に応じて英英辞書や類義語辞典も活用する。

テキスト (Materials)

必要に応じてプリントを配付。

参考文献 (References)

授業中に随時紹介。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし。

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	エアライン・カスタマーサービス		
担 当 教 員	オーコナ, D, ワトソン, M		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	E-F779-1/キャリア教育 [エアライン] ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

Category 1 - Practical English and communication ability.
Category 3- Independent Learning

到達目標 (Class Objectives)

1. Students can demonstrate practical English communication skills that are useful in life and work using appropriate levels of politeness.
2. Students can use practical English skills in service industries such as customer service, public relations and airline related employment.
3. Students can be competitive in job seeking within the service industry.

評価方法 (Evaluation Method)

65% continuous assessment through quizzes and textbook work.
10% midterm examination
25% final examination

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

Classwork feedback. Students will receive feedback about roleplays and presentations.

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

回	内容 (contents)
1	Introduction to Careers in tourism, service and hospitality
2	Pre-flight briefing and check - ins
3	Behind the 'i' desk - every day adventures
4	More every day scenarios - predicting customer's needs
5	Ground staff

6	Reception - Hotels and hospitality
7	Amenities, facilities
8	Midterm examination
9	Dealing with guests face to face
10	Dealing with customers - phone calls
11	Problems and Complaints
12	Health and Medical Issues
13	Safety and emergencies
14	Destinations
15	Seeing the sights

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Peer review and group work will be done in this class.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

No technology for this class. Teacher may bring in offline material.

履修上の注意事項 (Remarks)

Classes will be conducted in English.

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

At least 1 hour per week. Students should try to apply knowledge and vocabulary from other subjects to their activities in this class. It is an ideal class to use crossover verbs.

テキスト (Materials)

Teacher's handouts

参考文献 (References)

None

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

None

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	世界地域研究		
担 当 教 員	オーコナ, D, エーラーズ, N		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	E-D376-1/地域研究〔海外〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

Category 1 Cross-cultural Understanding
Category 2 Problem Solving Skills, Global Reasoning

到達目標 (Class Objectives)

1. Students can show an understanding of the culture, history, language and geography of another country.
2. Students can give a clear, prepared presentation or produce a coherent report, giving relevant examples from their country of study.
3. Students can understand and discuss the target country's language, popular media and current trends.

評価方法 (Evaluation Method)

In Class tests 40%
Class work 40%
Final Project 20%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

Written comments on quizzes and reports, Direct feedback to students in class.

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

Students will acquire a basic understanding of the target country through cultural, geographical, contemporary and historical topics.
Classes will use handouts to cover selected topics.
DVDs, computer based research and in-class sessions will lead to a report or presentation.

回	内容 (contents)
1	Introduction to all regional studies options.
2	An introductory overview of the target country. How is that country different from Japan? Introduction of homework project for later submission.
3	Capital city life and places of interest.

4	Trivia and stereotypes - how do they relate to the target country?
5	In Class test. Review test covering the material so far.
6	Historical overview of life in the target country. Historical topics may vary from year to year.
7	Language in the target country. How language and culture are interwoven.
8	The natural history of the country. How geography affects us all.
9	In Class Test. Review test covering weeks 6-8 A look ahead to popular culture.
10	Current day popular culture. This may include fashion, food, music, movies literature and more.
11	Animals and nature. Natural diversity in the target country
12	Computer - based research. Planning a trip to the target country. Outlining a schedule and compiling a selection of possible destinations.
13	Computer - based research. Filling in details of interest about the locations, relative points of interest and developing a theme for the travel.
14	Social issues past and present.
15	Final research projects due. Present to your group and then hand in the project.

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Pair work. Individual research. Group research. Open question papers.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

Powerpoint presentations, videos

履修上の注意事項 (Remarks)

The class will be conducted in English.

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

1 hour per week. Students must take notes and learn material on handouts in order to pass class tests.

テキスト (Materials)

No text. Teacher will prepare materials.

参考文献 (References)

None

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

None

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	世界文化研究		
担 当 教 員	堀江 美智代		
関 連 資 格			
備 考	復学者対象		
ナンバリング	E-D376-2/地域研究〔海外〕 一中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1（異文化理解） 区分 2（問題解決力、グローバルに運用する論理展開）

到達目標 (Class Objectives)

- 1 海外の 1 つの国の文化について理解し、その国の文化に関する知識を身に付けている。
- 2 海外の 1 つの国の文化について、適切に例証しながら発表したり、レポートを書いたりすることができる。
- 3 海外の 1 つの国の言語、メディア、流行について理解し、議論することができる。

評価方法 (Evaluation Method)

世界の一つの地域に関する学修成果（研究課題の発表ないしレポートを含む）をもとに認定する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

レポートは、採点して返却するとともに解説する。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

該当なし

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

認定科目のため該当項目なし

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

認定科目のため該当項目なし

履修上の注意事項 (Remarks)
認定科目のため該当項目なし

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)
認定科目のため該当項目なし

テキスト (Materials)
認定科目のため該当項目なし

参考文献 (References)
認定科目のため該当項目なし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)
該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	その他
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	グローバルスタディーズ		
担 当 教 員	堀江 美智代		
関 連 資 格			
備 考	認定留学生・海外留学生対象 認定留学認定科目		
ナンバリング	E-D3F6-1/地域研究〔海外〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 1（異文化理解）、区分 2（問題解決力、グローバルに通用する論理展開）

到達目標（Class Objectives）

1. 留学する国における文化、歴史、言語、メディアなどを学び、その国を多角的に考察することができる。
2. 留学先の国の抱える諸問題に関心を持ち、学習を深めて、その解決策等について考察することができる。
3. 留学先での様々な国から集まった人々とのコミュニケーションを通して、国際的に通用する論理展開の方法を理解し、発信することができる。

評価方法（Evaluation Method）

留学先の成績が良好である場合、その学習成果をもとに認定する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

特になし。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

留学先で、個々が受講する科目の教材として、その国の文化、社会事情、多民族の融合などが組み込まれている。語学力の習得に加え、その国の様々な事情を理解し、日本の社会事情とも対比しながら、その国の形成について考察する。

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

特になし。

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

特になし。

履修上の注意事項 (Remarks)

約 6 ヶ月の留学に対して、その学習成果を認める科目である。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

留学先の指導に従って、効果的な学習が進むように努力する。

テキスト (Materials)

留学先の指示に従う。

参考文献 (References)

留学先の指示に従う。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要
(Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし。

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	現代社会研究 I		
担 当 教 員	オーコナ, D, ワトソン, M		
関 連 資 格			
備 考	習熟度別 コアプログラム		
ナンバリング	E-D079-2/地域研究〔総合〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

Category 1 - Practical English Communication Ability,
Category 2 - Communication Skills, Category 2 - Global Reasoning

到達目標 (Class Objectives)

1. Students can read straightforward factual texts on subjects related to their field and interest with a satisfactory level of comprehension.
2. Students can recognise the line of argument in the treatment of issues presented, though not necessarily in detail.
3. Students can think on a range of topics and express the main point they want to make comprehensively.

評価方法 (Evaluation Method)

Homework / Book reports 10%
Class Tests 60%
Final Exam 30%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

Classwork feedback.

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

Topics will be introduced and supported by a text. Extensive reading will be required. Class tests will be returned in class.

回	内容 (contents)
1	Class Introduction, Unit 2 Mobile Phones - Topic Introduction and Discussion
2	Unit 2 Mobile Phones - Reading and Comprehension
3	Unit 2 Mobile Phones - Vocabulary Building and Review

4	Unit 3 Smoking - Topic Introduction and Discussion
5	Unit 3 Smoking - Reading and Comprehension
6	Unit 3 Smoking - Vocabulary Building and Review
7	Unit 4 Junk Food - Topic Introduction and Discussion
8	Unit 4 Junk Food - Reading and Comprehension
9	Unit 4 Junk Food - Vocabulary Building and Review
10	Unit 8 Bullying - Topic Introduction and Discussion
11	Unit 8 Bullying - Reading and Comprehension
12	Unit 8 Bullying- Vocabulary Building and Review
13	Extended Reading Selected by the Teacher
14	Extended Reading Selected by the Teacher
15	Review

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Peer review and group work will be done in this class.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

No technology for this class. Teachers may bring in offline materials.

履修上の注意事項 (Remarks)

Classes will be conducted in English.

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

In free time, students should read around the topics as much as possible.
Students should spend at least 1 hour per week for preparation and review.
Students must do book reports as part of this course.

テキスト (Materials)

Provoke A Response! Critical Thinking Through Data Analysis by S.Gale, S. Fukuhara.
NAN'UN-DO

参考文献 (References)

None

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

None

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	フランス語 I		
担 当 教 員	久木田 英史		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	3 者択 1 以上 フランス語Ⅱを履修する場合、フランス語Ⅰを履修していること。		
ナンバリング	E-2C73-1/フランス語〔言語理解〕－初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 1（多言語理解） 区分 1（異文化理解）

到達目標（Class Objectives）

- 1 フランス語の発音、基礎的な文法知識や語彙を身に付けている。
- 2 挨拶、自己紹介、喫茶店での注文といった簡単なフランス語での会話ができる。
- 3 フランスの生活や文化に興味を持ち、基礎的な知識を身に付けている。

評価方法（Evaluation Method）

課題提出 [50%]、臨時試験（小テスト）[50%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

課題、小テストとも、添削して返却する。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

フランスの日常生活を反映した会話表現を通して、フランス語を習得する。
フランス語検定 5 級に挑戦する。

回	内容（contents）
1	フランスとフランス語について
2	フランス語の文字と音、簡単なあいさつ
3	「あなたはフランス人？」 不規則動詞 être 現在形
4	「あなたはフランス人？」 名詞の性と数
5	「どこに住んでるの？」 -er 型規則動詞現在形、否定文

6	「どこに住んでるの？」 定冠詞、数（1～10）
7	「きょうだいはいる？」 不定冠詞、数（11～20）
8	「きょうだいはいる？」 不規則動詞 avoir 現在形
9	「何を食べる？」 部分冠詞、不規則動詞 prendre 現在形
10	「何を食べる？」 Il y a ～ の表現、疑問詞
11	「妹さんって、どんな人？」 形容詞の性と数、所有形容詞
12	「妹さんって、どんな人？」 指示代名詞、数（21～60）
13	「映画館に行こうか？」 不規則動詞 aller, venir 現在形
14	「映画館に行こうか？」 疑問文、人称代名詞強勢形
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

教科書の例文をもとに、グループごとにフランス語で会話を練習する。
教科書の練習問題をグループで話し合いながら考える。

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

特になし。

履修上の注意事項（Remarks）

予習復習をする。課題は必ず提出する。
本科目を履修するためには、原則として「多言語への扉」を履修していることが必要である。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

授業で習ったフランス語の表現を確実に記憶に定着させ（そのためには何度も耳で聞き、口で発音し、紙に書くことが必要）、実際に活用できる（すなわち自分自身のことについて述べられる）ようになっておくこと。1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要。

テキスト（Materials）

田辺保子他著『やさしいサリュ』2021 年 4 月 駿河台出版社

参考文献（References）

内藤陽哉編『パスポート仏和・和仏小辞典』白水社 2012 年

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

（Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	韓国語 I		
担 当 教 員	李 賢雄		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	3 者択 1 以上 韓国語 II を履修する場合、韓国語 I を履修していること。		
ナンバリング	E-2873-1/韓国語［言語理解］－初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 1（多言語理解）、区分 1（異文化理解）

到達目標（Class Objectives）

- 1 ハングルの読み書きができる。
- 2 簡単な日常会話ができる。
- 3 異文化への興味関心を持ち他者へ伝えることができる。

評価方法（Evaluation Method）

定期試験[50%]、臨時試験（小テスト）[30%]、課題[20%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

小テスト及び課題は採点して返却するとともに授業内で解説を行う。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

ハングル字の学習・発音変化・かな文字のハングル対照表による書き方を学ぶ。また、各課ごとに 1 回目では新しい単語と本文の読む練習を学習して、2 回目では文法と用語を学習し、学んだことを応用して簡単な日常会話ができるようになる。

回	内容（contents）
1	オリエンテーションとハングル字の学習
2	かな文字のハングル対照表&電子機器のハングル入力の仕方
3	発音変化（有声化・連音化・濃音化・鼻音化・激音化）
4	第 1 課 挨拶と自己紹介について学ぶ（単語と本文読み）
5	第 1 課 挨拶と自己紹介について学ぶ（文法と応用問題）

6	第2課 物事の名称について学ぶ（単語と本文読み）
7	第2課 物事の名称について学ぶ（文法と応用問題）
8	第3課 家族の呼び名と& 存在詞について学ぶ（単語と本文読み）
9	第3課 家族の呼び名と& 存在詞について学ぶ（文法と応用問題）
10	第4課 場所の名称と交通手段について学ぶ（単語と本文読み）
11	第4課 場所の名称と交通手段について学ぶ（文法と応用問題）
12	第5課 漢数字と買い物について学ぶ（単語と本文読み）
13	第5課 漢数字と買い物について学ぶ（文法と応用問題）
14	第6課 年月日と助数詞について学ぶ（単語と本文読み）
15	第6課 年月日と助数詞について学ぶ（文法と応用問題）

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

授業の定着度を把握するため、小テストを実施する。

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

特になし。

履修上の注意事項（Remarks）

本科目を履修するためには、原則として「多言語への扉」を履修していることが必要である。ただし、既にハングル字を習得していれば、履修を認めることがある。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

次回の授業範囲を示すので予習し、分からない用語の意味等を調べて理解しておくこと。また前回、学習した内容の理解度を確認するため、臨時試験（小テスト）を実施する。1回の授業あたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト（Materials）

HYUNWOONG LEE & KAORI TSURUTA 共著『KOREAN LANGUAGE I』2021年6月、博英社

参考文献（References）

特なし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 （Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	中国語 I		
担 当 教 員	張 紹好		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	3 者択 1 以上 中国語 II を履修する場合、中国語 I を履修していること。		
ナンバリング	E-2A73-1/中国語［言語理解］－初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1（多言語理解） 区分 1（異文化理解）

到達目標 (Class Objectives)

- 1 発音の要領を習得してピンインを読むことができ、中国の現状、庶民の生活、中国事情について説明できる。
- 2 平叙文、疑問文、慣用句、量詞、数等の構造や使い方を理解し、応用できる。
- 3 簡単な日常会話を身に付けて、正確に発音ができる。

評価方法 (Evaluation Method)

臨時試験（発表）[30%]、課題[30%]、定期試験[40%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

課題については添削、採点后返却する。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

- 1 最も簡単な韻母のみの語を組み合わせた単語、句文から中国語の世界に入る。
- 2 日常的によく使う単音節語や二音節語、短文の学習を通じて韻母、声母、声調、有気音と無気音の区別などを学んでいく。
- 3 発音の学習は全期を通じて反復学習し、正確に発音出来るようにする。（中国語の曲を 2 曲発表してもらう）

回	内容 (contents)
1	(a) 漢字使用の状況を紹介（簡体字、繁体字、日本製の漢字）(b) 標準語と方言の違い (c) パソコンと携帯の漢字入力方法紹介（簡体字、繁体字）(d) 単韻母：複韻母と声調
2	(a) 声母 (b) 声母と韻母の組み合わせの練習 (c) 無気音と有気音 (d) つづりの規則
3	(a) 鼻韻母 (b) 声母と韻母の組み合わせの練習 (c) そり舌音 (d) 消える o と e (e) 新しい単語と漢字及び短文練習
4	(a) 韻母、二つの三声の練習、つづりの練習 (b) 動詞”是”、人称代名詞、挨拶の言葉 (c) 名前の言い方、短文練習

5	(a)動詞が述語になる文 (b)疑問詞を使う疑問文 (c)短文練習
6	(a)助詞” 的 ”、疑問詞、語気助詞 (b)単語と会話練習
7	(a)副詞” 也 ” (b)連動文 (c)場所を表す言葉、指示代名詞 (d)短文練習
8	(a)助動詞” 想 ” (b)反復疑問文 (c)形容詞が述語になる文 (d)短文と歌練習
9	1 ～ 8 のまとめの復習と会話練習
10	(a)年齢の言い方 (b)動詞” 有 ” (c)比較の言い方 (d)数字 (1～50) の数え方 (e)短文練習
11	(a)経験を表す” 過 ” (b)動詞” 喜歡 ” (c)要 (d)数字 (51～100) の数え方 (e)短文練習
12	(a)年、月、日、曜日、時刻の言い方 (b)前置詞” 在 ” (c)文末” 了 ” (d)短文
13	(a)” 从 ” ” 往 ”、時間量の言い方 (b)量詞 (c)数字 (100 以上) の数え方 (e)短文
14	新しい単語と自己紹介、歌
15	新しい単語と家族紹介、歌

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

正しい発音を確認するために歌の発表を行う。

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

補助教材としてインターネットを利用する。

履修上の注意事項 (Remarks)

大きな声で朗読し、発表する。発音と発表を重視する。課題の期限厳守。
本科目を履修するためには、原則として「多言語への扉」を履修していることが必要である。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

学んだ単語、発音などを復習し、単語を使って短文を作る。新しい教材を予習すること。
歌の発表を行うので各自準備すること。
授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。

テキスト (Materials)

上智大学中国語教材作成チーム著『即練！使える中国語』2018 年 4 月、朝日出版社
時々、プリント教材あり

参考文献 (References)

『中日大辞典』 大修館 1968 年 2 月
『中国語図解事典』 大修館 1992 年 12 月 (初版)、2000 年 9 月 (9 版)

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

(Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	イングリッシュシアター		
担 当 教 員	堀江 美智代		
関 連 資 格			
備 考			
ナンバリング	E-2676-1/英語〔文化・芸術〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 1（実践的コミュニケーション能力）、区分 1（異文化理解）、区分 3（豊かな社会性）

到達目標（Class Objectives）

1. ミュージカルの 1 場面を演じるのに必要な英語コミュニケーション能力を身に付けている。
2. 上演するミュージカル作品の文化的背景を理解している。
3. 上演するミュージカルについて、他者と協力して課題を解決し、レポートにまとめたり発表したりすることができる。

評価方法（Evaluation Method）

臨時試験（シーンスタディー 30%、レポート 50%、発表・課題 20%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

ミュージカルの 1 場面上演するシーンスタディーについては、発表後フィードバックの時間を設ける。レポートについて、返却時に解説の時間を設ける。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

3 つの小グループに分かれて、演技に関する授業、歌・ストレッチ・ダンスに関する授業、演劇やミュージカルに関する講義を実施する。また、純短祭で上演するミュージカル作品について理解を深めるために、舞台や映画の場면을視聴し、英語台本を読む。シーンスタディーでは、グループに分かれてミュージカルの 1 場面を演じ発表する。また、スタッフとしての役割を決定し、上演するために必要なことについて話し合い、役割分担をする。上演作品に関するトピックについて、リサーチした内容をグループで発表し、各自レポートを提出する。

回	内容（contents）
1	イントロダクション ミュージカル作品視聴
2	英語台本の内容理解
3	シーンスタディー 場面練習

4	シーンスタディー 発表とフィードバック
5	舞台の基礎（ステージポジション、サイトラインなど）
6	マイム 演技の基礎
7	インプロバイゼーション スニペット 台本読み
8	ストレッチ 発声 歌の練習
9	インプロゲーム 歌の練習
10	インプロバイゼーション ダンスの練習
11	英語劇の内容理解と舞台の特徴
12	ミュージカル作品紹介
13	ミュージカル映画と舞台の比較 リサーチトピックについて説明
14	リサーチトピックについての発表
15	舞台練習 スタッフ会議

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

グループでミュージカルの1場面を演じる。各トピックについてグループでリサーチし、プレゼンテーションを行う。

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

レポート課題の掲載・提出・評価を ICT を活用して行う。DVD や You Tube の動画を視聴し、ミュージカルに対する理解を深め、映画と舞台の比較をする。

履修上の注意事項（Remarks）

2年後期の「イングリッシュミュージカル」を履修したい場合は、この科目を履修すること。演技や歌・ダンスの練習などは、授業前に、ジャージなど動きやすい服装に着替えておくこと。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

3人の講師が担当するので、その指示に従い準備学習を行うこと。例えば、シーンスタディーでは、英語の台本を読み、登場人物を分析し、セリフを覚え、グループで練習しておくこと。上演作品に関するトピックについてプレゼンテーションを行うために、各自調査し、グループでまとめて発表するための準備をすること。1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト（Materials）

なし

参考文献（References）

適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

（Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	日英対照言語		
担 当 教 員	小田 智代		
関 連 資 格			
備 考	日本語教師養成課程関連科目 「サブカル英訳‘かごしま’」と同時開講		
ナンバリング	E-3379-1/日本語 [言語理解] ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1（多言語理解）、区分 4（国際的センスと社会への貢献）

到達目標 (Class Objectives)

1. 英語と日本語の構造に関して、客観的に観察し、比較することができる。
2. 英語と日本語の構造の様々な側面に関して、その相違点を説明することができる。
3. 英語学習における日本語母語話者、及び日本語教育における英語母語話者が克服すべき点をそれぞれ理解し、説明することができる。

評価方法 (Evaluation Method)

臨時試験（自宅持ち帰りテスト）50%、定期試験 50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

自宅持ち帰りテストは授業内で解答、解説する。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

毎回必ず英語と日本語の振る舞いを比較分析しながら、クラスで議論することによって授業を行う。

回	内容 (contents)
1	はじめに
2	形態論：派生語
3	形態論：複合語
4	形態論：モノ名詞とデキゴト名詞
5	統語論：語順他

6	統語論：受け身文他
7	統語論：んです
8	統語論：テンス
9	語用論：談話の構成
10	語用論：結束と前提
11	社会言語学：コードスイッチング
12	社会言語学：ジェンダー
13	社会言語学：ことばの意味の変化
14	言語習得
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

毎回英語と日本語のデータを観察し、規則性を自ら導いた後、ペアあるいはグループで個々の意見を出し合い、分析結果を発表し合い、クラス全体でもディスカッションをしながら展開する。

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

教材・資料・授業スライドの掲載

履修上の注意事項 (Remarks)

毎回ディスカッション形式で授業が展開するため、各自積極的に発言することを求める。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

授業内容に応じて、参考文献や授業で紹介する本を参考に、ディスカッションの準備をしておくこと。また、自宅持ち帰りテストが2回ある。このために授業で議論したことをしっかりと毎回復習しておくこと。1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト (Materials)

作成した教材を使用する。

参考文献 (References)

高嶋幸太著『英語教師が知っておきたい日本語のしくみ』2019年4月、大修館書店
影山太郎著『日英語対照による英語学演習シリーズ 形態論と意味』1999年4月、くろしお出版

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	スクリーン・イングリッシュ		
担 当 教 員	小玉 智治		
関 連 資 格			
備 考	「こども英語」と同時開講		
ナンバリング	E-2676-2/英語〔文化・芸術〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1（実践的コミュニケーション能力、異文化理解）、区分 2（グローバルに通用する論理展開）

到達目標 (Class Objectives)

- 1.映画の中の様々な英語表現を身につけ、日常生活や仕事において活用することができる。
- 2.映画の中に描かれる様々な価値観や社会問題について理解している。
- 3.様々な映画の文化的、歴史的背景に関する知識を身に付けている。

評価方法 (Evaluation Method)

臨時試験（レポート 40%、小テスト 40%）、課題 20%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

レポート、小テストや課題については、授業時間内にフィードバックの時間をもうける。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

- ・映画の 1 シーンを取り上げ、リスニング練習、音読の練習を通して英語力の向上を図る。
- ・物語としての映画を「読む」方法を身につける。
- ・映画に描かれた文化背景、諸問題等について学び議論する。

回	内容 (contents)
1	映画及び映画の中の英語に関する基礎知識
2	リスニング演習・音読練習/日本語字幕について
3	リスニング演習・音読練習/日本語字幕作成
4	映画による異文化理解/リスニング演習
5	映画の構造/映画による異文化理解/リスニング練習

6	役割練習（赤毛のアン 駅の場面）/リスニング練習
7	役割練習（赤毛のアン グリーンゲイブルズ到着の場面）リスニング練習
8	役割練習（赤毛のアン 学校の盤面）/プレゼンテーション（映画紹介）
9	役割練習（赤毛のアン アンとダイアナ）/リスニング練習
10	日本映画の英語による紹介 日本映画の英語字幕を学ぶ/リスニング練習
11	リスニング練習/英語字幕作成
12	映画の中に描かれている諸問題（事件、文化、社会問題、流行）/リスニング練習
13	映画紹介（プレゼンテーション）
14	映画の分析/小テスト
15	復習確認テスト（名セリフ、基礎知識）

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

映画の一場面を取り上げ、ペアで会話で音読したり、映像を見ながら登場人物になったつもりでセリフを読む練習を行う。

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

レポートの提出は教育支援サイトで行う。

履修上の注意事項（Remarks）

特になし。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。台詞音読については、事前にプリントを渡すので個人ないしはペアで練習しておくこと。

テキスト（Materials）

特になし。

参考文献（References）

特になし。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 （Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし。

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	こども英語		
担 当 教 員	堀江 美智代		
関 連 資 格			
備 考	「スクリーン・イングリッシュ」と同時開講		
ナンバリング	E-2776-2/英語〔教育〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1(多言語理解、実践的コミュニケーション能力)、区分 2(グローバルに通用する論理展開)

到達目標 (Class Objectives)

1. こども英語教育に関する基礎知識を身に付けている。
2. 外国語活動の目標や進め方を理解し、英語の歌やチャンツ、こども英語活動を体験し考察できる。
3. グローバルな視点で、幼児や児童を対象とした英語活動を考案し、模擬授業を実践することができる。

評価方法 (Evaluation Method)

定期試験 40%、臨時試験(課題・レポート 35%、模擬授業 25%)

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

課題やレポートについては、返却時に解説の時間を設ける。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

こどもに英語を教えるために必要な基礎知識について学び、様々な英語活動や英語の歌・チャンツ等を体験する。また、「純心こども英会話講座」において、こどもを教える英語のクラスを参観し教員のアシスタントを務める。さらに、教師としてこどもに英語を教えるための指導案を考え模擬授業を行う。

回	内容 (contents)
1	外国語教育の意義
2	小学校における英語教育
3	基本的な外国語教授法
4	国際理解教育と英語教育
5	英語の歌・チャンツ

6	カリキュラム・年間指導計画作成のポイント
7	クラスルームイングリッシュの活用
8	教材の使い方・選び方
9	指導の基本と留意ポイント
10	指導の実際（1時間の授業の組み立て方） (1) あいさつの歌、復習の活動例 (2) 導入
11	指導の実際（1時間の授業の組み立て方） (3) 基本練習（ドリル活動） (4) 発展活動
12	フォニックス
13	模擬授業(1)
14	模擬授業(2) 文字指導の在り方
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

授業で扱うワークシートを活用して、毎時間ペアやグループで意見交換を行う。また、ペアやグループで模擬授業を実施し、全体で授業研究（ディスカッション）を行う。

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

予習課題（ワークシート）の掲載に教育支援サイト等を活用する。授業や指導法の DVD などを見聴し分析する。

履修上の注意事項（Remarks）

純心市民講座の「はじめての英会話」（幼児コース、小学生コース）を参観し、最低 1 回は教員のアシスタントを務める。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

毎回予習として、教科書を読みワークシートをする。複数の児童英語テキストの教材研究を行い、模擬授業のための準備をする。1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。

テキスト（Materials）

金森強編著『小学校英語科教育法―理論と実践―』2019 年 3 月、成美堂

参考文献（References）

適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 （Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	その他
単 位 区 分	選	単 位 数	0
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	海外留学 I		
担 当 教 員	堀江 美智代, 小田 智代, フォーブス, G		
関 連 資 格			
備 考	前期または後期に開講 学外実習 留学期間に等に応じて、2～6 単位を認定する		
ナンバリング	E-DEFF-1/海外研修・留学ー不定		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1（異文化理解）、区分 4（国際的センスと社会への貢献）

到達目標 (Class Objectives)

- ・異文化環境の中で、基本的な外国語コミュニケーション能力や国際的センスを身に付けている。
- ・留学先の国の文化や歴史、伝統に関心を持ち、現地の人々と交流することができる。
- ・日本の文化や歴史、伝統を異文化との比較の中で多角的に理解する力を身に付けている。

評価方法 (Evaluation Method)

レポートや留学教育機関が発行する成績証明書を総合的に判定し、単位を認定する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

レポートに対しては、メールを通じてコメントを返す。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

留学先のカリキュラムに則り、受講する科目の授業を積極的に受け単位を取る努力を重ねる他、異文化理解に関する研究も鋭意進める。定期的に英語及び日本語によるレポートを本学にも提出させ、学習の進み具合について適宜助言を行う。

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

実験・実習・実技科目のため省略

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

特になし。

履修上の注意事項 (Remarks)

英語と日本語のレポートを課す。2ヶ月に1回、担当者にメールで提出する。留学先における学修期間が奇数月になるものは帰国後1ヶ月以内に最終レポートを提出すること。また、留学教育機関が発行する成績証明書を帰国後速やかに英語科に提出すること。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

留学先の指導に従って、効果的な学習が進むように努力する。

テキスト (Materials)

留学先の指示に従う。

参考文献 (References)

留学先の指示に従う。

**科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要
(Qualification/experience of the person in charge of the subject)**

海外留学科目

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	その他
単 位 区 分	選	単 位 数	0
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	海外留学Ⅱ		
担 当 教 員	堀江 美智代, 小田 智代, フォーブス, G		
関 連 資 格			
備 考	前期または後期に開講 学外実習 留学期間に等に応じて、2～6 単位を認定する		
ナンバリング	E-DE8F-1/海外研修・留学ー不定		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1（異文化理解）、区分 4（国際的センスと社会への貢献）

到達目標 (Class Objectives)

- ・日本の文化や歴史、伝統を異文化との比較の中で多角的に理解し、説明することができる。
- ・異文化環境の中で、外国語コミュニケーション能力や国際的センスを身に付けている。
- ・留学先の国の文化や歴史、伝統に関心を持ち、現地の人々と積極的に交流することができる。

評価方法 (Evaluation Method)

レポートや留学教育機関が発行する成績証明書を総合的に判定し、単位を認定する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

レポートに対しては、メールを通じてコメントを返す。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

留学先のカリキュラムに則り、受講する科目の授業を積極的に受け、単位を取る努力を重ねる他、異文化理解に関する研究も鋭意進める。定期的に英語及び日本語によるレポートを本学にも提出させ、学習の進み具合について適宜助言を行う。

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

実験・実習・実技科目のため省略

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

特になし。

履修上の注意事項 (Remarks)

英語と日本語のレポートを課す。2 ヶ月に 1 回、担当者にメールで提出する。留学先における学修期間が奇数月になるものは帰国後 1 ヶ月以内に最終レポートを提出すること。また、留学教育機関が発行する成績証明書を帰国後速やかに英語科に提出すること。

準備学習（予習・復習等）(Preparation)

留学先の指導に従って、効果的な学習が進むように努力する。

テキスト (Materials)

留学先の指示に従う。

参考文献 (References)

留学先の指示に従う。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要
(Qualification/experience of the person in charge of the subject)

海外留学科目

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	海外インターンシップ I		
担 当 教 員	小田 智代		
関 連 資 格			
備 考	学外実習 課題(試験やレポート等)についてはフィードバックを行う。 ただし、定期試験については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出た 学生に対してのみ対応する。		
ナンバリング	E-FB7F-1/キャリア教育 [インターンシップ] ー不定		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 2 (問題解決力)、区分 2 (グローバルに通用する論理展開)、区分 4 (国際的センスと社会への貢献)

到達目標 (Class Objectives)

1. 日本語教育の現場で、教育上の様々な問題点に気づき指摘することができる。
2. 授業の見学・教材作成・実習を通し、指導案を構想することができる。
3. 実習校の生徒たちの日本や日本語に関する関心を高めることができる。

評価方法 (Evaluation Method)

実習校の評価 60%、臨時試験 (レポート) 40%

課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

学期終了ごとにメールで提出されるレポートにはその都度メールでフィードバックを行う。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

豪州の提携校にて日本語教官助手を行う。各学校において「日本語」の科目担当者と教材開発や教材作成を行ったり、日本語の授業の中で発音や文字指導等に関わる。また、チュータリングを行い、生徒たちの質問や疑問に答えたり、日本語会話の練習や日本文化の紹介等を行う。

回	内容 (contents)
1	実習校の計画に従って、授業の準備、授業の観察、実習を行う。
2	
3	

4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

実習校の日本語の授業のための教材準備、教室活動における教員のサポート、生徒の個人指導等を行う。

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

特になし

履修上の注意事項（Remarks）

「日本語教材研究」を履修していること。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

毎日実習校の授業計画に従って、日本語の授業準備から事後のあらゆるサポートを行う。また、授業後には教材等について再検討し、改善を行う。

テキスト（Materials）

特になし

参考文献（References）

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 （Qualification/experience of the person in charge of the subject）

インターンシップ科目

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	秘書学概論		
担 当 教 員	中野 由美子		
関 連 資 格	上級秘書士（国際秘書）		
備 考	開講せず		
ナンバリング	E-F253-1/キャリア教育〔秘書実務〕ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 2（情報・実務能力）

到達目標（Class Objectives）

1. 組織で働く一員として、周囲と協働するために望ましい立ち居振る舞いや留意点を説明できる。
2. 秘書とは何かを把握し、秘書業務における情報業務・対人業務の意義を理解し、説明できる。
3. 職業人としての基本行動に必要な社会常識やビジネス倫理・マナーを理解している。

評価方法（Evaluation Method）

課題 20%、臨時試験（中間試験 40%）、定期試験 40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

課題は評価をつけて返却し、評価のポイントを解説する。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

上司の職能を理解し、上司とのベアワークの手順を実践するための基本知識を説明し、それをまとめることができる学修プログラム。

回	内容（contents）
1	秘書の定義
2	秘書と組織
3	秘書と人間関係
4	秘書の業務 来客応対

5	秘書の業務 電話応対
6	秘書の業務 日程管理
7	秘書の業務 文書業務
8	秘書の業務 慶弔管理
9	秘書の業務 危機管理、環境整備
10	秘書の業務 出張業務、会議会合
11	秘書業務の特徴
12	パーソナリティとは
13	秘書として求められるパーソナリティ
14	職業人としての心構え
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

来客接遇、電話応対では相互に点検・評価する機会を設ける (ロールプレイング)

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

特になし

履修上の注意事項 (Remarks)

積極的な姿勢で臨むこと。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

授業 1 コマにあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。
 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を調べよく理解しておくこと。
 復習として毎回授業で習ったことを整理し要点をまとめておくこと。ロールプレイングは何回も練習して臨むこと。

テキスト (Materials)

全国大学実務教育協会編『新しい時代の秘書ビジネス論』2016 年 3 月、紀伊國屋書店

参考文献 (References)

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

(Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	秘書実務Ⅱ		
担 当 教 員	中野 由美子		
関 連 資 格	上級秘書士（国際秘書）		
備 考	教職資格取得関係科目と同時開講とする。		
ナンバリング	E-F276-1/キャリア教育〔秘書実務〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 2（情報・実務能力） 区分 3（学ぶ意欲・気力）

到達目標（Class Objectives）

1. 秘書としての仕事の進め方を理解し、適切に連絡・調整・報告を行い、スケジューリング・出張業務を実践できる。
2. 秘書として必要な実務知識・スキルを修得し、身近な課題に応用できる。
3. センスのよい秘書として何が必要であるかを理解し、その実践結果を振り返って、学びを継続できる。

評価方法（Evaluation Method）

課題 20%、臨時試験（中間試験 40%）、 定期試験 40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

課題は評価をつけて返却し、評価のポイントを解説する。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

秘書実務Ⅱでは、文書・総務・情報業務を中心に基本的な知識を習得する。また、ロールプレイング等の演習を通して技能を身につけ、グループディスカッションを通して課題発見や解決力も養っていく。

回	内容（contents）
1	スケジュール管理の意義
2	アポイントメントのとり方・受け方
3	出張業務（国内出張）
4	出張業務（旅程表作成）

5	出張業務（海外出張）
6	ファイリングの意義
7	ファイリングの方法
8	会議の意義
9	会議の種類と議事録作成
10	ビジネス文書の基本
11	社内、社外文書の作成
12	ビジネスメールの作成
13	文書の発信 グループディスカッション
14	慶弔業務・マナー グループディスカッション
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

ケーススタディを通し課題発見や解決力を討議する（グループディスカッション）

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

特になし

履修上の注意事項（Remarks）

積極的な姿勢で授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

授業 1 コマあたり、授業の事前・事後に対し計 1 時間の学習が必要である。
 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
 毎回授業で習ったことを復習し要点をまとめて整理しておくこと。グループディスカッション
 では自分の意見をしっかりまとめて発表すること。

テキスト（Materials）

武田秀子・岡田小夜子著『秘書・オフィス実務』2016 年 4 月、早稲田教育出版

参考文献（References）

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 （Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義・演習
科 目 名	情報社会とデータ		
担 当 教 員	末永 勝征		
関 連 資 格	情報処理士、上級秘書士（国際秘書）		
備 考	30 時間で 1 単位		
ナンバリング	E-B0A3-1/情報学〔総合〕ー初級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 2(情報・実務能力)

到達目標（Class Objectives）

1. コンピュータやネットワークに関する知識やスキルを身に付けている。
2. データサイエンスと AI 等の基本知識を身に付けている。
3. 機械学習を中心とした AI 技術によって何が可能になるか、社会にどう影響するかを考察できる。

評価方法（Evaluation Method）

- ・ 定期試験〔70%〕
- ・ 課題&レポート〔30%〕

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

- ・ 課題については、授業中にフィードバックを行う。
- ・ 定期試験等の評価については、履修者の要請に応じてフィードバックを行う。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

情報社会やデータとは何かという一般論からはじめて、コンピュータの仕組みやインターネットに代表される情報通信技術、機械学習、情報及びデータの処理等、情報を効率よく利用するためには何を学び、何を知るべきなのかを学ぶ。

回	内容（contents）
1	情報社会に至るまでの社会の変遷
2	コンピュータと人工知能（AI）の誕生と発展の歴史
3	デジタルとアナログを考える
4	情報とメディア - 0 と 1 の世界 -
5	情報システムの種類と機能

6	ネットワークの機能と仕組み
7	情報倫理・情報セキュリティ
8	知的財産権と個人情報
9	AI や IoT がもたらす可能性について(集団討議)
10	データ及びデータサイエンスの概要
11	基本統計量
12	仮説と検証
13	身近な統計データ
14	データの可視化
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

- ・特定の事例について、教員と意見を交わす機会を設ける。(ディスカッション)
- ・集団討議 (グループディスカッション)

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

- ・情報や資料の共有、課題の掲載や提出に教育支援サイトを利用する。
- ・パソコン教室で演習を行う。

履修上の注意事項 (Remarks)

- ・積極的な姿勢で授業に臨むこと。
- ・学習した内容について、他の授業などでどのように活用できるか考えること。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

- ・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。
- ・事前・事後に取り組むべき内容は、授業中に指示する。

テキスト (Materials)

岡本敏雄 監修『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』2017 年 7 月 技術評論社

参考文献 (References)

必要に応じて指定する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	ICT 活用演習		
担 当 教 員	森永 初代, 末永 勝征		
関 連 資 格	上級秘書士（国際秘書）、情報処理士		
備 考	教職資格取得関係科目と同時開講とする。		
ナンバリング	E-B176-1/情報学 [アプリケーション] ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 2(情報・実務能力)、区分 3(学ぶ意欲・気力)

到達目標（Class Objectives）

1. 多様なデジタルデータの保管や扱いについて理解している。
2. 用途に応じて、アプリケーションソフトを選択・活用し、適切にデータを整理・加工することができる。
3. 情報倫理を理解し、インターネット上で情報共有者、発信者として主体的に行動することができる。

評価方法（Evaluation Method）

- ・ 定期試験 [70%]
- ・ 課題&レポート [30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

課題については、授業中にフィードバックを行う。
定期試験については、履修者の求めに応じて教育支援サイトを通じてフィードバックを行う。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

情報活用の基礎知識と技能を基に、実践的な情報活用能力の習得を目指し、情報モラルの育成を図る。また、効果的なプレゼンテーションを行なうために必要な情報の収集、整理、加工を学び、資料の作成、発表を行う。

回	内容（contents）
1	イントロダクション：インターネットを利用した情報収集
2	データ処理：文字列と数値データ
3	データ処理：文字列操作と並べ替え
4	データ処理：表とグラフ

5	データ処理：データの集計
6	各種資料の作成：SmartArt の活用
7	各種資料の作成：写真データの整理・情報倫理：撮影上の注意
8	各種資料の作成：写真データの加工・情報倫理：個人情報とは
9	各種資料の作成：配色とレイアウト
10	各種資料の作成：データの管理・情報倫理：データからの情報漏洩
11	各種資料の作成：ファイルの管理
12	効果的なプレゼン資料の作成
13	プレゼンテーションの実施
14	プレゼンテーションの相互評価
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

相互に点検・評価する機会を設ける。（グループワーク）

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

・情報や資料の共有に教育支援サイトや Google ドライブを利用する。

履修上の注意事項（Remarks）

- ・本科目を履修するためには「ビジネス文書演習」及び「表計算基礎演習」を履修していることが必要である。
- ・学習した内容について、他の授業などでどのように活用できるか考えること。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

- ・授業 1 コマあたり、事前・事後に計 1 時間の自主学修が必要である。
- ・事前・事後に学習すべきことについては、授業中に指示する。

テキスト（Materials）

必要に応じて指定する。

参考文献（References）

岡本敏雄 監修『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』2017 年 7 月 技術評論社

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

（Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	ディスカッション&ディベート		
担 当 教 員	エーラーズ, N ワトソン, M		
関 連 資 格	上級秘書士（国際秘書）		
備 考	習熟度別 コアプログラム		
ナンバリング	E-24AC-1/英語〔口頭表現中心〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

Category 1: Practical English Communication Ability.
Category 2: Problem Solving Skills, Global Reasoning.

到達目標（Class Objectives）

1. Students can develop a clear argument, expanding and supporting their points of view at some length with subsidiary points and relevant examples.
2. Students can understand issues facing Japan and the globe today, investigate possible solutions and engage in debate.
3. Students can think constructively and logically about Japan's position as a member of the international community.

評価方法（Evaluation Method）

Research Contribution / Feedback sheets 3 X 10%
In-class topic / debate sessions 4 X 15%
Improvement in or maintaining of academic level 10%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

Oral feedback will be given in class during research and preparation, and on student debates. Teachers will record written feedback on debates, which will also be shared orally with students.

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

Students research topics to form the basis of discussions and debate.
Students prepare these topics in advance and come to class ready to debate the topics.
Students analyze debates and give their own opinions.
In-class feedback will target each topic covered and specific pointers on how to research material and present it will be given.

回	内容（contents）
1	Using a demo topic, students prepare views and debate a subject. Introduce key points of debate and relevant language.
2	TOPIC 1: Time or Money? - College students should do a part-time job. Research and preparation

3	TOPIC 1 CONTINUED: Debate
4	TOPIC 2: Free choice? - Junshin students should wear uniforms. Research and preparation
5	TOPIC 2 CONTINUED: Debate
6	TOPIC 3: Home or Away? - International travel is better than domestic travel. Research and preparation
7	TOPIC 3 CONTINUED: Debate
8	TOPIC 4: Population growth - The Japanese government should encourage people to have bigger families. Research and preparation
9	TOPIC 4 CONTINUED: Debate
10	TOPIC 5: Online SNS - Social networking sites are more beneficial than harmful. Research and preparation
11	TOPIC 5 CONTINUED: Debate
12	TOPIC 6: Immigration in Japan - Japan should accept more immigrants (refugees). Research and preparation
13	TOPIC 6 CONTINUED: Debate
14	TOPIC 7: Gap Year - It is beneficial for students to take a gap year between high school and graduating from college.
15	TOPIC 7 CONTINUED: Debate

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Student-generated research. Cooperation within a group. Active engagement in debate.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

Students will utilize an appropriate device (computer/smartphone) and the internet to complete research and prepare arguments for debate presentation.

履修上の注意事項 (Remarks)

This class will be conducted in English.

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

Students are required to prepare in advance for at least one hour for debate sessions.

テキスト (Materials)

Worksheets provided by the teacher
Online materials, websites, surveys, newspapers, articles, etc.

参考文献 (References)

None.

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要
(Qualification/experience of the person in charge of the subject)

None

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	ビジネスライティング		
担 当 教 員	ワトソン, M, ヴィゲラスラ, A		
関 連 資 格	上級秘書士（国際秘書）		
備 考	習熟度別 コアプログラム		
ナンバリング	E-23A9-1/英語 [文章表現中心] ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

Category 1 - Practical English and Communication ability
Category 2 - Problem Solving Skills and Global Reasoning

到達目標 (Class Objectives)

1. Students can write emails, reports, summaries, and business letters, benefiting their future fields of work.
2. Students can write in different mediums and at different levels of formality in order to respond appropriately to different business related tasks.
3. Students can use English written communication skills to convey business messages.

評価方法 (Evaluation Method)

Homework assignments (emails to the teacher) 60%, participation in class 10%, final exam 30%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

Classwork feedback.

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

Students will receive feedback from writing assignments and reports in class or via email and/or Moodle.
Individual, written feedback will be given on each assignment.

回	内容 (contents)
1	Introducing yourself by e-mail
2	Arranging meetings and writing to confirm appointments
3	Arranging meetings and apologising for sudden changes; comparing formal and informal styles
4	Organising travel plans and making polite requests

5	Writing an itinerary
6	Writing about an indefinite business trip
7	Giving recommendations and asking for recommendations when organising a travel plan
8	Midterm: review of week 1 to 7
9	Making an inquiry and making a request
10	Describing your company
11	Placing an order and filling out a purchase order
12	Responding and tackling issues with an order
13	Informing and acknowledging payments
14	Introducing a complaint and explaining a problem
15	Responding to a complaint and suggesting a solution

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Pair work. Student generated content. applied learning.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

Students will have access to the computer room for this class. No other technology in the normal classroom.

履修上の注意事項 (Remarks)

There are 15 chapters in the text, and we aim to cover about 10 of them, with emphasis on chapters 1-10. Students will sometimes use the computer lab to do various business writing activities.

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

Students can prepare by obtaining a copy of the text and reading the model e-mails at the beginning of each chapter. Students are required to spend at least 1 hour a week reviewing and preparing for this course.

テキスト (Materials)

Writing for the Real World 2--An Introduction to Business Writing by Barnard and Meehan (Oxford 2005)

参考文献 (References)

None

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

None

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	グローバル化と環境問題		
担 当 教 員	フォーブス, G		
関 連 資 格			
備 考	「日本語教授法」と同時開講 英語検定 2 級又は TOEIC500 点以上取得者のみ		
ナンバリング	E-D079-1/地域研究〔総合〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

Category 2 Problem Solving Skills, Global Reasoning

到達目標 (Class Objectives)

1. Students can understand global issues in relation to their own environment.
2. Students can show an understanding of major environmental issues of the 21st century.
3. Students can evaluate their lifestyle in comparison to other young people from countries around the world.

評価方法 (Evaluation Method)

Class work 30%
Class Quizzes 30%
Final Exam 40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

Individual feedback in class. Written feedback on small projects.

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

Students will look at various environments and then move on to environmental problems. This will start with worldwide problems and move on to looking at Yakushima as an example of a local environment. Awareness of global issues is the main focus. Students will receive in-class feedback from quizzes and tests.

回	内容 (contents)
1	Introducing the Earth!
2	Defining Local and Global Environments Looking at the COVID Pandemic.
3	What Powers the Earth?

4	Man-Made Environments & the Population Problem
5	People +Urban Environments. Garbage & The three Rs
6	Animals in Danger & Habitat Destruction
7	Air Pollution - Transport and City Planning
8	Six Degrees - Climate Change and The Greenhouse Effect
9	Women's Education
10	Nuclear Power: Do we need it?
11	Other environments - Example one: Kenya.
12	Other environments - Example two: Nicaragua.
13	Other environments - Example three: Japan
14	Water, Wars and Famine
15	Planning My Kagoshima: How could we be better?

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Student analysis of topics. Pair work. Synthesis of ideas.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

DVD player & projector

履修上の注意事項 (Remarks)

Students must have a 500 TOEIC score or Eiken 2nd level or expect to receive this score imminently.

Students are expected to prepare for class and discuss topics in English.

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

1 hour per week. Students should try to keep up to date with news topics related to environmental issues.

One example might be ongoing concerns regarding the COVID situation.

テキスト (Materials)

Handouts will be supplied.

参考文献 (References)

None

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

(Qualification/experience of the person in charge of the subject)

None

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	現代社会研究Ⅱ		
担 当 教 員	オーコナ, D, ワトソン, M		
関 連 資 格			
備 考	習熟度別 コアプログラム		
ナンバリング	E-D0A9-1/地域研究〔総合〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

Category 1 - Practical English Communication Ability,
Category 2 - Communication Skills, Category 2 - Global Reasoning

到達目標 (Class Objectives)

1. Students can understand articles and reports concerned with contemporary problems in which the writers adopt particular stances or viewpoints.
2. Students can understand the various issues facing Japan and the globe today, investigate possible solutions and discuss the results in English.
3. Students can read about a diverse range of culture and cultural values, furthering their understanding and reasoning of global issues.

評価方法 (Evaluation Method)

Homework / Book reports 10%
Class Tests 60%
Final Exam 30%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

Classwork feedback.

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

Topics will be introduced and supported by a text. Students will acquire new vocabulary related to these topics to facilitate more advanced reading/discussion skills. Extensive reading will be required. Class tests will be returned in class.

回	内容 (contents)
1	Unit 10 Sexism and Gender roles - Topic Introduction and Discussion
2	Unit 10 Sexism and Gender roles - Reading and Comprehension
3	Unit 10 Sexism and Gender roles - Vocabulary Building and Review

4	Unit 11 Sleeping - Topic Introduction and Discussion
5	Unit 11 Sleeping - Reading and Comprehension
6	Unit 11 Sleeping - Vocabulary Building and Review
7	Unit 12 Japan's Population Crisis - Topic Introduction and Discussion
8	Unit 12 Japan's Population Crisis - Reading and Comprehension
9	Unit 12 Japan's Population Crisis - Vocabulary Building and Review
10	Unit 13 Parasite Singles - Topic Introduction and Discussion
11	Unit 13 Parasite Singles - Reading and Comprehension
12	Unit 13 Parasite Singles - Vocabulary Building and Review
13	Extended Reading Selected by the Teacher
14	Extended Reading Selected by the Teacher
15	Review

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Peer review and group work will be done in this class.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

No technology for this class. Teachers may bring in offline material.

履修上の注意事項 (Remarks)

Classes will be conducted in English.

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

Review and mastery of vocabulary studied in 1st semester.
In free time, students should read around the topics as much as possible.
Students should spend at least 1 hour per week for preparation and review.
Students must do book reports as part of this course.

テキスト (Materials)

Provoke A Response! Critical Thinking Through Data Analysis by S.Gale, S. Fukuhara.
NAN'UN-DO

参考文献 (References)

None

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

None

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	英語で案内する鹿児島		
担 当 教 員	永正 理恵子		
関 連 資 格	上級秘書士（国際秘書）		
備 考			
ナンバリング	E-D1A6-1/地域研究〔郷土〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 1（実践的コミュニケーション能力）、区分 4（社会のために尽くす力、国際的センスと社会への貢献）

到達目標（Class Objectives）

1. 鹿児島の観光地や特産物などについて基礎的なことを理解している。
2. 鹿児島の観光地や特産物などについて英語で簡単な説明ができる。
3. 鹿児島の魅力を海外の人々に伝えるための体験型企画を提案することができる。

評価方法（Evaluation Method）

臨時試験（小テスト、レポート）50%、課題 30%、発表 20%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

小テスト、レポート、課題については、授業中に返却し、講評や解説を行う。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

鹿児島の観光地を現役ガイドの方と回ったり、鹿児島の諸分野の専門家の話を聞いたりして実践的に学んでいく。鹿児島の魅力を伝えるための外国人向け鹿児島体験企画を考え、発表する。

回	内容（contents）
1	鹿児島の概要（地理、気候、産業など）
2	鹿児島の農業と食
3	鹿児島の特産物紹介（さつま揚げ、黒豚、鰹節など）
4	鹿児島の特産品紹介（薩摩焼、大島紬など）
5	鹿児島の温泉
6	ボランティアガイドによる鹿児島まち歩きツアー

7	鹿児島まち歩きツアーの振り返り
8	鹿児島市街地の観光案内（西郷銅像、鶴丸城跡、照国神社、開成所跡など）
9	仙巖園、屋久島、世界遺産関係の案内
10	桜島、指宿、知覧の観光案内
11	鹿児島の伝統行事
12	鹿児島の地域活性化の取り組み
13	外国人向け鹿児島体験企画の検討
14	外国人向け鹿児島体験企画の発表準備
15	外国人向け鹿児島体験企画の発表

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

鹿児島の特産物や観光地などについて、各自で準備した英語の紹介文をペアまたはグループで発表し、ディスカッションをしながら、よりよい紹介文へ作り変えていく。

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

特になし。

履修上の注意事項（Remarks）

特になし。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

- 1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。
1. 学外での実習（鹿児島まち歩きツアー）には必ず参加し、後でレポートを書く。
2. 外部講師による授業の内容について、後でレポートを書く。
3. 課題、レポート、発表原稿等は、文献を活用して幅広くリサーチをし、必ず自分のことばでまとめる。授業でのディスカッションや発表に備えて、説明ができるようにしておく。
4. 観光案内に役立つ英語表現の小テストを行うので、目標表現は、意味、用法、例文等を辞書で調べ、使えるようにしておく。

テキスト（Materials）

植田一三他著『英語で説明する日本の文化 必須表現グループ 100』2010 年 11 月、語研

参考文献（References）

必要に応じて随時紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 （Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし。

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	フランス語Ⅱ		
担 当 教 員	久木田 英史		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	3 者択 1 以上 フランス語Ⅱを履修する場合、フランス語Ⅰを履修していること。		
ナンバリング	E-2CA6-1/フランス語〔言語理解〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 1（多言語理解） 区分 1（異文化理解）

到達目標（Class Objectives）

- 1 フランス語Ⅰで学んだ基礎的な知識をもとに新たな文法知識をさらに多く習得している。
- 2 ホテル、喫茶店、レストランでの場面にあった会話ができる。
- 3 世界遺産になっているパリの名所やフランスの文化・生活に関してさらに多くの知識を身に付けている。

評価方法（Evaluation Method）

課題提出 [50%]、臨時試験（小テスト）[50%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

課題、小テストとも、添削して返却する。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

フランス語Ⅰに引き続き、身近な会話表現を通してフランス語を習得する。
フランス語検定 4～5 級に挑戦する。

回	内容（contents）
1	「授業は何時に終わるの？」 -ir 型規則動詞現在形
2	「授業は何時に終わるの？」 不規則動詞 faire 現在形
3	「授業は何時に終わるの？」 疑問詞 quand, quel など
4	「ご両親がフランスに来るの？」 近接過去と近接未来
5	「ご両親がフランスに来るの？」 不規則動詞 vouloir, pouvoir 現在形

6	「今日は天気がいい」 天候の表現、時の表現
7	「今日は天気がいい」 代名動詞
8	「ロダン美術館に行きたい」 命令形
9	「ロダン美術館に行きたい」 順序を表す数
10	「いい知らせを聞いたよ」 複合過去形（助動詞が avoir の場合）
11	「いい知らせを聞いたよ」 さまざまな否定表現
12	「いい知らせを聞いたよ」 中性代名詞 en
13	「ロダン美術館に行った？」 複合過去形（助動詞が être の場合）
14	「ロダン美術館に行った？」 さまざまな否定表現
15	「ロダン美術館に行った？」 中性代名詞 y

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

教科書の例文をもとに、グループごとにフランス語で会話を練習する。
教科書の練習問題をグループで話し合いながら考える。

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

特になし。

履修上の注意事項（Remarks）

予習復習をする。課題は必ず提出する。
本科目を履修するためには「フランス語Ⅰ」を履修していることが必要である。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

授業で習ったフランス語の表現を確実に記憶に定着させ（そのためには何度も耳で聞き、口で発音し、紙に書くことが必要）、実際に活用できる（すなわち自分自身のことについて述べられる）ようになっておくこと。1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要。

テキスト（Materials）

田辺保子他著『やさしいサリュ』2021 年 4 月 駿河台出版社

参考文献（References）

内藤陽哉編『パスポート仏和・和仏小辞典』白水社 2012 年

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 （Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	韓国語Ⅱ		
担 当 教 員	李 賢雄		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	3 者択 1 以上 韓国語Ⅱを履修する場合、韓国語Ⅰを履修していること。		
ナンバリング	E-28A6-1/韓国語〔言語理解〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 1（多言語理解）、区分 1（異文化理解）

到達目標（Class Objectives）

- 1 基本文法及び用語を応用することができる。
- 2 会話を通してコミュニケーション能力を高め、基本から応用までの会話ができる。
- 3 韓国の文化を学ぶことにより異文化への理解をより深め、韓国の文化について説明できる。

評価方法（Evaluation Method）

定期試験[50%] 臨時試験（小テスト）[30%] 課題[20%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

小テスト及び課題は採点して返却するとともに授業内で解説を行う。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

韓国語Ⅰに引き続き、基本文法及び用語をしっかり身につけていく。また、課ごとに 1 回目では文法と用語を学習して、2 回目では学んだことを基に音読練習、作文練習、対話練習を重ねてより発展したコミュニケーション能力を高めていく。さらに実習では韓国の伝統衣装である‘韓服(チマチョゴリ)’を着る体験を行い、異文化への理解力をより深めていく。

回	内容（contents）
1	第 1 課 固有数字と時間表現について学ぶ（単語と本文読み）
2	第 1 課 固有数字と時間表現について学ぶ（文法と応用問題）
3	第 2 課 日課と助数詞について学ぶ（単語と本文読み）
4	第 2 課 日課と助数詞について学ぶ（文法と応用問題）
5	第 3 課 動詞の活用形(連用形)について学ぶ（単語と本文読み）

6	第3課 動詞の活用形(連用形)について学ぶ (文法と応用問題)
7	第4課 動詞の活用形(未然形)と不規則動詞について学ぶ (単語と本文読み)
8	第4課 動詞の活用形(未然形)と不規則動詞について学ぶ (文法と応用問題)
9	第4課 動詞の過去形について学ぶ
10	第5課 形容詞の活用形(連用形)について学ぶ (単語と本文読み)
11	第5課 形容詞の活用形(連用形)について学ぶ (文法と応用問題)
12	第6課 形容詞の活用形(未然形)と不規則形容詞について学ぶ (単語と本文読み)
13	第6課 形容詞の活用形(未然形)と不規則形容詞について学ぶ (文法と応用問題)
14	第6課 形容詞の過去形について学ぶ
15	韓国の伝統衣装‘韓服(チマチョゴリ)’の体験

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

韓国の伝統衣装である韓服(チマチョゴリ)を体験する。

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

特になし。

履修上の注意事項 (Remarks)

本科目を履修するためには、「韓国語Ⅰ」を履修していることが必要である。
「韓国語Ⅰ」を履修していない者で本科目の履修を希望する場合は、既にハングル能力検定試験(5級以上)または、韓国語能力試験(TOPIKⅠ級以上)の資格を取得していれば履修を認めることがある。

準備学習(予習・復習等) (Preparation)

次回の授業範囲を示すので予習し、分からない用語の意味等を調べて理解しておくこと。また前回、学習した内容の理解度を確認するため、臨時試験(小テスト)を実施する。1回の授業あたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。更にアクティブ・ラーニングは事前にチマチョゴリについて調べておくこと。

テキスト (Materials)

HYUNWOONG LEE & KAORI TSURUTA 共著『KOREAN LANGUAGE Ⅱ』2022年3月、博英社

参考文献 (References)

特になし。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

(Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	中国語Ⅱ		
担 当 教 員	張 紹好		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	3 者択 1 以上 中国語Ⅱを履修する場合、中国語Ⅰを履修していること。		
ナンバリング	E-2AA6-1/中国語〔言語理解〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1（多言語理解） 区分 1（異文化理解）

到達目標 (Class Objectives)

- 1 インターネットを通じて最新の中国の現状、庶民の生活等を理解し、説明できる。
- 2 平叙文、疑問文、慣用句、量詞、数等の構造や使い方を更に理解し、応用できる。
- 3 中国語Ⅰで身に付けた日常会話などを基礎として更に高度な表現法を学び、読解、作文ができる。

評価方法 (Evaluation Method)

臨時試験（発表）[30%] 課題[30%] 定期試験[40%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

課題については添削、採点后返却する。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

- 1 テキストに従って、やや複雑な構文の助詞の用法を学んで行く。
- 2 日常的に使われる単語（日本の地名、百貨店などの名称）を紹介し、友人や家族などと生きた会話が出来るようにする。
- 3 既に学んだ単語などを用いて中国語で質問し、学生が中国語で応える対話形式を多く用いる。

回	内容 (contents)
1	(a) 中国語Ⅰで学んだことの復習 (b) 動詞”在” (c) 短文
2	(a) 是…的 構文 (b) 進行の表し方 (c) 方位詞 (d) 短文と発表
3	(a) 主述述語文 (b) 助動詞”能” (c) 短文

4	(a)助動詞”会” (b)二重目的語をとる動詞 (c)短文
5	(a)結果補語 (b)様態補語 (c)自然現象の表し方 (d)短文と歌
6	(a)方向補語 (b)動詞の重ね型 (c)助詞詞”可以” (d)短文と歌
7	(a)疑問詞の不定用法 (b)要是… (的語) (c)助動詞”得” (d)短文と発表
8	(a)可能補語 (b)助動詞のまとめ (c)短文と発表
9	(a)”把”構文 (b)選択疑問文 (c)短文と発表
10	(a)お金の言い方 (b)形容詞の重ね型 (c)使役の表し方 (d)短文
11	(a)使役(b)”被”構文 (c)禁止の言い方 (d)短文と発表
12	(a)就要…了. 快要…了 (b)動詞＋名詞の表現 (c)短文
13	短文と会話、歌
14	短文と詩の朗読、歌
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

正しい発音を確認するために会話と朗読の発表を行う。

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

補助教材としてインターネットを利用する。

履修上の注意事項 (Remarks)

本科目を履修するためには、「中国語Ⅰ」を履修していることが必要である。
大きな声で朗読し、発表する。発表と発音を重視する。課題の期限厳守。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

学んだ単語や発音などを復習し、単語を使って短文を作る。新しい教材を予習すること。
会話と朗読の発表を行うので各自準備すること。
授業1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト (Materials)

上智大学中国語教材作成チーム著『即練！使える中国語』2018年4月、朝日出版社
時々、プリント教材あり

参考文献 (References)

『中日大辞典』 968年2月、大修館
『中国語図解事典』1992年12月(初版)、2000年9月(9版)、大修館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

(Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	現代日本語学概論		
担 当 教 員	小田 智代		
関 連 資 格			
備 考	日本語教師養成課程関連科目 「英語学概論」と同時開講		
ナンバリング	E-33A6-1/日本語［言語理解］－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1（多言語理解）

到達目標 (Class Objectives)

1. 日本語はどのような言語かを客観的に観察することができる。
2. 日常の様々な言語現象から日本語の変化やしくみを概観することができる。
3. 日本語の音声、語構成、文法などについて、具体的に議論することにより、日本語の特徴を捉えることができる。

評価方法 (Evaluation Method)

臨時試験（自宅持ち帰りテスト）50%、定期試験 50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

自宅持ち帰りテストについては採点して返却するとともに授業内で解説する。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

毎回日本語の様々な現象について議論しながら日本語という言語を概観する。

回	内容 (contents)
1	はじめに
2	世界の中の日本語
3	日本語の母音と子音
4	日本語の音の特徴とアクセント
5	語彙

6	語構成
7	意味
8	ことばの変化
9	日本語の品詞／動詞
10	日本語の品詞／形容詞
11	日本語の品詞／名詞
12	その他の文法的特徴
13	五十音図
14	文字と表記
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

学びを振り返ることを目的として自宅持ち帰りテストを課す。このテストは評価後、返却し、その際にクラス全体でディスカッションを行いながら、解説を行う。

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

教材・資料・授業スライドの掲載

履修上の注意事項 (Remarks)

授業において、毎回グループディスカッションを行う。積極的な発言を求める。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

予習として毎回教科書の指定箇所を読み、毎回の授業のディスカッションに備える。自宅持ち帰りテストがあるため、毎回復習をしておくこと。1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト (Materials)

日野資成著『ベーシック現代の日本語学』2009 年 4 月、ひつじ書房

参考文献 (References)

必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	イングリッシュミュージカル		
担 当 教 員	堀江 美智代, オーコナ, D		
関 連 資 格			
備 考	イングリッシュシアターを履修していること 最大 55 名までとする		
ナンバリング	E-26AC-1/英語〔文化・芸術〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1(実践的コミュニケーション能力)、区分 3(豊かな社会性)、区分 4(国際的センスと社会への貢献)

到達目標 (Class Objectives)

- 1 英語ミュージカルを上演するために必要なコミュニケーション能力を身に付けている。
- 2 感動を与える舞台発表にするために、キャストやスタッフと協力して練習し、お互いを高め合おうとする姿勢を身に付けている。
- 3 完成した英語ミュージカルを地域社会の人々に公開し、社会へ発信する表現力を身に付けている。

評価方法 (Evaluation Method)

臨時試験（小テスト 20%、レポート 40%、発表 40%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

小テストは採点して返却するとともに授業内で解説を行う。レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

10 月末に実施される純短祭で英語ミュージカルを上演するための準備と練習を行う。英語で書かれた台本を読み、台詞を暗記し、舞台稽古などを通して、英語運用能力を高める。上演するミュージカルに関する小テスト（歌とプロット等）を実施する。舞台発表後は、登場人物分析レポートやまとめのレポートを英語で書いて提出する。

回	内容 (contents)
1	イントロダクション 説明（シラバス、レポート、役者チェックリスト、ソングクイズ、キャラクターとプロットクイズ）、スタッフからの連絡
2	練習 シーン 1、2
3	練習 シーン 3
4	練習 シーン 4、5

5	練習 シーン 6、7
6	練習 シーン 8
7	練習 シーン 9、10
8	練習 シーン 11
9	ヘアーとメイクに関する実技指導
10	練習 通し稽古
11	練習 シーン 1～5
12	練習 シーン 6～11
13	ドレスリハーサル
14	純短祭における舞台発表の反省、改善点、今後の課題 登場人物分析レポートやまとめのレポートに関する解説
15	レポート返却、舞台発表の視聴、反省会

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

台本の内容理解を確認するため、小テストを実施する。登場人物を分析するレポートやミュージカルの取り組みや課題を振り返ることを目的としたレポートを課す。衣装や大道具などのスタッフの仕事を分担し、各々のグループで協力して、素晴らしい舞台発表にするために準備を行う。

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

練習や通し稽古の様子を撮影した動画を視聴し、演技力やダンス力の向上に役立て、より良い作品づくりを目指す。歌やセリフを録音したファイルを教員へ送付し、教員が改善点についてコメントを返信する。Zoom 等を活用したセリフ練習を実施する。

履修上の注意事項 (Remarks)

この科目の履修登録にあたっては「イングリッシュシアター」を履修していること。授業だけでなく、授業以外の時間（始業前、空き時間、土曜日）に練習が入ることもあるので、特別な事情がない限り、練習に参加すること。

準備学習（予習・復習等）(Preparation)

小テストに備えて、台本をよく読み、歌や内容を理解しておく。自分が関係する台詞や歌詞をなるべく早く暗記する。登場人物を分析し英語でレポートを書く。まとめとして、英語ミュージカルの取り組みを振り返り、英文レポートを書いて提出する。キャストとして、演技・歌・ダンスの自主練習や場面練習に参加する。衣装や大道具などのスタッフの仕事を自主的に協力して行う。

テキスト (Materials)

なし

参考文献 (References)

適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	英文学概論		
担 当 教 員	小玉 智治		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教科及び教職に関する科目」のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・教科に関する専門的事項（英語文学） ※一般的包括的な内容を含む。		
ナンバリング	E-26A9-1/英語〔文化・芸術〕ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 1（異文化理解） 区分 2（グローバルに通用する論理展開）

到達目標（Class Objectives）

- 1.文学作品に使用されている様々な英語表現や思考様式について理解している。
- 2.英語圏の文学の歴史を通して、代表的な作品の文化的、社会的背景を理解している。
- 3.英語圏の文学の代表的な作品、作家について基本的な知識を持ち、意義を理解している。

評価方法（Evaluation Method）

臨時試験（レポート 20%、小テスト 50%）、課題 30%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

レポートやテストについては返却時に、発表については終了後に授業時間内で行う。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

イギリスやアメリカを中心として英語圏の文学を、歴史をたどりながら文化的、社会的背景などを学ぶとともに、作品に対する理解を深める。「作品読解」においては、各時代の代表的な作品の一部や短編小説を鑑賞する。原文と翻訳を通して効果的に英語の読解力文学作品における英語表現を身につける。

回	内容（contents）
1	授業概要説明 / 英文学を学ぶ意義 / 文学とは何か
2	イギリス文学史 1「古期から中世へ」 / 研究の方法 / レポートの書き方 発表の仕方
3	イギリス文学史 2「シェイクスピア」 / 作品読解 1

4	イギリス文学史 3 「17 世紀」「18 世紀」 / 作品読解 2
5	イギリス文学史 4 「ロマン主義」 / 「ヴィクトリア朝時代」
6	イギリス文学史 5 「20 世紀」 / 作品読解 3 小テスト 1 (イギリス文学)
7	アメリカ文学史 1 「植民地時代」「独立期から南北戦争」 / 作品読解 4
8	アメリカ文学史 2 「南北戦争以降から第一次世界対戦まで」 / 作品読解 5
9	アメリカ文学史 3 「第一次世界大戦から第二次世界大戦まで、冷戦終了まで」
10	アメリカ文学史 4 「冷戦終結後」 / 作品読解 6
11	日本文学への影響/ 英語と日本文学/ 小テスト 2 (アメリカ文学)
12	イギリス、アメリカ以外の英語の文学 (アイルランド、カナダ他)
13	英語圏の児童文学
14	文学批評理論/ 英語圏の文学のテーマ
15	まとめ (発表、レポートのフィードバック他)

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

レポートで取り上げた作家や作品などについてグループディスカッションを行う時間を設ける。

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

レポート課題の掲載・提出は教育支援サイトで行う。

履修上の注意事項 (Remarks)

特になし。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。グループディスカッションについては仕方や内容を授業で事前に指導するのでしっかりと準備すること。

テキスト (Materials)

川崎寿彦著『イギリス文学史入門』1986 年 10 月、研究社

参考文献 (References)

石塚久郎他著『イギリス文学入門』2014 年 6 月、三修社
 諏訪部浩一他著『アメリカ文学入門』2013 年 10 月、三修社
 スチュワート・シム著 杉野健太郎、丸山修監訳『現代文学・文化批評家事典』1991 年 11 月、松柏社
 日本イギリス児童文学会著『英語圏の児童文学 1』2013 年 11 月、ミネルヴァ書房

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	英語学概論		
担 当 教 員	永正 理恵子		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教科及び教職に関する科目」のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・教科に関する専門的事項（英語学） ※一般的包括的な内容を含む。 「現代日本語学概論」と同時開講		
ナンバリング	E-22A9-1/英語［言語理解］－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 1（多言語理解）

到達目標（Class Objectives）

1. 英語の言語としての基本的特徴を理解している。
2. 英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の実態について理解している。
3. 英語学の基本的概念を使って、英語を分析することができる。

評価方法（Evaluation Method）

定期試験 40%、臨時試験（中間テスト）30%、課題 30%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

試験や課題については、返却時に解説を行う。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の実態を学ぶ。言語としての英語の特徴を、形態論、音声学、音韻論、語用論、社会言語学の各分野から分析し、英語教育への応用について考察する。

回	内容（contents）
1	英語学の分野
2	形態素の種類、屈折、派生
3	複合、逆成、転換、頭文字、短縮
4	混成、異分析、語根創造、借入

5	英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の実態
6	母音と子音の調音、音素、音節構造、音の連結・同化
7	強勢、リズム、イントネーション
8	発話行為の種類（依頼、謝罪、助言、勧誘、申し出など）
9	間接発話行為（同一の発話行為の異なる表出の仕方）
10	ポライトネス
11	中間テスト、意味関係（同意語、反意語など）
12	地理方言（アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語の違いなど）
13	年齢、職業による社会方言
14	階層、性別による社会方言
15	英語教育に生かす英語学の分析

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

課題等の問題について、各自の分析を発表し、ディスカッションする。

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

特になし。

履修上の注意事項（Remarks）

履修にあたっては、品詞など基本的文法事項が理解できていることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

- 1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。
1. 事前学習として、次の授業で扱う教科書の章を読んでおく。
2. 課題は、複数の文献を参照し、時間をかけて取り組む。また、自分の分析について説明やディスカッションができるようにしておく。
3. 復習の際は、授業で学んだ概念・分析について、教科書以外の文献の例や説明も参照して、理解を深める。

テキスト（Materials）

影山太郎他著『First Steps in English Linguistics 2nd Edition』2004 年、くろしお出版

参考文献（References）

必要に応じて授業中に紹介。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 （Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし。

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	TOEIC 演習		
担 当 教 員	小玉 智治, 永正 理恵子		
関 連 資 格			
備 考	習熟度別		
ナンバリング	E-25A9-1/英語 [外部試験対策] 一上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 1（実践的コミュニケーション能力）、区分 2（情報・実務能力）、区分 3（学ぶ意欲・気力）

到達目標 (Class Objectives)

1. ビジネスの場において活用できる英語のリスニング力、リーディング力を身に付けている。
2. TOEIC L&R のスコアを向上させるための語彙力を身に付け、全パートの解法のポイントを理解している。
3. TOEIC L&R の到達目標を設定して、継続的に向上させようとする姿勢を十分に身に付けている。

評価方法 (Evaluation Method)

課題 20%、臨時試験（小テスト・中間テスト 50% 総合テスト 30%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

課題やテストの返却時等の授業時間内で解説の時間を設ける。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

最終的な各自の到達度を測る 1 月のテストを目標にすることで英語力向上のモチベーションを保ちながら対策に取り組み、全員が最高の結果が出せるように授業を展開する。テスト、課題については解説の時間をもうける。

回	内容 (contents)
1	実力確認テスト/PART2 応答問題の解法・演習
2	PART2 応答問題の演習
3	PART5 文法語彙問題の解法・演習
4	PART5 文法語彙問題の演習
5	PART6 長文穴埋め問題の解法・演習
6	PART6 長文穴埋め問題の演習
7	中間テスト

8	PART3 会話問題の解法・演習
9	PART3 会話問題の演習
10	PART4 説明文問題の解法・演習
11	PART4 説明文問題の演習
12	PART7 読解問題の解法・演習
13	PART7 読解問題の演習
14	PART1 写真描写問題の解法・演習
15	まとめ/総合テスト

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

小テストで間違った問題を各自あるいはグループで検討する時間を設ける。また、ペアワークで音読や問題の確認を行う。

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

特に無し。

履修上の注意事項 (Remarks)

前回受験した TOEIC スコアをより、スコアを伸ばすという強い目的意識を持って、授業と課題に積極的に取り組むこと。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

- ・1 コマあたり授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。
- ・授業の最初に復習テストと単語テストを実施するので準備しておくこと。
- ・予習としては、指示された教科書の問題やプリントを必ずノートに解答し、間違った箇所の訂正を行い、再度問題を解くこと。
- ・語彙リストを作成し、語彙力を向上させること。
- ・TOEIC は長時間のテストになるため、諦めずに問題を解き続けるという姿勢を身につけること。

テキスト (Materials)

ロバート・ヒルキ、相澤俊幸、ヒロ前田共著『TOEIC L&R テスト直前の技術』2018 年 1 月、アルク
 Education Testing Service 著 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 8』2021 年 10 月、国際ビジネスコミュニケーション協会
 TEX 加藤著『TOEIC L&R TEST での単特急 金のフレーズ』2017 年、朝日出版

参考文献 (References)

授業中、適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

(Qualification/experience of the person in charge of the subject)

小玉 保有資格・免許:高等学校教諭専修免許状(英語) 職歴:元長崎県立高等学校教諭

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	必	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	JEB プロジェクト		
担 当 教 員	フォーブス, G, ワトソン, M		
関 連 資 格	上級秘書士（国際秘書）、情報処理士		
備 考			
ナンバリング	E-1EAC-1/課題解決型学修〔国際〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

Category 1: Practical English Communication Ability, Cross Cultural Understanding.
 Category 2: Problem Solving Skills, Global Reasoning.
 Category 4: Global Sense and Contribution to Society.

到達目標（Class Objectives）

1. Students can show an understanding of foreign countries and make some comparison with Japan.
2. Students can conduct research on foreign countries and present it in public
3. Students take a strong interest in world affairs and can make a positive contribution to the development of global society.

評価方法（Evaluation Method）

40% for class work and group participation
 20% for the mid-term presentation
 40% for the final presentation

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

Individual consultation. Small group feedback and peer review. Class feedback.

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

In groups of three, students will conduct research into a country of their choice (with restrictions, as mentioned above).
 Set topics will be given such as geography, climate, history, people, religions, languages, culture.
 Students will produce a detailed and well-researched oral presentation of approximately 20 minutes per group, which will be assessed by multiple teachers.

回	内容 (contents)
1	Introduce the project, decide groups, discuss aims and topics.
2	Continued feasibility check. Presentation options outlined, timeline outlined, presentation skills explained.
3	Individual students from different groups explain their research to each other for teacher and peer review. Students submit drafts of work to date.
4	Individual students from different groups explain their research to each other for teacher and peer review. Students submit drafts of work to date.
5	Individual students from different groups explain their research to each other for teacher and peer review. Students submit drafts of work to date.
6	Individual students from different groups explain their research to each other for teacher and peer review. Students submit drafts of work to date.
7	Mid-term trial presentation
8	Mid-term trial presentation
9	Continued research in the PC room
10	Reminder of filmed requirement for submission.
11	Presentation practice (End of research).
12	Presentation practice (End of research).
13	Group presentations (#1) to different teachers and different groups
14	Group presentations (#2) to different teachers and different groups
15	Consolidation, review, assessment, Submission of filmed project.

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

Student-led research. Genuine topics. Group work & presentation. Peer review.

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

PowerPoint presentations will be used with in-class projectors.

履修上の注意事項 (Remarks)

This project involves group work. For a group to work well, it is essential that all students attend regularly.

準備学習（予習・復習等）(Preparation)
1 hour / week. Students should be familiar with PowerPoint. Regional Studies courses (Australia, Ireland, the UK, South Africa) help to prepare students to understand different countries and cultures. Students should pay attention to local and world news, through reading, TV news, and the internet.

テキスト (Materials)
No text. Students can use the internet or the library to find information.

参考文献 (References)
None

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	海外インターンシップⅡ		
担 当 教 員	小田 智代		
関 連 資 格			
備 考	学外実習 課題（試験やレポート等）についてはフィードバックを行う。 ただし、定期試験については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出た 学生に対してのみ対応する。		
ナンバリング	E-FBAF-1/キャリア教育［インターンシップ］－不定		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 2（問題解決力）、区分 2（グローバルに通用する論理展開）、区分 4（国際的センスと社会への貢献）

到達目標（Class Objectives）

1. 日本語教育の現場で、教育上の様々な問題点に気づき解決することができる。
2. 授業の見学・教材作成・実習で得た知識を元に、指導案を構想し、それを実践できる。
3. 実習校の生徒たちの日本や日本語に関する関心を高め、実習校の日本語プログラムの発展に貢献できる。

評価方法（Evaluation Method）

実習校の評価 60%、臨時試験（レポート）40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

学期終了ごとにメールで提出されるレポートにはその都度メールでフィードバックを行う。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

豪州の提携校にて日本語教官助手を行う。各学校において「日本語」の科目担当者と教材開発や教材作成を行ったり、授業の中で発音や文字指導等に関わる。また、チュータリングを行い、生徒たちの質問や疑問に答えたり、会話練習や日本文化の紹介等を行う。

回	内容（contents）
1	実習校の計画に従って、授業の準備、授業の観察、実習を行う。
2	
3	
4	

5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

現地校の日本語の授業のための教材準備、教室活動のサポートに加え、日本文化・日本事情に関するイベントでは中心となり、企画、運営を行う。

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

特になし

履修上の注意事項 (Remarks)

「日本語教材研究」を履修していること。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

毎日実習校の授業計画に従って、日本語の授業準備から事後のあらゆるサポートを行う。また、授業後には教材等について再検討し、改善を行う。

テキスト (Materials)

特になし

参考文献 (References)

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

インターンシップ科目

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	国際秘書概論		
担 当 教 員	中野 由美子		
関 連 資 格	上級秘書士（国際秘書）		
備 考			
ナンバリング	E-F4A9-1/キャリア教育〔国際秘書〕ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 2（情報・実務能力）

到達目標 (Class Objectives)

1. 国際秘書としての役割を果たすために必要な知識とスキルを身につけ、分かりやすく説明することができる。
2. 国際秘書として、状況に応じた適切な対応をするためのコミュニケーション能力を身に付けている。
3. 国際的なビジネス環境に関する知識を身につけ、分かりやすく説明することができる。

評価方法 (Evaluation Method)

課題 20%、臨時試験（中間試験 40%）、定期試験 40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

課題は評価をつけて返却し、評価のポイントを解説する。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

国際秘書の職能と求められる知識・スキルを説明でき、それらをまとめることができる学修プログラム。国際秘書として要求される他分野の知識を秘書の基本的機能に関連づけながら解説する。

回	内容 (contents)
1	国際秘書とは何か
2	グローバル化によるビジネス社会の変化
3	国際秘書の業務
4	国際秘書に求められる資質とスキル
5	国際オフィス・コミュニケーション

6	英語での電話応対（ロールプレイング）
7	英語での来客応対（ロールプレイング）
8	英文メール作成
9	英文ビジネスレター基礎知識
10	英文ビジネスレター作成
11	これからのビジネス社会と秘書
12	新たなニーズへの対応
13	秘書のキャリア形成
14	秘書と自己啓発
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

電話応対、来客応対では相互に点検・評価する機会を設ける（ロールプレイング）

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

特になし

履修上の注意事項（Remarks）

積極的な姿勢で授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

授業 1 コマあたり、事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。
 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。
 毎回授業で習ったことを復習し要点をまとめて整理しておくこと。ロールプレイングは何回も練習して臨むこと。

テキスト（Materials）

全国大学実務協会教育協会編『新しい時代の秘書ビジネス論』2016 年 3 月、紀伊國屋書店

参考文献（References）

特になし

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 （Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	マナーとプロトコール		
担 当 教 員	中野 由美子		
関 連 資 格	上級秘書士（国際秘書）		
備 考			
ナンバリング	E-F4A9-2/キャリア教育〔国際秘書〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連（Diploma policy-related point）

区分 2（情報・実務能力）区分 3（豊かな社会性）

到達目標（Class Objectives）

1. 社会生活におけるマナーの基本を理解し、日常生活で実践することができる。
2. 国際儀礼（プロトコール）の原則を理解し、他国の習慣やしきたりの違いを説明することができる。
3. 国際人としての自覚を持ち、他者と協働して課題を解決しようとする姿勢が身に付いている。

評価方法（Evaluation Method）

振り返りシート 30%、臨時試験（レポート 70%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（Method of feedback for each subject (exam, report)）

レポートは評価をつけて返却し、評価のポイントを解説する。

授業の展開計画（Outline of Class Sessions）

外部から講師の先生方を招き、より専門的な知識を具体的に学んでいく。

回	内容（contents）
1	マナーとは何か
2	マナーの歴史と意味
3	社会人に必要なマナー
4	食事のマナーについて
5	和食のマナーについて

6	冠婚葬祭について
7	立ち居振る舞いの基本（外部講師）
8	美しいウォーキング（外部講師）
9	好印象を与えるコミュニケーション（外部講師）
10	ビジネスシーンでのマナー（外部講師）
11	国際人としてのプロトコール
12	異文化理解について
13	異文化コミュニケーションについて
14	グローバルマナーとは
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要（Approach to Active Learning）

相互に点検・評価する機会を設ける（グループワーク）

ICT 活用の概要（Outline of the use of technology）

特になし

履修上の注意事項（Remarks）

積極的な姿勢で授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）（Preparation）

予習として社会情勢やビジネス環境をとらえるために、新聞を読んでもらうこと。
毎回必ず復習をし要点をまとめること。授業で学んだマナーを日常生活の中で実践し振り返りシートに記録すること。授業 1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。相互に点検・評価する機会を設けるので、自分の意見をしっかりまとめておくこと。

テキスト（Materials）

必要に応じて適宜配付

参考文献（References）

日本マナー・プロトコール協会著『大人のマナー講座』2014 年 11 月、PHP 研究所

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

（Qualification/experience of the person in charge of the subject）

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	日本語教授法		
担 当 教 員	小田 智代		
関 連 資 格			
備 考	日本語教師養成課程関連科目 「グローバル化と環境問題」と同時開講		
ナンバリング	E-34A6-1/日本語〔教育〕－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連 (Diploma policy-related point)

区分 2（問題解決）、区分 2（グローバルに適用する論理展開）

到達目標 (Class Objectives)

1. 外国語教授法を理解し、日本語教育への応用を構想することができる。
2. 日本語教育における教室活動を学び、簡単な教室活動案を作成することができる。
3. グローバルな視点をもとに、日本語の授業を構想し、教案を書くことができる。

評価方法 (Evaluation Method)

外国語教授法ならびに初級文法項目を用いた授業構成案のプレゼンテーション 50%、臨時試験（中間試験 25%、レポート 25%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
(Method of feedback for each subject (exam, report))

プレゼンテーションはその都度、授業内でフィードバックを行う。中間試験は採点して返却すると共に授業内で解説を行う。レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画 (Outline of Class Sessions)

前半はシラバスデザインや外国語教授法を中心に行い、後半は実際の日本語の授業を個々で組み立て、教案を作成する。

回	内容 (contents)
1	コースデザイン
2	シラバス
3	外国語教授法：オーディオリンガル・メソッド／サイレントウェイ／CLL
4	外国語教授法：TPR／サジェストペディア
5	外国語教授法：ナチュラル・アプローチ／コミュニカティブ・アプローチ

6	外国語教授法のまとめ
7	教材と教具の使い方
8	教材作成
9	授業の流れと教室活動
10	初級文法項目 (masu form)を用いた授業構成
11	初級文法項目 (イ形容詞・ナ形容詞／tai form)を用いた授業構成
12	初級文法項目 (te form／oo form)を用いた授業構成
13	初級文法項目 (plain form／so form)を用いた授業構成
14	教案の作り方
15	教案の発表

アクティブ・ラーニングの概要 (Approach to Active Learning)

外国語教授法と初級文法項目について、グループワークを行い、発表後、クラス全体でディスカッションを行う。

ICT 活用の概要 (Outline of the use of technology)

教材・資料・授業スライドの掲載

履修上の注意事項 (Remarks)

ディスカッションでは、積極的に発言することを求める。

準備学習 (予習・復習等) (Preparation)

各グループで外国語教授法と初級文法項目について調べ、発表する。これらの発表をもとに教案作成を行うため、毎回授業の予習と復習が必要である。1コマあたり、授業の事前・事後に計1時間の学習が必要である。

テキスト (Materials)

小林ミナ著『日本語教育よくわかる教授法』2019年1月、アルク

参考文献 (References)

鎌田修他編『日本語教授法ワークショップ』1996年5月、凡人社
庵功雄他著『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』2000年5月、スリーエーネットワーク
川口義一・横溝紳一郎著『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)(下)』2005年5月、ひつじ書房

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要 (Qualification/experience of the person in charge of the subject)

該当なし

令和4年度入学生 生活学科 教職科目

開講期		科目名
令和5年	前期	教育心理学
		特別支援教育論
		総合的な学習の時間の指導法
		特別活動論
		栄養教育実習Ⅰ
		栄養教育実習Ⅱ
	後期	教育相談
		教職実践演習（栄養教諭）

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	教育心理学		
担 当 教 員	今林 俊一		
関 連 資 格	栄教二種免		
備 考	E と同時開講 【教職科目（栄養教諭二種）】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育の基礎的理解に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
ナンバリング	Q-5876-1/教育学－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標

- 1 幼児、児童及び生徒の教育における発達や学習の基礎的な理論について理解し、学習指導のあり方にどう関わるか説明することができる。
- 2 発達の特徴に合わせた動機付けや集団づくりの方法について具体的に説明することができる。
- 3 子どもの発達に応じた教育的ニーズを理解し、主体的な学習活動を支える指導の基礎について説明することができる。

評価方法

定期試験 60%、臨時試験（毎回の授業の最後に提出する小レポート） 40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の小レポートにはその日の授業で理解できたことや疑問等を記載してもらうため、次回の授業冒頭にて、コメントの紹介や疑問への返答という形でフィードバックを行う。

授業の展開計画

本講義では、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、教育心理学の立場から理解することを目的とする。本講義ではまず、子どもの発達について解説し、発達段階に応じた教師の関わりについて学びを深める。また、学習に関する代表的理論について解説し、子どもの主体的な学びを支える内的・外的要因について理解を深められるようにする。将来、教師として仕事をすることを念頭に置き、教育の諸問題の理解や解決について学ぶ。

回	内容
---	----

1	幼児期及び児童期の発達
2	青年期の発達
3	学習の諸理論
4	動機付け
5	学級集団内の人間関係
6	教育工学・授業のスタイル
7	教育測定・評価
8	学習上の困難とその対処

アクティブ・ラーニングの概要

毎回の授業の最後に学びを振り返ることを目的に小レポートを課す。レポートは評価後に返却し、その際に解説を行う。

ICT 活用の概要

教材・資料の掲載

履修上の注意事項

毎回の授業終了時には小レポートを作成してもらう。
提出物の未提出・私語・遅刻などには厳しく対処する。

準備学習（予習・復習等）

予習として、次回講義に含まれるキーワードを伝えるので、参考文献等を読み、用語の理解をしておくこと。
復習として、授業で紹介した用語や研究内容について積極的に調べ、理解を深めておくこと。
1回の授業あたり、授業の事前・事後に計4時間の学習が必要である。

テキスト

特になし

参考文献

随時、講義の中で提示する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	特別支援教育論		
担 当 教 員	中島 賢太郎, 益満 孝一, 古賀 政文		
関 連 資 格	栄教二種免		
備 考	E と同時開講 【教職科目（栄養教諭二種）】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育の基礎的理解に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
ナンバリング	Q-5876-2/教育学－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

該当なし

到達目標

- 1.障がいのある子ども及び特別な教育的ニーズのある子どもについて指導の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う教育実践について理解している。
- 2.障がい種別ごとの障害特性・心理・心身の発達について学び、学習活動の留意点、援助の方法、環境構成等を理解している。
- 3.障がいのある子どもの保護者への支援や、関係機関との連携について理解している。

評価方法

定期試験 50%、臨時試験（レポート・提出物等）50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートなど課題については、講義中にフィードバックを行う。
定期試験については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出た学生のみ対応する。

授業の展開計画

障害児教育の理念、特別支援教育の制度と教育内容、「インクルーシブ教育」「特別なニーズ教育」をめぐる国際動向に関して講義する。また、様々な障がいについての理解と実際の援助の理解について教授し、関係機関と連携しながら組織的に対応していく重要性について講義する。
単元ごとのレポートを課し、全体の傾向をフィードバックする。

回	内容
1	特別支援教育の理念と基本的な考え方 (担当：益満)

2	障がいの理解 (1) 視覚障がい・聴覚障がい	(担当: 中島)
3	障がいの理解 (2) 肢体不自由・知的障がい	(担当: 中島)
4	障がいの理解 (3) 発達障がい・その他特別な支援が必要な子どもの理解	(担当: 中島)
5	特別支援教育の教育課程と指導形態	(担当: 古賀)
6	学習支援と生活支援のあり方	(担当: 中島)
7	指導計画の作成と記録及び評価	(担当: 中島)
8	関係機関との連携、家庭との連携と支援	(担当: 中島)

アクティブ・ラーニングの概要

講義の中で対話的な学びの場を設定し、様々な課題について問題解決的な学びを追究する。

ICT 活用の概要

教育リソースの活用(インターネット等を通じて無償で入手可能な講義教材、教育ソフトウェアを含む教育リソースの活用)

履修上の注意事項

教員免許を目指して自発的に履修するのが前提なので、講義には積極的に臨んで欲しい。
提出物の期日厳守・私語・遅刻・居眠りなどには厳しく対処する。

準備学習(予習・復習等)

予習としては紹介した参考図書を積極的に読むこと、復習としては毎回講義後、プリント整理を行い理解を深めること。

1コマの授業あたり、授業の事前・事後に計4時間の学習が必要である。

テキスト

特になし

参考文献

石部元雄編 『よくわかる障害児教育』 2020年、ミネルヴァ書房

小野次郎編 『よくわかる発達障害』 2010年、ミネルヴァ書房

玉村公二彦・黒田学他編著 『新版・キーワードブック特別支援教育』 2019年、クリエイツかもがわ

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

古賀

保有資格・免許: 小学校教諭一種免許状、養護学校教諭一種免許状 職歴: 鹿児島県教育庁学校教育課指導主事、鹿児島県立鹿児島養護学校校長ほか

中島

保有資格・免許: 小学校・中学校・特別支援学校専修免許状、学校心理士、公認心理師

職歴: 神奈川県及び鹿児島県の公立小学校教諭、さつま町教育委員会学校教育課指導主事(特別支援教育、生徒指導、不登校児童生徒対応を担当)

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	総合的な学習の時間の指導法		
担 当 教 員	中島 賢太郎		
関 連 資 格	栄教二種免		
備 考	E と同時開講 【教職科目（栄養教諭二種）】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に該当し、次の事項のうち、総合的な学習の時間に関する内容を含む。 ・道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
ナンバリング	Q-5876-3/教育学ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

該当なし

到達目標

- 1 「総合的な学習の時間」の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解し、説明できる。
- 2 「総合的な学習の時間」の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付け、発揮できる。
- 3 「総合的な学習の時間」の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解した上で、具体的に実践できる。

評価方法

模擬授業・発表 50%、レポート・課題 50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題については、全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

「総合的な学習の時間」の意義と本質を理解し、探究的な見方・考え方を考察していくとともに、加えて学校現場における実践経験を事例として活用しながら、横断的・総合的な学習や各教科等との関連を考慮した指導計画作成と授業運営に必要な基礎的な知識・実践力を養う。さらに単元の指導計画を主体的に作成することで、子どもたちの探究的な学習の過程とその実現のための具体的な手立てや学習状況の評価の重要性、指導上の留意点等について実践的に学ぶ。

回	内容
1	授業の概要説明 学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標構成と意義の理解
2	教育課程において果たす役割（全体計画とカリキュラム・マネジメント） 特色ある学校づくりと総合的な学習の時間の全体計画／各教科等と関連して総合的に育む資質・能力
3	「総合的な学習の時間」の全体計画・年間指導計画の作成の仕方の理解 学習指導のポイント
4	主体的・対話的で深い学びを実現する「総合的な学習の時間」の単元計画の作成
5	「総合的な学習の時間」の実践例に学ぶ(主体的に学び続ける総合的な学習の時間の展開)
6	学習指導案作成と授業づくり 学習状況の評価の基本的考え方
7	「総合的な学習の時間」の模擬授業と振り返り
8	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

第7回の授業では、理解を深めるために模擬授業を行う。

ICT 活用の概要

教材・資料の掲載

履修上の注意事項

積極的な態度で授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり、授業の事前・事後に計4時間の学習が必要である。また第7回の模擬授業では、学習指導案や教材研究を踏まえ、事前に発問計画・板書計画等の準備をしておくこと。

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2018年、東山書房
適宜、教材・プリント等を配布する。

参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領』 2018年
文部科学省 『中学校編 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』2010年、教育図書

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:小学校・中学校・特別支援学校専修免許状、学校心理士、公認心理師 職歴:
神奈川県及び鹿児島県の公立小学校教諭、さつま町教育委員会学校教育課指導主事(特別支援教育、生徒指導、不登校児童生徒対応を担当)

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	特別活動論		
担 当 教 員	中島 賢太郎		
関 連 資 格	栄教二種免		
備 考	E と同時開講 【教職科目（栄養教諭二種）】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に該当し、次の事項のうち、特別活動に関する内容を含む。 ・道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
ナンバリング	Q-5876-4/教育学ー中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

該当なし。

到達目標

- 1 集団の持つ教育力など特別活動の教育的意義を理解し、説明できる。
- 2 学級活動を企画・運営する方法・技術を磨き、実践できる。
- 3 学校行事や生徒会活動などの基本的な内容を理解し、説明できる。

評価方法

指導力・発言力 30%、小レポート 20%、定期試験 50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業の際に授業への取り組みに対するコメントや質問等への解説を行なう。

授業の展開計画

- ・将来の豊かな教育実践力の形成を目標に、特別活動の諸問題を領域に分け、領域毎にその原理、実際および課題を考究する。
- ・「内容」については、教育実習前に基本的な事項を学習し、教育実習後には補充的事項を学習する。

回	内容
1	特別活動の意味と特質
2	特別活動の歴史、特別活動の目標と内容

3	特別活動と教育課程、特別活動の指導原理
4	学級活動・ホームルーム活動の内容と指導、特別活動の指導計画作成
5	模擬授業の実践と相互評価、児童・生徒会活動の内容と指導
6	模擬授業の実践と相互評価、クラブ活動及び学校行事の内容と指導
7	教育実習を経験しての振り返り、特別活動の評価
8	今後の課題、まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

学級活動の実際を班毎にテーマを設定して、教案を作成し、模擬授業を行い、自己・相互評価を行う。

ICT 活用の概要

教育リソースの活用(インターネット等を通じて無償で入手可能な講義教材、教育ソフトウェアを含む教育リソースの活用)

履修上の注意事項

- ・教師としての自覚をもって主体的に授業に参加する。積極的な発言を求める。
- ・教材・資料等はしっかりとファイルして、随時復習する。

準備学習（予習・復習等）

- ・事前に授業範囲を予習し、また、授業終了後には振り返りレポートを作成・提出する。
- ・1コマあたり、授業の事前・事後に計4時間の学習が必要である。
- ・各グループによる模擬授業のために、教案の作成および学級活動の進め方等について十分なる準備をすること。

テキスト

文科省 国立教育政策研究所『学級・学校文化を創る 特別活動（中学校編）』2020年12月 東京書籍
授業時に配付する資料
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月公示）』2018年3月 東山書房
文部科学省『中学校学習指導要領解説・特別活動編』2018年3月 東山書房

参考文献

江川玫成編『特別活動の理論と方法』2010年2月、学芸図書
山口満編『特別活動と人間形成』2010年4月、学文社

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:小学校・中学校・特別支援学校専修免許状、学校心理士、公認心理師
職歴:神奈川県及び鹿児島県の公立小学校教諭、さつま町教育委員会学校教育課指導主事(特別支援教育、生徒指導、不登校児童生徒対応を担当)

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	栄養教育実習 I		
担 当 教 員	榊 順子		
関 連 資 格	栄教二種免		
備 考	事前・事後指導 【教職科目（栄養教諭二種）】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育実践に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・栄養教育実習		
ナンバリング	Q-5B7C-1/教育学 [栄養] ー実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

特になし

到達目標

- 1 栄養教育実習の意義や目的を理解し説明できる。
- 2 栄養教育実習へ向けて食育指導案および指導媒体を作成できる。
- 3 栄養教育実習終了後に実習内容を振り返り、他者にプレゼンテーションができる。

評価方法

食育指導案・指導媒体 40%、実習課題 30%、実習報告 30%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

教育実習の前に教育実習の意義・内容、教育実習生としての心得などを学び自覚する。また、栄養教諭の役割および食に関する指導のあり方を踏まえ、食育指導案や食育指導時の媒体を事前に準備をする。
教育実習の後には、実習時に実施したアンケート調査の統計処理などを行うと共に、1・2 年生合同の報告会を開催する。

回	内容
1	栄養教育実習の意義・目的・内容・心得（心構え・望ましい教師像など）
2	栄養教諭の職務内容
3	教育課程と栄養教諭の活動

4	指導案作成
5	食育指導教材作成
6	食育指導資料作成
7	児童生徒の実態把握・調査内容・授業への活かし方
8	学校栄養事務（栄養管理・衛生管理の記録・整理・保管など）
9	栄養教諭・学校給食栄養管理者について
10	教育実習直前指導
11	事後研究
12	実習の反省・記録
13	教育実習体験発表報告（学生①～⑤）
14	教育実習体験発表報告（学生⑥～⑩）
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

ディスカッション、ディベート・プレゼンテーション

ICT 活用の概要

教材・資料・授業スライドの掲載

履修上の注意事項

この科目を履修する場合、1 年前期と 1 年後期開講の教職関連科目は全て修得していること。
2 年前期開講の栄養教育実習Ⅱに参加すること。
評価で不可になる場合には、再試は行わない。

準備学習（予習・復習等）

予習としては、学習指導案、指導媒体、その他実習先から出された課題を完成させておくこと。
復習としては、栄養教育実習終了後に実習を振り返り、レポートを完成すること。
1 コマの授業あたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。

テキスト

金田雅代編『四訂 栄養教育論－理論と実際－ 第 2 版』2022 年 建帛社 配布プリント

参考文献

適宜紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

教育実習科目

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	栄養教育実習Ⅱ		
担 当 教 員	榊 順子		
関 連 資 格	栄教二種免		
備 考	学外実習 【教職科目（栄養教諭二種）】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育実践に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・栄養教育実習		
ナンバリング	Q-5B7C-2/教育学〔栄養〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

特になし

到達目標

- 1 学校での実習を通して、児童・生徒に対する教育的関わり方を理解し実践できる。
- 2 栄養教諭の職務体験を通して責任感と教育的愛情を持った食育指導の技術を習得し実践できる。
- 3 栄養教諭としてさらなる資質向上の必要性を理解し実践できる。

評価方法

実習施設評価 70%、実習記録ノート 30%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習ノート・レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

- 1 週間の栄養教育実習カリキュラムに基づき実習を行う。

回	内容
1	実習校での実習 学校教育全般（教育目標、学校経営、服務規程）
2	教育課程とカリキュラム
3	教育課程とカリキュラム

4	児童・生徒の指導
5	教育相談
6	特別支援教育
7	研究授業の参観
8	栄養教諭の職務全般（食に関する指導の実施、参観・補助）
9	栄養教諭の児童生徒に対する個別的な相談、指導
10	給食時間の配膳・後片付け指導および食育指導(模擬・評価授業)
11	指導計画案、指導案の立案作成、教材研究
12	教科・特別活動における食育指導(模擬・評価授業)
13	給食委員会、児童会・生徒会、クラブ活動における食育指導(模擬・評価授業)
14	食に関する指導の連携・調整
15	栄養教育実習の反省、総括

アクティブ・ラーニングの概要

学校現場における栄養教育実習

ICT 活用の概要

実習における課題・質問等の受講者のパソコンへの転送

履修上の注意事項

栄養教育実習Ⅰを履修していること。
実習前に計画等を実習記録ノートに記入し、実習の心得を習得しておくことが望ましい。
実習後は、実習記録ノートをすみやかに完成させて指導を受ける。

準備学習（予習・復習等）

事前に実習先からの課題を完成させておくこと。

テキスト

栄養教育実習の指定の実習記録ノート、配布プリント

参考文献

適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

教育実習科目

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	教育相談		
担 当 教 員	大竹山 なつき		
関 連 資 格	栄教二種免		
備 考	E と同時開講 【教職科目（栄養教諭二種）】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
ナンバリング	Q-58A9-1/教育学ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

特になし

到達目標

- 1.教育相談の意義と課題について学び、相談に必要な心理学の基礎知識について理解している。
- 2.実際の支援に向けて、カウンセリングの理論と方法、カウンセリングマインドを養うことができる。
- 3.相談における組織的取組や連携について学び、相談の進め方を具体的に計画することができる。

評価方法

定期試験 70%＋臨時試験(レポート・提出物)30%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元ごとのレポートを課し、全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

「教育相談」とは何かを概説し、続いて児童期・思春期特有の心理的問題について講義をすすめていく。また、相談の実際として、具体的な場面を設定したロールプレイを実施し、カウンセリングの理論と方法について学ぶ。

回	内容
1	教育相談とは

2	児童期・青年期の心の発達と生徒理解
3	学校カウンセリングの組織と運営
4	教育相談の実際 いじめ・不登校・非行
5	教育相談の方法（１）カウンセリングマインドと受容・傾聴・共感的理解
6	教育相談の方法（２）観察・介入・連携（保護者・関係機関）
7	学校教育と特別支援教育
8	ロールプレイ

アクティブ・ラーニングの概要

具体的な問題(いじめや不登校)を設定したロールプレイを実施する。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

教員免許を目指して自発的に履修するのが前提なので、講義には積極的に臨んで欲しい。
提出物の期日厳守・私語・遅刻・居眠りなどには厳しく対処する。

準備学習（予習・復習等）

ロールプレイをする為の事例を事前に提示するので、対応の方法や社会資源について事前に調べておくこと。

予習としては紹介した参考図書を積極的に読むこと、復習としては毎回講義後、プリント整理を行い理解を深めること。

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

特になし

参考文献

佐藤修策監修 『学校カウンセリングの理論と実践』 2007 年、ナカニシヤ出版
大野精一編著 『教師・保育者のための教育相談』 2017 年、萌文書林
長谷川啓三編 『生徒指導・進路指導・教育相談』 2017 年、遠見書房

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	教職実践演習（栄養教諭）		
担 当 教 員	榊 順子, 有馬 義秀, 今林 俊一		
関 連 資 格	栄教二種免		
備 考	15 時間で 1 単位 【教職科目（栄養教諭二種）】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育実践に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・教職実践演習		
ナンバリング	Q-5BA9-1/教育学 [栄養] ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

特になし

到達目標

- 1 栄養教諭教職科目の総括として既習の知識技能を統合し学校での実践力を身に付け深めることができる。
- 2 学校現場の調査・栄養教諭の講義・模擬授業等を通し栄養教諭の職務を再確認し説明できる。
- 3 グループ討議や発表に積極的に参加することで、栄養教諭としてのコミュニケーション能力を身に付け実践できる。

評価方法

臨時試験（発表プレゼン 50%・レポート 50%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

教職の意義や職務内容、使命感・責任感・教育的愛情、社会性・対人関係の能力、児童生徒理解と学級経営について学内での学びや教育実習を振り返って、ロールプレイング、グループ討議などで深め、全体発表を行う。また、原則として実習校や協力校において、学校現場の見学・調査を行い栄養教諭としての指導力について確認する。さらに、指導案作成や現場で生かすことのできる教材を制作し、模擬授業などを通して指導力についてグループ討論や発表などを行う。

回	内容
1	イントロダクション、これまでの学習と教育実習の振り返り 討議、グループ討論、発表（分担：榊）
2	教育者としての使命感や責任感、教育的愛情等に関する探求 ディベート、ディスカッション（分担：有馬）

3	生徒理解に基づく学級経営についての討議、及び学級経営案の作成	(分担：有馬)
4	学級経営案の発表、討論、及び相互評価	(分担：有馬)
5	社会性や対人関係能力についての講義、グループ討論、発表	(分担：今林)
6	社会性や対人関係能力についてのグループ演習、発表	(分担：今林)
7	児童生徒理解・指導についての講義、グループ討論、発表	(分担：今林)
8	学校現場の見学・調査に対する事前の検討 講義、グループ討論、発表	(分担：榊)
9	現役栄養教諭の講義	(分担：外部講師)
10	学校現場の見学・調査	(分担：榊)
11	学校現場の見学・調査の結果についての報告、グループ討論、発表	(分担：榊)
12	教科の指導力に関する探求 1 指導案作成	(分担：榊)
13	教科の指導力に関する探究 2 模擬授業 (小学校)	(分担：榊)
14	教科の指導力に関する探求 3 模擬授業 (中学校)	(分担：榊)
15	資質能力の確認、まとめ	(分担：榊)

アクティブ・ラーニングの概要

必要に応じてグループワーク、ディベート、ディスカッションを行う。

ICT 活用の概要

教材・資料・授業スライドの掲載

履修上の注意事項

2 年前期までの教職関連科目を修得しており、2 年前期までの履修カルテが提出されていることが履修の条件である。

準備学習 (予習・復習等)

予習：グループ討論や発表などの参加型の内容が多いので、内容に沿った事前の準備をしっかりと行うこと。

復習：課題として与えられたレポートを完成させて期日内に提出すること。

1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

特になし

参考文献

適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

榊 保有資格・免許:管理栄養士、栄養教諭一種免許状 中学校教諭二種免許状 (家庭科) 職歴:鹿児島県小・中学校・学校給食センター所属栄養教諭として勤務

令和4年度入学生 英語科 教職科目

開講期		科目名
令和5年	前期	教育心理学
		特別支援教育論
		総合的な学習の時間の指導法
		特別活動論
		教育実習の研究
		教育実習
	後期	教育相談
		教職実践演習（中）

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	教育心理学		
担 当 教 員	今林 俊一		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	S と同時開講 【教職科目（中学校教諭二種（外国語（英語））】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育の基礎的理解に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
ナンバリング	Q-5876-1/教育学－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

特になし。

到達目標

- 1 幼児、児童及び生徒の教育における発達や学習の基礎的な理論について理解し、学習指導のあり方にどう関わるか説明することができる。
- 2 発達の特徴に合わせた動機付けや集団づくりの方法について具体的に説明することができる。
- 3 子どもの発達に応じた教育的ニーズを理解し、主体的な学習活動を支える指導の基礎について説明することができる。

評価方法

定期試験 60%、毎回の授業の最後に提出する小レポート [30%]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の小レポートにはその日の授業で理解できたことや疑問等を記載してもらうため、次回の授業冒頭にて、コメントの紹介や疑問への返答という形でフィードバックを行う。

授業の展開計画

本講義では、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、教育心理学の立場から理解することを目的とする。本講義ではまず、子どもの発達について解説し、発達段階に応じた教師の関わりについて学びを深める。また、学習に関する代表的理論について解説し、子どもの主体的な学びを支える内的・外的要因について理解を深められるようにする。将来、教師として実践することを念頭に置き、教育の諸問題の理解や解決について学ぶ。

回 内容

1	心身の発達（１）：乳幼児期及び児童期の発達
2	心身の発達（２）：青年期以降の発達
3	学びのメカニズム（１）：学習理論と記憶のメカニズム
4	学びのメカニズム（２）：動機づけ
5	教育実践（１）：学級集団と学習支援
6	教育実践（２）：個性・個人差と学習支援
7	教育実践（３）：教育評価
8	障害の基本的理解と教育的支援（配慮）

アクティブ・ラーニングの概要

毎回の授業の最後に学びを振り返ることを目的に小レポートを課す。次回の授業冒頭にて解説を行う。

ICT 活用の概要

特になし。

履修上の注意事項

毎回の授業終了時には小レポートを作成してもらう。

準備学習（予習・復習等）

予習として、次回講義に含まれるキーワードを伝えるので、テキスト等を読み、用語の理解をしておくこと。

復習として、授業で紹介した用語や研究内容について積極的に調べ、理解を深めておくこと。
1回の授業あたり、授業の事前・事後に計2時間の学習が必要である。

テキスト

田爪宏二・編著 『教育心理学』2018年4月、ミネルヴァ書房

参考文献

講義の中で必要に応じて紹介する。

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	特別支援教育論		
担 当 教 員	中島 賢太郎, 益満 孝一, 古賀 政文		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	S と同時開講 【教職科目（中学校教諭二種（外国語（英語））】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育の基礎的理解に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
ナンバリング	Q-5876-2/教育学－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

該当なし

到達目標

- 1.障がいのある子ども及び特別な教育的ニーズのある子どもについて指導の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う教育実践について理解している。
- 2.障がい種別ごとの障害特性・心理・心身の発達について学び、学習活動の留意点、援助の方法、環境構成等を理解している。
- 3.障がいのある子どもの保護者への支援や、関係機関との連携について理解している。

評価方法

定期試験 50%、臨時試験（レポート・提出物等）50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートなど課題については、講義中にフィードバックを行う。
定期試験については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出た学生のみ対応する。

授業の展開計画

障害児教育の理念、特別支援教育の制度と教育内容、「インクルーシブ教育」「特別なニーズ教育」をめぐる国際動向に関して講義する。また、様々な障がいについての理解と実際の援助の理解について教授し、関係機関と連携しながら組織的に対応していく重要性について講義する。
単元ごとのレポートを課し、全体の傾向をフィードバックする。

回	内容
1	特別支援教育の理念と基本的な考え方 (担当：益満)

2	障がいの理解 (1) 視覚障がい・聴覚障がい	(担当：中島)
3	障がいの理解 (2) 肢体不自由・知的障がい	(担当：中島)
4	障がいの理解 (3) 発達障がい・その他特別な支援が必要な子どもの理解	(担当：中島)
5	特別支援教育の教育課程と指導形態	(担当：古賀)
6	学習支援と生活支援のあり方	(担当：中島)
7	指導計画の作成と記録及び評価	(担当：中島)
8	関係機関との連携、家庭との連携と支援	(担当：中島)

アクティブ・ラーニングの概要

講義の中で対話的な学びの場を設定し、様々な課題について問題解決的な学びを追究する。

ICT 活用の概要

教育リソースの活用(インターネット等を通じて無償で入手可能な講義教材、教育ソフトウェアを含む教育リソースの活用)

履修上の注意事項

教員免許を目指して自発的に履修するのが前提なので、講義には積極的に臨んで欲しい。
提出物の期日厳守・私語・遅刻・居眠りなどには厳しく対処する。

準備学習（予習・復習等）

予習としては紹介した参考図書を積極的に読むこと、復習としては毎回講義後、プリント整理を行い理解を深めること。

1 コマの授業あたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

特になし

参考文献

石部元雄編 『よくわかる障害児教育』 2020 年、ミネルヴァ書房

小野次郎編 『よくわかる発達障害』 2010 年、ミネルヴァ書房

玉村公二彦・黒田学他編著 『新版・キーワードブック特別支援教育』 2019 年、クリエイ
ツかもがわ

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

古賀

保有資格・免許:小学校教諭一種免許状、養護学校教諭一種免許状 職歴:鹿児島県教育庁学校教育課指導主事、鹿児島県立鹿児島養護学校校長ほか

中島

保有資格・免許:小学校・中学校・特別支援学校専修免許状、学校心理士、公認心理師

職歴:神奈川県及び鹿児島県の公立小学校教諭、さつま町教育委員会学校教育課指導主事(特別支援教育、生徒指導、不登校児童生徒対応を担当)

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	総合的な学習の時間の指導法		
担 当 教 員	中島 賢太郎		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	S と同時開講 【教職科目（中学校教諭二種（外国語（英語））】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・総合的な学習の時間等の指導法		
ナンバリング	Q-5876-3/教育学－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

該当なし

到達目標

- 1 「総合的な学習の時間」の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解し、説明できる。
- 2 「総合的な学習の時間」の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付け、発揮できる。
- 3 「総合的な学習の時間」の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解した上で、具体的に実践できる。

評価方法

模擬授業・発表 50%、レポート・課題 40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題については、全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

「総合的な学習の時間」の意義と本質を理解し、探究的な見方・考え方を考察していくとともに、加えて学校現場における実践経験を事例として活用しながら、横断的・総合的な学習や各教科等との関連を考慮した指導計画作成と授業運営に必要な基礎的な知識・実践力を養う。さらに単元の指導計画を主体的に作成することで、子どもたちの探究的な学習の過程とその実現のための具体的な手立てや学習状況の評価の重要性、指導上の留意点等について実践的に学ぶ。

回	内容
1	授業の概要説明 学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標達成と意義の理解

2	教育課程において果たす役割（全体計画とカリキュラム・マネジメント） 特色ある学校づくりと総合的な学習の時間の全体計画／各教科等と関連して総合的に育む資質・能力
3	「総合的な学習の時間」の全体計画・年間指導計画の作成の仕方の理解 学習指導のポイント
4	主体的・対話的で深い学びを実現する「総合的な学習の時間」の単元計画の作成
5	「総合的な学習の時間」の実践例に学ぶ(主体的に学び続ける総合的な学習の時間の展開)
6	学習指導案の作成と授業づくり 学習状況の評価の基本的考え方
7	「総合的な学習の時間」の模擬授業と振り返り
8	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

第7回の授業では、理解を深めるために模擬授業を行う。

ICT 活用の概要

教材・資料の掲載

履修上の注意事項

積極的な態度で授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）

1 コマあたり、授業の事前・事後に計4時間の学習が必要である。また第7回の模擬授業では、学習指導案や教材研究を踏まえ、事前に発問計画・板書計画等の準備をしておくこと。

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2018年、東山書房
適宜、教材・プリント等を配布する。

参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領』2018年
文部科学省『中学校編 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』2010年、教育図書

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:小学校・中学校・特別支援学校専修免許状、学校心理士、公認心理師 職歴:
神奈川県及び鹿児島県の公立小学校教諭、さつま町教育委員会学校教育課指導主事(特別支援教育、生徒指導、不登校児童生徒対応を担当)

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	特別活動論		
担 当 教 員	中島 賢太郎		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	S と同時開講 【教職科目（中学校教諭二種（外国語（英語））】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・特別活動の指導法		
ナンバリング	Q-5876-4/教育学－中級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

該当なし。

到達目標

- 1 集団の持つ教育力など特別活動の教育的意義を理解し、説明できる。
- 2 学級活動を企画・運営する方法・技術を磨き、実践できる。
- 3 学校行事や生徒会活動などの基本的な内容を理解し、説明できる。

評価方法

指導力・発言力 30%、小レポート 20%、定期試験 50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業の際に授業への取り組みに対するコメントや質問等への解説を行なう。

授業の展開計画

- ・将来の豊かな教育実践力の形成を目標に、特別活動の諸問題を領域に分け、領域毎にその原理、実際および課題を考究する。
- ・「内容」については、教育実習前に基本的な事項を学習し、教育実習後には補充的事項を学習する。

回	内容
1	特別活動の意味と特質
2	特別活動の歴史、特別活動の目標と内容
3	特別活動と教育課程、特別活動の指導原理

4	学級活動・ホームルーム活動の内容と指導、特別活動の指導計画作成
5	模擬授業の実践と相互評価、児童・生徒会活動の内容と指導
6	模擬授業の実践と相互評価、クラブ活動及び学校行事の内容と指導
7	教育実習を経験しての振り返り、特別活動の評価
8	今後の課題、まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

学級活動の実際を班毎にテーマを設定して、教案を作成し、模擬授業を行い、自己・相互評価を行う。

ICT 活用の概要

教育リソースの活用(インターネット等を通じて無償で入手可能な講義教材、教育ソフトウェアを含む教育リソースの活用)

履修上の注意事項

- ・教師としての自覚をもって主体的に授業に参加する。積極的な発言を求める。
- ・教材・資料等はしっかりとファイルして、随時復習する。

準備学習（予習・復習等）

- ・事前に授業範囲を予習し、また、授業終了後には振り返りレポートを作成・提出する。
- ・1コマあたり、授業の事前・事後に計4時間の学習が必要である。
- ・各グループによる模擬授業のために、教案の作成および学級活動の進め方等について十分なる準備をすること。

テキスト

文科省 国立教育政策研究所『学級・学校文化を創る 特別活動（中学校編）』2020年12月 東京書籍
授業時に配付する資料
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月公示）』2018年3月 東山書房
文部科学省『中学校学習指導要領解説・特別活動編』2018年3月 東山書房

参考文献

江川孜成編『特別活動の理論と方法』2010年2月、学芸図書
山口満編『特別活動と人間形成』2010年4月、学文社

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:小学校・中学校・特別支援学校専修免許状、学校心理士、公認心理師
職歴:神奈川県及び鹿児島県の公立小学校教諭、さつま町教育委員会学校教育課指導主事(特別支援教育、生徒指導、不登校児童生徒対応を担当)

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	教育実習の研究		
担 当 教 員	有馬 義秀		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	事前・事後指導 学内実習 【教職科目（中学校教諭二種（外国語（英語））】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育実践に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・教育実習		
ナンバリング	Q-5979-1/教育学〔外国語〕－上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

該当なし。

到達目標

- 1 教職の実践的研究のために、中学校で観察・参加・実習を 3 週間にわたって行う基本的な事項を理解している。
- 2 学校・学級の管理経営や教育活動・教科指導・生徒指導に関して、教育実習生としての総合的な知識や技能を身に付けている。
- 3 教材研究を行い、学習指導案を作成し模擬授業を実施することができる。また、実施した模擬授業を分析し、次の授業で改善する PDCA サイクルの手順等を理解・実践することができる。

評価方法

指導案作成と模擬授業 40% Text evaluation 40% 授業への取り組み 20%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート（学習指導案）にコメントを付けて返却する。

授業の展開計画

実習前は、教育実習の意義・内容・教育実習生の心得等について認識を深め、教材研究、指導案作成、模擬授業等を実施する。実習後は、実習の反省や報告会を行い、問題点や今後の課題について考える。

回	内容
1	教育実習の意義 教育実習に望む態度・心構え
2	学校経営、学校の組織、学級経営

3	中学校英語教師を迎えての模擬授業と講義
4	指導案の作成、ビデオによる授業研究
5	授業の工夫
6	教室管理、授業の評価
7	教育実習事前指導・諸注意 Text evaluation 提出
8	模擬授業（学生 A のプレゼンテーション）と相互評価
9	模擬授業（学生 B のプレゼンテーション）と相互評価
10	模擬授業（学生 C のプレゼンテーション）と相互評価
11	模擬授業（学生 D のプレゼンテーション）と相互評価
12	教育実習の反省
13	事後研究
14	体験発表会（教育実習・介護等）
15	まとめ

アクティブ・ラーニングの概要

教育実習で使用する教科書の 1 課を使って指導案を作成し、それを模擬授業して、自己・相互評価を行う。

ICT 活用の概要

DVD で優れた実践事例を視聴し、ポイントを討議する。また、模擬授業をビデオで撮影し、授業者が後でそれを見て自己評価に役立てる。

履修上の注意事項

様々な角度から教材研究を深め、指導案を工夫し、模擬授業を実践すること。その後の相互評価や教師からの指導を振り返り、改めるべきポイントを明確にして、指導力を向上させること。

準備学習（予習・復習等）

予習のため、教科書や配付資料を読んでおく。教材研究を行い、指導案を書き、模擬授業の練習を重ねる。与えられた課題についてのレポートを作成する。1 コマあたり、授業の事前・事後に計 1 時間の学習が必要である。

テキスト

加藤茂夫他著『英語科教育実習ハンドブック 第 4 版』2020、大修館書店
中学校英語教科書 2021

参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）』2018 年 3 月、東山書房
文部科学省『中学校学習指導要領 解説 外国語編』2018 年 4 月、開隆堂出版
他は必要に応じて適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

保有資格・免許:中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭専修免許状(英語)ほか
職歴:鹿児島県教育庁学校教育課指導主事(英語教育)、鹿児島県立高等学校長ほか

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	前期
単 位 区 分	選	単 位 数	4
配 当 年 次	2 年	授業形態	実験・実習・実技
科 目 名	教育実習		
担 当 教 員	堀江 美智代		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	学外実習 30 時間で 1 単位 【教職科目（中学校教諭二種（外国語（英語））】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育実践に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・教育実習		
ナンバリング	Q-597C-1/教育学〔外国語〕－実践		

ディプロマ・ポリシーとの関連

特になし

到達目標

- 1.観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、学校教育について理解を深め課題を把握することができる。
- 2.生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学級担任等の補助的な役割を担うことを通して教育実習校の生徒の実態と学校経営および教育活動の特色を理解することができる。
- 3.学習指導要領および生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。

評価方法

実習校における評価（90%）、提出物・実習日誌など（10%）から総合的に評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習日誌・レポート等は、コメントをつけて返却する。

授業の展開計画

教育実習が、中学校で 3 週間実施される。教育現場で、生徒と関わり、中学校教諭の職務内容を理解し、学級担任や教科担任等の補助的な役割を経験する。教育実習は、実習までに大学で学んだ知識・理論・技術等を実践し、自分の課題を自覚する機会である。

回	内容
1	実習中学校での実習（3 週間） 観察、参加、実習の 3 領域にわたって行う。
2	学校教育全般（教育目標、経営方針、組織、服務規律等） 中学校教諭の職務内容・役割
3	教室管理および学校事務に関する事項（施設設備、教室・学習環境の整備、校務分掌、記録等） 他の教職員とのチームワーク
4	教育課程とカリキュラム 中学校の 1 日の流れ（朝の挨拶他）
5	生徒指導、進路指導等
6	生徒理解、生徒の観察 教育相談 特別支援教育
7	授業参観
8	教材研究、指導計画、評価
9	様々な活動の場面での生徒との適切な関わり（授業、掃除、給食、休み時間、部活動等）
10	教科外活動に関する観察・参加（生徒会、学級活動、各種委員会、学校行事等）
11	道徳・特別活動の授業参観
12	道徳の実習・評価授業
13	外国語（英語）の実習授業
14	外国語（英語）の評価授業
15	教育実習の反省、まとめ（教育実習日誌の完成）

アクティブ・ラーニングの概要

教育実習の反省点や課題について、グループでディスカッションを行う。また、1 年生に発表し、問題点や今後の課題等について議論する。

ICT 活用の概要

学習指導の必要な場面で、デジタル教材や情報機器を活用することができる。

履修上の注意事項

教育実習履修に関する内規を確認すること。「教育実習の研究」を履修中であること。
実習に向けての準備をし、実習生としての責任を自覚した上で、真摯に意欲的に実習に取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）

実習に向けての課題を明確にし、実習中学校の指導の元、実習に意欲的に取り組むこと。実習後は、まとめのレポートを書き、グループディスカッションや 1 年生に対する発表に備えること。

テキスト

実習校で使用する中学校英語教科書 1～3 年。「教育実習日誌」を配布するので、実習期間中毎日記録すること。

参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』2018 年 3 月 開隆堂
米山朝二他著『英語科教育実習ハンドブック第 4 版』2020 年 12 月、大修館

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

教育実習科目

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	1
配 当 年 次	2 年	授業形態	講義
科 目 名	教育相談		
担 当 教 員	大竹山 なつき		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	S と同時開講 【教職科目（中学校教諭二種（外国語（英語））】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
ナンバリング	Q-58A9-1/教育学ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

特になし

到達目標

- 1.教育相談の意義と課題について学び、相談に必要な心理学の基礎知識について理解している。
- 2.実際の支援に向けて、カウンセリングの理論と方法、カウンセリングマインドを養うことができる。
- 3.相談における組織的取組や連携について学び、相談の進め方を具体的に計画することができる。

評価方法

定期試験 70%＋臨時試験(レポート・提出物等)30%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元ごとのレポートを課し、全体の傾向をフィードバックする。

授業の展開計画

「教育相談」とは何かを概説し、続いて児童期・思春期特有の心理的問題について講義をすすめていく。また、相談の実際として、具体的な場面を設定したロールプレイを実施し、カウンセリングの理論と方法について学ぶ。

回	内容
---	----

1	教育相談とは
2	児童期・青年期の心の発達と生徒理解
3	学校カウンセリングの組織と運営
4	教育相談の実際 いじめ・不登校・非行
5	教育相談の方法（１）カウンセリングマインドと受容・傾聴・共感的理解
6	教育相談の方法（２）観察・介入・連携（保護者・関係機関）
7	学校教育と特別支援教育
8	ロールプレイ

アクティブ・ラーニングの概要

具体的な問題(いじめや不登校)を設定したロールプレイを実施する。

ICT 活用の概要

特になし

履修上の注意事項

教員免許を目指して自発的に履修するのが前提なので、講義には積極的に臨んで欲しい。
提出物の期日厳守・私語・遅刻・居眠りなどには厳しく対処する。

準備学習（予習・復習等）

ロールプレイをする為の事例を事前に提示するので、対応の方法や社会資源について事前に調べておくこと。
予習としては紹介した参考図書を積極的に読むこと、復習としては毎回講義後、プリント整理を行い理解を深めること。
1 コマあたり、授業の事前・事後に計 4 時間の学習が必要である。

テキスト

特になし

参考文献

佐藤修策監修 『学校カウンセリングの理論と実践』 2007 年、ナカニシヤ出版
大野精一編著 『教師・保育者のための教育相談』 2017 年、萌文書林
長谷川啓三編 『生徒指導・進路指導・教育相談』 2017 年、遠見書房

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

該当なし

2022 年度入学生 2 年次開講科目【短大】

開 講 年	2023 年（令和 5 年）	開講時期	後期
単 位 区 分	選	単 位 数	2
配 当 年 次	2 年	授業形態	演習
科 目 名	教職実践演習（中）		
担 当 教 員	堀江 美智代, 有馬 義秀, 今林 俊一		
関 連 資 格	中二種免（英語）		
備 考	15 時間で 1 単位 【教職科目（中学校教諭二種（外国語（英語））】 教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育実践に関する科目」に該当し、次の事項を含む。 ・教職実践演習		
ナンバリング	Q-59A9-1/教育学〔外国語〕 ー上級		

ディプロマ・ポリシーとの関連

特になし

到達目標

- 1.教職科目の総括として、中学校教諭(英語)として必要な知識技能が、実践力としてどの程度統合され形成されたかを確認し、自己にとっての課題を自覚することができる。
- 2.教職の意義・生徒理解・学級経営・対人関係能力等について、ロールプレイやグループ討論に参加し、自分の考えを明確に発表することができる。
- 3.中学校の授業参観を踏まえて、指導案の作成や模擬授業を実施し、指導力を向上させることができる。

評価方法

平常点(授業への参加姿勢・課題への取り組み、提出物、発表等)とレポート、模擬授業などにより総合的に評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート等について、返却時に解説の時間を設ける。

授業の展開計画

教職の意義や職務内容、使命感・責任感・教育的愛情、社会性・対人関係の能力、生徒理解と学級経営について、学内での学びや教育実習を振り返り、役割演技、グループ討論、全体発表を行う。また、中学校の授業参観を行い、中学校教諭(英語)として必要な知識・技能について理解を深める。さらに、指導案作成や模擬授業などを通して指導力を向上させる。担当教員の専門性を考慮し、オムニバス形式で実施する。鹿児島純心女子中学校における英語の授業を参観し、中学校教師と意見交換会を実施する。

回	内容
1	イントロダクション、これまでの学習と教育実習の振り返り（履修カルテの確認）（担当：堀江）
2	教育者としての使命感や責任感、教育的愛情等に関する探求 ディベート、ディスカッション（担当：有馬）
3	生徒理解に基づく学級経営についての講義、及び学級経営案の作成（担当：有馬）
4	学級経営案の発表、討論、及び相互評価（担当：有馬）
5	社会性や対人関係能力についての講義、グループ討論、発表（担当：山下）
6	社会性や対人関係能力についてのグループ演習、発表（担当：山下）
7	児童生徒理解・指導についての講義、グループ討論、発表（担当：山下）
8	現役中学校英語教諭の講義及び意見交換会（担当：有馬、堀江）
9	学校現場の見学・調査に対する事前の検討 講義、DVD 視聴、グループ討論、発表（担当：堀江）
10	学校現場の見学・調査、中学校教諭（英語）との意見交換会（担当：堀江）
11	学校現場の見学・調査の結果についての報告、グループ討論、発表（担当：堀江）
12	教科の指導力に関する探求① 指導案作成（担当：堀江）
13	教科の指導力に関する探求② 模擬授業 グループ 1（担当：堀江）
14	教科の指導力に関する探求③ 模擬授業 グループ 2（担当：堀江）
15	資質能力の確認 履修カルテの確認 まとめ（担当：堀江）

アクティブ・ラーニングの概要

理解を深めるためにディスカッションや発表を行う。英語だけの模擬授業を実施し、全体で授業研究（意見交換）を行う。

ICT 活用の概要

教育支援サイトを活用して、学生は「履修カルテ」を提出し、教員がコメントをつけて返却する。ICT を活用した模擬授業を実践する。

履修上の注意事項

「履修カルテ」を1年次から継続的に記入し活用すること。

準備学習（予習・復習等）

グループ討論や発表などの参加型の内容が多いので事前の準備（予習）をしっかりと行い、主体的に取り組むこと。授業内容を復習し与えられた課題についてレポートを作成する。指導案を作成し模擬授業を実践する。1コマあたり、授業の事前・事後に計4時間の学習が必要である。

テキスト

特に使用しない。すでに使用したテキストを参考にすることがある。配布するプリントや DVD を活用する。

参考文献

適宜紹介

科目担当者の実務経験の内容、実践的教育の概要

有馬 保有資格・免許:中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭専修免許状(英語)ほか
職歴:鹿児島県教育庁学校教育課指導主事(英語教育)、鹿児島県立高等学校長ほか